Vol. 65通巻747号

昭和59年6月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE & SOCIETY

特集■まちの活性化と商業空間

特集■京都駅南口再開発ビル〔アバンティ〕

6

1984



日本建築協会

大阪ガス

ホットでグッドよ。ドアを開ければ大きな暖かさ



広いお宅に本格的なセントラルヒーティングの快適さを

暖ライフ150は、いままでの温水暖房のイメージを大きく変え、部屋数の多いお宅や大きなマンションにぴったりの多室暖房システムです。暖房熱源機で約80℃の温水をつくり、放熱器で温風にかえて暖房する方式ですから、身体にやさしく清潔でとても安全です。また、新しい暖房方式といま話題の床暖房やヘルシーライフにうれしい温水サウナなどのプランもかんたんに実現。もちろん、冷房もセットで組みこむことができます。

システムの一例





大型給湯プランをプラス。より快適な暮らしを

大きな給湯能力をもつガス湯沸器セントラルタイプ（33-152型）や温水ボイラ（33-312型）と組みあわせれば、各室暖房に加えて、たっぷりお湯も使える大型快適ライフが実現します。

新温水暖房システム

暖ライフ-150

15,000kcaℓ/h

※暖ライフ150についての詳しい資料をご希望の方は、ハガキに資料請求券を貼り、右記までご請求ください。〒541 大阪市東区平野町5-1 大阪ガス営業開発部「暖ライフ150」係

資料請求券 暖ライフ150

◀会員増加運動にご協力お願い

本会は大正6年の創立で、建設省所管の公益法人中では最古の歴史をもっており、建築界の総合団体として、常に建築関係各部の連繋と調整に当たるとともに、相互の親睦、共存共栄に意を注ぎ、会誌「**建築と社会**」の発行や、朝食会、懇親会の実施、実務に直結した諸種の事業活動を行っております。

つきましては、3年後に創立70周年を迎えるに当たり会員増加運動を展開して、会勢をはかることになりましたので、新入会者のご紹介をお願い申し上げます。

何卒本誌はさみ込みの入会申込書ご利用の上、ご協力下さいますよう切望いたします。

◀理事2名の補選お知らせ

昭和59年6月20日開催の定時評議員会におきまして、理事2名の補選を行いましたところ、下記の方々が選任されましたので、ここにお知らせ申し上げます。

記

金井弘次氏（㈶日本建築総合試験所常任理事・事務局長）
山本　晃氏（大阪市都市整備局長）

◀神戸・ポートアイランドを見る（第2回）——ポートピア'81、その後……

神戸市が3年前に開催した博覧会「ポートピア'81」の時には、多数の人びとが会場を訪れ、はじめて人工島・ポートアイランドの全容に接しましたが、本会でも、博覧会オープンの直前にパビリオンをはじめアイランド内の恒久施設の見学や、ポートアイランドの生いたち、意義、都市像についての説明を聞くなど、第1回「神戸ポートアイランド博覧会の諸施設を見る」の催しをいたしました。

ところで、この3年の間にポートピアの跡地も「ファッションタウン」として整備されつつあり、街の構成はもちろん、各関連企業のビルの建設も次つぎと進み、日一日とポートアイランドそのものが〝新しい海上文化都市〟としての姿を整えつつあります。

今回は、「ポートアイランドを見る」の第2回目として、ファッションタウンおよびその周辺と（仮称）ワールド記念ホールに視点を絞り、また、ファッションタウンの計画について意欲的に取り組んでこられた神戸市開発局のご担当の方がたのお話を交えながら、神戸市のポートアイランドにおけるユニークなまちづくりを見学いたします。

なお、この企画に際して、神戸市、㈱昭和設計、㈱竹中工務店の各位に多大のご協力をいただきました。

多数のご参加をお待ちしています。

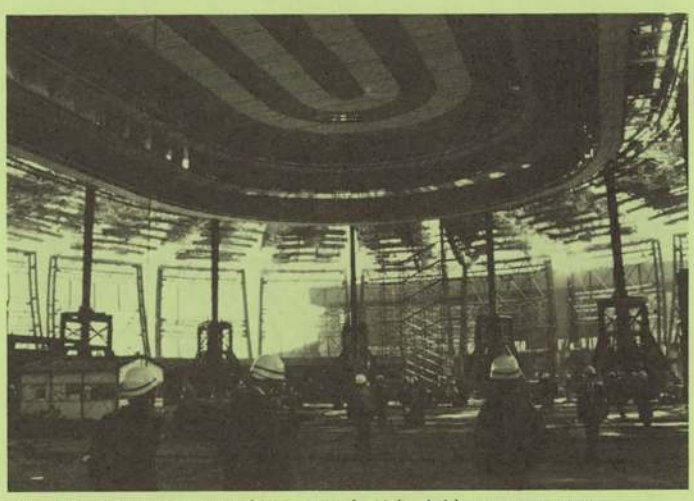
日　時　7月7日㈭　集合13：30→解散17：30（現地）
集合場所　神戸・ポートアイランド・中公園内「みなとじま会館」正面玄関前・目標会旗

〔参考〕集合所までの交通費は各自ご負担願います。
神戸、三宮より→新交通システム「ポートライナー」に乗車（毎時10分間隔発車）→「中公園」駅下車→中公園の一番南側（海側）の道路を東へ3～4分の左側にみなとじま会館があります。（所要約8分、運賃180円）

定　員　50名
参加会費　会　員　700円
会員外　1,000円　（当日受付でいただきます）

主なスケジュール
(1) 講演（ポートアイランドの計画）　神戸市開発局
(2) （仮称）　ワールド記念ホール（スポーツホール）見学
(3) ファッションビル「ワールド」一部見学
(4) 「シャルレ本社ビル」一部見学

申込方法　往復ハガキ1名に1枚限りとし、氏名・勤務先名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を必ず記入し、「神戸ポートアイランドの見学」と明記の上7月4日（水）までに建築協会事業課へ。ただし、雑誌遅延の場合は電話申込を受けます。（締切7月4日）06－348－0633（事業課）



（仮称）ワールド記念ホールのプッシュアップ工法（工事中）　昭和58年12月撮影

当日は、ポートアイランドその他の貴重な資料をいただく予定です。

◎お詫び・会誌発行遅延のため、一部の方には見学申込締切後の到着となり深謝申しあげます。

〔建築概要〕

名　称	仮称（ワールド記念ホール）	（ワールドビル）	（シャルレビル）
設　計	㈱昭和設計	㈱竹中工務店	美建設計事務所
施　工	㈱竹中工務店	㈱竹中工務店	㈱竹中工務店
構造規模	S造、RC造 B1、3F	高層部分／S造 低層部分／SRC造、RC造 B1、27F、P1	SRC造 B1、4F
敷地面積	10,365.400㎡	8,303.00㎡	1,702.90㎡
建築面積	7,739.477㎡	4,101.29㎡	641.36㎡
延床面積	13,287.348㎡	34,547.88㎡	3,378.07㎡
建物高さ	38.2m	117.43m	18.93m
工　期	57.12～59.7	57.4～59.2	57.9～58.8

展覧会のお知らせ

伊奈ギャラリー企画展
ウィーンの曲線〈トーネットの椅子展〉

期　間　5月14日㈪～7月31日㈫
企　画　伊奈ギャラリー企画委員会
制　作　伊奈製陶株式会社
監　修　加藤晃一
協　力　株式会社 アイデック
時　間　AM10：00～PM6：00（期間中無休）
場　所　大阪市西区新町1－7－1（伊奈製陶ショールーム 2F）
●入場無料　TEL 06－532－4001

昭和59年度
◀日本建築協会役員会務分掌（敬称略）

名誉会長　東畑謙三（東畑建築事務所）
〃　塚本猛次（日建設計）
会長　福田朝生（双星設計）
副会長　佐野正一（安井建築設計事務所）　総務・会計・編集担当
　　足立孝（摂南大学）　総務・会計・編集担当
　　市川宏（東畑建築事務所）　会勢・事業・研修担当
　　松村雄二（松村組）　会勢・事業・研修担当

理事（○印常任理事）

（総務） 5名
浅海正雄（浅海電気）
川岸繁夫（川岸窯業）
○村上秀夫（新日本製鐵）
○大岡昇（大林組）
○志賀修一（フジタ工業）

（会計） 5名
奥村俊夫（奥村組）
○小林四郎（太陽工藤工事）
○前野慶太郎（あめりか屋）
蒲生喜治（日比谷総合設備）
錢高善雄（錢高組）

（編集） 10名
○井上滉（高松組）
今井潤之助（住宅・都市整備公団）
金多潔（京都大学）
北澤登（高砂熱学工業）
竹中錬一（竹中工務店）
武田恭一（近畿電気工事）
長谷部朔郎（日建設計）
○松村慶三（浦辺建築事務所）
山本晃（大阪市都市整備局）
○渡辺忠（東洋シャッター）

（会勢） 12名
今村祐三郎（大阪建設業協会）
○岡本行善（昭和設計）
小島雄（鹿島建設）
鴻池藤一（鴻池組）
松岡照夫（大成建設）
○八十島健二（竹中工務店）
大林芳郎（大林組）
○宮武保義（清水建設）
菅谷健児（大阪電気暖房）
伴一郎（西原衛生工業所）
村上二郎（サンエス石膏）
山口道博（戸田建設）

（事業） 7名
淺沼茂夫（淺沼組）
板井亨介（熊谷組）
今西祥郎（大阪府住宅供給公社）
木内清三（精研）
藤木鐵三（藤木工務店）
○牧田顯治（新井組）
○三品哲夫（大阪市建築技術協会）

（研修） 5名
金井弘次（日本建築総合試験所）
○多胡進（大阪市立大学）
立野一郎（ユニオン）
橋本正章（小西設計）
○平田定男（平田建築構造研究所）

（監事）
片倉健雄（近畿大学建築学科）
尾亀清四郎（三晃空調）

昭和59年度
◀日本建築協会評議員（敬称略）

議長　高橋保夫（錢高組）
副議長　荒木兵一郎（関西大学工学部）

本部所属評議員

（技術部門）
大下順良（平和建設）
竹原永一郎（伊東建築設計事務所）
辰巳詢二（府建築部住宅政策課）
平川玄治（修成建設専門学校）
荒木兵一郎（関西大学工学部）
科埜秋美（檜建築企画設計）
西尾久雄（近畿地建営繕部）
西村良平（阪急電鉄企画室）
藤原稔恭（藤原工務店）
結城仁（市住宅サービス公社）

（総合部門）
井上司郎（松村組）
内村俊一（大日本土木）
岡幸夫（安藤建設）
大杉喬成（鉄建建設）
白石静二（鴻池組）
百瀬正信（西松建設）
高尾清次（三井建設）
川崎敬三（近畿建設）
水間義雄（水間組）
篠崎一郎（淺沼組）
巣山繁雄（戸田建設）
高橋保夫（錢高組）
野村茂則（新工務所）
三木敏男（奥村組）
石井朝美（間組）
山田博（藤木工務店）
才門三郎（才門建設）
中道朝男（中道組）

（電気部門）
姉川正男（東光電気工事）
鳴尾源蔵（大阪電気暖房）
若山繁（近畿電気工事）
今村勝（中央電気工業）
栗原信英（栗原工業）

（管工部門）
岩井市郎（大気社）
川瀬甲子雄（扶桑管工業）
松本亮二（清水工業所）
松下圭佑（須賀工業）
山田光次（山田工業）

（建材部門）
加藤忠三郎（平田タイル）
細野松雄（三友工業）
小山年光（田島応用化工）
原田孝太郎（原田セメント化工）

支部所属評議員

広田雅男（広田建築設計事務所）
宇那木勁（高陽スレート）
岡隆（岡隆一級建築設計事務所）
前窪貫志（アイ建築設計）
千原宏（千原工務店）
築柴善治郎（平安建材商会）
卯田隆一（京都市住宅局）
佐藤四郎（大佛）
森鉦一（黒川建築事務所）
長谷部利夫（長谷部建築設計事務所）
宮崎辰敬（宮崎辰五郎建築事務所）
高橋大善（愛知工業大学）
青盛巌（青盛建材）
稲葉登（大之木建設）
清田幸夫（清田工務店）
福永敏男（福永建設）

◀日本建築協会支部長（敬称略）

東海　中島一（愛知工業大学）
京都　井川栄一（熊倉工務店）
和歌山　北山俊（日新建設工業）
中国　河内義就（河内義就設計事務所）

昭和59年度
◀日本建築協会特別委員会委員
（敬称略）

■企画委員会
協会の今後の運営を検討、審議する

三品哲夫（大阪市建築技術協会）
今西祥郎（大阪府住宅供給公社）
片倉健雄（近畿大学建築学科）
村上秀夫（新日本製鐵）
松村慶三（浦辺建築事務所）

■表彰候補者推薦委員会
叙勲、褒章、建設大臣表彰、大阪府知事表彰などの候補者選定

錦田直一（日本建築総合試験所）
今村祐三郎（大阪建設業協会）
小林四郎（太陽工藤工事）
須賀孝（須賀工業）
川岸繁夫（川岸窯業商店）

昭和59年度
◀日本建築協会常設委員会委員

昭和59年4月18日開催の定例理事において、下記のとおり各常設委員会委員を委嘱いたしました。（敬称略　◎印委員長　○印副委員長　△印副委員長代行　△印幹事　・印顧問　職場名は略称を用いました。）

■編集委員会
会誌「建築と社会」の企画・編集

編集委員長
◎井上　滉（高松組）

編集理事
井上　滉（高松組）
今井潤之助（住宅・都市整備公団）
金多　潔（京都大学）
北澤　登（高砂熱学工業）
竹中錬一（竹中工務店）
武田恭一（近畿電気工事）
長谷部朔郎（日建設計）
松村慶三（浦辺建築事務所）
山本　晃（大阪市都市整備局）
渡辺　忠（東洋シャッター）

（特集小委員会）
●計画分科会
足立　啓（関西大学）
岡田信幸（大阪市総合計画局）
金澤成保（日建設計）
榊　敏正（三井不動産）
杉本章子（都市生活研究所）
△田中直人（神戸市開発局）
中山　徹（京都大学）
藤本憲太郎（大阪市立大学）
舟橋國男（大阪大学）
本多友常（竹中工務店）
山根勝利（住宅・都市整備公団）
横井眞朗（鹿島建設）
●構造分科会
足立直行（大林組）
日下部馨（神戸大学）
西田　理（日建設計）
△真塚達夫（東畑建築事務所）
俣野　博（竹中工務店）
八尾真太郎（関西大学）
山田裕治（山田建築構造事務所）
●設備分科会
磯田憲生（奈良女子大学）
遠藤　進（近畿電気工事）
川戸敏雄（近畿大学）
河津隆之（河津隆之事務所）
中曽暁尚（鹿島建設）
△橋本邦彦（須賀工業）
桑　學（総合設備コンサルタント）
●施工材料分科会
阿川清二（鹿島建設）
荒木弘之（積水ハウス）
田中光紀（大阪府建築部）
西牧恵吉（清水建設）
水口　譲（大林組）
△横井征夫（竹中工務店）
●法令分科会
大西博明（兵庫県建築指導課）
広江雅樹（大阪市建築指導部）
△松井　昭（大阪府建築指導課）
南出和延（神戸市住宅局）

（作品作風小委員会）
浦山　哲（大成建設）
大泉研二（日建設計）
○加藤俊明（安井建築設計事務所）
北村恭一（大建設計）
菊池　稔（大林組）
黒川省二（竹中工務店）
黒木省二（京都市住宅局）
志方敬育（兵庫県都市住宅部）
浜崎　彰（清水建設）
湯地龍一（昭和設計）

（投稿欄小委員会）
赤井富弘（近畿地建）
小林正純（清水建設）
○中馬博良（長谷川工務店）
堀畑裕一（近畿日本鉄道）

（広告企画小委員会）
○伊藤敬祐（昭和設計）
池渕俊男（田島応用化工）
木原幹雄（松村組）
駒田哲男（日建設計）
清水修平（安井建築設計事務所）
田上　章（鴻池組）
△田中　功（竹中工務店）
高橋　裕（鹿島建設）
原田常介（クリヤマ）
平等一之（清水建設）
本間利雄（大林組）
松村孝治（東畑建築事務所）
○渡辺　忠（東洋シャッター）

■事業委員会
見学・講演・説明・展示・懇親会・若い会員の集いなどの企画および実施

◎三品哲夫（大阪市建築技術協会）
○島田民彦（竹中工務店）
○鶴田昭一（大林組）
○西村良平（阪急電鉄）

（見学会小委員会）
○上出秀雄（藤木工務店）
△高島三郎（鹿島建設）
△福家　敬（大阪府建築部）
伊東史郎（大林組）
大橋辰男（大成建設）
大藤博貞（竹中工務店）
黒田忠哉（松村組）
正楽井辰彰（清水建設）
福本　功（鴻池組）
南　次郎（淺沼組）

（広報小委員会）
○原見昌志（安井建築設計事務所）
△奥村　進（東畑建築事務所）
△北岡靖一（野村建設工業）
△今野利直（竹中工務店）
△木場公典（大阪府住宅供給公社）
掃部　弥（大阪市公園局）
川村眞次（住宅・都市整備公団）
窪田祐二（錢高組）
下村健治（修成建設専門学校）
末吉善宏（関西電力）
田中弘成（大林組）
田村美喜男（旭硝子）
枚田祐一（近畿電気工事）
宮内　宏（神戸材料）

（若い会員の集い小委員会）
○山形政昭（大阪芸術大学）
△天野直樹（竹中工務店）
△石古　香（大成建設）
△樽本美鈴（モーリショップ）
△寺尾　章（大阪市都市整備局）
生井昌樹（阪急電鉄）
池杉文昭（近畿地方建設局）
石川康介（近畿大学）
小田修一（大林組）
大川和彦（大阪府建築部）
奥　俊信（大阪大学）
川道麟太郎（関西大学）
木内龍彦（大阪市立大学）
島　隆男（安藤忠雄建築研究所）
庄野利博（安井建築設計事務所）
田畑重明（坂倉建築研究所）
谷口美樹子（谷口建築設計室）
続木正之（野村建設工業）
百々真二郎（清水建設）
内藤　正（内藤設計）
野田泰紀（東畑建築事務所）
林　和久（日建設計）
福廣勝介（住宅・都市整備公団）
藤澤繁男（鴻池組）
三宅良一（企画設計社）
三好庸隆（市浦都市開発建築コンサルタンツ）
松本　明（小河建築設計事務所）
宮崎敏子（竹中工務店）
森岡　進（大阪市公園局）
山野達夫（淺沼組）

■教育委員会
建築教育についての調査、研究、講座ならびに工高生デザインコンクールなどの企画および実施

◎多胡　進（大阪市立大学）

（講習会小委員会）
北見　堯（大成建設）
○佐々木　保（エー・エス・アイ）
清水六郎（錢高組）
田中雅俊（清水建設）
徳永義文（鹿島建設）
名越　浩（松村組）
△藤野長士（新日本技術コンサルタント）
松井清史（須賀工業）
△松本邦雄（竹中工務店）
△三木敏男（奥村組）
○安盛壽一（大林組）

（工高生教育小委員会）
上野賢三（大阪市立都島工業高校）
△植田　武（大阪府教育委員会）
岡田聿之（東畑建築事務所）
岡本弘之（安井建築設計事務所）
斎藤　暢（UA斎藤設計事務所）
○﨑山宗威（大阪工業大学短期大学部）
△中野吉晟（大阪府立西野田工業高校）
山田芳武（日建設計）

■建材委員会
建材のコンサルタント・新建材の紹介

大墨　正（東洋リノリューム）
尾松一夫（大林組）
川村眞次（住宅・都市整備公団）
北山　悟（松村組）
小西　努（大成建設）
小林俊雄（近畿電気通信局第一建築部）
○近藤達夫（大阪市建築技術協会）
高野道雄（戸田建設）
辻野彰男（近畿地方建設局）
寺田　裕（鹿島建設）
中居誠之助（大阪府建築部）
中谷一夫（関電産業）
中原　泰（大阪セメント）
長橋英彦（日本建築総合試験所）
西川純一（昭和設計）
原　尚弘（クラレ）
伯耆　紳（安井建築設計事務所）
＊堀内三郎（関西大学）
◎牧田顯治（新井組）
松本　章（東畑建築事務所）
松本英良（竹中工務店）
元木貞次（東洋エンジニアリング）
山田幸一（関西大学）
山本龍雄（大阪鉄道管理局施設部）

■出版委員会
建築に関する図書の企画・編集・刊行
「建築技術選書」の企画・刊行

◎須賀好富（近畿大学）
谷川康信（大阪工業技術専門学校）
千葉和成（大林組）
○舟橋國男（大阪大学）
牧野　茂（竹中工務店）
松尾恭治（松村組）
○山田　修（大阪市立工芸高校）
渡辺信昭（日設エンジニアリング）

■住宅・法規・建築データシート委員会
上記委員会は、昭和59年度は休会。

第9回吉田五十八賞決まる

第9回吉田五十八賞は、推せん総数103件のうちより、つぎのとおり選ばれた。

●建築の部

作　品　土門拳記念館（酒田市飯森山文化公園）
受賞者　谷口吉生（建築家・谷口研究所）
賞　　記念品　銀製文鎮　賞金　300万円

●建築関連美術の部

作　品　石庭「石声庭」（久留米市中央公園）
受賞者　豊福知徳（在イタリア）
賞　　記念品　銀製文鎮　賞金　300万円

●特別賞

白鹿記念酒造博物館の綜合修景計画
（西宮市鞍掛町8－21）
受賞者　辰馬章夫（白鹿記念酒造博物館理事長）
　　上村幸之（大林組設計部次長）
賞　　記念品　銀製文鎮　賞金　各50万円

なお、選考委員はつぎの各氏である。
芦原義信、海老原一郎、圓鍔勝三、大江宏、高山辰雄、橋本明治、東山魁夷、村松貞次郎、脇田和。

去る6月13日、東京丸の内東京会館エメラルドルームにて、その表彰式が開催され、挨拶として渡辺忠雄（吉田五十八記念芸術振興財団理事長）、審査報告として大江宏、圓鍔勝三の両氏、さらに、鈴木勲（文化庁長官）、圓堂政嘉（家協会会長）の各氏から、お祝いのことばがあった。

式後、祝賀懇親パーティが同会場でもたれた。また同会場には、作品の写真等が展示され、多くの参会者が見入っていた。

表彰理由・審査所感

「土門拳記念館」

この記念館は酒田市出身の写真家・土門拳氏から同市へ寄贈された7万点に及ぶ同氏の全作品を納め、展示、研究、収蔵の各部に亘って綿密・明快に平面計画された建築である。

この建物は飯森山公園の砂丘の麓に人工湖を前にして建てられ、その水面の彼方に鳥海山を望む眺望は絶佳である。その優れた景観を巧みに生かし、周辺の環境ともよく調和した内外の空間構成はまことに美事である。

全体に端正で清潔な意匠によって統一された完成度の高い作品として、吉田五十八賞にふさわしいものと認めた次第である。

石庭「石声庭」

筑後川の水の流れをモチーフとして、山口県徳山市黒髪島の花崗岩にて、石の割肌のまま使用。雄大で素朴、空間もよく生かされ、造形も見事な大噴水で、上から落ちる自然の滝を思わせる流水形式で実に迫力がある。正面に向かって左側の水の流れる斜面を見上げると、生き生きとのぼり竜を感じさせ、水のさらさらと流れて行く様は、せせらぎを思わせ実に美しい。流れ落ちた下流の子供達の遊び場もうれしく、大衆に親しまれる噴水で、吉田五十八賞にふさわしく思います。

「白鹿記念酒造博物館の綜合修景計画」

この博物館の基本構想は、明治時代の「酒蔵」、「帳場」、「辰馬喜十郎邸」など歴史的建造物の保存再利用とともに、特異な酒づくりの町並み景観の修復・修景を主体とする再開発計画で、今回新築された「白鹿記念館」とともに、文化的、芸術的香り高い見事な地域空間の創出に成功している。この成果は今後の日本の町づくりに重要な参考例を提出したものとして高く評価出来る。よって吉田五十八賞特別賞にふさわしいものと認めた。

建築の部

1937年生まれ
慶応義塾大学卒
米国ハーバード大学卒
ハーバード大学最優秀学生賞
日本建築学会賞



谷口吉生



土門拳記念館　酒田市飯森山文化公園　撮影：小川泰祐

建築関連美術の部

1925年生まれ
国学院大学国文科中退
富永朝堂に師事
ベニスヴィエンナーレに出品
ウイリアム・フリュー賞
新潮社日本芸術大賞



豊福知徳



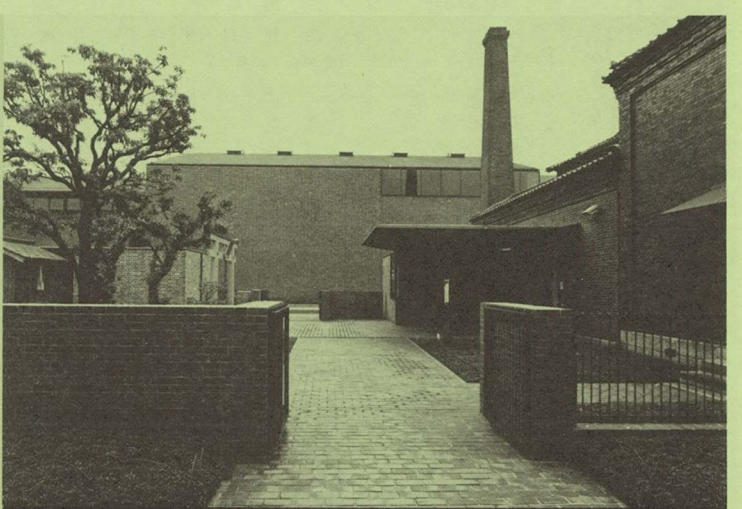
石庭 石声庭　久留米市中央公園　撮影：片山摂三



辰馬章夫
1941年生まれ　慶大卒



上村幸之
1932年生まれ　早大卒
特別賞



白鹿記念酒造博物館の綜合修景計画
西宮市　撮影：小川泰祐

新入会者ごあっせんのお願い

日本建築協会 会員増加運動

70周年記念へ向けて ご入会をおすすめいたします

●今般、日本建築協会では、新事務所を大阪駅前第３ビル21階に移しました。さらに、来る昭和62年には創立70周年を迎えます。これを契機にして、さらなる発展の土台を築きたいと念願しております。この機会に、会員の増加運動を進めておりますので、新入会、再入会のあっせんをお願い申しあげます。

●新事務所の駅前第３ビル21階には、会員がご自由に、懇談、待合せできるサロンや、囲碁・将棋のコーナーなど、ご気軽に利用できるスペースを設けております。また会議室として、大会議室（30名）小会議室（10名～15名）を借りる（有料割引）こともできます。

●毎月「建築と社会」誌の無料配付を受けることもできます。投稿も優先します。また常設委員会への参加（委嘱状必要）もできます。

●見学会・講習会等各種の催しに優先的に参画できます。日本建築協会所蔵の図書も閲覧できます。青年技術者特集号や工高生デザインコンクールにも応募できます。また建築クラブ（朝食会・別途会費必要）やゴルフ同好会にも参画できます。

●今後、創立70周年記念事業も企画していきますが、「建築を通じて社会に貢献する」という目的の達成と斯界の発展のために、友人・後輩・学生、さらに建築をとりまく周辺の方々のご入会のあっせんをお願い申しあげる次第です。

●会費はつぎのとおりです。（昭和59年度）

正会員　個人　年間　　￥11,400
〃　　団体　年間１口￥20,000
準会員　学生ほか年間　￥ 7,200
（入会金は免除中）

●右の「入会申込書」に要領ご記入の上、ご入会いただければ幸いです。（切手不要です）

●「建築と社会」アンケートにご協力を！

今後の編集に会員の声を生かすため情報をお寄せください――右の用紙（ハガキ）にご記入の上、返送願います。
尚、読者の頁「声」に掲載分には謝礼をさしあげます。

社団法人 日本建築協会 個人会員 団体会員 入会申込書

ふりがな	
氏名 会社名	㊞
代表者名	
生年月日 創立年月日	年　月　日
学位	資格
出身校名	校　科　年　月卒業
連絡担当者	口数　口（２口以上希望）
現住所 所在地	郵便番号 TEL（　）　局　番
勤務先	（所在地）郵便番号 （名称） TEL（　）　局　番
他会関係	建築学会・建築士会・その他（該当○印のこと）
（業種別）	官公庁　公社　設計　建設　電気　管工　設備 建材　会社営繕　学校　その他（該当○印のこと）
（紹介者）	

上記入会申込みます。
昭和　年　月　日

〔註〕　通信先を指定して下さい（自宅又は勤務先）
斜文字の欄は団体会員用です。

建築と社会 アンケート

以下の質問にお答えください。
今後の編集に役立てたいと考えています。

1. 最近お読みになった中で、よかった記事・特集・シリーズに○をおつけください。

A 特集

1．ホール建築と音（1982．７）
2．大スパン構造（1982．８）
3．オー・エム・ホテル日航ビル(1982.10)
4．絵本にみるすまいとまちづくり(1982.10)
5．地方の庁舎建築（1982．11）
6．風土・空気と人間（1982．12）
7．関西の建築文化を考える（1983．１）
8．マイコンの建築への利用（1983．２）
9．多様化する運動施設（1983．３）
10．建築と品質管理（1983．４）
11．計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション（1983．５）
12．大阪駅とターミナルビル（1983．６）
13．維持管理と設備更新（1983．７）
14．東海の将来と文化を考える(1983．８)
15．オフィス・インテリアの変革(1983．９)
16．プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造（1983．10）
17．大阪城国際文化スポーツホール(1983.11)
18．集合住宅と生活音（1983．12）
19．21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う（1984．１）
20．関西の超高層ビル（1984．２）
21．ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展（1984．３）
22．建設産業とロボット開発（1984．４）
23．住環境と法制度（1984．５）
24．まちの活性化と商業空間（1984．６）
25．京都駅南口再開発ビル〈アバンティ〉（1984．６）

B シリーズ

1．読者の頁―マイ・フォト
2．〃　―アメリカ建築巡礼記
3．〃　―イギリスでの生活点描
4．風土と建築
5．都市気球
6．建築の眼
7．設計者のプロフィール
8．構造の頁
9．設備の頁
10．施工材料の頁
11．法令コーナー
12．新建材紹介コーナー
13．日本建築総合試験所だより
14．すまいづくり講座

C その他

1．作品作風・新建築（グラビア頁）
2．佐賀県作品集（1983．12）
3．青年技術者特集（毎年11月）
4．スケッチブック
5．読者の頁―書評
6．〃　―私のらくがき
7．〃　―海外工事のワンポイント
8．〃　―沖縄の庭園
9．若い会員の集いレポート
10．見学記

2. あなたのご希望の記事・テーマ・執筆者また「建築と社会」に対するご意見をお書きください。

料金受取人払

郵便はがき

5 3 0 - □□

大阪中央局承認
2271

差出有効期間
昭和60年5月31日まで
切手不要（上記期日以降は切手をお貼り下さい）

大阪市北区梅田一丁目一番三―二一〇〇号
大阪駅前第3ビル21階
社団法人 日本建築協会
御中

日本建築協会に
ご入会をおすすめいたします。

建築士の資格がなくても、建築に関連ある業務をしておられる方は誰れでも会員になれます。
とくに建築の周辺の方々――建築主、事業主、美術家、彫刻家、造園家、インテリアデザイナー、都市開発のコーディネイター、材料開発者、行政家、法律関係者などのご入会も歓迎いたします。
左の入会申込書に要項ご記入の上、ご入会下さいますようお願い申しあげます。
会員の方は、しかるべき人の入会のごあっせんをお願いいたします。

料金受取人払

郵便はがき

5 3 0 - □□

大阪中央局承認
2272

差出有効期間
昭和60年5月31日まで
切手不要（上記期日以降は切手をお貼り下さい）

大阪市北区梅田一―一―三―二一〇〇
大阪駅前第3ビル21階
㈳日本建築協会
編集部御中

名前	男 女 年齢 歳
住所 〒	電話
会社(所属)・職業	
所在地 〒	電話

●読者の頁にあなたの「声」をお寄せください。建築、しごとのこと、近況など何でも結構です。掲載分には謝礼をさしあげます。

「建築と社会」アンケートにご協力ください。

●今般、日本建築協会編集委員会では、会員と読者の声を生かし、最近の情報化社会に対応した編集方針を組むため、アンケートいたします。左のはがきに要項ご記入の上、ご返送ください。（切手不要）

●本文特集の構成は、日本建築協会があらゆる職種・職域の人を有する綜合団体の性格にかんがみ、計画、構造、施工材料、設備、青年技術者、法令に分かれ、今日的なテーマを選んで企画しています。作品作風の新建築のグラビア頁にも力を入れています。このほか各種の常設シリーズもの（構造の頁、設備の頁、施工材料の頁、法令コーナー、新建材紹介コーナー、建築の眼)、また、特別シリーズもの（設計者のプロフィール、すまいづくり講座等）さらに、スケッチブック、若い会員の集いレポートも組んでいます。読者の頁やニュース欄の会員読者の声の欄もあります。

●「建築と社会」誌や日本建築協会への皆さんの注文、よかった記事、希望するテーマ・執筆者等ご意見を聴き参考にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申しあげます。

建築と社会
©1917年創刊
第65集・1984

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

CONTENTS

ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集●まちの活性化と商業空間
特集●京都駅南口再開発ビル（アバンティ）

- *SPECIAL FEATURES ON VITALIZING OF URBAN SPACE —COMMUNITY AND SHOPPING SPACE—*
- *SPECIAL FEATURES ON KYOTO STATION'S SOUTH ENTRANCE REDEVELOPMENT BUILDING AVANTI*

通巻747号 6

表紙デザイン：
濱野節朗（京都工芸繊維大学）

特集予告
- ■7月号／消防設備（仮称）
- ■8月号／みどりとそれをとりまく人々
- ■9月号／高齢化社会と生活空間（仮称）

会告
ニュース
作品作風
レポート
新建材紹介コーナー90
日本建築総合試験所だより
建築と社会ニュース
東海だより
読者の頁
設計者のプロフィール
すまいづくり講座3
都市気球18（最終回）
建築の眼
特集
[1]座談会
[2]インタビュー
[3]各論
[4]探訪記
[5]事例紹介
特集
[1]作品作風
[2]本文

会長　福田朝生
副会長　足立　孝・市川　宏
佐野正一・松村雄二
編集委員会（昭和59年度）
編集委員長　井上　滉
編集理事　井上　滉　今井潤之介　金多　潔　北澤　登　竹中　錬一　武田　恭一　長谷部朝郎　松村　慶三　山本　晃　渡辺　恵
編集委員
（特集小委員会）
■計画分科会　足立　啓　岡田　信幸　金澤　成保　榊　敏正　杉本　章子　＊田中　直人　中山　徹　藤本憲太郎　舟橋　國男　本多　友常　山根　勝利　横井　眞朗
■構造分科会　足立　直行　日下部　等　西田　理　＊真塚　達夫　俣野　博　八尾真太郎　山田　裕治
■設備分科会　磯田　憲生　遠藤　進　川戸　敏雄　河津　隆之　中曽　暁尚　＊橋本　邦彦
秦　學
■施工材料分科会　阿川　清二　荒木　弘之　田中　光紀　西牧　恵吉　水口　譲　＊横井　征夫
■法令分科会　大西　博明　広江　雅樹　＊松井　昭　南出　和延
（作品作風小委員会）　浦山　哲　大泉　研一　◎加藤　俊明　北村　恭一　菊池　稔　黒川　省二　黒木　省二　志方　敬育　浜崎　彰　湯地　龍一
（投稿欄小委員会）　赤井　富弘　小林　正純　◎中馬　博良　堀畑　裕一
（広告企画小委員会）　◎伊藤　敬祐　池渕　俊男　木原　幹雄　駒田　哲男　清水　修平　田上　章　○田中　功　高橋　裕　原田　常介　平等　一之　本間　利雄　松村　孝治　◎渡辺　恵
◎副委員長　○副委員長代行　＊幹事

編集人　松井昭光
印刷　昭和59年6月20日
発行　昭和59年6月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06—348—0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06—606—1111㈹
大信印刷株式会社
電　06—451—7631
定価　950円（送料共）

会員増加運動にご協力お願い．理事2名の補選お知らせ．神戸・ポートアイランドを見る（第2回）－ポートピア'81．その後…．昭和59年度日本建築協会役員会務分掌．昭和59年度日本建築協会評議員．昭和59年度日本建築協会特別委員会委員．日本建築協会支部長．昭和59年度日本建築協会常設委員会委員……1
第9回吉田五十八賞決まる……4
ニッケパークタウン……設計施工：竹中工務店……8
大阪府立国際児童文学館……設計監理：大阪府建築部営繕室　施工：熊谷組……10
大阪市教員会館豊明殿 並びに メロディーハイム法円坂……12
設計監理：中島龍彦建築事務所・淺沼組設計部　施工：淺沼組
三井ガーデンホテル……14
設計監理：日本設計事務所大阪支社　施工：三井建設・鹿島建設・日本国土開発共同企業体
三井ガーデンホテル－新しいホテルスタイルを求めて－／坂田勝廣……16
耐震丁番／松本英良……19
アルカリ骨材反応性の早期判定に関する一実験／田村博・星野善孝・斉藤宏志……20
建設省営繕工事（第32回）設計コンクール入賞……21
市街化調整区域における大規模開発許可の面積要件緩和……21
イギリスでの生活点描(3)－テニス－ウィンブルドン大会を見る－／西村一朗……22
建築家と社会との接点を広げた第1回関西建築家フェスティバル〈伝統とモダン〉書評・「市民としての建築家」（武基雄著）／増渕昌利……23
北村陸夫氏を訪ねる／インタビュア・柏木浩一……25
新しくつくる街／吉山耕成……26
少女マンガと幻想の都市／土居祐子……28
実効性のある環境－情況の建築／鳴海邦碩．新(?)建築用語／坂本　勉……30
無題－6－／田畑　弘．ゼネコン各社殿／大墨正

まちの活性化と商業空間

まちの活性化と商業空間……32
出席者　加藤敬三／紙野桂人／佐藤きよ子／藤井務　司会：田中直人
イベントとまちの活性化 －大阪21世紀協会プロデューサー北本正孟氏に聞く－／インタビュア田中直人…40
まちの活性化に向けて
まちは生活の舞台－企業戦略とまちづくり－……香川英行……42
民間ディベロッパーと商業展開－らら ぽーとの事例－……阿部　寛……44
神戸ファッションタウン－アーバンデザインによるまちの活性化－…田中直人／鵜飼誠一 47
巷探訪記－新世界と新開地－…ぐるーぷ・ちまた（岡田信幸／柏木浩一／田中直人／本多友常）……52
超複合施設（スーパーコンプレックス）とまちの活性化……58
ザ・エルシイ／つくばセンタービル／新宿ワシントンホテル／有楽町T.A.Sビル（第1期）／新所沢PARCO＋Let's／WAVE／江坂東急ビル／阿倍野地区第2種市街地再開発事業／吉本ビルディング

京都駅南口再開発ビル（アバンティ）特集

京都駅南口再開発ビル（アバンティ）……64
基本設計：京都市計画局市街地再開発課・東畑建築事務所・地域計画建築研究所
設計監理：京都市計画局市街地再開発課・東畑建築事務所
施工：戸田建設・東急建設・藤井組共同企業体
再開発事業の流れ……国廣　勲……79
建築計画……谷田庄司／塘　伸夫……82
外装計画……塘　伸夫……84
設備計画……岡　次郎／城下善雄……88
施工計画……安井健次……92

壁式構造の設計規準／松村　晃……109
夜間電力利用による氷蓄熱システム／西村辰朗……111
油面処理材とその工法（油面接着工法）／清水茂夫……112

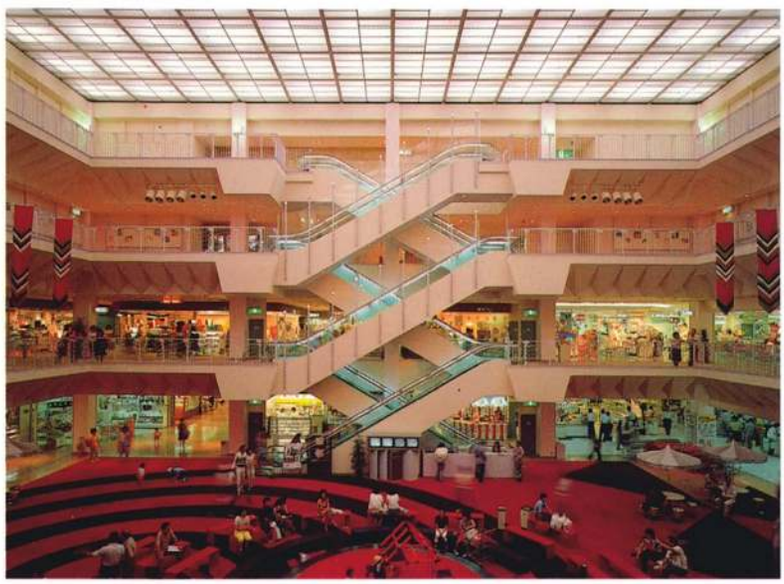
●法令コーナー，月間の動き（昭和59年4月分）は休載します。

権造の頁 118
設備の頁 117
施工材料の頁 116

ニッケパークタウン

設計施工　竹中工務店





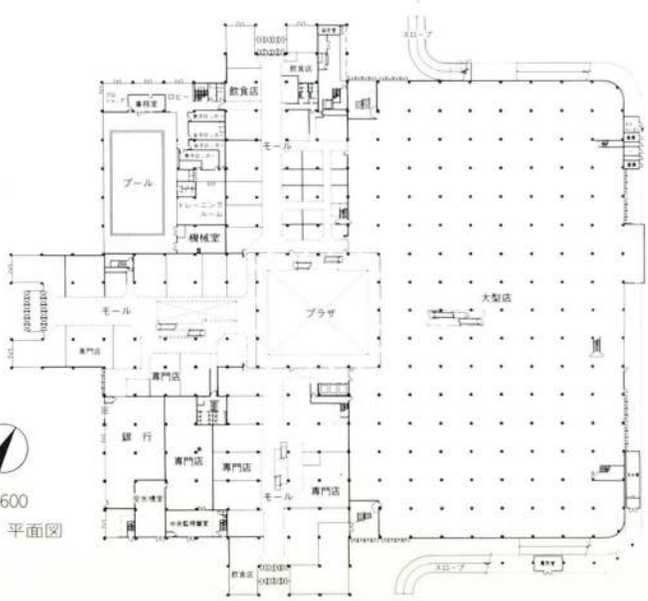
装飾古墳でよく知られている熊本チブサン古墳に描かれている壁画は民族のエネルギーが凝縮された形と思われる。円と三角の単純な形をとりながら、人々の思い入れをみごとにあらわしている。直截で新しさを感じる。巨石で囲まれ、再び目にふれることのない壁画になぜデザインへの激しいエネルギーをそそぐことになったのだろうか。日本人の美意識は見えないところまで配慮されるということですまされるのであろうか。西洋の合理主義からは考えられないことである。日本建築は合理主義よりも情感、感性を伝えるものを良しとしてきた。

パークタウンは日本的なショッピングセンターをめざした。パークタウンのある加古川は歴史の街である。近くには古代遺跡の石の宝殿があり、聖徳太子ゆかりの鶴林寺がある。加古川に近づくと明るさを感じる。河と周辺の田園風景が清冽なる明晰をあらわしている。歴史から受けるエネルギーと風土からくる明るさは、この土地の特異性である。建築は外部を控え目となるように淡彩とし、内部はエネルギーが天空へと昇華するように強い色を構成している。ここを訪れる人の遊びの場であり、自然になじむ場となるように考えた。クロス形モールの中央に設けた吹抜け空間は未来への可能性と変化を受け入れる場である。

（狩野忠正／竹中工務店）

写真上：正面アプローチ
　下：プラザ吹抜とエスカレータ
　右：専門店側よりプラザと大型店をみる

所 在 地　加古川市加古川町寺家町字将軍173-1
敷地面積　49,733.27㎡
建築面積　17,331.57㎡
延床面積　41,255.81㎡
構造規模　SRC、3F
工　　期　昭和58年5月～昭和59年2月
最 寄 駅　国鉄山陽本線加古川駅



1:1600
1階 平面図

撮影　東出清彦




Daiei
ファッションのフロア
Daiei
食料品・暮らしと住まいのフロア

大阪府立国際児童文学館

設計　大阪府建築部営繕室
施工　熊谷組大阪支店



大阪府立国際児童文学館は、児童文学研究者の鳥越信氏から児童文学資料約12万点が大阪府に寄贈されたことを契機に児童文学等児童文化に関する図書その他の資料を収集・保存し、的確な情報提供等を行う〝児童文化の総合資料センター〟ならびに〝子どもの読書・文化活動のセンター〟として計画された。

敷地は、万博公園の中の国立民族学博物館、国立国際美術館などがある文化施設ゾーンの一角にあり、前面に「夢の池」を臨み、背後には緑豊かな日本庭園をひかえた文化的・景観的に恵まれた位置にある。

設計にあたっては、これらの既存施設といかに調和させその景観レベルを向上させるかが一つのポイントとなった。そこで既存施設がマッシブでありながら水平線を強く打ち出した構成であるため、児童文学館は２層として全体を低く押さえかつイベント広場には場を規定するためのフレームを架け水平方向ののびやかさを強調することで景観との調和を図った。全体構成としては、敷地が「夢の池」に沿って135°開いた台形をしているためその形状を生かして各室および外部空間を有効に配置し、全体として動きのあるシャープなデザインでまとめた。

１階は、管理、書庫部門とアクティビティーの高いこども室、講堂などを分離して配置し、２階には閲覧室、特別閲覧室、セミナールームなど静かで落ちついた雰囲気の必要な室を配置した。

こども室は「本のある遊び場」というテーマに基づき、中央部に1.2ｍのレベル差をつけ、周囲にボックス書架を変則的に組み込んで空間に変化を与えるとともに、こどもたちが楽しい雰囲気のなかで本と接することができるよう計画した。こども室と一体になったイベント広場は、屋外読書、紙芝居、人形劇などの利用を考え、屋外ステージを設けるとともに、幕、日除けテント、照明などが吊り下げられるバトンをフレームに組み込んでいる。

（杉原繁・大川和彦／大阪府建築部営繕室）

外装仕上
外壁　磁器質２丁掛山型タイル（特注品）
　　一部耐候性鋼板プレパレン処理
軒天　アルミスパンドレル（指定色焼付）
屋根　アスファルト防水砂利敷き

所在地　大阪府吹田市千里万博公園
敷地面積　4,168.46㎡
建築面積　1,863.70㎡
延床面積　3,131.22㎡
構造規模　RC、Ｂ１、２Ｆ
工　　期　昭和58年４月～昭和59年３月
最寄駅　北大阪急行千里中央駅



上空より全景を見る　手前が夢の池

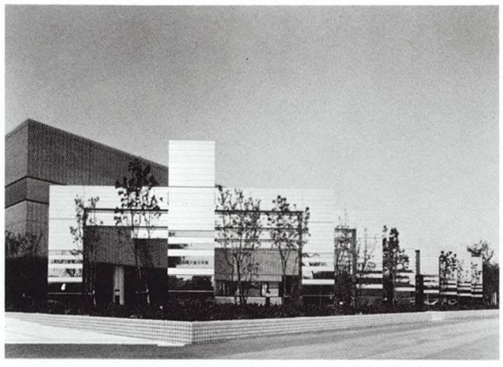


北西側より中庭を見る

撮影：SS大阪

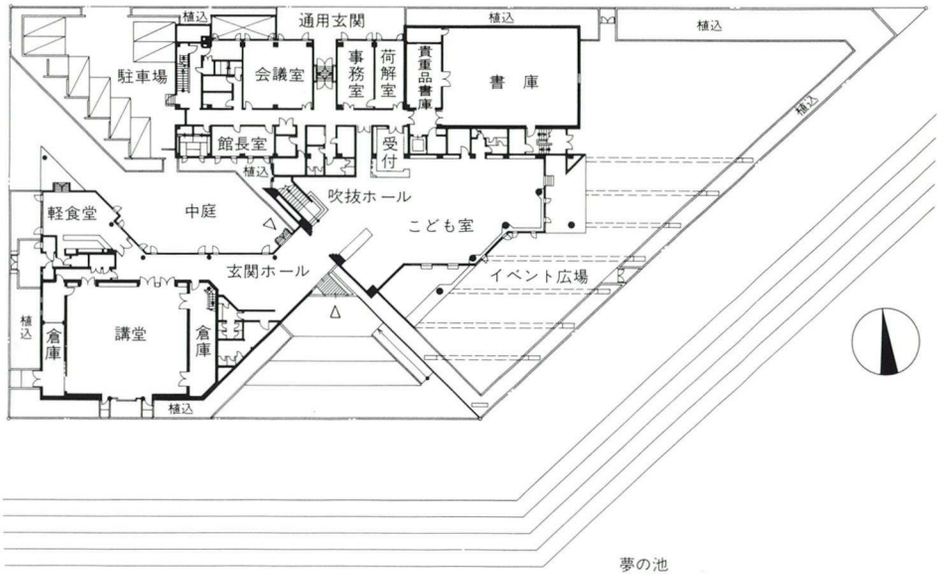
夢の池の対岸より南面全景を見る

こども室に隣接するイベント広場に架けられたフレーム





本のある遊び場・こども室



配置・１階平面図(１：900)

大阪市教育会館 豊明殿　並びに メロディーハイム 法円坂

設計監理　中島龍彦建築事務所
　　淺沼組設計部
施　　工　淺沼組


豊明殿３Ｆの結婚式場

私達が学生協の人達とともにこのプロジェクトにかかわりをもったのは昭和54年の夏のことであった。以来、５年にわたる永い建設経過を振り返ると感又ひとしおである。この経過でなによりも気をもんだのは難波宮遺跡埋蔵地という大阪でも最重要な歴史的環境にどう取り組むかといった事であった。時を同じくして四天王寺境内地での学園の計画もあり、期せずして孝徳、天武両都京の北端と南端で計画を進めるという偶然と因縁に行きあたり、大阪人として大変な幸運とも不運ともいえない状況であった。何かと遺跡の保存が叫ばれるなかで、開発とは、建築とは何なのか、そしてそのデザインは、とたゆろいながら模索をする毎日であった。

洋の東西古今を問わず幾多の建築、都市が時に時を重ね、空間の上に空間を重ね今日に至っているのは事実が示す通りである。特にわが国のように小島にたくさんの人々がうごめくところでは何回となく都市は移りながら更改をくりかえしてきた。そして木でできた都市はこれを助長した。これらの過去は形態というよりはむしろその形態を生み出すところの精神や手法を重視する文化的風土をつくり出してきたことは、仏教いうところの無常感や、茶道といった場合の「道」といういいかたによく表されている。

近代の建築は近代の精神と手法に基づきつくられる。近代の精神は遠く先人達の遺産であるし、将来に受け渡すべき財産でもある。

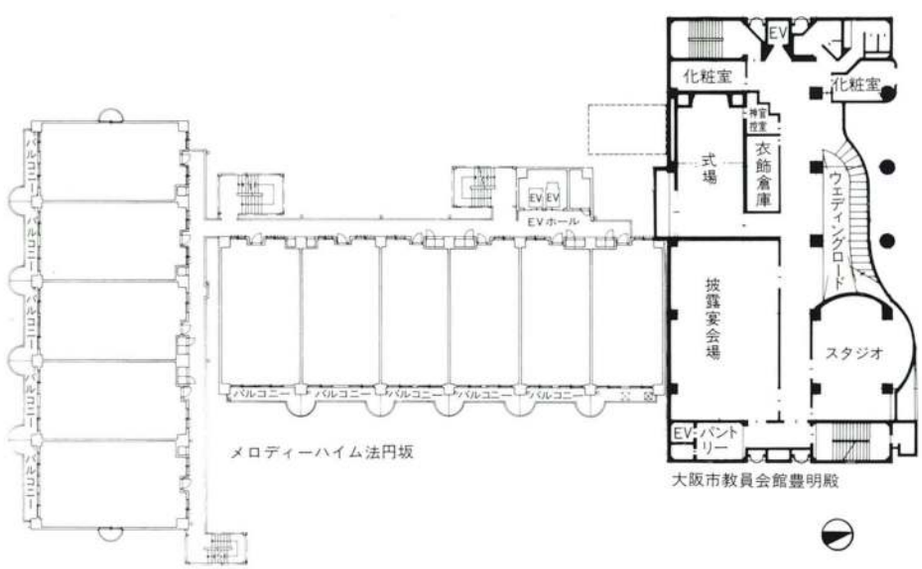
ここでは遺跡をピロティでまたぐ建築とし将来の調査に可能性を残すとともに、その名も豊明殿という結婚式場として凝縮された日本的空間を内包することによって、これらの継承を図るとともに先人達への畏敬と鎮魂の場としている。

又、マンション部については、私共の基本設計をもとに、発掘により明らかとなった礎石の間を縫って柱位置を設定し、地上部をピロティとして将来の研究を待つように配慮しながら淺沼組設計部のスタッフが実施設計を継続したものである。発掘された建物の柱脚をさけながらの設計作業、しかも相当の床面積を確保しながら、しかも良好な住環境をつくり出すことは簡単なことではなかった。あらためてスタッフ一同に敬意を表すものである。

（中島龍彦／中島龍彦建築事務所）


豊明殿正面

メロディーハイム法円坂をバックに大阪市教員会館豊明殿を見る



3階平面図　1：600

所在地	大阪市東区法円坂1丁目
敷地面積	3,226.71㎡
建築面積	1,675.62㎡
延床面積	14,564.29㎡
構造規模	大阪市教員会館豊明殿RC、B1、4F、P1
	メロディーハイム法円坂SRC、15F、P1
工期	昭和57年2月～昭和59年2月
最寄駅	地下鉄谷町線谷町4丁目駅

外装仕上

大阪市教員会館豊明殿

外壁：磁器2丁掛タイル、アルミパネル、ジュラクロン焼付け

軒裏：コンクリート化粧打っぱなし、APエナメル吹付け

屋根：アスファルト防水

メロディーハイム法円坂

外壁：磁器2丁掛タイル

軒裏：アクリル樹脂吹付け

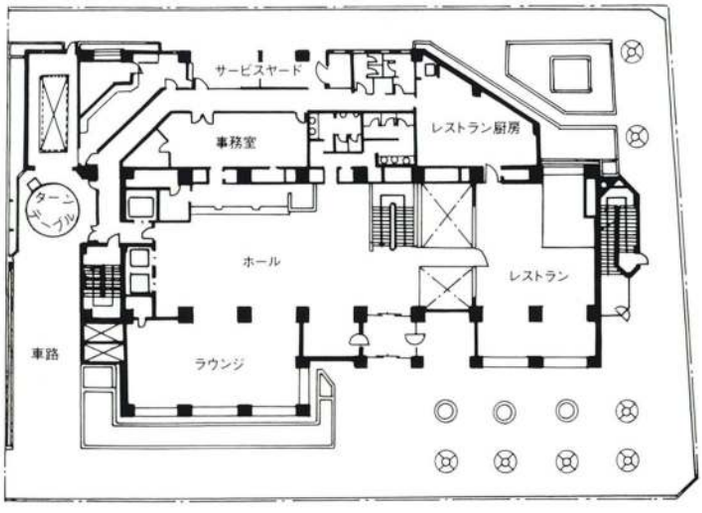
屋根：アスファルト防水、一部着色樹脂シート防水

三井ガーデンホテル

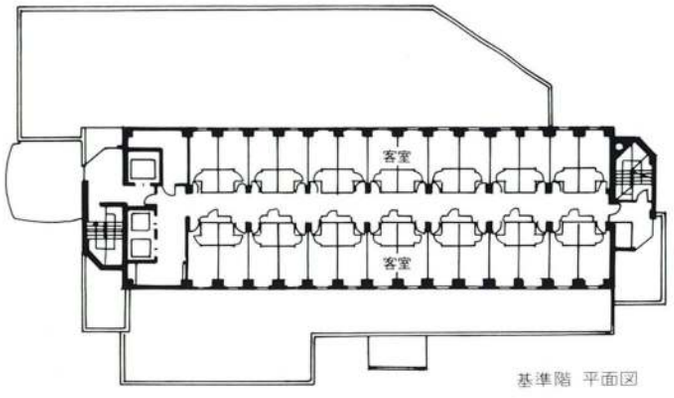
設計監理　日本設計事務所
施　　工　三井建設　鹿島建設　日本国土開発 共同企業体



1階ラウンジ



1：550
1階 平面図



基準階 平面図

＜ホテルのデザイン＞と聞けば、すぐにギラギラ、ピカピカしたロビーや宴会場が目に浮ぶ。あのスタイルはすっかり定着してしまったが、あれで良いものなのだろうか。

大阪万国博の頃から、多くの大型ホテルが＜都市文化の交錯点＞と自称して、宿泊付き総合コミュニティセンターに変身して行き、あれからチャラチャラした人寄せのデザインになってしまった。これはこれで元来のホテルから発展した新しいジャンルのものだと考えれば、それですむ話なのだが、ところが宿泊主体のホテルの本家本元の流れをくむはずのビジネスホテルが、あの騒がしいデザインを本道とおもって懸命にまねているのはフンパンモノである。

1ランクあげた、このエクゼクティブホテル。船場のなかでも、未だ大正の風情をわずかに残す界隈に、小粋な街角の広場をかまえ＜三井＞の名にふさわしいニュートラッドの渋さと落着きで、ひと夜のやすらぎをデザインした。

（内藤徹男／日本設計事務所）

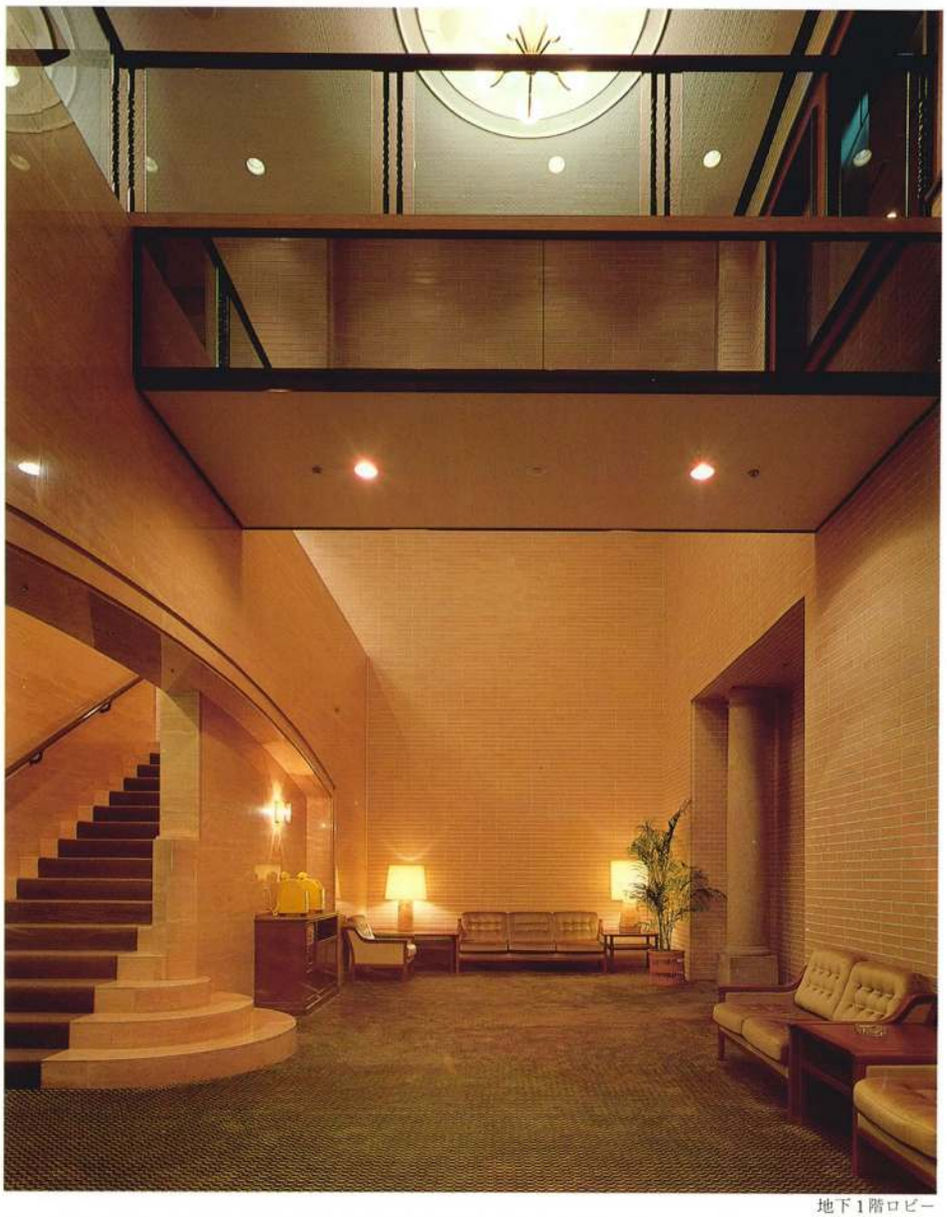


建 築 主	トーメン不動産、三井不動産、エムエフホテルデベロップメント
所 在 地	大阪市東区高麗橋3-1-1
敷地面積	1,860.24㎡
建築面積	1,071.84㎡
延床面積	10,561.20㎡
構造規模	B2 RC・B1、15F、P3 SRC
工　　期	昭和57年3月～昭和58年12月
客 室 数	371室
駐車台数	28台

撮影　東出清彦



1階ホールよりラウンジをみる



地下1階ロビー

三井ガーデンホテル
新しいホテルスタイルを求めて

坂田勝廣

船場―建設地とその沿革

緒方洪庵ゆかりの適塾や愛珠幼稚園、レンガ造の大中証券などが残る船場の一角は、大阪市の〝歴史の散歩道〟として位置づけられている。江戸時代中期の高麗橋通りには、高麗橋東詰めに銀座があったため、両替商、呉服商が多く集まっており、当地には三井両替店が位置していた。三井ガーデンホテルの定礎に刻まれている説明文によれば、「三井高利は元禄3年幕府の大阪御金蔵銀御為替御用引受けの翌年、大阪にも高麗橋1丁目に呉服店両替店を開店した。大阪三井両替店は間もなく宝永3年高麗橋3丁目の現在地に移転、爾来明治6年両替店が廃止されるまで存続した。(中略)大正9年三井合名会社の新ビルが完成するや、三井物産の大阪支店と同社棉花部を分離して創立された東洋棉花(現トーメン)を入居させた。東洋棉花は同12年三井物産が再び高麗橋2丁目の新ビルへ転出後も、昭和41年までこの地に本社を置いた」とある。

大阪市パノラマ地図[注1]をみると、大正9年竣工の三井合名会社の新ビル(6階建て)は、周囲のしもた屋の中で、あたかも現在の超高層建物のような偉容を誇っていた。

大阪市内の古建築調査報告書[注2]によれば、等級C－11号とされたこの建物は、横河工務所の松井貴太郎の設計であった。解体に際しては大阪市立大学福田講師[注3]の指導のもとに調査をして資料保存を行った。氏の解説によれば、「古典的な三層構成をとり入れた外観は、1900年代前後の米国の事務所建築の手法を使ったきわめて高度な内容をもつ、大正期大阪の建築の白眉といってよい」ということである。

大阪市は昭和14年4月、旧市街地建築物法に基づいて、旧船場地区後退建築線を指定し、これにより道路斜線を緩和し船場地区の整備促進を図っているが、旧建物はこれに先立つこと19年も前に、通りから4m後退して高層ビルとして建設されたのであった。

事業の流れとしくみ

高麗橋ガーデンホテルビルディングは三井不動産㈱とトーメン不動産㈱の共同ビルとして建設され、これを三井不動産㈱の全額出資小会社の㈱エムエフホテルデベロップメントが一括賃借し、三井ガーデンホテルとして運営している。

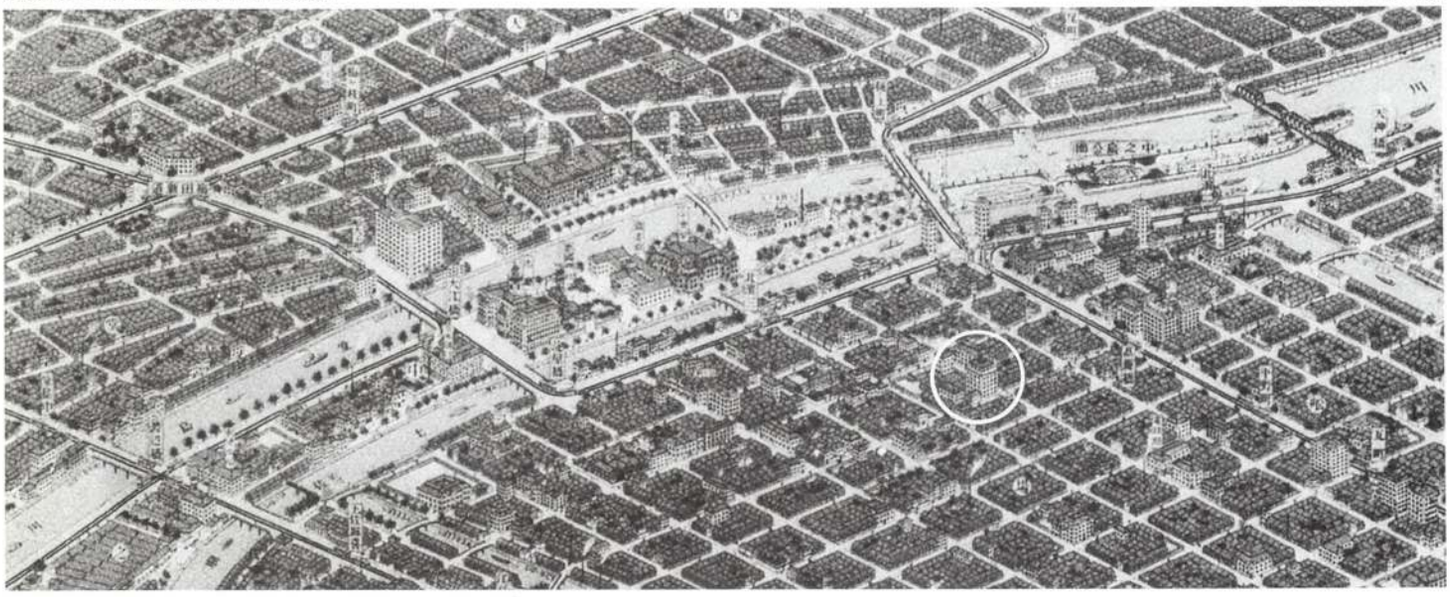
事業計画は、昭和50年頃旧建物の老朽化により事務所ビルへの建て替え計画としてスタートした。しかしオイルショックと大阪の経済地盤の沈下により、事務所ビルの経営が難しいことから、新規建物の利用について多角的に再検討された。昭和52年末には計画地周辺の環境を考え、ビジネスホテルとしてケーススタディがはじめられた。これらの事業計画は主に三井不動産㈱大阪支店ビルディング課の諸氏が推進された。

コンセプト―新しいホテルスタイルを求めて

いわゆるビジネスホテルが出現したのは昭和30年代後半で、コンセプトとしては客室数60前後、大半が1室10㎡以下のシングルルームで構成され、全室バス付きがうたい文句であった。40年代前半は付帯設備、とくに飲料部門が充実されるようになった。40年代後半にはビジネスマンの利用だけでなく、ホテルへのニーズが多様化したために、とくに地方都市を中心に中級のミニ都市ホテルへと変貌

大阪市パノラマ地図(大正13年発行)

発行：ワラヂヤ出版　大阪府立図書館所蔵





元・三井合名会社大阪高麗橋事務所

していった。しかし新しい型のビジネスホテル、つまり宿泊収益にかなりのウェイトを置きながらも、立地条件を生かした施設とサービスをもつ、新しいコンセプトのホテルが求められていた。

昭和53年に三井不動産㈱大阪支店が行ったマーケットリサーチとホテル経営者へのヒヤリングを通じて、高麗橋のホテル立地条件が明確になってきた。交通の便のよいビジネス街のど真ん中であるから、東京からのビジネス宿泊需要が高いこと、付近に競合する物件がなく、また夜間は静かでホテルとして好ましい環境にあること、行楽地が近くにないため週末の利用低下が考えられること、飲食宴会部門は業務地に立地するため、大規模なものは危険性が高いことなどが判明した。

これら立地条件の調査に並行して、パイロットプランの検討を進めた。斜線制限内10階建てでのさまざまなブロックプランと、総合設計制度を採用しての15階建て案の検討をへて、ほぼ現在の形に近い15階建て、378室の案を設計事務所より提案した。

この案をもとに経営採算、運営計画（とくに直営を前提とし、賃貸方式との比較）など昭和55年夏まで研究が続けられた。また既存ホテルへの宿泊実査、各種講習会に参加して、55年秋には以下のエクゼクティブホテルとしてのコンセプトがまとめられた。

ホテルは建物自体が商品であり、全体デザインは各客層にマッチしたテーマが感じられること、宿泊部門については中堅サラリーマンで東京方面からの出張客を主体とし、飲食、会議、展示部門は、当ホテルの周辺企業、そのサラリーマン、ＯＬ等外来客を主体とすること、経営政策は、人的サービスを最小限に押さえ合理化する。それにかえて低層階でのパブリックスペースはゆとりのある広さを確保。飲食、会議、展示部門ではハイグレードな空間を演出。そして機能性と快適性を具えた客室でコストベネフィット（コスト／満足感）の向上を計ることなどであった。

またパイロットプランを前提とし、他の競合ホテルとの差別化を図り、ニーズの多様化に対応できるようとくに立地・規模を考え、市内Ｍホテル、Ｔホテルを十分研究した。

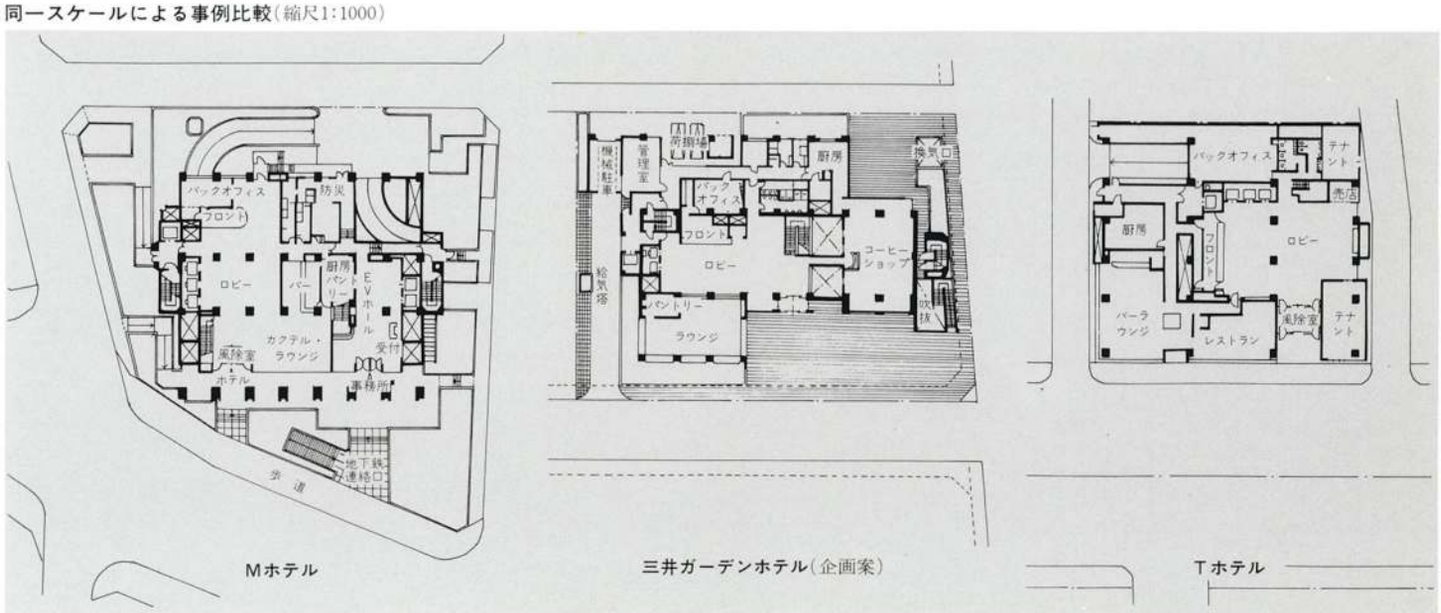
三井ガーデンホテルのデザイン——エクゼクティブホテルの誕生

パイロットプランを基本に、関連法規への適合性、合理性を追求した平面計画、とくに両端コアとセンターコアの比較検討、設備計画の省略化をテーマに、昭和55年秋から56年秋にかけ、基本・実施設計、建築審査会の同意を中心とした許認可業務、旧建物の調査、資料保存、材料の再利用の検討などを進めた。

昭和57年秋には公募で採用された宿泊支配人、マネージャーの参加を受け、ホテルプロパーとしての諸氏のホテルコンセプトの見直しと、同じく公募によるホテル名の決定を迎え、三井ガーデンホテルのイメージが、プロジェクトチーム全員にエクゼクティブホテルとして、あざやかさを増した。

ホテルの内容は客室数371室、内訳はシングルルーム350室、ツインルーム14室、デラックスシングルおよびダブルルーム7室、付帯施設はレストランフローラ(70席)、コーヒー＆パブスクェア(120席)、会議室兼宴会場オークルーム（35㎡）、およびガーデンホール（180㎡）である。パブリックスペースは広々としたロビーのほか、当ホテルのキャッチフレーズとして、休息、商談、待ち合わせのためのラウンジを設け、くつろぎのひとときを提供した。

同一スケールによる事例比較（縮尺1:1000）





三井ガーデンホテル外観

ホテルの顔としての外観は、高層部は総合設計制度の採用により、しなやかなタワーのシルエットにして、頂部はロンバルディアバンド風のアクセントをつけた。窓には腰ガラリがついている。これは設備計画のメインテーマである客室個別空調システムの外部ガラリをやわらかくデザインしたものである。低層部はこげ茶色の御影石で装い、窓枠を白御影でくっきりと縁取り、ベージュ色のテントでアクセントをつけた。

公開空地の小広場には旧建物の縁石や石畳を再利用した舗床に、四季を感じさせるナンキンハゼやオカメザサの植え込みを添えて、小いきで渋い街角の雰囲気を目ざした。

ゆったりとしたロビー、ラウンジなどのインテリアは三井家ゆかりの土地にふさわしくトラッドをテーマとし、トラバーチンや同系色のタイルを基調に、旧建物のアールデコ風の茶かっ色のタイルや円柱を再利用した。客室や宴会場の壁紙やエレベーターの扉、タピストリーには、ガーデンをテーマとして草花や小動物の図柄をつかって、三井不動産㈱のねらうエクゼクティブの風格を出すように工夫した。

ここに、大正時代に船場をオフィス街へと発展させる先がけとなった高層事務所ビルを建設した三井グループが、停滞する船場の活性化のために再びエクゼクティブホテルの新しい商業空間を提供したわけである。

ホテルオープン後の印象

近来まれにみる低温と積雪の中、昭和58年末建物竣工式、59年1月オープニングセレモニーを迎えた三井ガーデンホテルは、幸いにも順調なすべり出しを見せている。派手さを押さえた落ちついたインテリアと、初々しく誠実なクラークの対応のせいか、中堅サラリーマンはいうまでもなく、外人客や女性客にも好評で、はやくも顧客をつかみつつあるようだ。絶対面積はさほどではないが、建て込んだ船場の中で相対的な広さを感じさせる小広場は、街区が明るくなったと周りの人々に好評のようである。支配人以下ホテルマンの間では、宴会場を利用した各種催し物や、小広場を生かしたイベント作りなどの話題がつきないようである。

竣工式でのトーメン武内社長の祝辞は印象に残った。それは氏がアメリカ駐在員の頃、当地の雑誌に船場が掲載され、旧三井合名会社の建物をバックに人力車の走る写真の説明文に〝日本の代表的な商都船場の道路は狭く、人力車を利用している〟とあったそうだ。氏の父君もこの建物に三井物産時代お勤めであり、親子二代のかかわりのある地に三井ガーデンホテルがさらに前面にゆったりした広場をもってよみがえったことを、とても感慨深げに話しておられた。

参考文献

注1　大阪市パノラマ地図　大正13年1月発行　著者：美濃部政治郎　発行者：日下わらじ屋

注2　大阪市内の古建築（近代建築）調査報告書　昭和45年発行　発行者：日本建築学会近畿支部古建築物調査研究委員会

注3　高麗橋建物写真集　昭和56年12月
総合企画：三井不動産㈱大阪支店　監修：福田晴虔（大阪市立大学講師）

（さかた　かつひろ　株式会社日本設計事務所大阪支社建築設計部）

事業スケジュール



日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

《新建材紹介 No.111》

対震丁番

販売元　美和ロック株式会社
本　　社／〒105 東京都港区芝3丁目1番12号 TEL03-452-5551
大阪支店／〒536 大阪市城東区東中浜5丁目7番35号 TEL06-962-5551
製造元　美和ロック工業株式会社
〒519-05 三重県度会郡小俣町湯田 TEL0596-22-1211

■はじめに

従来の一般的な扉は、地震による建物の変形により扉枠が変形して扉が開かなくなり、地震時の避難等に大きな支障の生じる場合がある。事実、昭和53年の宮城県沖地震では建物の変形により扉が開かなくなり、室内に閉じ込められてしまうという被害が続出した。これらの扉を対象に極めて簡単な工夫で対震仕様の扉にできないかということで考案されたものが本対震丁番である。

■対震丁番の構造

対震丁番は旗丁番に扉重量よりやや強い初期反発力を持たせたスプリングを組み込んだものである。通常は普通の丁番と全く同じで、変形による大きな力が加わった時には、スプリングが圧縮されて扉は下方へ移動し、変形が避けられる（図－1）。

■特長

○普通一般の扉でも地震対策が可能

既存、新規を問わず対震丁番を取付けるだけで、一般の鋼製扉が枠の歪みに対し、追従性の高い扉に生まれかわる。

○取付けが簡単

取付け方法は普通の旗丁番と全く同じで、特にBL認定の扉にはドライバー1本で取替えられる。

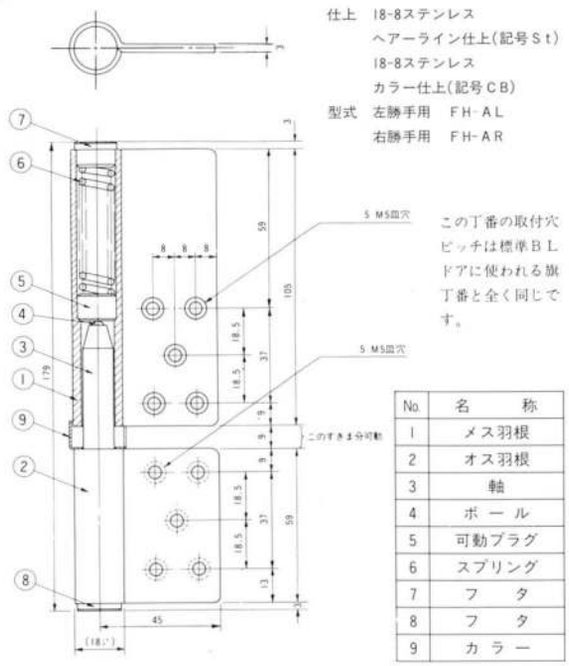
○低コスト

扉の機能を変えることなく、丁番だけで地震対策が図れるので極めて経済的である。

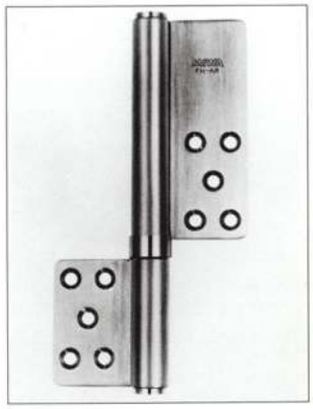
○開閉性能を確保

建物の層間変形に対して、丁番が変形を吸収して扉が楽に開閉できる。

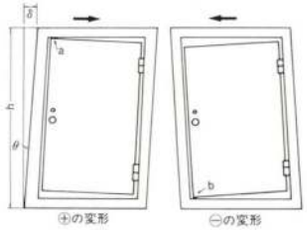
図－1　丁番の構造と仕様



No.	名　称
1	メス羽根
2	オス羽根
3	軸
4	ボ ー ル
5	可動プラグ
6	スプリング
7	フ　タ
8	フ　タ
9	カ ラ ー



図－2　扉枠の変形と扉の開閉



層間変形角(θラジアン)＝
水平変位量(δ)÷枠高さ(h)

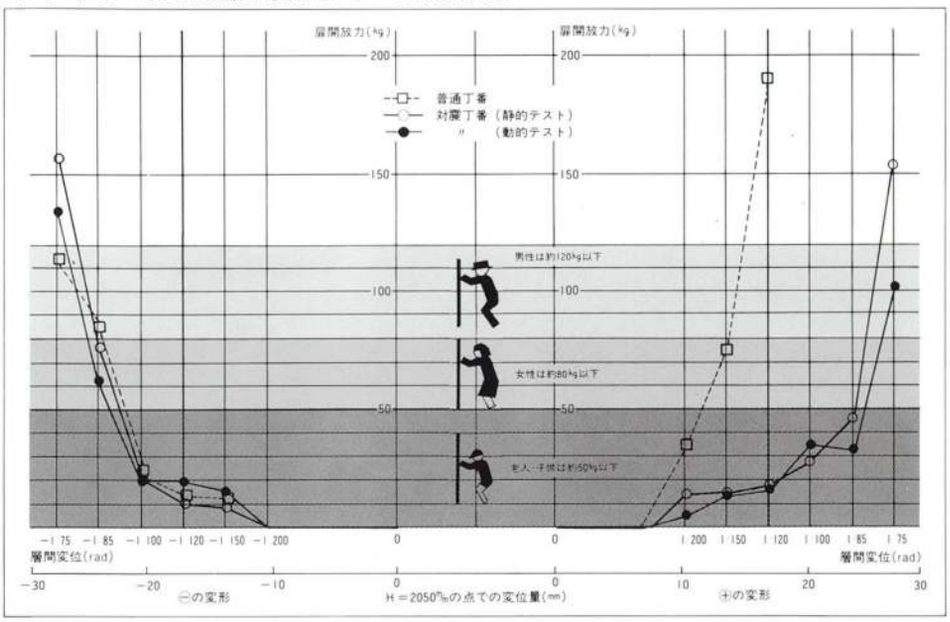
■対震丁番の働き

対震丁番は平常時は内蔵するスプリングの反発力で扉を支えている。地震時に扉枠が変形し、扉上端が枠と接触し更に変形が大きくなると大きな力が加わり、普通の丁番（旗丁番も含めて）の場合には扉と枠が固く競り合う。対震丁番ではこの時スプリングが圧縮され、扉が下方に下がり扉と枠が固く競り合うことを防がれ、小さな力で扉を開けられる。一方、扉下端が枠と接触した場合には、対震丁番は旗丁番のため、扉は上方に移動できるので、扉と枠が固く競り合うことがなく、小さな力で扉を開けられる。この場合は普通の旗丁番でも同様である（図－2）。

■対震丁番の性能

昭和56年6月に建築基準法施行令が一部改正され、地震力による建物の層間変形角は1/120 以下になるように規定された。対震丁番はこの1/120の層間変形時でも約20kg(普通丁番の場合は約190kg）という小さな力で扉を開放できることが㈱建材試験センターの実験で実証された（図－3）。

図－3　FH－A型の性能(建材試験センターでの実験結果)



■対震丁番の使用枚数

扉重量により対震丁番の使用枚数が決められるが、一般的な使用枚数を参考例として下表にまとめたので参考にしてもらいたい。

扉重量と対震丁番の枚数

対象扉 名称	対象扉 高さ×巾×厚さ(mm)	対象扉 重量(kg)	対震丁番 枚数
片面フラッシュ戸	1921×823×36	約35	3
両面フラッシュ戸	1921×823×35	約40	3
片面フラッシュ戸（田KJ-1型プレスドア）	1821×823×36	約35	2

建材委員／松本英良（竹中工務店　設計部）

アルカリ骨材反応性の早期判定に関する一実験

1．まえがき

アルカリ骨材反応性を早期に判定する試験方法を開発するための予備試験の一つとして、アルカリ骨材反応によるひびわれを短期間に発生させる促進方法を試みたところ、1、2の成果を得たので、ここにその概略を紹介する。なお、本研究は当試験所が昭和58年度の自主研究として実施したものであり、その内容は去る本年5月開催のセメント技術大会で発表した。詳細については、セメント技術年報（昭和59年12月発刊予定）あるいは当試験所の機関紙「ＧＢＲＣ」第35号を参照されたい。

2．実験方法

モルタルにアルカリ骨材反応によるひびわれを短期間に生じさせるため、次のような促進方法をとった。

(1)　モルタル中のアルカリ量を高濃度とするため、5％NaOH 水溶液を練り混ぜ水として用いた（その結果、モルタル中の全アルカリ量（Na_2O換算）は、セメント質量の2.41％となった）。

(2)　骨材中へのアルカリ溶液の浸透を早めるために、絶乾状態の骨材を用いた。

(3)　高温、高圧ならびに充分な水を与えるために、水中に浸漬し1.5 kgf/㎠の圧力下で煮沸した。

実験は、下記のごとく2段階に分けて実施した。

実験Ⅰ：化学法により有害、潜在的有害、無害に区分される3種類の代表的な試料を用いて煮沸時間を変化させ、パット（約φ10×1 cm）については最大ひびわれ幅と煮沸時間の関係を、直方体（4×4×16cm）については動弾性係数ならびに超音波伝播速度と煮沸時間の関係を調べた。

実験Ⅱ：骨材試料15種類について煮沸時間を2時間とし、上記の各測定を行なった。なお、モルタルの調合は水溶液：セメント：細骨材（豊浦標準砂＋試料）＝1：2：4（質量比）とし、細骨材中の試料の混入率は、実験Ⅰで50％、実験Ⅱでは50％及び100％とした。

3．実験結果

図－1～4、写真に示す結果から、次のようなことが明らかとなった。

(1)　著者らが試みたアルカリ骨材反応促進方法により、早期にアルカリ骨材反応によるひびわれをモルタル試験体に生じさせることができた。

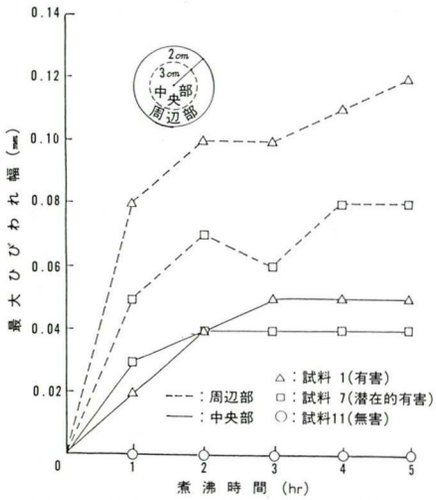
(2)　本実験の範囲内では、化学法により無害と判定される試料を用いたモルタルにはひびわれが生じなかったが、有害あるいは潜在的有害と判定される試料を用いたモルタルにはひびわれが生じ、動弾性係数や超音波伝播速度の低下率も無害と判定される試料との間に有意な差が認められた。

(3)　試料の混入率50％の場合の方が100％の場合に比べ、上記低下率が大きくなる傾向が認められた。

4．まとめ

今回の実験は、ごく限られた条件下で行なったものである。今後さらに種々の実験を続け、アルカリ骨材反応性の早期判定試験方法を見出していきたいと考えている。

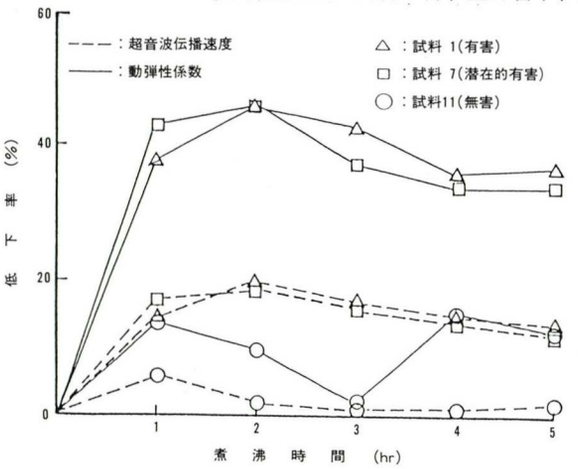
（材料試験室　田村　博、星野善孝、斉藤広志）



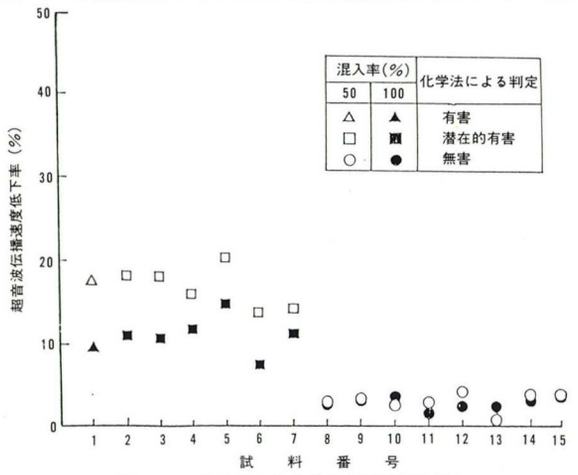
図－1　最大ひびわれ幅と煮沸時間の関係



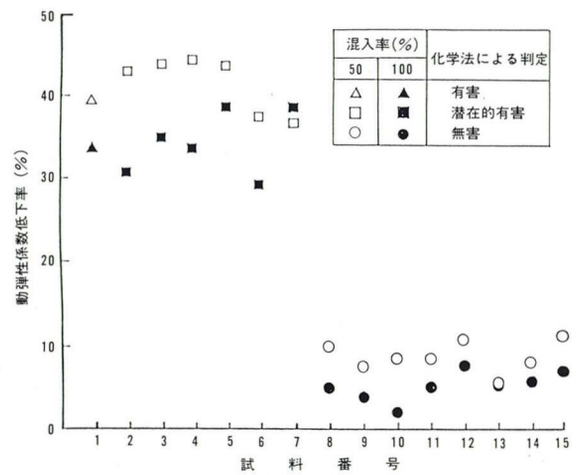
写真　パットに生じたひびわれ



図－2　動弾性係数低下率ならびに超音波伝播速度低下率と煮沸時間の関係



図－3　各試料の超音波伝播速度低下率



図－4　各試料の動弾性係数低下率

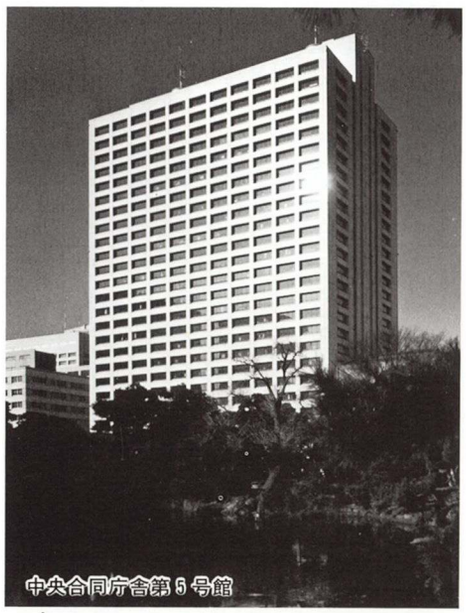
本試験所●所 在 地……〒565 吹田市藤白台5－125　●電　　話……(06)872－0391(代)

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

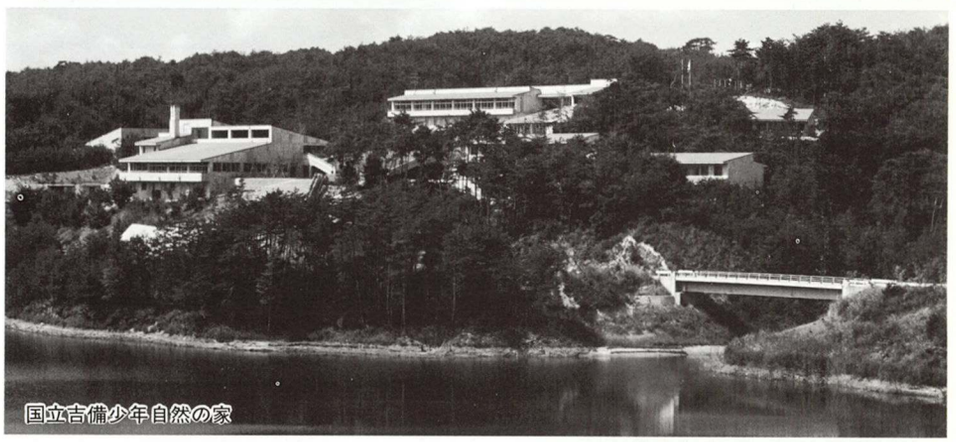
建設省営繕工事(第32回) 設計コンクール入賞

第32回目に当る標記設計コンクール（昭和58年度）が去る３月に行なわれたが、今回は、13作品の提出があり、審査（委員長：渡辺滋官庁営繕部長）の結果、下記の４点が入賞作品として選ばれた。


中央合同庁舎第５号館


神奈川県警察学校木月分校


福井財務部


国立吉備少年自然の家

●建設大臣賞（１点）

中央合同庁舎第５号館
所在地／東京都千代田区霞ヶ関１－２－２
敷地面積／37,950㎡　建築面積／6,178㎡
延面積／101,312㎡　構造／Ｓ、一部ＲＣ、ＳＲＣ
階数／Ｂ１、26Ｆ
設計／建設大臣官房官庁営繕部
施工／大成建設・戸田建設・西松建設ＪＶ
限られた敷地を有効に活用するため、庁舎の高層化を極力図り、緑地・オープンスペース等の確保、各種の省エネルギー対策、視覚障害者まで対象を広げた身体障害者対策等、数多くの工夫がきめ細かく検討されている。

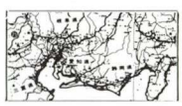
●官庁営繕部長賞（３点）

神奈川県警察学校木月分校
所在地／神奈川県川崎市中原区木月1028－１
構造規模／ＲＣ、Ｆ３、延6,964㎡
設計／関東地方建設局営繕部
施工／真柄建設・山岸建設・小原建設

福井財務部
所在地／福井市宝水２－４
構造規模／ＲＣ、Ｆ２、延885㎡
設計／近畿地方建設局営繕部
施工／ヤシロ工務店

国立吉備少年自然の家
所在地／岡山県上房郡賀陽町吉川
敷地面積／1,000,000㎡　建築面積／5,640㎡
延面積／8,975㎡　構造規模／ＲＣ、Ｆ３
設計／中国地方建設局営繕部
施工／大本組・佐藤工業・淺沼組・青木建設・中村建設

東海だより



日本建築協会東海支部

市街化調整区域における大規模開発許可の面積要件緩和

都市計画法施行細則(昭和45年愛知県規則第107号）の一部を改正する規則（昭和59年愛知県規則第８号）が昭和59年３月12日公布され、同年３月26日施行されることになった。この改正により、「産業の振興、居住環境の改善その他都市機能の維持又は増進に著しく寄与する開発行為」については、面積要件が５ヘクタール以上とされたのに伴い、「市街化調整区域における大規模開発行為の取扱方針」を定め、昭和59年３月26日からこれにより運用されることになった。

市街化調整区域における大規模開発行為の取扱方針

市街化調整区域における開発行為のうち、都市計画法第34条第10号イに該当するものとして取り扱う場合の方針は、次のとおりとする。

１．当該開発行為が当該都市計画区域における将来の計画的な市街化を図るうえに支障がないと認められるものであり、かつ、所在市町村の意向を尊重した計画であること。

２．当該開発行為が周辺の公供施設、特に排水施設及び公益的施設に支障をきたすおそれがないこと。

３．原則として当該開発行為の区域が農用地区域、保安林、自然公園区域(普通地域を除く)、史跡・名勝・天然記念物、文化財包蔵地、災害防止及び環境保全のため保存すべき土地等として積極的に保存すべき土地でないこと。

４．開発にあたっては、環境保全対策及び災害防止対策に万全を期すとともに、関係法令による開発許可基準等に適合する施設整備を行うこと。

５．開発区域の面積は原則として20ヘクタール以上とするが、産業の振興、居住環境の改善、その他都市機能の維持又は増進に著しく寄与する開発行為については、その区域の面積を５ヘクタール以上とすることができる。

なお、20ヘクタール未満の開発行為にあっては、原則として市街化区域又は市街化調整区域内の既成市街地若しくはこれに準ずる既存集落に隣接し又は近隣する区域において行われるものであること。

６．住宅用地については、合理的土地利用の観点から交通条件、災害及び公害の影響等を配慮した良好な住環境にある土地であること。(中略)

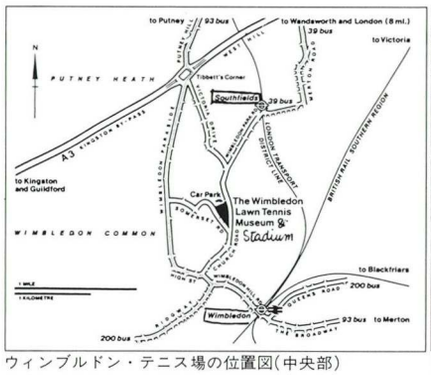
７．８．　略

読者の頁

イギリスでの生活点描 3

西村 一朗

テニス——ウィンブルドン大会を見る——



ウィンブルドン・テニス場の位置図(中央部)



第2コート立見席より（小さいが、前衛がマッケンロー)、1983.6.29
向こうの建物は、第1コート(左)と中央コート(右)

日本の6月から7月にかけては梅雨でじめじめし、一年中で最もいやな季節に入ります。

一方、イギリスの6月は、昼間も長く（夏至の頃は夜10時すぎまで明るい)、天候も良く、晴れた日が続きます。傘を持って出掛けるイギリス風外出スタイルをとらなくても良い唯一の季節ではないでしょうか。季節が良いから結婚式も多く、June Bride（6月の花嫁）は幸せだ、というのも分かる気がします。日本に居る頃、ウィンブルドンのテニス大会（全英オープン）が、どうしてこんな「梅雨時」に開かれるのか、と不思議に思ったものですが、イギリスに来てみて、それは当然のことだと直ちに納得したのでした。

テニス大会は6月から7月にかけロンドン西南部ウィンブルドン・ローン・テニス場で開かれます。私は、まだロンドンに居たので(7月中旬離英)、出掛けない法はないと考えて、6月も終わり頃28日に見に行きました。すでに観戦を済ませておられた先輩のMさんにだいたいのことは聞いていたので不安もなく一人で出掛けました。

地下鉄「ディストリクト・ライン（地方線)」に乗って行き、Southfields駅で皆について降りました。次の駅が Wimbledon ですが、テニス・コートはこの二つの駅のちょうど中間位にあるので、一つ手前で降りて行く方がやや早く行ける訳です。この地下鉄線は他の多くの郊外線と同じく、途中から「地下鉄」となります。この「地下鉄」から窓外を眺めると、郊外に行くにつれ都心型「テラス・ハウス(中層連棟集合住宅)」群から、郊外型の「セミ・デタッチト・ハウス(低層二戸一連棟住宅)」群に住宅景観が変わっていく様子が良く分かります。そういえば、ウィンブルドンあたりは、私の住んでいた「ノーザンライン(北部線)」沿線とともにロンドン在住日本人に人気のある閑静な住宅地でもあります。

さて、私は Southfields 駅から南へ1マイル（約1.6キロ)歩き「テニス・コート」に行きました。当日は、やはり6月、天候も良く気持ちの良い散歩日和です。ぶらぶら歩いて、瀟洒な「セミ・デタッチト・ハウス」や、所々にある「カウンシル・エステート(公営住宅団地)」を職業柄、写真に撮っていると「ダフ屋」が寄ってきました。以後、コート入口まで何人となく会いました。「ダフ屋」は「センター・コート、18ポンドでどうだ」と言うのです。正規には11ポンドなので5割高です。

ウィンブルドン・ローン・テニス場には、No.1からNo.17までのコートの他、特別に「センター・コート」というメインコートがあります。優勝戦はここで行われますが、予選のシード選手の出る試合もプログラムに組まれています。この「センター・コート」と、No.1．No.2の計三つのコートは、一般入場券で自由に入れず特別料金が必要なのです。カメラをぶら下げた日本人だから金があると見られた（？）のかもしれません。勿論ことわりました。というのは、はじめから3ポンド(1,100円）の一般入場券で入り、雰囲気を楽しもうと決めていたからです。

会場に入ったのが、1時すぎでしたので、2時から始まる午後の部まで少し間がありました。多くの人は会場内をぶらぶらしたり、臨時パブで飲んだり、みやげを買ったりしています。私は「センター・コート」の横に「博物館」を見つけ入ってみました。それは、ワン・フロア（1階）分で19小室からなり、テニスの歴史、ウィンブルドン大会の歴史、歴代の優勝者、ラケットやテニス・ファッションの歴史的変遷など興味深く展示してあり、あるコーナーでは、往年の名勝負のラジオ実況録音を流していました。早口で私にはさっぱり何を言っているのか分かりませんでしたが、イギリス人老夫婦は立ち止まって懐かしそうに耳を傾けていました。2時過ぎにそこを出て、さてどのコートを見ようかなと歩き出しましたが、パブやみやげ物屋の前は相変わらずの人だかりで、試合もさることながら雰囲気を楽しみに来る人も多いのだなぁと思いました。No.2のコート入り口で列（キュー）が出来ているので何事かと聞くと、立ち見席だけは一般入場券で見れると言うのです。満席なので、5人出て来たら5人入れるという具合に入り口でコントロールしているのでした。私も30分ほど並んで、上から3－4段の高い所から見る事が出来ました。

途中から見た第一試合の後、第二試合には私には偶然にもあのマッケンローが出て来ました。男子複の試合です。立ち見席ですから前にいる背の高いイギリス人の肩ごしにチラチラと見えるだけですが、彼はサービスのスピードでも違うし、レシーブでもラケットさばきが他の選手と違うなと、素人の私にも分かりました。最前列の観客がフェンスにカーディガンを掛けたところ、彼は「引っ込めろ」と怒鳴っています。確かに紳士淑女のスポーツをするには行儀があまり良いとは言えませんが、彼の家族はもともと貧困なアイルランド出身でアメリカに渡り苦労したとのことで、彼のプレーには一種のハングリー精神が宿っていると思いました。勿論この試合はマッケンロー組が勝ち、後に優勝したと知りました。

今頃、日本の友人達は、憂鬱な梅雨を気分的に少しでも晴らすため、このウィンブルドンのスカッとした試合を時差の関係で日本では深夜になるテレビ宇宙中継で観戦しているかもしれない、と思いながら家路につきました。（続く）

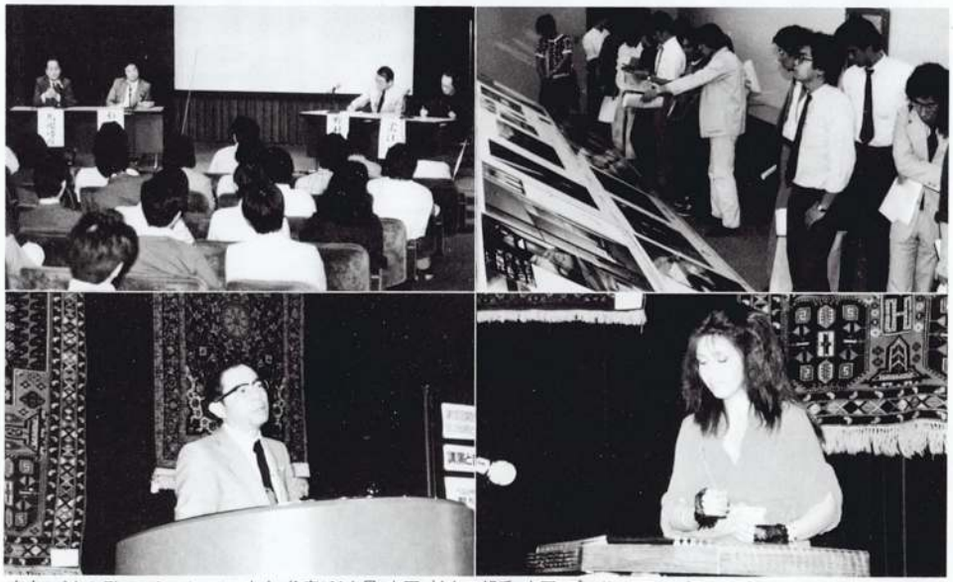
（にしむら いちろう／奈良女子大学助教授・住居学）



ウィンブルドン・ローン・テニス博物館リーフレット表紙

建築家と社会との接点を広げた
第１回関西建築家フェスティバル〈伝統とモダン〉

大阪建築設計監理協会主催



左上・パネルディスカッション、右上・住宅100人展、左下・杉山二郎氏、右下・ブーリー・アナヒアン女史





去る５月17日から19日までの３日間、大阪建築設計監理協会の主催による標記建築フェスティバルが建設交流館にて盛大に開催され、延べ２千数百人におよぶ参会者を得て、好評であった。

会場には、招待作家を含む関西の建築家100人による「住宅100人展」が、「独立住宅」「共同住宅」「リフォーム」「庭園」に分けて展示され、参会者が熱心に見入っていた。

第１日目には、ペルシャ琴によるイラン民謡が、ブーリー・アナヒアン女史によって演奏され、また、「ペルシャの建築」と題して、東京国立博物館考古室長の杉山二郎氏が熱弁をふるわれ、聴衆者に深い感銘を与えた。

第３日目には、シンポジウムとして「伝統とモダン」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。パネラーとして、石井和紘、野村加根夫、馬場璋造、出江寛が出演した。

〈出江寛実行委員長のコメントより〉

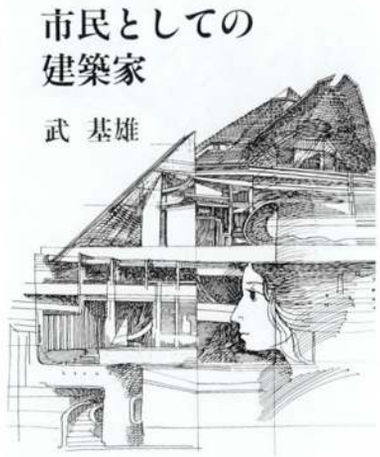
- ○一般的な作品から芸術的な作品までが一堂に会したことはかつてなかったのではなかろうか。
- ○力作ぞろいで、誠意をこめたプレゼンテーションが社会に対して重要なメッセージを送ったといえる。
- ○社会が建築家という職能に興味と期待を持っていることが感じられた。また〝住〟に対する関心の強さを実感できた。
- ○反響がことのほか大きかったことによって、出展者また出展されなかった方々も次回の開催に期待を持っているとの話が聞かれた。
- ○建築家自身が社会に対するＰＲに興味をもてたことも成果の一つであった。

書　評

市民としての建築家

武 基雄 著

相模書房刊　Ｂ６・219頁　定価1800円



神戸市郊外で、ホワイト・ヒルという建売住宅団地が完売し、関係者の間で評判になったのは、つい最近のことである。住宅不況の中で、神戸市域ではかなり高価格なプロジェクトが成功した要因の一つは、建築家集団の提案による〝街並みデザイン〟だと言われている。団地内の通り毎に〝和風〟または〝洋風〟で統一された住宅デザイン。日当たりを良くするために考えられたトンガリ屋根の波。分厚いコンクリート塀がもたらす「厳際」の連続感。これらが街並みをつくった。街並みは市民に受け入れられ、売れた。建売住宅という庶民的な建築工事の中での建築家の活路、あるいは街並みデザインの市場性を追求する気鋭の建築家の姿を見つけることができよう。

閑話休題。「市民としての建築家」は、建築あるいはまちづくりについて、建築家はどんどん市民の中に入っていきなさい、そうすることが、遠まわりのように見えても、結局生き残る大道ですよという観点から、著者が「新建築」、「建築とまちづくり」（新建築家技術者集団・機関誌）に書きつづってきたものを一冊にまとめた本である。つまり「今日のような不透明な世界では、未来を見定めることのむずかしさとでもいうか、指標がしばしば見えなくなる。そのようなとき、私は小さな懐中電灯のようなもので、自分の歩く途を照らしながら、どうにか先に進んで行った。懐中電灯はまさしく、住民あるいは市民のためという灯りではなかったろうか」。そして「市民のための建築あるいはまちづくり、これが本書の目的であり、とくにそのデザインが指標だと思う」（まえがき）と。



武基雄氏はまず「建築家の見直し」から始める。今日の建築家の落ち込みの遠因は、ひたすら建築主の要求を空間化することにかまけて、建築のエンドユーザーである市民を置きざりにしてきたことにあるという。その結果、建築公害の共犯者であっても、市民からは縁の遠い存在になり、ひいては社会の中では何とも影の薄い、存在感のない職種になってしまった、と述懐する。

筆者は建築家の本来の役割は「イメージを空間にすること」だという原点を改めて認識し、続いて、建築家と他分野の専門家（土木・造園他）、地域、住民とのかかわりについて、理論的に、あるいは実証的に解明する。更に、住民本位のまちづくりのための都市計画法・建築基準法の改正案の提示、歴史万国博の提唱、鎌倉をモデルにした景観計画案のプロポーズなど、随所に新しい示唆が含まれている。

構造的不況の中で、まじめに設計しようとする建築家らしい建築家、あるいはこれから社会に巣立とうとする大学生・専門学校の生徒にすすめたい好著である。

増渕昌利／神戸市営繕課

クリエーターへ贈る



hebel design panel

21世紀を創る多彩なフェイス63

ヘーベル

一挙に20タイプ拡大 期待に応えて新登場

ヘーベルデザインパネルの普及は目ざましく、建築界の中にもすっかり定着してまいりました。

これらの中でも、特にシャープな陰影のでるデザインのパネルがより好まれるようになってきています。

こうした要請に応え、ヘーベル建築のデザイン性向上を一層はかるため、このたび、シャープな陰影をもつハードタイプを中心に、デザインバリエーションを一挙に20タイプふやし、63種類としました。

これらの製品は、いづれもデザインに飽きのこない洗練されたパターン揃いです。個性化時代の新しい街づくり、住まいづくりに、ますます表情ゆたかになったヘーベルデザインパネルをぜひご活用下さい。

●品種拡大に伴い、新カタログを製作しています。

最寄りのヘーベル販売店、または下記営業所までお問い合わせ下さい。



新カタログ

東京03(507)7560　札幌011(221)0805　仙台0222(23)5155
金沢0762(31)7188　名古屋052(221)9654

旭化成建材

大阪06(347)3847　広島082(247)6131　高松0878(22)0305
福岡092(721)7264

北村陸夫

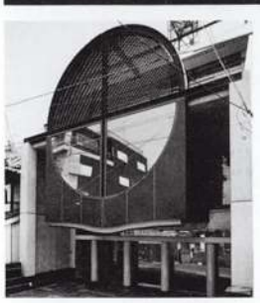
ZOOM計画工房

聞き手・編集委員　柏木浩一(竹中工務店)
プロフィール撮影　島　修一(STUDIO A・T)

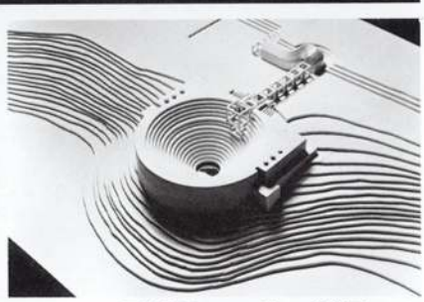
略歴

生年月日	昭和19年3月3日生（40歳）
出身地	奈良市
最終学歴	神戸大学工学部建築学科昭和42年卒業
職場	ＺＯＯＭ計画工房代表
事務所所在地	〒530 大阪市北区鶴見町4-A808
教職	マロニエ文化服装学院講師
おもな受賞	近畿建築学会卒業設計展入選（1967）　名護市庁舎設計競技アイデア賞（1978）
代表作品	アウトプット（西宮市）　西川邸（神戸市）　猪井邸（神戸市）　松野山荘（長野県）　本庄奉仏堂（奈良県）　藤山邸（京都市）
好きな世界	映画「2001年宇宙の旅」が描いた世界





奈良本庄奉仏堂



阿蘇高原ホテルゴルフ場付属ロッジ
（建築設計競技応募案）

建築は〝夢舞台〟

「建築は夢舞台。人の想いや夢が花開く壮大な舞台となるべきだ」と語る。永々と頭金をためてやっと家を建て、死ぬまでローンを払い続ける庶民に夢の効能を説く。とくに何億円もかけて住宅をつくる金持には、「台所にシステムキッチンがほしい、なんてちゃちな願いをもたずに、何億円かの夢舞台で死ぬまで楽しんでほしい。もうけた金はパッと花火のようなロマン・遊びに使ってしまったら?」と、教授する。仕事がなく食えなくなって何度も事務所を閉鎖した時期にも、こりずに夢を追い続けてきた人らしい。それだけに安易な姿勢で夏、涼しく、冬、暖かいだけの住宅を量産するプレハブメーカーを憎悪する。

年に一度はアンビルド（実際に建たない建築）を心がけているという。「実施設計はおもしろいが、そればかりでは駄目」たまには自分のやりたい思い通りの建築をやらないと、欲求不満になってしまうようだ。コンペや展覧会で自分の考えだけで建築に向うとき、お金の心配・施主の意向などあらゆる制約から解き放たれて自分だけの観念の世界に旅立てる。そのとき、いろんなことに遭遇する。

数年前の「リ・インカーネーション・パートII　生國魂神社界隈」の際も、日頃やりつけない巨大なスケールに困惑し、思いきってスケールの概念を捨て去ったとき、初めて観念の世界にのめり込めたという。名護市庁舎コンペでアイデア賞をとる実績をもつ人だけにコンペの運営方法に関してもなかなか手厳しい意見をもつ。「コンペでも機能一点ばりで設計したようなものが一等をとるくらいならば、やめた方がましだ！　いまのコンペは客観主義すぎる。コンペで異端なものを選ばなくなったら、コンペを開く意味がなくなる」。ルイス・カーンの「施主個人の仕事をする。委員会制という個人不在の仕事はしない」を例にとって、建築をつくることは主観主義でなければならないと熱望する。「先日、設計事務所3社で、ある住宅のコンペをやった」。施主も事務所を選べるかわりに、設計者も施主の思惑を気にせず、自由な発想で設計ができる。「その結果、自分が選ばれなくとも仕方がない。」とことなげに語る。以前からの「設計を商品としてとらえて、そのデザインを好む人に買ってもらう」という商品設計論の一例か。

「現在、興味は霊的建築にどっぷりつかっている」という。アーサー・C・クラーク「2001年宇宙の旅」で描かれた壮大な人類の夢に啓示をうけて霊性に興味をもったようだ。「タージーマハールやアルハンブラ宮にしても、理屈ぬきにして建築のもつ霊的な力に人々は感動を覚え、ひれ伏したものだ。近代建築はその霊性を失ってしまった」と嘆く。宗教の伝達方法にしても、いまの教典によるマス・コミュニケーションと昔の超能力をもつ教祖の迫力ある布教の差をあげ、霊力の有無がいかに人々に影響をもたらすかを例証する。今日の世界でもルイス・カーンや村野藤吾の世界にはそういった霊力が潜んでいると語る。「カーンにしてもスケール感がおかしいところが、ときどきあるが、それを超越した力で、人びとを感動させてしまう。建築のもつ霊のなせるわざだ」と明言する。シンメトリーにも終始こだわりをもち続けている。自然界にはないシンメトリー。それを人工的につくることによる不思議な力に魅いられているという。もうひとつ、「処女作〝アウト・プット〟から継続して思いつづけていることで〈被膜〉の概念がある」という。人体における第二の皮膚が服であり、第三の皮膚が建築であるという基本的な〈用途〉としての被膜の認識である。別のいい方をする。この被膜である建物の隅をちょいとつまんで引っぱれば、ズルズルと表面が剝がれてしまう。そんな〈観念遊戯〉としての被膜の認識らしい。この認識にたって「この被膜がどんなキャラクターをもち、なにを包みこもうとしているのかを、はっきりさせるべきだ。」と建築にむかう姿勢を説く。

出身は奈良、大学は神戸、いまの事務所は大阪、と関西生まれの関西育ちである。とくに深いわけがあったのではなく、隅然が重なったようだ。いまの関西にあっては有数の論客。作品とともに切れ味の鋭い論文を期待できる、楽しみな人である。

〔次号の登場者は浅井謙氏（ＡＡＡ総合設計）〕

新しくつくる街

吉山耕成

1．新しい公団のすまいづくりの手法

今までの「公団住宅」といえば5階建てのマッチ箱型のものを連想すると思います。これを主流として長年建設してきたわけですが、多様な住要求への対応としてここ数年公団が計画しているすまいは、そのイメージを新たにするものとなっています。その中でも特色あるのが、(1)中層高密度住宅、(2)低層タウンハウス、(3)戸建住宅だといえます。

中層高密度住宅は、比較的地価の高い都市近郊、もしくは高地価の都市部において、建設コストの安い中層住宅を高層住宅に近い密度で建設しようとするものです。具体例としては、リバーサイドともぶち、今津浜パークタウンが挙げられます。このすまいづくりの特色は、立地のよい高地価の場所であるにもかかわらず価格を押さえるために低コストの中層住宅を建設することにあります。そして高層住宅の欠点と言われる子供の遊びの問題、大地との隔絶感、エレベーターが不可欠となるための密室犯罪の危険性（ひとくちメモ－1参照）やランニングコストの高額化の解決をねらいとしており、都市内住宅の主流と期待されております。しかし、高地価の影響を低減するための高密度利用は、従来の中層住宅団地と比較しますと当然のことながら広々とした緑地、遊び場の確保は不可能で、南北軸に建っている建物もあり、日照条件も良くはなく、また駐車場も建物間に設置されており、かなり窮屈なものとなっているのは否めません。

ひとくちメモ－1

■高層住宅の問題を指摘した参考文献

「高層住宅環境の総合的防犯設計」湯川利和
「日経アーキテクチュア」1983　8－15に所載
「日経アーキテクチュア」〃　8－29に所載
「日経アーキテクチュア」〃　9－12に所載

『高層集合住宅居住者の社会学的研究』古屋野正伍ほか、日本住宅公団調査研究課

『高層集合住宅の計画に関する調査研究―芦屋浜シーサイドタウン高層住区の居住性』京大・巽研究室

低層タウンハウスは、郊外地の比較的地価の安い場所で建設されています。集合的に低層住宅を配置し、共有の緑地、遊び場を確保しようとするもので、接地住宅の良さと集合住宅の屋外空間の豊かさを兼ね備えたものです。具体例としては、北大路高野やガーデンハウス藤沢台第2が挙げられます。ところが関西地域においては関東地域に比べると共有空間である緑地、遊び場の価値が必ずしも評価を受けない傾向があるようです。自分の名儀で登記される土地に最大の価値を感じる風潮が根強く流れているため、関西の公団のタウンハウスでは共有空間についての評価が定まっていません。

このような専有土地に不動産価値を認める風潮をずばり反映して、**戸建住宅**や**連戸テラス住宅**の建設も進めております。これは共有空間を極端なまで切り詰めたもの、またはゼロにしたものであり、建物が完成した当時は目に入る緑はほとんどなく、街としてさみしいものであるのは否めません。入居後の庭や外構の充実の度合いがそのまま街の景観の良否を決定しています。住み手のまちづくりへの意気込み次第で良くもなり悪くもなるというすまいづくり・まちづくり手法です。これの具体例は、ガーデンハウス洛西境谷公園があります。そこでその欠点を補うため、タウンハウスと戸建住宅の中間的な住宅地建設も行っています。タウンハウスのもつ緑地、遊び場がもたらす環境のよさを認め、規模は小さいながらも街の骨格となる部分をつくりあげ、街としての風格を住み手が住みはじめる当初より持たせ、まち全体としての不動産価値を高めることを目的としています。一方、タウンハウスに比べて個人所有となる敷地の面積を増大させ、タウンと戸建て双方のメリットを兼ね備えたものをねらいとしています。この手法を公団関西支社では「**計画的戸建**」と呼んでいます。具体例としてはガーデンハウス真美ヶ丘（1期）があります。

以上のようなすまいづくりの手法を地域の特性に合わせて選定し、また、バリエーションを加えながら建設を進めております（ひとくちメモ－2参照）。

ひとくちメモ－2

■中層高密度住宅地、タウンハウス、戸建住宅の実施例

●リバーサイドともぶち



1.計画の特徴／都心部での中層高密度住宅地
2.所在地／大阪市都島区友渕町1丁目
3.敷地面積／49,165㎡
4.密度(容積率)／169%
5.住宅戸数／836戸
6.構造規模／RC、5階建
7.駐車場設置率／約25%

●ガーデンハウス藤沢台第2



1.計画の特徴／広々としたコモンスペースをもつ本格的なタウンハウス
2.所在地／大阪府富田林市藤沢台1丁目
3.敷地面積／39,760㎡
4.密度(容積率)／52%
5.住宅戸数／177戸
6.構造規模／RC、2・3階建および木造(2×4工法)2階建
7.駐車場設置率／100%

●ガーデンハウス真美ヶ丘(1期)



1.計画の特徴／数戸の単位でコンパクトなコモンスペースをもつ「計画的戸建」
2.所在地／奈良県北葛城郡香芝町および広陵町
3.敷地面積／42,480㎡(コモン含むネット)　51,354㎡(グロス)
4.密度(容積率)／45%(ネット)、37%(グロス)
5.住宅戸数／211戸
6.構造規模／木造(2×4工法)2階建
7.駐車場設置率／100%

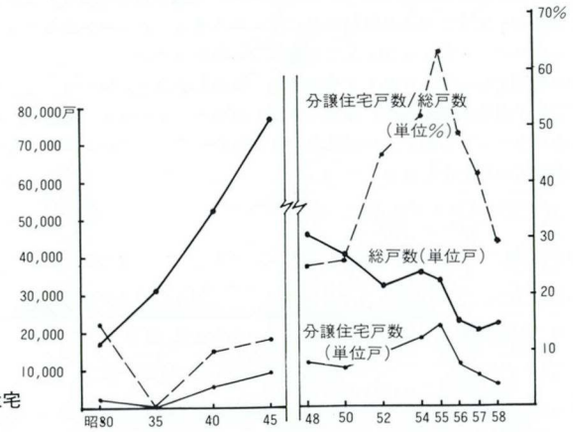
住宅・都市整備公団協力業者(PR)

佐藤工業株式会社
取締役社長　佐藤欣治
取締役大阪支店長　梅木正二
本　社　東京都中央区日本橋本町4－8　電話　東京(661)1231(大代)
大阪支店　大阪市東区瓦町4－15　電話　大阪(203)7221(代表)
支　店　札幌・東北・関東・東京・横浜・北陸・名古屋・中国・四国・九州

総合建設業・建築土木一般
大日本土木株式会社
代表取締役社長　田口栄
専務取締役大阪支店長　牧野保
大阪支店　〒530　大阪市北区堂島2－2－2　近鉄堂島ビル
電話　06－341－5931

2．見直される賃貸住宅

公団設立の昭和30年より昭和47年頃までは、賃貸住宅が主流を占めておりましたが、昭和48年以降は国民のマイホーム獲得要求に応じて分譲住宅の比率が増大し、昭和55年に至ってはその比率は64%にも達しています(図－1参照)。



図－1
年度別公団住宅
建設戸数

ところが近年の所得の伸び悩みによる可処分所得と分譲価格の乖離および、地価上昇の鈍化による分譲住宅の不動産価値としてのウマ味が薄れたことにより、賃貸住宅の人気が高まっています。この賃貸人気を引き出したひとつの要因に、分譲として計画した大型住宅を賃貸に切り替えて供給したこともあるようです。もちろん分譲住宅として計画したものですから、２ＬＤＫ～４ＬＤＫ、面積が80㎡～120㎡の規模であり、建物の内外装の仕様も従来の賃貸住宅のような必要最小限というものでなく、ハイグレード仕様のため、家賃は月額７万円～10万円とかなり高額となっています。このように高額であっても家賃に修繕費、税金等すべてが含まれている賃貸住宅は、分譲代金の支払いのほかに修繕積立金や税金を支払う上、将来の管理に一抹の不安を残す分譲住宅と比較すると大きなメリットがあると思われますし、安くて住みよい住宅を供給するという公団の役割に沿ったものと言えるでしょう。

3．建設計画推進の実際

昭和30年代より40年代前半の公団の団地は、おおむね郊外地に位置し、周辺は水田、山林に囲まれたものが多く、農業者との水利問題を除くと、周辺住民とのあつれきはほとんど問題にならなかったのですが、郊外地への一般住宅のスプロール化や、都市部での跡地利用目的の団地建設が増加するにつれ、周辺地域との調整は団地計画の大きな要素となっております。いわゆる「団地モンロー主義」から周辺地域と融和した団地づくりへと方向転換したわけですが、今でも大型団地の建設は地域への影響が大きく、調整に多大の時間を要しています。建設計画推進のポイントはこの調整をいかに不都合なく行うかにかかっています。

調整を要する事項としては、(1)日照、(2)プライバシー、(3)交通、(4)建設工事、(5)テレビ電波障害等があります。都心部の高層団地では、風の害も取り上げられることがあります。

日照については、現在、建築基準法に日影についての基準が設定されています。これは建物により日影となる時間を制限するもので、都道府県単位で定めています。都市計画で定められた用途地域がベースとなっており、まちの実際の姿と合致していないことが多々あるため、法律を順守していても紛争が絶えません。このような場合は実日影図を作成して時刻ごとの日影を示すこともあります。今まで受益していた日照を一切阻害しないようにという要求に対しては、同じ「住む」という目的の事業であることから、影響を与えることとなる公団住宅の日照基準を説明の上、了解を得るようにします。

公団住宅の基準としては、冬至の午前９時より午後３時までの６時間のうち郊外型は４時間程度、都市内にあっては２時間程度を標準としていますが、敷地の形状や住宅の採算との経営バランスから決定されます。周辺への日照問題の解決法は建物を低くするかまたは建物を後退する、あるいは屋根に傾斜をつけるという方法しかなく、コストに大きな影響を与え、周辺住民にとって最大の関心事であるばかりでなく、公団にとっても計画上のポイントであるため、調整に多大の時間を要します。

プライバシーについては、主として中層住宅や高層住宅から周辺住民への視線が問題となります。住宅の向きや配置、窓の工夫、窓の制限、植栽等の対策で一応調整がつきますが、日照と異なり主観的な問題であるため難航するケースがあります。

交通の問題としては、団地入居後の車の通行量が増大し、従来の生活道路を破壊するというものです。既存道路の拡幅整備はもちろんのこと、大規模団地にあっては道路の新設、歩道の新設を行う場合があります。また駅前広場の整備、駅舎の整備、駅の新設に問題が発展する場合があります。日照、プライバシーについては、影響範囲は周辺に限定されますが、交通問題については広範囲がこれの対象となり、地域との調整が必要となります。公団のレインボータウン武庫川では、阪神電車甲子園駅と団地間をバス輸送としていたところ、バスが走ることによる交通公害を懸念した周辺地域との協議が行われましたが、調整が難航し建設計画が制限されました。そのためバスと併用して鉄道を新設し、バスの運行台数を軽減することで調整が完了しましたが、団地の規模が大きくなるとこれも大問題となるわけです。

建設工事に係る問題としては、資材の搬出入に伴う工事用車輌の通行、建設機械による騒音、振動、ホコリがあげられます。建設機械によるものは、機械の改良等により改善されつつあり、今後もさらに改善されると思われますが、資材の搬入に伴う問題については、前記の交通問題と同様に地域的な問題に広がります。小規模工事については搬入車輌のスピード制限や撒水で影響を和らげます。大規模工事となると車輌の量制限等も組み合わせて解決の糸口とします。

テレビの電波障害は、中、高層住宅の建設には必ず起こるものであり、建物による陰および反射によるゴーストの影響があらわれます。これの範囲は建設前にＮＨＫに影響調査を依頼し、影響範囲の確定を行い、有線により鮮明な映像を送り、対策を実施します。この対策範囲は公団住宅の建設による影響範囲に限られますが、都市内にはすでに多くの中、高層建物が建設されており、どの建物の影響によるものか特定できない地域もあり、これの解決を困難にしています。また周辺部の住宅地でなかった場所が、建設期間中に住宅地化されテレビ障害がある場合には、基幹施設に余裕のある場合に限り、工事費を受益者負担により分岐を認めています。

周辺地域との調整のポイントは加害者と被害者という対立したものでなく、住宅供給を通じて地域の整備を共同して行おうとする共通の意識をまず創り出すことが、両者に必要なことと言えるでしょう。大阪府豊中市の庄内地区や兵庫県神戸市真野地区で見られるように、地域の人が自分達の住んでいる街の将来像を創り上げ、それを建設に反映させてゆこうとするいわゆる下からの計画の動きもありますが、一般の地域ではまだまだそのような計画を創り上げるには至っていません。公団、公共団体、地域住民をも含めたすまいづくり、まちづくりがこれからの第一の課題といえます。

鉄建建設株式会社

常務取締役大阪支店長　金子越郎

大阪支店　〒541　大阪市東区瓦町４－56　瓦町Ｋ・Ｔビル
電話　06－201－1881(代)

真柄建設株式会社

取締役社長　真柄敏郎
取締役大阪支店長　永井健次郎

本　社　〒920 金沢市彦三町１－13－43　電話 (0762)31－1266
大阪支店　〒532 大阪市淀川区宮原４－４－50　電話 (06) 393－1171

都市気球18

本文中にもあるとおり、少女マンガの流行は、さほど目立たないかもしれないが、しかしかなり根強いものであるらしい。そうであるならば、われわれの都市生活のかたちと意味を読みとる手段として、その存在を無視することはできないはずである。連載第6回目の「SFと都市」と、方法論的には同じものであると考えてもよい。ただ筆者の結論では、少女マンガをとおして垣間見られた都市の姿は、現実とのつながりに欠ける自閉的な空間ということになり、この点多少の異論もあるだろう。しかしまた、このことは逆に都市文化としての少女マンガの特殊性を教えてくれもする。少女マンガをとおしての都市論であるとともに、都市のなかの少女マンガ論としても読んでいただきたい。

なお、「都市気球」の連載は今回でもってとりあえず終了する。われわれの「気球」は、しかしまだ飛行中であり、またいつかどこかであなたの眼の前に登場することだろう。それゆえ、最終回にあたってもまとめらしいものをつけなかった。ともあれ、18回にわたるわれわれの拙い飛行に多少とも関心をもっていただけたならば、この場でお礼を申しておきたい。

（富永茂樹）

少女マンガと幻想の都市

土居祐子

1．何故少女マンガは町中で見られないのか

マンガの置いてある店は多い。喫茶店なら週刊誌と並んで少年マンガは必ず置いてあるし、ラーメン屋ならコミック類がラーメンのおつゆにまみれて置いてある。ところが少女マンガはたいていの店では置いてないのである。

といって少女マンガ自体が少ないのではない。実際『週刊マーガレット』は100万部、高校生から20歳過ぎぐらいの「少女」に人気のある『月刊ララ』は50万部も売れているのである。ここ数年の間にも少女マンガの創刊は多く、本屋に平積みされている少女マンガの豊富さも驚くほどである。当然、町の中でよく見かけてもよいはずなのに、本屋から買われた少女マンガは一体どこへ消えるのか。町の中でもっと見かけてもよいのではないだろうか。

実は、みんなこっそりと持っているのである。友達の間でも、職場の中でも紙袋に入れてコソコソと交換されたりはするが、興味のない人に見せびらかすことはない。その熱中度はなるべく人目につかないように行われる。かといって、別に少女マンガを読むことを恥ずかしいと思っているわけではない。少女マンガ愛好会などの同好会や発刊されるミニコミ誌の数はかなりの数で増えてきていると聞く。ただし、それらの動向も、めったに公共の場所に登場しない。あくまで気のあった仲間のプライベートな集まりなのである。

少女マンガをささえている読者層は圧倒的に中・高校生なのだが、大学生・社会人となっても少女マンガを卒業しないどころか、もっと深くのめりこんでいくというのが最近の現象である。

従来、少女マンガといえば、「国籍不明の外国（といっても、欧米のどこかに限られていた）あるいは学園――王子様の登場――→結婚への暗示」という図式が多く、その現実感のなさを特徴としていた。そのワンパターン性は、今でも少女マンガの大半を占めていて、少女マンガを嫌う人はその主人公がもつ押しつけがましい一人よがりの「愛」にヘキエキするものである。だが、読者層の年齢が高まり広がってきた現在、その図式を脱皮した少女マンガが登場してきた。少女マンガ特有といわれる甘さを感じさせながらも、時折現代を切りとる鋭さを感じさせる。

2．陸奥A子『こんぺい荘のフランソワ』の場合

東京のある裏通りのアパートで一人暮しをしている主人公は、いつか絵本を出したいという夢をもっている。彼女の住む街は、現代の東京という大都会とされてはいるが、都会を感じさせる要素は一切出てこない。歩いていける距離に生活のすべてがあり、主人公を取り巻く人々は皆顔見知りで〝自分をわかってくれる〟世界である。

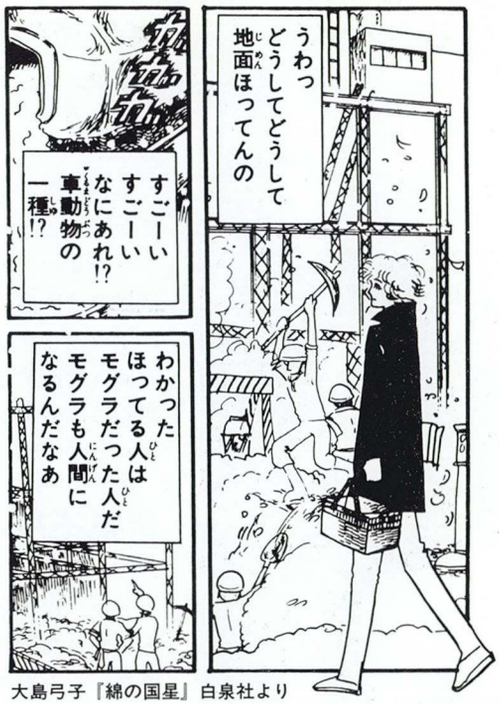
ところが、その生活圏を一歩出れば、主人公とは無縁の世界になる。無縁の世界とは、まさに現代の都市なのだが、主人公のもつ個性はそこで全く拒否されてしまうのである。例えば、主人公がデパートでアルバイトをする場面で、お客様に対して、友達のような口をきいてしまうとか、自分のお弁当を売り場で食べるとかして、社会性の欠如を現しクビになってしまう。「甘かったワ」とつぶやきながらも、主人公は自分を曲げてまで「外」と妥協する気にはなれない。そして最後は、自分をやさしく見守ってくれていた男の子と結婚し、都会を捨てて「おはよう島」という夢の世界へと一緒に立ち去っていく。

やさしい町からやさしい島へ。主人公をとりまく要素には何ひとつ変化はない。主人公は常に自分を暖かく見つめてくれる人ばかりでつくられた環境をわたり歩くだけである。未知の世界へ飛びだす気はないのである。



陸奥A子
『こんぺい荘のフランソワ』
集英社より





大島弓子『綿の国星』白泉社より

「未知の世界」とは、「自分を知らない人ばかり」の都市のことである。自分をどうやって出せばよいのかわからない匿名性の町の中で、主人公はただ立ちすくんでしまうばかりである。主人公にとって、現実の都市はしょせん未知の世界であり、主人公に関係のない空間としてしか描かれない。ちょっと手を出しても、熱さを感じるとすぐに手を引っこめてしまえる。都市に拒否されても逃げこめるやさしい世界が、主人公にとって現実の世界として描かれている。

一方、主人公が現実の匂いを感じとれる町をみてみると、すべてにちゃんと生活の息吹きを感じる庭付き一戸建の家が登場し、そこにはやさしいおばあさんが住んでいるとか、どこかで見たことがあるようなないようなつかしさを秘めた町になる。生活用品なども、無機的な匂いを感じさせるものは一切登場せず、代々人間が使っていましたよ、というアンティックな品物が続々と登場する。

陸奥A子の世界には、かなり田舎指向が強いのだが、そこには匿名性の都市を厳しく拒否している傾向がある。また、彼女のマンガの特徴は、人間のもつ悲しみとか苦しみは一切登場せず、ひたすら暖かさのみを追求していることにある。現実のもつマイナス面はすべて無視して、自分の中で幻の街をつくりあげること、これが彼女のマンガの世界である。

3．大島弓子『綿の国星』の場合

陸奥A子のマンガの世界で拒否された現代都市は、このマンガの中ではもっとも生々しい現実として主人公の前に立ちふさがる。

主人公は人間ではなく、一匹の子猫である。早春の冷たい雨の中を一人の少年にひろわれたところから話は始まる。猫の視点から人間の生活を見、いつか自分も人間の一員としてその世界に参加したいと思っている。つまり、人間の意識をもつ猫が主人公である。しかし、その思いはまわりの人間には通じない。なぜならば、猫なのだから。主人公が人間らしくふるまおうとすればするほど、失敗してしまうし、まわりの人間に怒られてしまうことになる。だが、主人公は「いつか人間になろう」という気持ちを捨ててしまうことはできない。猫は猫でしかない、という現実を認めてしまうことは、人間の意識をもつ主人公の存在まで否定することになるからである。

だから、主人公にとって「世界」は、思い込みによってのみ成立している。自分の中で幻想をもち続けることによってのみ、まわりの世界となんとかかかわっていけるのである。

人間になろうとする猫の視点から町を見ると、現代都市は巨大な生物になる。たとえば電車。人間がつくった機械であるにもかかわらず、町の中に組み込まれた時、電車は自分の意志で動いているかのごとく、人間をのみこんだりはき出したりする。市場の午後3時の喧騒は、午前と午後のさよならのパーティーなのである。

だが、主人公はそれらに決して参加することはできない。猫として人間に連れられた時のみ参加可能である。主人公が単独で現実の都市に参加しようとすると（例えば、人間に連れていかれた時のように電車に乗ろうとしたり、パチンコ屋に入ろうとしたり、キャバレーに入ろうとしたりすると）、都市はちょっとしたパニック状態に陥り、主人公は人間になろうとしたにもかかわらず人間から逃げ出さねばならない破目に陥る。ここには、陸奥A子のマンガの時よりも、現実の都市からもっと激しく拒否される主人公の姿がある。そして現実の都市から拒否された主人公が安穏として暮らしていける世界はここにはない。

こうして、このマンガでは、ないものねだりの冒険が続けられていくのである。主人公は、いつまでたっても「猫でしかない自分」を認めようとはせず、いつか必ず成長して人間になるという夢を持ち続けていく。（ただし、人間になってどうするかという先のことまでは考えていないのだが）

主人公は、やがて疲れはてて屋根の上で、ちょっとだけ一休みと言って眠りこむことで一話が完結する。今度目ざめたら、自分はどうなっているのか。それは起きた時、考えよう。

4．少女マンガに流れる閉鎖回路

最初に、「何故少女マンガは町の中で見かけないのか」という長年の疑問を持ち出した。町が少女マンガを拒否していることもありうるが、それよりも少女マンガの方も、現実の町を拒否していることが指摘できよう。少女マンガの底流を流れる幻想性は強烈すぎて、現実の町とは折合わないのだ。『綿の国星』にみた「自分の位置が定まらないままの主人公」とは読者自身にもあてはまることで、自分が何者かわからない人々は多勢いる。大部分の人は、やがては結婚して主婦になるだろうことを予想してはいるものの、それが遠い未来のことのようで現実にはピンとこない。自分が「何者か」になる前のつかの間の幻想として、少女マンガの世界へとのめりこむのかもしれない。

（どい　ゆうこ　学芸出版社勤務）

おわり



鳴海邦碩（なるみくにひろ）
大阪大学工学部助教授

坂本勉（さかもとつとむ）
近畿地方建設局営繕部長

田畑弘（たばたひろし）
日建設計大阪本社取締役副代表

大墨正（おおすみただし）
東洋リノリューム株式会社
西日本営業開発部長

1月号から6月号まで上記の4氏が担当

実効性のある環境——情況の建築

「複雑」という言葉は否定的につかわれることが多い。捉えがたい、理解しがたい、不安だ、ということになろうか。しかし、昨今はやりの「賑い」は、統一とか整然さよりも複雑さのイメージをより強くもっている。一般に環境の複雑さが増加するにつれて、それに対する人間の興味も増加していくといわれる。一方、その環境で感ずる快適さは、はじめは同じ傾向を示すのだが、快適と感ずる複雑さには限界があるというのである。度を過ぎた複雑さは不快感をもたらす。住宅地には住宅地の、商業センターには商業センターの、子供の遊び場には子供の遊び場の適正な複雑さが必要なのだ。

複雑さは固定した建築的要素や付加的な要素、それとそこを動きまわる人間とかの要素によって複合的に生み出される。いいかえれば情況によって異なるわけだ。従って、環境に対してもつイメージやその評価は情況的といえる。多くの建築物が生み出されるが、この情況性はどう考えられているのだろうか。建物には看板がついたり、人々があふれていたり、誰もいなかったりもする。そうした情況性が考え込まれてこそ、このシリーズの冒頭で述べた実効性のある環境が生まれると思う。（K・N）

新建築用語

注文建築という奇妙なことばが、新聞のチラシやテレビのコマーシャルに登場したのはいつ頃からであろうか。たしかプレハブ住宅が、わが国の住宅生産にしっかり地位を占めた頃、これに対抗（？）してあらわれたと記憶している。それから分譲アパートとマンションの違いは、どうやらそれが公営か民間企業によるものかで定義されているらしい。

なにもここでこうした奇妙な新造語、あるいはあいまいな語義にめくじらをたてようというのではないが、ただそれらが昨今わりあい安易に市民権を得てしまう。これはときとして日本人の現代の住宅にたいする評価水準を低下させ、感性を磨耗させることにつながりはしないだろうか。そして建築家はそうしたことに、少し冷ややかでありすぎはしないだろうか。建築（とくに住宅）にたいする「もののみかた考えかた」をあらゆる機会を通して、はば広くすべての人に語りかけてゆかねばならないと思っている。設計士、セメントぬりの建物、南欧風住宅……みな大同小異で、安手な芝居の書割りのように建築の奥行きを浅くしてゆくようである。（T・S）

無題－6

今年の秋京都では《伝統工芸博覧会》が開かれることが報じられた。61年に日本で開かれる予定の先進国首脳会議の誘致に向けて京都は本格的に動き出した。大阪ではこの2月コンベンション・ビューローを発足させ、各種の国際会議やイベントの積極誘致や情報の集収提供など世界に開かれた情報都市に発展させるための具体的活動にはいった。神戸では輝しき実績の中でポスト・ユニヴァーシアードの構想ができているにちがいない。

人の集まらない《街》、情報の集まらない都市は都市として価値がない。じっと待っていて人が集り情報が集まるわけがない。考え、仕掛け、動かす、この積極的な行為こそ人々に注目させ新しい情報を生んでゆく。そしてこの都市間の競争こそ生きいきした都市の必須条件ではなかろうか、つねに競い合ってこそともに個性ある都市として成長するのではなかろうか。今年の1月号からこの欄で述べてきたように、私たちは都市のいろんな仕掛けの設計に従事してきた。企画(ソフト)がさきか施設(ハード)がさきかの議論は鶏と卵。勇気ある企画と決断こそ確かな建築を生みだす……。のである。ファッションとかコンベンションとか、この言葉にお目にかからぬ日はない中で、こんな言葉がふっと出た。（H・T）

ゼネコン各社殿

ある業界紙のコラムで、設計事務所の窮状打開のための考察と提案が述べられているのを読んだ。建設業界が民間工事でしばしば30～40％も値引きして見積り、建築主は笑顔で発注しているという。ここで「決定工事費により設計監理料が決まるのが慣例であるから、値引きの傍杖を食った設計事務所の台所は火の車、働いても働いても潤いがない」といったくだりがある。この安値受注はたんに設計事務所への影響だけでなく、材料や設備、工事業者を含めた関連業界にも深刻な影響を与えている。

建築は大小を問わず多くの業種の協力によって完成するもので、いわば1件1件がプロジェクトである。最近は設計も施工も技術が向上し、美しく立上っていく高層ビルなどを見ると感動を覚えることすらある。建築業界技術集団の先頭に立つ設計事務所が経済的に恵まれないことには、すぐれた人材が集まらないだろうし、就職する学生にとって魅力のない職場となり、やがて良い仕事ができなくなるのでは？不況が常態のいま、ゼネコン各社が安くてもとにかく受注さえすれば、あとは各出入り業者に協力させればよいと考えていないことを望む。そして見積りのときにもっと自社の施工技術力に自信をもって、それなりの適正な価格で受注されるよう切望してやまない。（T・O）

特集

まちの活性化と商業空間

都市（まち）は一日にして成らずと言われるように
都市は生物と同じように、自然の中から人間の手でつくり上げられて
日々の人間の経済のいとなみとともに成長する。
しかし世界の都市の歴史の中では、衰退し、あるいは消滅した都市もある。
そして多くの都市論の中で、その盛衰の様はいろんな角度から述べられている。
わが国において戦後の高度成長から低成長、安定成長へ
日本経済の転換が叫ばれて久しくなった。
そして都市によっては、21世紀をめざした大型のプロジェクトをもって
都市を活性化させようとする動きもある。
しかし都市の活性化は、必ずしも大型のプロジェクトによる話だけではないだろう。
経済の地盤沈下を食い止め、商店街等の商業空間を中心に
都市を活性化していこうという動きが各地で見られることは、それを物語っている。
商業空間と一口にいってもその形態、機能は、従来の単なる〝物売り空間〟から、
より個性化、専門化、複合化、情報化のすすんだ多様な生活文化空間といった方向で
展開が始まっているようである。
商業は都市とともに生き、都市と一体化し、都市をメディア化していく……。
そこでその演出力が都市のデザインの中で重要なテーマとなる。
都市がメディアであるならば、都市はどんなメッセージを持とうとしているのか……、
メッセージをどういう形で具現化していけばよいのだろうか……。
僕たちはこのような意識の中で、本特集の企画にのぞんだ。
時とともに移りゆく都市を商業空間とのかかわりの中で把え、
今後の都市の活性化の方向性を探ってみることにした。
座談会では、
都市づくりと建築家と住民の役割
そして事業者の都市づくり観というものをクロスさせることをねらい、
そして各論では、
民間デベロッパーや企業の商業企画と都市づくり、
各種のイベントや文化活動と結びついた都市づくり等々について
事例を含めながら語っていただくことにした。
巷（ちまた）探訪記は
都市の活性化をイメージしたとき、前時代にその全盛を誇った
関西の〝盛り場〟空間の代表格である大阪の新世界と神戸の新開地に焦点をあて、
都市構造比較論的にルポを試みたもので、
本特集の中でのウェットコーナーとなることを意図している。
事例紹介として、最近のスーパーコンプレックス（超複合施設）を紹介し
資料として活用していただくことを期待している。
商業空間をテーマにした特集も「建築と社会」では３回目になる。
つぎに同様のテーマを扱うまでに僕たちは
どのようにして都市の活性化のテーマを展開させていくことができるのだろうか。
建築・都市空間のデザインに携わる者の使命は大きい。

（編集幹事／田中直人）



本特集号編集幹事
荻原正俊・香川英行・岡田信幸・柏木浩一・田中直人・本多友常

座談会

まちの活性化と商業空間

出席者
（50音順・敬称略）

加藤敬三／ホリデイイン南海大阪専務取締役

紙野桂人／大阪大学教授

佐藤きよ子／西宮を明るくする会会長

藤井務／キャンプロモーションセンター代表取締役

司会

田中直人／編集委員・神戸市開発局計画課

司会　「まちの活性化と商業空間」の座談会を企画するにあたり、事前に編集委員で準備してきたわけですけれども、その中で商業をまちづくりという観点からもう一度捉えてみよう、さらにそのまちづくりでも、ハード面だけじゃなくてソフトといいますか、人の動きを含めて、最近の新しい動きを捉えて語っていただこうということになったわけです。

最初に自己紹介を兼ねまして、今回のテーマに関してお考えのところをお話しいただきたいと思います。

まず、東京をはじめ全国各地で多様な商業経営を手がけておられます藤井さんのほうからお願いできますか。

活性化の受け皿づくり

藤井　まちの活性、言うならば人がそこにどういうふうに集えるかということです。立地と背景、そして人々の欲求の共通性が、それに合ったものであるかどうかということではないかと思います。

都市はコミュニケーションの場であるとともに、情報交換と物とお金の交換の場です。これは基本的な問題だと思います。

いま、東京の例で言うならば、〝原宿〟というまちがありますね。いまから20年くらい以前には、店らしいものはあまりなかったわけですよ。ただ、100 年もたった大きなケヤキの木が歩道わきに立ち並んで、道幅が広く、パリのシャンゼリゼを思い出させました。ヨーロッパ風というんですかね。それに白い建物とネオンがチョッピリ緑の中に輝けば、いわゆる時代の感性として、ビューティフル。たまたま山の手という背景も幸いしたと思います。その周囲にファッション関連の企業が寄ってきて、ヤングジェネレーションのクリエーターたちの集落となったわけです。それから、ヤングのまちとしてどんどん栄えてきました。

もとをただせば、人がつくった背景なんですが、歴史と現在の感性とが溶け合ったということですね。そこに、コミュニティの場、情報交換、物とお金の交換の場が盛んになった、ということです。まちとして、いまや世界中の脚光を浴びていると思います。歴史と現在の感性が織りなすハーモニーとでもいえるでしょう。

活性化への住民運動

司会　佐藤さんは、主婦の立場からいろいろと市民運動の中でまちづくりに対して発言されているようにお伺いしておりますが、まちの活性化ということについて、いかがでしょうか。

佐藤　私、家庭の主婦でございますので家庭を守る立場から日照権改正運動を42年から今日まで約17年間、いわゆる住民運動として続けておるものです。それでいま「西宮を明るくする会」の代表と、建築公害対策兵庫・大阪市民連合の事務局長をやり、関西新空港の西宮での代表を務めて、現在その三つの組織の住民運動をやっておるわけなんです。

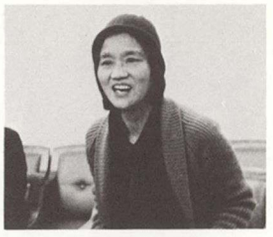
そこで、住みよいまちづくり、人間を大事にするまちづくりをするには、まず足下の自分の住んでいるまちで、そこに企業と行政と住民の三者の一体になった強力な人間関係と、その協力がなければいいまちづくりはできないというところから、これを具体化した一つの例を申しあげます。

いま活性化のお話が出まして、その一つの典型的な例としても聞いていただきたいのは、区画整理法と再開発事業の二つを併用した夙川の駅前の事業で、約６万平方メートルの面積です。これは当初、駅前周辺の古い商店の方々の組合というような組織をつくりまして、そして国からの補助とか県からの補助、市からの補助


藤井　務氏


紙野　桂人氏


加藤　敬三氏


佐藤きよ子氏

で再開発をやるんですが，われわれの税金を投入される事業であるならば、夙川の駅前はどういう形にしてもらったら住んでいる私たちが便利になるか、楽しくなるか、そういう意識をまず私は持ちました。そしてある区画整理法の素案が市から発表されて、駅前はこう変わるんだというそういう縦覧がありまして、これはえらいことだということで、いち早く私どもは地元の奥さん方、婦人会に呼びかけして、果たして私たちの将来の夙川駅前がこれでいいんかどうかということを呼びかけまして、運動を展開したわけです。

市の案に対して反対運動を起こしたわけですが、私たちはそれに対する対案を出しました。こうやってほしい、と。区画整理、再開発事業に対して主婦の案が採用されたというのが夙川の駅前でございます。しかし、私たちの対案をつくったのはいいんですが、果たしてどこへいって、プロのどなたに私たちの修正案に対するご意見を聞かせていただけるだろうかと。

私たちがいつも行き当たるのは、私たちの素人の考えに、これは生活実感を積んでる人間が考えるんですから、生活実感からいってこうあってほしい、ああああってほしいと奥さん方の意見が出るんですが、それが果たして将来の夙川の車の流れ、人間の動線など、いろんな客観的な面で、これは間違いない、こうしたほうがいいという専門家のご意見が聞ける場というものがないんですね。それをきょうはぜひね。これだけ素人の主婦が家庭を持ちながらやってきている熱意を、このところで……。

まちづくりと人間像——二つの立場

司会　きょうはそういう佐藤さんの情熱を、この「建築と社会」をお読みになっている建築関係の皆様に十分知っていただきまして、何かの参考にさせていただけましたらと思います。

先ほどの藤井さんのお話では、ヤングとか感性を感じるいろんな人というのは一見（いちげん）さん的な感覚がしたんですけれども、佐藤さんのお話に出てくる人間は、かなりべったり地元にすくらってるような、〝私たちのまちだ〟という、そういう人間像が二つ出てきたように思うのですが、きょうはとくに大阪大学の、そういう道の権威である紙野先生に来ていただいておりますので、このあたりで、そういったまちづくりと人間との対比の中で、先生がお感じになられていることがありましたら……。いまたくさんお話があって、どの辺のことかわからないと思うのですが……。（笑）

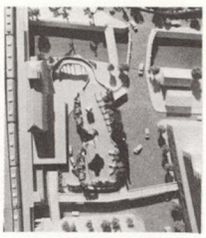
紙野　そうですねえ、いまのお二人のお話はどちらも事実で真実だと思うのですけれども、やはりまちと人とのかかわりというものの違う側面をいずれも言っておられると思うのです。藤井さんがおっしゃってられるのは、まちの……まちといっても、たとえば大阪のまちの都心というようなのは、これはそこに住んでいる人だけのための都心ではなくて、より広いまちに住んでいる人たちの働き場であり、いわば近畿全体の経済活動を担っているとか、いろんな役割がありますね。で、そういうまち、とくにビジネス街は最近よく言われるように日祝日、夜間には非常に人が少なくなってにぎわいが落ちてしまう、昼は車が多いし大変にぎやかだけれども、という問題があります。さて、そういうまちが広がってしまうと、都心は経済活動には非常にいいんだけれども人とのかかわりが薄いんじゃないか、というような議論が出てまいります。そういうのを何とかしようというときには、たとえば若い人たちが大阪の都心で、御堂筋でもう少し遊べるようにしたらどうかとか、あるいは24時間のショッピングプロムナードとしての御堂筋にしてほしいなというような話が出てまいります。そういう形でまちを生き生きさせ、広い範囲の人たちが寄ってきて大阪都心のようなまちを生き生きさせるという話が一方にあります。それに対して、そこに住んでおってそしてその自分のまちをよくしたいと願う居住者としてのまちの活性化があるわけです。この自分が住んでいるところのまちがよくありたいという願いは、大都会においては往々にしてそういうより大きな立場でまちをにぎやかにさせようという話とぶつかりあってきて、いわば先住民族としての居住者の願いと、乗り込んできた新しい若者や働き手である人たちの思いとの葛藤みたいなものが出てくるわけですね。しかし、よく考えてみると、これは都市を足場にして生きている点でどちらもお互いに人間で、また、そのまちが大都会であればあるほど、どちらについても希望がかなえられていかなければいけないんだけれども、結果的にそれが問題を起こして対立してしまうということが多いわけです。この両者の対立の根には、違う立場や違った見通しについての調整と、より大きい立場での知恵のある解決が足りないというところがあると思います。そこのところは、いま佐藤さんがおっしゃったように、要するに一つには行政側の役割ということがあるんですね。で行政側の役割はそういう場合に何が大事なのかというと、これは長い間のまちの盛衰とかあるいは将来像といったものを見通しながら、このまち全体をこれからどこへもっていったらいいだろうかということを本当に公平な眼でどこかできちんと考え、いま住んでいる人たちの将来のために良い情報を提供して、まず自分たちで考えてもらっておきましょうとか、あるいはここはまちとして大変まずくなってるから居住者を説得してでも思い切ってお金を投入して手を入れましょうとか、まちに対する診断と治療の政策がうまく仕組まれており、そういう政策が住んでいる人たちによくわかるように伝えられて、まちを使う立場の人も、住んでいる人たちの方も、行政側の言うことがよくわからない場合には今度は行政側にいろいろ問いかけ、行政側もまたそれに答えてわかりやすくそれを説明してくれる、というふうな形になれば、いわば長期の計画とそれから現に住んでいる人たち、あるいはまちを使う人たちのきょう明日の問題とが何らかの形でつながってきます。そうすればいま申し上げた二つの立場の問題もかなりうまく調整がきくようになっていくということがあると思うのです。



市民のアイデアをどんどん貼ってゆく…



須田剋太さんも小学生にまじって……



夙川テラスの模型

夙川駅前でのアイデア運動
写真提供：瀬戸本淳氏
（瀬戸本淳建築研究室主宰）

ところで、客観的な立場として現在の大都市の内部で起こっているそういうまちの活性化というようなものを一体どちらの目でどう見るんだろうか。これは場所によっても違うし都市によっても違うと思います。ただ、いま一番私が痛感しているのは、行政の側でまちづくりの具体的な将来像を画いて、先行きの方針をわかりやすく説明をして、そして住んでいる人たちにもあるいは企業側にも働きかけるというふうな、そういういわば都市活性化のための刺激型の都市計画といいますか、こういうのがいままでの日本の都市では少し欠けてたことは事実です。これを実行するためには、最近よく言われる参加型のまちづくり、あるいは民間の技術や資金力、行動力を活かしたまちづくりの方向に踏み出していくことも必要です。

ミクロのエゴと全体像の存立

司会　その辺、先ほど藤井さんのほうから、ミクロから攻めるんじゃなくてマクロから攻めるようなものが要るんだとか、いわゆるエゴに対して将来のあるべき像をどういうように達成するんだとかいうお話が、この座談会に入る直前にあったと思うのですけれども、先ほどの佐藤さんのご意見を入れながら、いまお聞きして感じてるようなことをお願いしたいんですが。

藤井　住民パワーというとどうしてもその地域性という面からになるでしょう。自分たちのまちを……という考え方になっちゃうわけですね。

自分たちのまちは、ということの前に、もっと別の角度で、われわれの土地の利用価値をいずれに求めるかということから必要な課題をピックアップして、それを自分たちのまちという考え方におきかえたらどうでしょう。

世の中というのは、個の存在と、地域全体の存在ということで、どっちにウェートをかけるかというと、最終的には個人なんだが、マクロ的指向で考えないと進歩がないと思います。極端に小さな範囲のエゴや感情に走りがちです。社会性ということにはなじみにくい要素がありますが、確かに日照権の問題とか、騒音の問題というのは、私はすごく大事だと思うのです。空気や太陽もわれわれの共有財産です。

ところが、都市計画そのものの発想が、お役人仕事になりすぎて、次々と問題が提起されています。豊かで活性のあるまち、人と人のつながりのあるまち、至便さや合理性、自然と造型等々、課題は山積みしています。現在の都市計画では、主に道路の拡幅や、駅前広場の確保のために進められていますが、行政側にももっと積極的に地域発展の転機としての、コンセンサスをはかる必要があるのではないかと思います。行政サイドの目的のみになっている感じがします。

住民においては、目先のことや、変な思想やゴネドクにつながることは、控えなければいけないと思います。佐藤さんのほうのおやりになったのが成功されたということは、結果として良かったわけですが、長い歴史の間でどう評価されるかということは、すぐには言えないのかもしれません。

まちの活性化へのアイデア運動

佐藤　私は、一番大事なのは、そこに住んでいる人が、自分の住んでいるまちに対する関心や愛情を持つということだと思います。一歩家の外へ出ると、そういうような自分の住んでいるところに対する愛着が非常に薄くなってるんじゃないか……。

藤井　それがモラルの減退につながってるわけですね。

佐藤　そう思うのです。だからその意味で、夙川の駅前をどう変えるかというときに私たちは、夙川の駅のところへ行って机を並べて、自分たちのまちをどう変えるかというアイデアをかいてくださいと１週間運動をしたわけです。そういう行動から、まず自分の住んでいるところへの愛着からいかないと住みよいまち、そこからまた出発してまちの活性化とかアイデアとか知恵が生まれてこないと思うのです。そのときの子供さんからお年寄りの方まで、あんなにすばらしい夙川の人たちの顔に接したことは、少ないわけなんです。

司会　先ほどの佐藤さんのお話で面白いなと思ったのは、人が集うという現象に注目してみた場合に、商店街というハードな容れものができてから集うという話ではなくて、佐藤さんのお話では、最初から、ものをつくる段階から、自分たちのまちを自分たちでつくるという形で人を集わせるというか、人を集めてくるという、〝ワーワーやる〟というプロセスがありますね、通常、どこのだれかがつくった計画案をポンと出して、どうか、というようなパターンがわりと多いと思うのですが、そのように最初からかかわらせるというか、かかわってきたということは、非常に面白いなと思うのです。

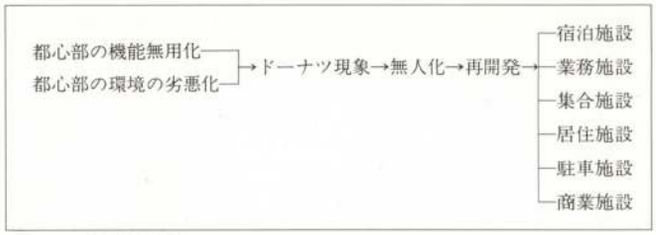
佐藤　それも街頭に出てです。

司会　ところで、先ほどの駅前には、昔からの商店街があったんでしょう？

佐藤　そうなんです。

司会　商店街からいまの新しいまちになってますね、広場ができたり、ビルが建ったり。その結果としてまちの活性化ということと、住民の皆さんや元の商売をなさっている方からみて、どう関係があるんですか。昔のいわゆる商店主さんというのはテナント等として入ってると思うのですけれど……。

佐藤　ええ、再開発ビルが建ちましてね、そこへ皆さん入られたわけです。商店の人たちは当初、夙川の駅を降りてすぐの狭いところに軒を並べておられたのですが、いまは駅からちょっと距離が離れている再開発ビルに入られています。その当時は駅と再開



ホテルの文化的吸引力「ホテルを中心としたアメリカにおける都市再開発事業」(総合ユニコム刊)

発ビルにある程度の空間をもった私たちの案に対して、ずいぶん風当たりが強かったわけですが、いまはその空間のありがたさ、すばらしさというものが認められているようです。そして今度その空間のところに地元のほうから、住民が考えたモニュメントができたんです。その空間は、自分たちの空間だという意識ですね。

司会　公共的なスペースがそういうところにできたということですか。

佐藤　はい。もう少し面積が広ければ、もっとよいのですが……。もう一つ進んで、その空間に、私たち市民はどのような夢を描くかという運動をやったわけです。立体のテラス、いわゆる人工地盤をつくって、そこに小規模な野外音楽会、演奏会ができる広場をつくれとか、いろんなアイデアが寄せられたわけです。しかし模型まで私たちの方でつくり、市のほうに働きかけたんですけれども、すでに区画整理、再開発が、事業としては終わっているので、資金的に困難であるということでした。ところがこのときに広場のスケッチに320人もの方が参加されているわけです。

盛り上がった再開発計画

佐藤　この運動そのものは大変意義のある運動であったといまでも思っております。ですからこれは、さらに西宮でいまネックになっている阪急の北口とか、そういったところの住民に呼びかけて、住民の中からそういう熱意、アイデア、夢を揺さぶるというような形でやろうと思います。行政も、住民から盛り上がった再開発というのは、その事業に手もつけやすいわけですね。

紙野　それはおっしゃる通りでしてね、再開発などが大変時間がかかりうまくいかない理由は、計画を行政側から出していった場合は、さっきお話し申し上げたように、外から先に住んでる人に働きかける形になりますから、中に住んでいる人たちから必ず反発が出たり、関係の権利者の合意がなかなか取れないということがあるんですね。だから何とか再開発をしたいと、行政側あるいは事業者のグループは考えるけれども、地元からはそれは受け入れられない。で結果的に非常に中途半端なものになる、しかも時間がかかる。しかしそれが逆転してくれば、大変やりやすいわけですね。

佐藤　外人の方も駅前へ来てスケッチを、生き生きとして……。子供さんなんかサンドイッチをママにつくってもらって、時間までに、私たちが机を準備するまでに、子供たちが待っている。

魅力あるパブリックスペースをめざして—ホテル文化への期待

司会　なかなか楽しそうですね。さて、先ほど、昔の商店街はただ狭いところに店があって通っていただけだったけれど、広場いわゆるコミュニティーの場であるオープンスペースですけれども、パブリックなところができたということで非常に魅力ができてきたというような話があったと思いますが、都市空間の中ではたとえばよくホテルのロビーで、デートで待ち合わせとかお見合いとかいろいろ活用されているようですが、そのホテルというのはもはや宿泊機能だけじゃなくて、最近はかなり都市の文化的な拠点といいますか、そういうふうにも活用され、あるいは機能してると思うのです。まあ、いわば魅力あるパブリックスペースの一つになっているのではないかと思います。きょうはその方面で活躍されている加藤さんがお見えですので、ここらでその辺のお話をお伺いできたらと思いますが……。

加藤　私は戦後ずっとホテルという仕事に携わり、世界各国の人との触れ合いをずーと続けてまいったわけです。その中で私自身がとくにまちの活性化とか、まちづくりということについての持論を持ってるわけではございませんけれども、流れを見ておりますと、多分こういう具合になっていくんじゃないだろうかというような考え方が一つございましてね……。

戦後、われわれの世代は〝ほしがりません勝つまでは〟ということで非常に物の不足した時代を過ごし、世界の情報は非常に不足しておりました。そうすると、百貨店を中心とする流通産業が、わりと早く世界の情報を持ってきたわけですね。ですから、百貨店に行ってまず屋上に上がって、屋上の遊園地で遊んで、そうして下の食堂で適当なものを見つくろって、あるいは世界のブランドというものを見て夢を描いて、あるいはそれに志そうとする人は常に情報を吸収してきた。そういうことで、私は流通産業というものが、ある意味では都市の活性化といえるものですが、とくにターミナルを中心に出てきたんじゃないだろうかと思います。しかし、だんだんわれわれの世代と、それからそのつぎになりますと、今度は質の選別をしてくる世代になっていきましてね、さらに、もう質も量もいっぱいある、だからもっと文化的な知的な要望というものが出てきている。さらに今度下がってきますと、もうめちゃくちゃにメカに強い世代がこれから台頭してくるだろうと思います。最近に至ってはまた第五世代というような話が出てきておるわけです。

そういう世代に、どう対応していくかということは、われわれホテル業界でもそうですし、あるいは流通業界の方でも非常にむずかしい世代だと思ってるんですが、どうも見ていると、ホテルはこれからの都市活性化のコアになっていくんじゃないだろうかと思います。それはなぜかというと、流通産業、あるいはほかの産業というものは昼間のゾーニングでしかない。人間というのは常に流れているわけですね。

流れてきて、その流れているいろんな種類の人間をここでフローティングさせる、これを浮き上がらせることこそ、ぼくはまちの活性化だろうと思うのです。ですから私はそのフローティングさせる可能性のある事業はいまホテルだと信じ切っている。



大阪のホテル分布図

しかし、ホテルというのは朝のゾーンと昼のゾーンと夜のゾーンとミッドナイトのゾーン、つまり24時間のゾーニングを持っている。まして大阪に国際空港が出てきますと、人々のライフスタイルはそこで変わってくるわけですよ。24時間のゾーニングの中で物事すべてを、都市のまちづくりあるいはいろんな活性化というものを考えていったら、多分その都市は活性化していくだろうと、私はそう思っているので、その中でホテルというのは重要なポイントを占める、と。

人々が何を求めてホテルに集まってくるのかと……。もはや日曜日には人々は百貨店に集まらない……というとちょっと口幅ったい言い方になりますけれども、もうぼくは移行しつつあるのじゃないかと思います。先ほど司会者の話にもありましたように、若い人たちはホテルの喫茶店で待ち合わせをしたりお茶を飲んだり、それからそこに来る外人だとかいろんな方の喜びを感じて、そして、そこから世界の文化を吸収していこう、と。

だからぼくはそういう世界のネット、グローバルな見方からすれば、これからはホテル事業というものがまち活性化の中心になっていく、と。

豊かな遊び心を現在の感性の中に

加藤　だから夙川のほうの都市計画の活性化ということでは、私も近所のほうに住んでますから、あれはあれなりに非常にご成功なさっておったと思うのです。

きのう、大学の先生の話の中に、これは私の考え方と共通してるんですが、ちょっと参考に申し上げますと、結局、当初は生活財の再検討だと。それから生活空間の再編成、それから生活時間の再編成。そして家庭内の役割関係の再編成であると。これは男女ですね。夫と妻との役割の再編成というものがあって、社会関係の再編成が行われる、と。それはホテルが情報を収集する場でありますよ、ということで話を聞いてきたんです。

いまお話を聞いてましたら、夙川の中の一つの空間の問題だとか、あるいは生活財の再検討とか、そこまでお入りになってるが、もう一つぼくははっきり言いまして、夙川に小さくてもいいからホテルがあって、みんなが集まって、そこで結婚式が行われる、あるいはデートができるという場所があったら、ぼくは夙川という都市の活性化はもっとはかれるだろうと思います。

自分がホテルにおるからそういうことを言うのはちょっと手前みそで、ちょっと企業意識が強いかもしれませんけれども(笑)、私はこれからはホテルが都市を変えていく、だからそれなりのことを考えていかないかん、と。もちろん流通も皆一生懸命ね。皆さん総合的なものである、と。しかもぼくは、ホテルというのは一つの文化というか、そういう若い世代の感性を受け入れる、その場がないともう受け入れられないと思うのです。

司会　藤井さんいかがですか、ホテルが都市を変えていくということですが……。

藤井　ラスベガスは、ホテルが都市の中心ですが、賭博と密接なかかわりがありますね。南フランスでもリゾート地としてのホテル機能を専(もっぱら)にしています。東京の赤坂のホテルは近隣に行政官庁や大手会社、そして銀座、赤坂、六本木という夜のまちをひかえています。

過去のホテルの多くは宿泊が主でしたが、いまでは複合的な機能が充実していますから、宿泊外の利用客が増えています。また、高級感を味わうことができることです。だがそのようなホテルもまだ一部ですが……。

相関関係がなって、ホテルは都市を変えているのではないかと思いますね。どんどん良いホテルができれば、ホテルは都市について大きな発言力をもつものと思われますね。

住機能の社会化と個人化
——まちの役割分担

紙野　まちの活性化のことでちょっとひと言話しておきたいと思います。まず人間生活のもとである住宅というものについて考えてみますと、われわれみんな親に話を聞いたり、あるいは子供のときに体験したりしてるわけですけれども、戦前の住宅、あるいはそれよりもうちょっと前を考えてもいいと思いますが、たとえば江戸から明治・大正にかけての住宅というものは、家族の生活がかかわる大部分の行事、たとえばお産、病気、子供のしつけ、教育、それから冠婚葬祭、来客の接待などがほとんどすべて住宅の中で行われていたわけです。実際かつての日本の住宅は単純そのもので、物理的な仕掛けは何もないんですけれども、全くもって個人から家族、近隣社会につながる何から何まで全部家の中に入ってたわけですが、それがご承知のように現代に至って次第に社会化されて家の外へ出ていったわけですね。第一に社会化したのは教育ですね。それから、冠婚葬祭はもちろん外へ出たし、それから病院ができて療養も外へ出ていった。保育は保育所ができ

てこれはとくに最近になってかなり外へ出つつあります。それから出産ですね。そういうことで結局あとに何が残っているのだろうかといえば、要するに寝ることと食事をすることとそれからいわゆる家族団らん、こういうものですね。
その一方で、逆に個人化したものもあるんです。それは何かというとまず風呂です。風呂はかつてはまちのほとんどの人が公衆浴場を利用していたけれど、いまでは逆に皆個人化してしまった。もう一つ個人化してるのは交通です。電車やバスの公共交通に対して自動車を持ち自転車・バイクを利用する。そこで家にはガレージが持ち込まれています。このような逆の動きもあるけれども、生活機能の大部分は社会化して家から外へ出ていってるわけです。最近さらにつぎのステップで社会化しようとしているのが一つは寝るということ。これはホテルがそうですね。それから食事。これはファミリー・レストランは言うまでもなく、最近は少し形が変わって、夫婦単位で良い音楽など聞きながら美しい環境の中でいい食事をしようとか、何かそういう形、一種の生活の文化化ということですけれども、これまたまちのレストランやホテルのディナーショウなどとなって、住生活に影響を与えている。
さらに言えば、いったん個人化した浴室などというものも、これは一方では家の中でより便利により豪華により性能を高くしようという動きがあるのに加えて、もう一方ではたとえばヘルスセンターだとか、何かそういう文化的な付加価値をつけて、また違った形で社会化されるということがある。
問題は、これからのまちというものはこの辺の、要するに住から職業まで、人の一連の生活の流れの中で、まちは一体何を分担するのかということを、改めて発想しなおしてみる必要があるのです。まちの活性化の具体像はそれにともなって浮かんでくるのではないでしょうか。ところで事業者のほうはそれを当然鋭く読み取るでしょうね。加藤さんがおっしゃるのもまさにそこのところで、それをホテルとしてある形にまとめあげようということだと思うのですけれどね。

朝、昼、晩24時間のゾーニング

加藤　私は、いまの生活の空間の中でたとえば緑がほしいとか、あるいはジョギングするとかスポーツをやるというのは朝やる、と見ているわけです。あるいは昼、オフィスが終わったら、終わったあとでまた憩いの場というものがあるだろう、と。夜は飲みにいくとか、赤ちょうちんとかいろいろあるだろう。これを朝、昼、晩と24時間に分けてゾーニングをして、その施設面はどうだということに分けていきますと、いますべてのものが、つまりライフスタイルがそこで全部活用されるというわけです。だからそれがホテルだと私は言ってるだけであって(笑)、それは単なる寝るとことかそういうものじゃないよと。

紙野　それはその通りですね。
加藤　だから、そういうゾーニングに分け、しかも世代に分けてしまえば、すべてのものが出てくる。それをある空間の中でつくってしまえば、そこは活性化される、と。
紙野　それがまちだと思います。
加藤　だから、それがたとえばアメリカのように砂漠のど真ん中であっても活性化してるのはそういうことだよと。テキサスへ行ったら、あんな空間の中にホテルができて、周りにショッピングあり、あれがあり、これがありとすると、みんな何時間もかかって行って、活性化されてる、と。いま活性化ということがテーマであるとすれば、私はそれだろうと信じてるということです。
紙野　要するにいままでの住宅だ、ホテルだ、病院だ、あるいは駅であるとか、何かそういう形にこだわる時期ではなくなったと思いますね。いまおっしゃる通り24時間の、とにかく都市に住んでいる人間の生活の全体像をそのまちとしてガッチリ受けとめるということなんでしょうね。
加藤　それを一つのゾーンで……。
紙野　それはある部分では当然ショッピングになるであろうし、それは同時におっしゃるように食事に流れ込むだろうし、その間をぬって人がジョギングしていても一向に差し支えないわけですから……。
加藤　そのゾーニングの中で、いろいろ人が流れている中でそれをフローティングさせることこそぼくは活性化だと。これからの都市計画というのはそうあるべきだと。

まぜ御飯みたいなまちづくり

加藤　いままでの都市計画というのは、ここはホテルです、ここはレジャー・ゾーンです、ここはスポーツ・ゾーンです、ここはリビング・ゾーンでマンションを建てます、これは学校です、と。これは、ぼくは違う、もうその時代じゃないと言っているわけです。
紙野　日本ではまだそれまでいってないんですけれども、現在、たとえばアメリカの都市計画は大体その方式をとるんです。再開発をしたとすると、ここのブロックはたとえばビルを建てた場合はホテルを何%入れなさい、住宅は何%入れなさい、それから商店はこれだけ入れなさいとか、あるいはここは商店はつくらないほうがよろしいとか、そういうふうに建物の中に盛り込むべき用途、機能をうまく調合してあるんです。さらに事業のつぎのステップでは、まちの実際のデザインについて、具体的な指導や技術的な援助をつけ加えていきます。そういうものも出していって、お互いに納得をしましょう、と。これは非常にいいわけです。それができれば、現在の都市計画のこの冷たい法律というのが全部よみがえってくるんですけれども、残念ながらそれがなかなかで


超複合施設・ニッケパークタウン


超複合施設・ららぽーと

きない。

佐藤　そのいろんな夢を考えまして、全部行き着くところで、これは無理だな、これはできないなというところが土地問題に全部いくわけですね。

紙野　いや、それはもう言わないことにしましょう(笑)。土地問題を言いますとね、……それは別の議論になりますね。

司会　そういういろんな空間要素をまぜこぜにした、まぜ御飯みたいな機能を持ったようないままでと一味ちがったまちづくりが必要だということでしょうか。この特集でも最後に事例紹介ということで、最近でき上がった商業施設を紹介するわけですけれども、その視点としましてスーパー・コンプレックスいいますか、いわゆる超複合施設ということで、たとえば百貨店でしたら、単に百貨店だから物を売るとか、飲食店だったら物を食べてもらうというんじゃなくて、いろんなそこに文化的な機能、スポーツ的な機能を複合したような施設を紹介しようとしています。

東京と大阪では美の観点が違う

司会　最後に、こういうまちの活性化ということに関しまして、とくに関西らしい、将来もっとこうやったら新しい展開があるんと違うかなということでお気づきの点がありましたら……。

藤井　東京と関西、大阪の違いというやつね。何せ大阪の人というのは商売は熱心ですよ、で損得ということが先にきますよね。東京の人というのは、まあいまは寄せ集めですけれども、元来好きとか嫌いとかが先行しちゃうのね。そういうことで、商売が非常に大阪の人はうまいですよ、ねちっこいしね。いざとなると食いついて離れないというような感じはありますね、東京の人はあきらめが早い。そういう差があります。美の観点がちょっと違うんですよ。なにか大阪はしつこいんでしょう(笑)。東京はどちらかというと気取るんですね、カッコつけやなんです。ところが大阪はカッコつけるというよりは、むしろ現実主義というかね。まあその辺の違いがありますね。

勝手にやってみろということでモデルを

藤井　一般論として、大阪はもう少し夢がほしいね。でも、この前、大阪でファッション関係の若い人に会ったんですが、なかなか良い感性をもっていました。東京もおちおちしていられないなと感じましたね。土地でもあれば、このような人たちに「この土地をお前たち勝手にやってみろ」というくらいの気持ちでまかせたら、結構やるんじゃないですかね。未来に向けての実験の場が必要なんじゃないですか？これは一種のテストケースなんだけど、そういうテストをやらないとね。金は出すが口は出さない、せちがらい世の中だけど、逆また真なりでは！

司会　後段のまかせてやってもらうというお話は最近話題の〝民間活力の導入〟という発想にもつながるお話だと思いますね。ところでまちの活性化ということで先ほどから出てます話、要するに〝魅力づくり〟というんですか、それぞれのいろんな立場の方がおられてその魅力づくりをすることが、いろんな意味で、まちの活性化につながっていくような要素になると思うのですけれども、その魅力をいかにつくるかということについて、従来の手法じゃなくて、いろんな観点からまた違った手法があるかもしれないと思うのです。とくに佐藤さんからは、建築をやってる方とか都市計画をやっている方に、こんなことも考えてほしい、こういうところが魅力づくりにつながるというようなところがありましたら、最後にお聞かせ願いたいんですが。

楽しいまちの色、まちらしさ

佐藤　そうですね、神戸のまちへ出ると楽しいんですね。私は大阪人間で、大阪で育ったんですが、大阪はまず便利さとか機能が優先して、人間が忘れられてるようなまち、なんか楽しいものがもうひとつ感じられない。じゃどうしたらいいかというと、色をちょっと統制できないかという願いがあるんです。大阪のまちを美しいものにするために何か一つでも、ただ言うんじゃなくして、小さいことでも、その道のプロの先生方にやっていただきたいという願いはありますね。色をまず……。

司会　楽しいまちにする色の問題ですか。

佐藤　色があまりにも……あまりにもゴチャゴチャの色が入り過ぎだという……。で便利さの機能だけが優先したような感じがいたしますし……。

それと一番に感じますのは、日本のまちらしさというもの……。外国へ行きまして、どこへ行きましても、日本のまちとたとえばアメリカのまちとの区別が……。じゃ日本のまちといったらどういうまちかということですが……、だんだん区別がつかなくなるんじゃないかという気もいたしますね。

司会　らしさがなくなったということですね。大阪らしさとか神戸らしさとか……。

佐藤　はい。日本らしさとか、日本のまちの……。そういう感じがいたします。

国際感覚を！

加藤　私は大阪はいまのままでいいと思います。はっきり言って。



ファッションアベニューに面して



新しくまちはつくられる―神戸ポートアイランド

ただ一つだけほしいのは、国際的な感覚の問題なんです。これが遅れているだけであってね。大阪の商売上手のねちっこさ、あるいは乱れた、色もゴチャゴチャでもよろしいし、ミナミを歩いてもらったら、あのゴチャゴチャはもう日本にはないんですよ。だからこれから伸びるのはミナミ……わたしがミナミだからミナミと言うわけじゃないけれど(笑)、ミナミには……アメリカ村を歩いてごらんなさい、驚くようなところがたくさんありますよ、もうすでに芽生えつつあるわけです。ヨーロッパ村でも…。

しかし、食事するとき、何でもステーキ、ステーキ、ステーキですよ。それは神戸ビーフはおいしいけれども、だけど洋食を食べるときでも、フランスのソース物を食べるとか、そのぐらいのチョイスがあっていいわけですよ。ビールはハイネッケンからツボルグまでというぐらいの感覚をもっと大阪の人はもってほしい。そのためには国際空港というのは大きな活性化をはかれると私は思うのです。神戸が楽しいというのは、やっぱり神戸は国際感覚をもってるからですよ。それだけ進んでるわけです。なぜかというと港があったから。大阪はいまのままでいいんです、国際感覚をちょっと入れてくれたらすばらしいまちになる、日本らしいまちになる。

司会　大阪の話が出たついでに、では神戸はさらにどうしたらよくなりますか(笑)。

加藤　神戸は非常に結束力が変な意味で強いけれどね、もう少し開放したほうがいいんじゃないですか。排他的なところがちょっとあるでしょう。とくに財界……というと語弊があるかしらんけれど、結束力がものすごく強いし、大阪で空港をやるといったら……(笑)同じ発想に立たないとね。外国から見たら神戸・大阪なんて、一つのエリアですよ。だからセクショナリズムがちょっと……(笑)、それ以外は楽しいですよ、おっしゃる通りどこへ行ったって。それは国際感覚がちょっとあるからですよ。

大阪のよさは残し続けるべきだと思う。ただし、大きな時代の流れというものがあるから、視野は国際感覚を持たないと、やっぱり遅れて田舎のまちになってしまう。

大阪の人が24時間遊ぶようになったら大変なことですよ。東京の人は24時間遊ぶんだから、六本木へ行ったら、ずっとやってるんですよ。この前、ぼくは午前2時にキタとミナミと車で走り回ったら、キタは死のまち。ミナミは活性化されている。なぜかというと飲食店が多いから。2時、3時、皆ワンワンしている。キタは流通関係が多いから、昼間のゾーニングだから、どうしようもない。

行政の刺激策を！

紙野　私がとくに大阪ということで望むならば、やはり行政側がもう少しまちの活性化についていろんな刺激策をとってほしいということです。都市開発について多方面に刺激をしないと民間の動きも鈍くなる。大都市のインナーシティは、一般に古いものから新しいものへの転換期にさしかかっているわけで、その中で創造と保全の融合策をひねり出すことが必要になってきていると言えるでしょう。この意味では、残すべきかけがえのないものをもういちど活かす刺激策が必要であり、たとえば大川に沿ったウォーターフロントの再開発を思い切って展開することは一策です。それは同時に、新しいまちの創造の足場ともなるものだと思います。

ロートルタウンからヤングタウンへ――まちの活性化をめざして

司会　藤井さん、最後に一言ありましたら……。

藤井　そうですね、まちの活性化というと結局いまポートアイランドのファッションタウン、こういうところは全く新しいまちとしてつくるわけですね。ちょっと面白くなるんじゃないかと思います。ああいうふうに全く新しい土地に対して、ああやって計画されたということは、すごくいいと思うし、われわれもあそこに参加させてもらって神戸市さんから土地を分けてもらってやってるんですが、非常に楽しく……。

それでこれからあそこをいかに活性化するかという……。まあれは24時間活性化のまちとしてつくるわけだけれども、中心がかなりポートピアホテルあたりのところ、ワールドさんとか高いビルになりますからね。われわれのほうはファッション・アベニューと称されるところですから、5、6階建てぐらい、せいぜい3階、4階ぐらいの建物でいいじゃないかと。で、なるべく来る人たちの受け皿として、何をいまの若い人たちが……だから私ども対象として考えるのは、とにかくこれからの人に提供しよう、と。お年寄りはいままでのところで何とかね。大体何とかつじつまを合わせて……(笑)。しかし若い人はいままでのところでは、もうつじつまが合わなくなってきているんだ。だからその受け皿をやろうということです。だから私の以前から考えていた都市のガーデン街区構想に非常に近かったということです。

既存の商店街の小さな面積をいじっても、面白いものはなかなかできません。既存の商店街は保守的な場合が多く、もう再開発をやろうと思っても、意見が分かれて、3年や5年でまとまらないのですよ。10年ぐらいかかってもまだ反対するんだから、無理でしょう、こちらが息切れしちゃいます。だから別のところへつくったほうがいいだろう、と。そこには大きな力が必要ですし、協力者が必要でしょう。まあ、そういうところですね。

司会　どうもありがとうございました。



とき　昭和59年3月14日
ところ　日本建築協会会議室

司会：田中直人委員

●インタビュー

イベントとまちの活性化

―大阪21世紀協会プロデューサー北本正孟氏に聞く―

都市づくりの中でイベントを仕掛けていくという手法は、形と程度の差はあっても古今東西、存在してきたものといえるが、最近とくに、東京オリンピック、万国博等の大型イベントのほかに、地方において企画される博覧会、国体等で都市の活性化、都市づくりの起爆剤としていこうとする動きが目立つ。

これらのイベントを仕掛ける動機や背景、それにかかわる人々の動き等については、都市づくりのプロセスの全体像を把握し、都市の活性化を担う多くの人々の絡み合いを浮きぼりにしていく上で、非常に興味深い領域である。

私自身、たまたま神戸市において企画された博覧会〝ポートピア '81〟というイベントの中において多くの仲間とともに、その都市づくりの実践の場に参加する機会にめぐまれた。そしてその企画から計画、建設から運営、後片付けといった一連のプロセスの中で実にいろいろな人々との出会いがあり、連帯と競合のアクションがあった。それらの人々がその影響を及ぼし、責任を分担する範囲は異なっていようとも、いわゆるイベントの〝仕掛人〟たちであったといえる。

昨年秋、大阪では大阪城博覧会、御堂筋パレード、帆船パレード等21世紀までの約18年間をめざして企画された「大阪21世紀計画」のオープニングイベントが華やかに繰りひろげられた。

これらのイベントをプロデュースされた大阪21世紀協会の北本正孟さんに、このたびお忙しい合間をぬって、〝イベントとまちの活性化〟ということで、お話をお伺いすることができた。前々から一度お見にかかりたいと思っていたその人は、予想通り、都市づくりの情熱にかける。〝現代の仕掛人〟であった。――インタビュア・田中直人（神戸市開発局計画課）





御堂筋パレード(上)　大阪・アメリカ村のドイツ祭(下)

▶大阪21世紀協会のねらい

最初に、21世紀協会のねらいとするところをたずねてみた。「〝自由、活力、創造〟という三つのテーマの中で、私たちは〝大阪に活力を〟ということで、取り組んでいます。組織としては、大阪という名が付いていますが、この大阪はいわゆる大阪府、大阪市だけの大阪ではなく、財団法人も、知事認可でなく通産大臣認可になっています。近畿圏一円をねらった運動を起こすことをねらっているわけです」「庶民の力が下から盛り上がることはもちろん必要なことですが、行政がからんでやっていく場合には、やはり相当大きな推進組織が必要です。今回の場合は、大阪府知事、市長という行政、関経連、大阪商工会議所、それから万博協会というお歴々がみんなそろった一つの財団ということで、大阪21世紀計画として多様な運動をめざしたい。その冒頭を築城400年まつりで飾り、その間に市制100年等で盛り上げをつくっていこうとしています」。

▶劇場都市宣言

いわゆる万博と今回の21世紀計画との違いについては、「博覧会というものは、限られた場所で設定して、一つのシステムに一つのシステムしか入らない。大阪21世紀計画は、まちの真ん中に持っていこう、これが劇場都市を宣言したイメージです。限られた場所でやると特定の人たちだけのものということになる。これがまちの真ん中でやると、通りがかりの人をも巻きこんでける」しかし、「オープニングパレードを御堂筋でやろうとしても、世論が支持してくれないとできない。自由な発想、創造性の中で誇るべきものを出していかねばならない。まつりは、人々の活力、一般の人々を含めたコンペティション、競争の原理が働かないと成功しない」。

そして「このようなイベントを実際にまちの中でやってみるとまちの中で何が足りなかったかということもよくわかってくる」という。「現実の道路を見てますと、車のための道路というか、要するに楽しさの中からつくり上げた道路ではなくて、生活の基盤としての機能を優先させたものが非常に多く」、「非日常性の世界をつくるための会場として御堂筋を選んだけれど、旗一つ上げることもできない」状況であったという。さらに大阪城博覧会についても「非常に短期間にデッチ上げ、無理をしたこともあったが、530万人もの人たちが訪れ、大阪城というものを認識していただいた。その波及効果は大きい。行政の方は、よく公園をおつくりになるけれど、実際日本人ほど公園を使うのが下手な国民はいないんじゃないか。活性化されていない」と指摘される。お城の周りも御堂筋も、劇場とすることによって、まちの仕組みをもう一度点検しようとしたらしい。

▶まちづくり、人づくりの仕掛け

「そこで、あちこちに仕掛けをしていくのがわれわれプロデューサーであり、その仕掛けたことを続けていこうというのが代理店という媒体屋であるわけです」「押しつけで協賛金をとってやればいいという考えでは長続きしない。やはり企業にも、参加した一般の人々と同様、選ばれて参加したという意識をもってもらうことが大事で、それらの積み重ねで相乗効果も生まれ、波及効果も生まれてくると思う」「あちこちに仕掛けができて、私たちだけじゃなくていろんな人たちがつながってくる。そこに人づくりも出てくる」「結局、楽しいまちというのは、世界中に、私たちみたいなプロデューサー、ちょっとへんちくりんな奴がたくさんいるわけですね。それが一つの財産なんですね」と、イベントを取りまく一般市民、行政、企業等のかかわり方やそれらの人々の間に仕掛けていく〝プロデューサー〟なる人々を育てていくことの重要性を強調される。

▶楽しさづくり、イメージづくり

「実際に使う側の市民の立場の声をもっと取り上げるような行政の体制が必要で、われわれも知恵を大いにしぼって協力していく必要がある。今回、大阪の場合は、行政の方に聞く耳をもっていただいたということは大変大きなことで、そういう意味で、世論がついてき、マスコミもついてきたと思う」と、行政に対して仕掛人たるべきもののアクションが受容されたことを評価していた。

しかし、「大阪は、はっきり言って楽しさがない。だから私は楽しいまちをつくりたい、大阪は住みやすいまちにはなってきたが、まだまだ楽しさがない」と現在の大阪のまちを評価する。「東京はイ

メージづくりが上手だ。私が'68年に東京に行ったとき、俗に東京のイメージは〝銀座、赤坂、六本木〟だった。青山三丁目の角に石津謙介さんのＶＡＮジャケットがあったときには〝青山、赤坂、六本木〟になって、その次には〝渋谷、原宿、六本木〟なんですよ。この移り変わるイメージづくりがうまい。だけど基盤整備はできていない。イメージだけなんですよ。ニューヨークには、フィフスアベニューがある。イギリスのロンドンには、ボンドストリートがある。フランスはシャンゼリゼであり、ファーブルサントノーレです。いくらいってもカルチェラタンはマイナーなんです。だからマイナーは基盤整備ができてこそ初めて残る。メジャーと成り得るのです」と世界の都市の例をあげる。

▶受信基地から発信基地へ

「今、大阪はメディアの方から言っても、情報の方から言っても、受信基地なんですね。発信基地にしないといけないと思います。幸い今回の御堂筋パレードや帆船パレードは一つの発信基地としての役目をはたしました。音楽を例にとりますと、ニューヨークはニューヨークサウンド、テネシーにはカントリーウエスタンがある。ニューオリンズに行けばジャズがある。音楽のタレントが生まれ、育つ。するとそこには音楽出版社ができ、マスコミが育つ、発信基地となる。アメリカには音楽以外の分野でも多くの発信基地があり、そこに人が集まるから国際空港が必要になる。だから諸外国と直接の情報のやりとりができる。日本の場合は、発信基地は残念ながら東京だけなんです。いろんなジャンルを見ても大阪は発信基地にならなければならないし、またやれることはいっぱいある。それでまた、『京阪神』といわれてます通り、奈良を含めました部分で近畿を見ますと、ほんとにヒンターランドなんです」「しかし、コンベンションシティとか何とかいって、施設はすぐに金を出せばできるけれど、内容が伴っていないことが多い。そういったことも私たちの運動の中で少しずつ、努力して解決してゆきたい」。

▶興味と郷愁

「私にとって郷愁であることは、今の子供たちにとっては新しい発見・経験であり、興味の対象という現象なんです。これの繰り返しだろう、と」「アイラブニューヨークキャンペーンというのがありましたが、これは大成功していますね、ニューヨークでは。ゴーストタウンも同様で、つぶれかかっていたブロードウェイを、レビューとかミュージカルを軸にして、ここまで持ち直してきた活力、イエスウイキャンということから始めようという運動があったんですね」とこれまでの自分のめまぐるしく多方面にわたるアクションの歴史をふり返りながら、多彩な海外経験の中でのまちづくりとイベントにかかわるお話は、時間をつい忘れてしまうほど、たて続けに情熱的に語られる。

この人の何とも言えないスマートさと情熱は一体何から生まれてくるのだろうか。

▶「僕は旅人だから…」

現在、大阪21世紀協会プロデューサーという肩書きをもつ北本氏であるが、その前歴は変化に富んでおられる。大学時代は石津謙介さんの専属のファッションモデルに、大学卒業後、建設会社に入り、黒部ダムの建設に。その後脱サラ、大阪市内でガソリンスタンドを経営。これが27歳のときだったという。ファッション関係の仕事でテレビなどのマスコミ関係とつながり、人間関係がひろがってきたという。堺屋太一氏とは、万国博の建設時期に知りあったそうである。その後、テレビ番組の海外レポーター、司会等を手がけ、ファッションビジネスにも進出する傍ら、芸能・イベント関係のプロデュースに携わり、現在までたどりつくということである。

「僕は旅人だから…」という北本さんはさらに、このプロデューサーということについて「まず私が会議に出席しますと、電通さんから来られたのですか、という会話になる。いや私は個人のプロデューサーです、と言えばかなり話がしらける(笑)。プロデューサーには映像、イベント、ファッションショーのほかいろいろのタイプのプロデューサーがいる」と彼が語る通り、幅広い概念をもつ〝プロデューサー〟は彼の前歴そのものが語っているのではないだろうか。これほどまでにめまぐるしく多方面に渡って活躍されてきた、変化に対応する秘訣について、「新しいものを創り上げる人間は過去を切れ」というピカソの言葉のもつ感覚であるという。絶えず新しいものに立ち向かい、創造していくこのような姿勢は、まちづくりを仕掛けていく場合にも、何らかの形で必要とされるのであろうか。

▶都市の神話づくり

〝おまつり屋〟とも表現できるこの仕掛人たちが扱うおまつりにもいろいろある。古くは京都の葵祭、大阪の天神祭などがあるけれど、本質的に21世紀計画のイベントはどう違うのかという私の質問に対し、「おまつりというのはイベントとしてつくるものだと思っています。それが英知を競い合うということ、だからコンペティション」と答え、「占冠(シムカップ)村という北海道にある日本一の過疎村にスキー場をメディアとした新しい通年のリゾートタウンを計画している。どんな過疎の町や村でもタイムやライフが追いかけてくる、発信基地として仕掛けを続けているから。これも伝説をつくっていくということです。伝説といってもすぐそこにあるものを利用しようというのはアホでもできる。富士山を取り上げてリゾートタウンをつくるっていうのはその類いかもしれない。伝説という物語、神話をどうやってつくっていくかのコンセプトが大切で、具現化していく切り口はいろいろあります。リズムアンドテーストとか、ギャルズアンドギャンブルとか、デラックスアンドリラックスとか…、この話は都市にも同じようなものが要るわけですね。各地から話がありますが、結局、そういうことを掘り起こして一つの伝説をつくっていくことですね」。

話を聞いていて私は〝都市の神話づくり〟ということを思った。これがまさに仕掛人が秘めたロマンかもしれない。

都市を活性化していこうという試みの中で、仕掛けていく人は、自分自身に多様な価値観の中で、刺激を与え、たえず自らをフレッシュに、魅力ある存在とする努力をしているように思えた。短い時間ではあったが、彼との出会いは非常に印象的であった。「なぜ私がこんなふうに動けるかといったら、やはり、一人だからでしょうな」という言葉は、これほどまで多くの人々、組織に影響を与えている人が語るので、また真実味があっておもしろい。「田中さんもこれから神戸の方で、今まで以上にまちづくりの中で〝伝説〟を作っていくよう期待していますよ」という彼は、東京への最終の飛行機に乗るんだといいながら、時間ギリギリまでしゃべりまくり、大阪のまちを去っていった。北本さん、これからもがんばって下さい。


北本正孟氏

最後に、取材に協力していただいた香川英行氏に感謝いたします。

まちは生活の舞台―企業戦略とまちづくり―

香川英行

わが国で流通革命といわれる言葉が生まれて、20年も過ぎたろう。長期高度成長期のまっただ中、大量生産とともに、大量販売する小売形態つまり量販店の出現とともに、小売業はまったくといっていいほど、その役割が変わった。それ以来20数年間、生活者の文化的生活を旗印に、生活物資を大量に提供し続けた。商業そのものは量的変化とともに、時代の変化にしたがって、質的にも大きく変化をしたのである。小売業の中にも売上高1兆円を超す巨大企業が現れたのも、'80年代の大きな特徴のひとつであろう。今まで企業とは見られていなかった小売店舗が、小売業と呼ばれるようになり、さらに流通業とまで呼ばれるようになった。

戦後、日本の中で20年代、30年代、40年代、50年代を経過し、今や60年代を目前にし、流通業もまた新たな局面をむかえようとしている。流通業が今までのように単に消費者に商品を提供するだけでは、企業は成立しえなくなってきている。大量生産とともに耐久消費財も各家庭に行き届き、文化的生活ができることを目指した第一次流通革命があり、昭和48年～53年の2回のオイルショックと、一応のレベルの豊かな社会の出現により、資源の有限化あるいは大量生産による公害化とともに、物の豊かさは人よりもちがう生活を求める生活者をつくり出す。それが質的変革を促進する。単に質的変化といっても、これは企業活動にとってはきわめて重大な事件と同じである。これは第二次流通革命であり、量的時代の重大厚長の価値が現在よく言われる軽小短薄へと、まったくちがう概念への変化である。大量少品種販売のシステムが、少量多品種販売になるのだから、たまったものではない。今、この革命のショックがまださめないまま、もっと異なった変革が企業の前に現れようとしている。第三次流通革命とでも言われるほどの――。

今回は商業空間がテーマであり、その空間を形成している流通業に的を絞って考察してみたい。

新たなさまざまな技術の台頭とともに、今や流通業は市民産業であり、生活文化総合産業とでも言う時代である。このようなとき、流通業は市民生活のあらゆる場合に対し、情報を提供し続ける企業として位置付けされようとしている。このように企業を捉えたとき、今までは異分野とも思われたまちづくりまでも、本気で取り組まざるを得ないのが流通業の現状なのである。新たな情報システムにしても、積極的に取り組み、生活情報のキーステーションの確保にけんめいである。都市サービスの複合化を目指す、これはまちづくり以外の何ものでもない。その開発は、流通業本来の目的を超えて、開発そのものをビジネスにしようとする動きである。これは商業を核としたまちづくりを目指している。

生活者の要求の変化に多種多様な機能を要求する

ひとつの商業空間を、まちづくりという観点から考えると、今や生活者つまり消費者も、買い物に対する考え方がどんどん変化している。

最寄り品あるいは生活必需品に関しては、できるだけ節約、合理的に買い物を考えている。またわざわざ買い物に行くという行動まで、最近はやめようとしている。まとめて一度で安く買う。宅配してもらう。選択の余地のないものは、買い物は不必要なのである。

しかし、その反面、生活を楽しく豊かにする商品に対しては、こだわり、時間をかけて選択し、確かめ、気にいれば高くても買う。

この二極化は、流通業に大変なインパクトを与えた。それぞれの業態の細分化とその合理化が始まったのである。業態の細分化は生活者の要求の細分化であり、目的に合わせて、その組み合わせによって、また新しい業態を生む。また一方、世の中はサービス化社会と言われ、サービスだけを購入して、生活ができる時代、たとえば食べること、それはレストランであり、弁当屋であり、最近は家の給仕まで請け負うサービス業まである。独身であろうと、夜、帰宅すると温かい食事が待っている時代である。眠ることもさまざまなホテル宿泊スタイルがあり、最近では、都会には家を持たず、ホテルで暮らす人も少なくない。衣服はリースで、それにクリーニングのスピードとどこでもできる便利さ、サービス化社会と言われるゆえんであろう。都市にはサービスが多様なかたちで提供される。生活者の要求の変化は、物の提供の仕方に対する変化もさることながら、それ以外のサービス等の多種多様な機能も要求される。

まちはそれらの要求に応える舞台として、変化をしている。社会が変わればまちづくりも変わるのは当然であろう。また地域生活者の自分たちの住むまちに対しても、自分の生活を主体的に考え、自分の住んでいるまちのイメージに合う店は歓迎するが、イメージに合わない店には反対する。地域社会での生活するうえで必要な機能および施設があればという要求。その要求を満たすためにトータルなまちづくりの中で商業施設、文化施設、スポーツ施設とさまざまな機能配置を考えなければならない。また今や文化開発のとき。企業の地域での存在性は、その企業活動のひとつひとつが地域社会の生活文化の向上に役立つものでなければならない。

生活者の生活に対するトータルな要求への対応は、企業自体が、まちづくりの発想を持たなければならないと思っている。

米国の最近のショッピングセンター開発の流れとまちづくり

米国には、日本の小売業の未来の姿があると信じ、私たちは米国に学び、日本で実践してきたこの20年間であった。その経験は貴重なものであり、かつ、いまだに到達し得ないまま、米国のＳＣづくりが変わってゆく。

5年ほど前まではスーパーリージョナルＳＣと言われる、核店舗5店もある超巨大型ＳＣが西海岸、郊外を中心に開発されていた。

しかし、ここ2、3年の傾向としては、ＳＣがコンパクトになったことと、駐車場の設置の仕方が変わったことが特徴づけられる。これらのＳＣは、その地域にある一定のレベルの生活対応をする複合商業施設として位置づけられ、店舗のグレード、商品の頻度もある程度調整された店舗構成となっている。かなり広い地域の中で、ニーマンマーカス、ブルーミングデールと言われるような高級デパートなどは、少し離れて点在している。地域の中で一ヵ所に集中、複合するのではなく、点在させる方がまちの拡がり、地域グレード

と店舗グレードのマッチなどからみて有効と思われる。自社の企業コンセプトを明確に持っている企業の場合、広いまちづくりの中でも十分効率よく企業活動をしている。ＳＣそのものが、リージョナルＳＣのように、商業施設のみの総合複合化よりも、今は、ある一定のグレード、レベル、目的に合わせて、統合化の方向へと変わってきているのは確かであろう。

そして、もうひとつの重要なＳＣづくりの変化として、ＳＣを核としながらも、都心から30㎞～50㎞圏の副都心づくりに伴うＳＣ開発である。都市機能とＳＣが有機的に一体化され、開発されているのである。今までの商業施設のみの巨大化から、都市施設の複合化による都心づくり。これは、まさにひとつの性格を持ったまちが短期間に出現するのである。

米国南東部、サンベルト地帯とよばれている、米国で中心的経済活動の舞台となっているダラス、ヒューストンにあるガレリアなどは、その典型であろう。さまざまな都市施設が、ガレリアと呼ばれる大アトリウム空間で結ばれる。自然発生的に長い期間でつくられたまちと比べると、計画的、人工的に開発される都市。快適空間であり、便利であり、情報量の多さは比ではない。多くの人たちが集まり、経済活動はもとより、文化活動も活性化する。今、企業はこの現象を見のがすわけにはゆかない。

商業空間とまちづくり

商業活動で今一番大切なことは、新しい技術による新販売形態が出現しようとしても、“楽しく人が集まる”ということを忘れてはならない。

そのためには計画的、人工的にまちづくりをし、その目的を達することも可能であろう。今、生活者は、生活そのものを自分で演出し、楽しんでいる。まちそのものが生活する舞台であり、ステージなのである。まちの持つイメージが強力なメディアとなり、商業活動が活発化する。わが国においても、都市機能の超複合化による副都心開発の例もある。しかしそれらは、それぞれの企業が開発しているところに問題がある。それぞれの施設が空間的にも機能的にも、有機的に結ばれなければ相乗効果のパワーはでない。開発地域あるいはまちづくりに一定のイメージを与えながら、人間の生活のあるまちづくりを考えなければ、都市の未来はない。

経済活動の場のみのまちづくりではいけない。そこに商業空間の持つソフトイメージが潤滑油となってまちの活性化をうながすものでなければならない。今、大阪で始まった「大阪21世紀計画」は、“まつり”を中心としたイベント・オリエンテッド・ポリシー（行事誘導政策）といわれているような方法で、大阪のまちの活性化を計るとともに、経済、文化両面の活性化を計ろうとするものであろう。堺屋太一氏のイベント・オリエンテッド・ポリシーの著書の中にもあるように、経済も「ニューディール政策」から「ソフトディール政策」へ――。まちを舞台に、文化の華を咲かせようとしつつ、民間資本の誘導を計りつつ、新たなまちづくりを始める。これは企業の参加をうながし、企業の活性化とまちの活性化の両面に対する政策でもあろう。

この「21世紀計画」を中心にし、今、大阪はひとつの共通の目標を持っている。私も大阪人の一人として、楽しく参加するつもりである。人が集まるところに情報と金は集まる。

企業活動の舞台は今、まちへ

まちづくりもだんだんと行政主導型から、民間へとシフトダウンしている。地域そのものを大手民間企業が開発する例も少なくない。ニュータウン開発および関西新国際空港の開発までも民間企業の導入等、まち開発の手法そのものが変わってきたのである。

こと流通業に関してみても、今、私たちの日常業務の中での課題は、ＳＣを中心としつつも、地域生活者とともにどう地域開発を行うか。大手流通業の中で今計画しているビッグプロジェクトは、ＳＣ開発とともに住宅、都市ホテル、スポーツ施設、アミューズメント施設等の超複合化の開発を行っている。そのためのひとつひとつの業態を、都心でノウハウを蓄積しそれらを一同に集積する。このパワーは、今までのＳＣとは比べものにならないほどの力強さを持つ。これはまぎれもなく、まちづくりであり、また、新たなディベロパービジネスであろう。企業は今、まちづくりを舞台に新たな局面を迎えようとしている。（かがわ　ひでゆき　株式会社船場SC綜合開発研究所）





ダラス The Galleria

ショッピングセンター、業務ビル、ホテル、スケートリンク、アスレチック等の超複合化による副都心型ＳＣづくり

◀モール中央のスケートリンク、両サイドは専門店
▶ダラス The Galleriaのファサードの一部
▼中央セントラルコート上の吹抜、大アトリウム空間





カナダ、イートンセンター

◀大アトリウム空間による街路化した商業空間

トロント、ヨークビレッジ

街並みが２階～３階で統一され、イメージもみごとにコントロールされたまちづくり。ヒューマンスケールでヒューマンタッチ



民間ディベロッパーと商業展開―「ららぽーと」の事例―

阿部　寛

「ららぽーと」は、昭和30年代～昭和40年代にかけて大衆娯楽の殿堂として全国に知れわたった「船橋ヘルスセンター」が、その社会的使命を終えて閉鎖された跡地に、三井不動産㈱と㈱船橋ヘルスセンターが新しい時代の要求に応えて共同開発した日本最大規模のリージョナル型ショッピングセンターである。

昭和56年4月にオープンして以来、すでに3年を経過しているが、近年の小売業界の低迷の中にあって、「ららぽーと」は着実に業績を伸ばし続けている。

本稿では、この「ららぽーと」の開発コンセプト、商業空間づくりの考え方を述べるとともに、今後の商業のあり方を探ってみたい。

立地条件と事業計画

ショッピングセンターの立地条件としては、(1)商圏の大きさ、(2)交通条件、(3)既存の商業集積の大きさ、の3点が大きな要素と思われる。

(1)の商圏の大きさについては、徒歩・自転車圏で10万人、自動車の場合は一次商圏（20分圏）で160万人、二次商圏（30分圏）で300万人を数え、大変高密度の商圏になっている。さらに主要商圏内は、大規模なニュータウン建設が進むなど全国有数の流入人口の増加地域であり、商圏の成長が見込まれる。

(2)の交通条件は、計画時（オープン時）は不十分であるが、将来的に好条件が整うことが確実に想定された。わが国では、昭和40年代後半にモータリゼーションが本格化したが、既存の千葉・津田沼・船橋等の競合商業集積地は、駅前型立地であり、自動車でのアクセスに難点がある。その点「ららぽーと」は、国道357号線（昭和57年4月に湾岸道路開通）に接し、京葉道路花輪インターチェンジ、国道14号線からも近いなど、千葉県の主要幹線道路からのアクセスが良く、駐車場も5千台の収容能力を持つことから、自動車客に対しては抜群の競争力を持つことが予想された。既存のマストラについては、国鉄船橋駅から2キロ、京成センター競馬場駅および京成大神宮下駅より700メートルの距離があり、駅前の商業集積地に対する劣位は否めないが、国鉄船橋駅からの定期バスの増便、京成センター競馬場駅からの専用バスの運行等バス便の強化により不利な面を補うこととした。マストラが整備されるのは、昭和60年度に予定されている国鉄京葉線の開業に伴い、同線の若松町駅（仮称）が、「ららぽーと」に隣接して設置される時である。若松町駅の開駅により、湾岸地域、国鉄武蔵野線沿線に商圏が一気に拡がることが期待され、「ららぽーと」がさらに発展するための基盤を提供することとなろう。

(3)の既存の商業集積については、当該地はゼロに等しく、全く新しく商業地を創造することが要求された。

以上のような立地条件の把握と、5万坪の広大な敷地条件から、本プロジェクトは、その厚みのある商圏と抜群の交通条件を活かせば日本最大規模のショッピングセンターを開発することが可能であるとの結論を導き出した。ただし、当該地が従来商業地でないことから本ショッピングセンターは、競合集積地と同等あるいはそれ以上の、商品・情報・文化・アメニティ機能を有する複合開発を行うことが事業を成功させる鍵になると判断した。

事業コンセプト

(1)マーケット認識　事業コンセプトを設定するためにはまずマーケット像を明らかにしなければならない。商圏内のマジョリティの性格をつぎのように把握した。商圏内人口のうち70%は東京都内に生活した体験を持つ人々で占められており、彼らは千葉県に住んでいても地理的に東京に近いこともあり、東京指向が強い人々であることが推定される。また、団塊の世代を中心とした25歳～40歳の世代とその子供により構成された家族が大半を占め、核家族比率も74%になっている。産業別従業者比率もホワイトカラーが62%に達している。このようなデータから、商圏内のマジョリティは、いわゆるニューファミリーまたはニューファミリーに強く影響された核家族で、知的レベルも高く、意識的には「千葉都民」である、と推定された。このことは、アンケート、インタビュー等による住民サンプル調査によっても裏づけられた。

「ららぽーと」は、超大型のショッピングセンターを目指したことから、当然、中心ターゲットをこのマジョリティにおく必要があったと同時に、ニューファミリー層が1970年代後半のマーケット・トレンドをつくり上げた中心グループであったことから、このニューファミリー層に中心ターゲットをおいたマーケティングを展開することが、時代性・地域性にもマッチした考え方であると結論づけた。彼らは、衣・食・住・遊・休・知・美といった物質・精神両面







に及ぶ全生活において豊かさ、ファッション性を求めるとともに、節約と合理性をも合わせもった人々であるととらえられた。単なるブランド指向を脱し、合理的な価格で質の良い商品・サービスを購入しようとする。ショッピングも、単なる商品の集積だけでは満足せず、ショッピングを通じて豊かな生活文化のあり方を吸収できることを欲する。また、自ら豊かなパーソナル・ライフの形成に努め、消費者という受け身の立場から生活者という能動的な存在に変わりつつある。

このようなターゲット像のニーズ・ウォンツと、千葉県内の現存の商業集積地の提供する商品・サービス・情報・文化とが現在どのような関係にあるかを認識することから「ららぽーと」の事業コンセプトの設定がなされた。

(2)事業コンセプトの設定　前述したようなマーケット・ニーズに対し、現存の千葉県内における商業集積地はどこまで対応できているであろうか？千葉県内の商業集積地においては、大型小売店が最も質の高い商品・サービス・情報・文化を提供しているが、それらは東京のミニチュア版・サテライトの水準を出ない。したがって顧客は一定レベル以上のニーズを満たすためには、東京へ出かける必要がある。これは、東京という全国的な超大商圏を有する都市と、千葉県という限られた商圏内での郊外都市・地方都市との必然的なギャップであると考えることもできるが、われわれはそれだけでは割り切れない問題があると考えた。たとえば、東京郊外の吉祥寺について考えてみたい。吉祥寺は、後背地はベッド・タウンであり、渋谷・新宿まで20分足らずの距離にある郊外都市である。大型小売店は、郊外店らしく、都心店のミニチュア版で、個々の店舗の魅力は乏しい。しかしながら、吉祥寺には郊外都市のコミュニティ的性格を強く打ち出したオリジナリティのある魅力あるまちとしてのイメージがある。その結果、吉祥寺は単に都心への客の流出を抑えるだけでなく、都心から若者が逆流してくるまちになっている。

千葉県においても、個々の店舗のマーチャンダイジング力には限界があっても、郊外都市の魅力にあふれる個性的なまちづくりを行うことができれば、東京への顧客の流出を防ぎ、新しい地域文化の創造さえ可能に思われる。ところが既存の千葉県内の商業集積地は旧態依然たる路面店集積と量販店・ミニチュア百貨店の混在に過ぎず、住民に対してコンビニエンス機能は果たせても、まちとしての楽しさ、カルチャー機能は提供していない。

こうしたことから、「ららぽーと」は「千葉都民」意識をもち、千葉県民であることに否定的なイメージをもつ人々に対し、文化的でファッショナブルなイメージを持つ楽しいまちを提供することによって、「ららぽーと」の存在が地域住民の誇りになっていくことが必要であると考えた。「ららぽーと」に出かけるときには、おしゃれをしたくなる、「ららぽーと」にデートに行く、ちょっと気の利いたプレゼントを捜すときには「ららぽーと」に行く。このような顧客の集まる所に新しい郊外文化が生まれ、それがまた、人を集める……。「ららぽーと」は単なる大規模ショッピング・ゾーンではなく魅力あふれるまちとして開発されなければならないという考え方が事業の根幹となるコンセプトとなった。

マーチャンダイジング計画と施設計画

マーチャンダイジングおよび施設計画を考えるにあたって、米国の郊外型リージョナル・ショッピングセンターを大いに参考にした。まずマーチャンダイジング面では、百貨店・量販店を核店舗とし、サブ核店舗を含む約200店の専門店モールを形成することとした。わが国では「ららぽーと」以前にも１Ｄ１Ｓ型のショッピングセンターは少数ながら存在したが、百貨店34,000㎡、量販店15,000㎡の売場スケールをもつショッピングセンターはなく、リージョナル型といわれるものでも百貨店・量販店のどちらか一核により形成されるショッピングセンターが大部分であった。米国とわが国では、同じ名称の業態でも内容的には異なるため同一レベルで論じることに問題はあるが、いずれにせよ「ららぽーと」がわが国で初めて本格的な１Ｄ１Ｓ型のリージョナル・ショッピングセンターを実現したといっても過言ではない。

マーチャンダイジングの中身については、広域対応型でなければならないが、商品・業種の面ではフルラインと特化の組み合わせを基本とした。フルラインの面では、規模のメリットを生かし、できる限りの種類の商品・業種を集めるとともに、グレード的にもハイ・クォリティからボリュームまでバランスよく揃えることを考えた。特化の面では当初、秋葉原、アメ横、神保町のような全国レベルの特化街形成も試みたが、経営的な組み立ての難しさ、全体コンセプトとのバランスの問題等から断念し、店舗のゾーニングの中で特化度を高めたゾーンを形成することにした。その結果、ダイエーのホームワールドおよびイケアを核とするホームゾーン、子供の世界にスケールを合わせたまちに子供関係の店舗を配置したメルヘン・プラザなど広域的に特化性を発揮できるゾーンが形成された。

「ららぽーと」が主要ターゲットとしたニューファミリーは前述のようにショッピングを通じて、生活文化情報を得、そのパーソナル・ライフの豊かな創造に役立つことを望んでいる。このような欲求に応えていくためには、他のショッピングセンターにない商品・サービス・情報が必要であるが、ダイエーの「ホーム・ワールド」、スウェーデンのリビング専門店「イケア」、オランダの衣料専門百貨店「Ｃ＆Ａ」、和食の「五人百姓」、ステーキの「ビクトリア・ステーション」等は、合理的な価格で質が高くユニークな商品・サービス・情報が提供され、顧客の好評を得ている。

施設計画を考えるにあたっても、米国のリージョナル型ショッピングセンターのあり方が参考になった。米国の場合は郊外のショッピングセンターが、その郊外都市の街機能の大部分の役割を果たす








日本建築協会編集部撮影

ケースも多く、銀行・郵便局・映画・スポーツ施設はもちろん、教会やホテルまで併設している例もめずらしくない。このようなショッピングセンターのあり方は、前述の「ららぽーと」の事業コンセプトであるまちづくりの考え方に通じる部分が多い。したがって「ららぽーと」には、店舗以外にもさまざまな施設をつくり、ショッピング目的以外の人々もできるだけ集められる機能を持たせようと考えた。その結果、読売カルチャーセンター、劇場、船橋市のコミュニティセンター、ららぽーと・ピット（屋外映画）、ビデオシアター、迎賓館など店舗以外のさまざまな施設を作ることに成功し、さらに現在本格的な都市型ホテル（ホテル・サンガーデン・ららぽーと）を建築中である。

環境計画

「ららぽーと」を単なる大規模ショッピングセンターではなく、千葉県内の競合商業集積地に不足している郊外都市の魅力にあふれたまちとして創り上げることが事業の重要なコンセプトであった。千葉都民と呼ばれる、居住地域にコミュニティ意識が希薄な人々に対し、地域の誇りになるようなまちを提供することが、「ららぽーと」事業の成功につながると考えた。前述の施設計画の部分も環境計画に含まれると思われるが、ここでは店舗づくりにおける環境計画に限定して述べることにする。

(1)店舗配置　そごう、ダイエーの二核店舗を両端に配し、その間を全長300ｍのメイン・モールで結んだ。メイン・モールからはいくつかのサブ・モールが設けられており、サブ・モールを特徴あるゾーンに仕立てることによって、メイン・モールとは異なった横丁の界隈性を演出してみたいと考えたが、実施段階では十分目的は達成できなかった。専門店の重飲食店は、メイン・モールと平行したオープン・コートをはさんでレストラン・プラザとしてまとめた。

こうした店舗配置は、両端に核店舗を配することによりその間の顧客の回遊動線がつくられることをねらった常識的な配置であるが、専門棟モールの300ｍという距離が不安材料であった。そのため、顧客に長い距離をできるだけ感じさせない配慮が必要となった。

(2)低層構造　郊外都市にふさわしいゆとりと魅力のあるショッピングセンターを創りあげていくには、駅前商業施設のような箱型・高層型の建物は避け、低層・平面型の建物にすべきであると考え、百貨店棟は地上４階（一部５階）、量販店棟と専門店棟は地上２階までを店舗とした。また、吹抜けを積極的にとり入れることにより、空間の均質化、動線の回遊性を計るなど魅力ある空間の形成を目指した。その結果、各売場への均等な回遊動線を生み出すことに成功し、各売場のロケーションが業績に与える影響は小さくできた。

(3)自然のとり入れ　郊外のショッピングセンター・郊外都市の良さを演出する手段として、自然とふれあうことのできる環境づくりを目指した。専門店棟のメイン・モールは２階まで吹抜けとし、トップライトにより自然光を豊富にとり入れている。そのため、モールは季節・天候・時間帯により刻々変化する空間になっており、変化することをその基本的性格とするショッピングセンターに生命感を与える効果を発揮している。メイン・モールにはまた、沖縄から取り寄せたベンジャミーナをランダムに配置し、自然光と相まって外部空間のイメージをエンクローズド・モール内にとり込んだ。千葉県の湾岸エリアは緑が不足していることを考慮し、敷地内に相当量の植栽を行って全体にうるおいを与えるよう努めた。オープン・コート部分では、冬に葉の落ちた植樹を利用して、「光の木」のイルミネーションをつけるなど、季節感を盛り上げる演出にも利用している。

そごう棟では、川や泉をあしらったり、外部に噴水をつくるなど、水を使って自然の演出を行っている。

(4)モール　専門店棟のメイン・モール部分が、「ららぽーと」の環境計画のコンセプトを体現している。「ららぽーと」でしか味わうことのできないゆとりを十分に感じてもらうために幅９ｍ、高さ18ｍのパブリック空間をとり、前述のように自然光と植栽を中心とした環境演出をした。このモール空間の規模は、米国の大型ショッピングセンターのそれには及ばないが、米国とわが国の店舗の間口と奥行きの比率の大きな違いを考えると、ディベロッパーの投資採算の限界までチャレンジした空間と評価されるべきであろう。また、モールに面するショップ・フロントも、ビル建築のスパン・グリッドを感じさせない自由なデザインを行うように心がけた。

モールの中間点にセンター・コートがあり、モールはここで大きくクランクしている。センター・コートは「ららぽーと」内で来街者が最も多く交錯する場所であり、最大のイベント空間であり、また、待ち合わせや休息の場所でもある。オレンジ色のカーペットの上を、裸足で走り廻る子供たちを眺めて思わず微笑んで、ほっとしたような気分になれるのもこのセンター・コートである。イーストおよびウエストの二つのサブ・コートは、メイン・エントランスからの導入部にあり、タテ動線の基点でもあるため、やはり人々が多く行き来する場所になっている。展示など、ミニ・イベントが頻繁に行われている。

このように、専門店街のモールは「ららぽーと」の中で最も魅力的で、活気のある空間であり、300ｍという距離のマイナスを感じさせない効果的な空間となっている。

「ららぽーと」の今後の課題

「ららぽーと」はオープン後３年を経過し、業績は順調に伸びている。昭和60年度予定の国鉄京葉線の開業に伴い、さらに基盤は安定し、拡大することが期待される。来店者も、主力はねらい通りニューファミリー層であり、やや気取った身なりの人が多い。このように、「ららぽーと」はおおむね所期の目的を達成したといえよう。

しかし、社会、とりわけ小売業をとりまく環境は激変しており、「ららぽーと」もその変化に対応していかなければならない。「ららぽーと」にとって、最も大きな変化は、「ららぽーと」が事業コンセプトの柱に置いた顧客ターゲットの変化であろう。ニューファミリーは依然として購買力の中心を占め続けることに変わりはないが、彼らはかつて70年代の後半にそうであったようなマーケット・トレンドを作っていくリーダーではなくなってきている。第三世代、あるいは第四世代と呼ばれるような、豊かな社会に育ち、モノそのものへの欲求度よりも文化的充足欲求が高く、個々人が自分なりの価値観とライフ・スタイルを持ち、情報化社会への適応力の強い世代が、80年代のマーケット・トレンド形成の中心的存在になっている。ニューファミリー層も、むしろ彼ら第三世代、第四世代の人々から影響を受けるようになってきている。「ららぽーと」はそのようなマーケットの変化に対応していくために現在「ららぽーとＰＡＲＴ２」を計画中であり、近い将来にその構想を具体化する予定である。

また、「ららぽーと」の事業コンセプトの柱である魅力ある郊外のまちづくりについては、さらに一歩前進し、前述のように現在本格的な都市型ホテルを建設中であり、スポーツ施設も検討中である。

このように「ららぽーと」は常に変化し、発展していくプロジェクトであり、完結することのない事業であると考えている。今後の展開にご注目いただきたい。

（あべ　ひろし　三井不動産株式会社商業施設部事業課長代理）

神戸ファッションタウン
―アーバンデザインによるまちの活性化―

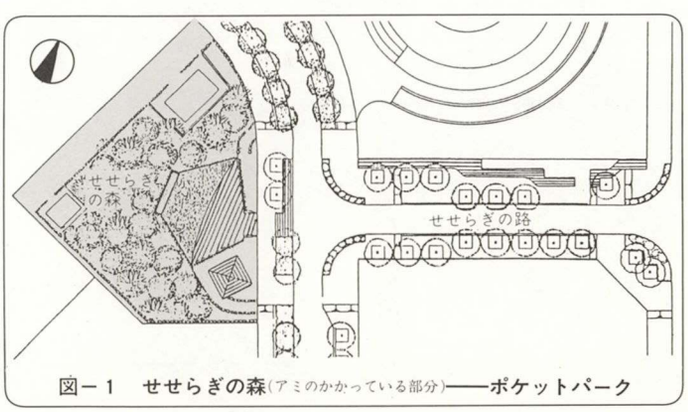
田中直人／鵜飼誠一

ポートピア'81からユニバーシアード'85神戸へ
―コンベンションシティをめざして―

昭和56年9月15日、「新しい海の文化都市の創造」をうたった神戸ポートアイランド博覧会――ポートピア'81は、1,610万人という入場者記録を残して閉幕した。ポートピア'81は、単にイベントによる経済開発効果だけを目的とせず、ポートアイランドのまちづくりの促進剤なり活性剤として積極的に活用された。

「住み、働き、遊び、憩い、学び、集う」という都市の総合機能をそなえた海上都市ポートアイランドそのものを会場とし、わが国初の新交通システム――ポートライナー、国際交流会館、国際展示場、市民広場、南公園などが重要な役割を果たした。これらの施設は、ポートピア'81というイベントに照準を合わせて建設され、期間中は博覧会施設ないし関連施設として使用されるとともに、訪れる人々に、ポートアイランドが通常の埋立地に見られがちな単調で無味乾燥なものでなく、都市そのものが息づいていることをPRすることに資した。またパビリオンの一部は、ポートピア終了後をにらんだ上で建設され、すでに本年4月29日からは会期中プラネタリウム・シアターとされたものが、神戸市立青少年科学館としてオープンされている。パビリオンではないが、入場者の憩いのスペースとして親しまれた〝せせらぎの森〟は、ほぼそのまま保存され、ポートピアの遺産として利用されている。(図－1)

ポートピア'81というイベントの経済効果は種々検討されたが、その最大のものは、生産誘発効果、雇用誘発効果などという定量的に把握されるものだけでなく、〝計画的なまちづくり〟あるいは〝神戸方式のまちづくり〟の一端を実際に見て、何かを感じとってもらえたことではないかと思われる。神戸市民にとっては、従来の港と六甲山という自然景観に加えて、ポートアイランドという都市景観を市民の誇りのひとつにできたのではないだろうか。



図－1　せせらぎの森(アミのかかっている部分)――ポケットパーク

今、ポートアイランドでは〝海の国際文化都市〟の創造に向けて、新たな表情をもって、その第2幕が開かれようとしている。

そのひとつはポートピア'81を契機に建設された〝会議場〟〝展示場〟〝ホテル〟等のコンベンション・コンプレックスをフルに活用したコンベンション・シティへの歩みである。現在、すでに国際展示場の利用率は70%台を維持するとともに、国際会議の開催件数も東京、京都に次ぐものとなっている。またつぎなるイベントとして、来年8月24日から9月4日の12日間、開催される学生のオリンピック、ユニバーシアード神戸大会では、ポートアイランド内の国際展示場、スポーツセンター、ワールド記念ホール等も競技会場として使用される予定である。ワールド記念ホールはスポーツ・イベントだけでなく、コンベンション施設としても利用できる多目的アリーナであり、本施設の完成によって、既存の他のコンベンション・コンプレックスを補強することが期待されている。(図－2)



図－2　インターナショナルスクエア西地区の風景―右手がワールド記念ホール、左手がポートアイランドスポーツセンター(プール)、左手前が国際展示場

そして、そのようなイベントの舞台裏では、さらに次幕へ向けての準備も進められている。それが神戸ファッションの新たな創造拠点をめざす神戸ファッションタウンの計画である。

神戸ファッションの創造拠点――ファッションタウン

従来から、神戸はファッション都市として、すぐれた資質と条件に恵まれているといわれている。

(1)　山と海が近接する豊かな自然条件、坂道のある街
(2)　ハイカラな街、コスモポリタンな街と呼ばれる西欧型ライフスタイルの伝統
(3)　ヒューマンスケールの街

以上のような神戸の風土に育まれて、地場産業としてのファッション関連産業（生活文化産業）は、高成長から低成長へという産業構造の知識集約化、高付加価値化の要請に応え、今日では従業員数、出荷額ともに神戸の主要産業である造船、鉄鋼に匹敵するほど成長、発展している。

神戸が開港以来もっているそのファッション性、国際性に加えて、情報性、文化性の発揮と高揚を図るための「場」が、ポートアイランドの顔、都心ともいうべきインターナショナルスクエア（約32ha）である。ここでは、新しい都市空間のモデルを提示するとともに、街ぐるみひとつのファッションとなることが要請されている。アーバンデザインによるまちの活性化の実験区でもある。

そこでインターナショナルスクエアの中で、ファッションタウンに与えられている基本目標は、

(1) ファッション都市神戸を担うファッション系企業の振興拠点として、明日のファッションをリードするファッションのメッカをめざす。

(2) 広く市民に開放された人間性あふれる快適な都市空間をつくる。

であり、基本的には、ファッション系企業が集積する卸団地であるが、卸・流通機能だけの単一機能の街とすることなく、街そのものがファッションの似合う街並みをもち、自由なファッションの混在が可能で楽しく、人間的な街、換言すれば「働くだけの単一機能の街」から、ポートアイランドのめざす「住み、働き、遊び、憩い、学び、集う」という複合機能の街をイメージしている。**（図－3～5）**

ファッションタウン（分譲敷地10.8ha）には、すでに神戸市内の主要アパレル企業を中心に、33社の進出が決定している。**（図－6）**

ファッションタウンの活性化に向けて

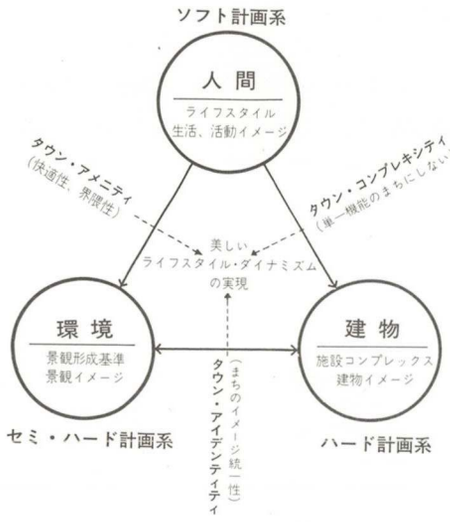
ファッションタウンに与えられた基本目標を達成するための手法も、従来のように「公共」ないし「企業」の単一のアイデア、手法によることなく、「公共」（ディベロッパーとしての神戸市）と「企業」との有機的な調和が図られている。

具体的には、企業から土地分譲の申し込みがあった時点から、無表情な建物を拒否し、表情豊かに、すぐれたファッション感性を有する建物とするため、「公共」と「企業」とで十分な協議を重ね、両者の合意が得られた時点で、譲渡契約の手続きに移行することとしている。そして、「公共」側の規制は最小限にとどめ、多様な価値観のもとで計画される個々の建物と全体との調和を図りつつ、質の高い、個性あるまちづくりを行うことを基本方針としている。

このような個性あるまちづくりをすすめるにあたり、ファッション界隈の演出装置として、どのようなことが考えられるであろうか。また考えるべきであろうか。

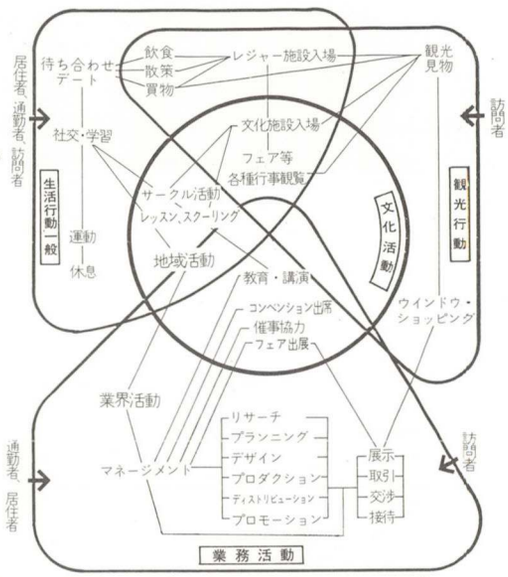
ファッションタウンを活性化し、魅力あるものとするためには、街としてのアイデンティティを、イメージのレベルから実施のレベルへとシフトし、コントロールしていくシステムが不可欠であると思われる。**図－7**に示すのは、ファッションタウン計画に関して、神戸市と神戸商工会議所の作業の中で示されたフローチャートの一例である。そのようなコントロールの領域にかかわる街の演出装置の例としては、**表－1**に示すようにイメージレベルに近いものから、具体的なものとしての事例までが含まれている。いずれもファッションタウンのめざすまちづくりのポリシーを反映した質的側面が重要視されている。

さて、公共空間の整備は、都市景観の形成に大きなウエイトを占めるが、ポートアイランドというまったく新しく、創られる街においては、その先導的、誘導的役割は、はかりしれないほど大きい。

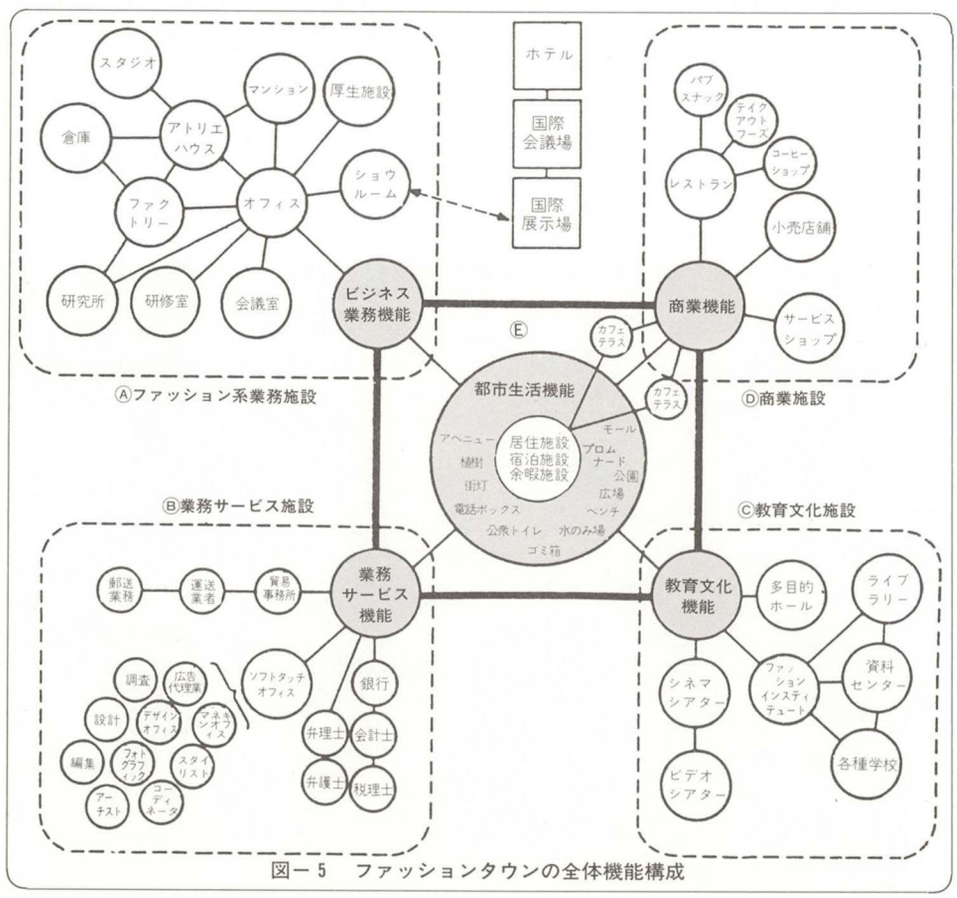


（図－3～5は、「神戸ファッションタウン基本計画」神戸市・神戸商工会議所より）

図－3　ファッションタウン計画の三要素と三要件



図－4　ファッションタウンの活動体系



図－5　ファッションタウンの全体機能構成

そのようなことから、「公共」の役割として、道路、ポケットパーク、植栽、ストリートファニチャー、サイン、照明等の街路空間の整備についても、意欲的に取り組んでいる。

しかし、その意欲の指向するところ、すなわち空間構成のねらいは、単に整然とした街並みを形成することではない。前述のように、ファッションタウンの目標は、国際性に富んだ内外のファッション情報に満ちた拠点づくりであり、この新しい試みを秘めた街における空間構成は、その景観形成においても従来の既成市街地のイメージを打ち破るものである必要がある。

それには、まず景観上の調和と統一に留意する必要がある。すなわち、街路空間を構成する舗装面、植栽、ストリートファニチャー（ＳＦ）、サイン、照明、街路沿いの建物等の意匠、形態はすべて、全体の調和の中で計画されるべきであり、多少の個々のデザインに対する制約はあっても、全体としてのイメージ、相乗効果を期待すべきであろう。各企業の個性的な施設計画を尊重しながらも全体としての調和と統一を図るため、とくに、公共部分と私空間を含めたグランドレベルのデザインにおいて、相互に隣接し合う建物に共通のベースを持たせることによって街路全体に景観上の共通項を設定することに努めた。以上の考えにもとづいて、その平面、断面の計画、舗装、植栽、ＳＦ、サイン等の計画を実施したわけである。

そして、さらに具体的な空間構成上のネットワークとしては、つぎのような事項に留意している。

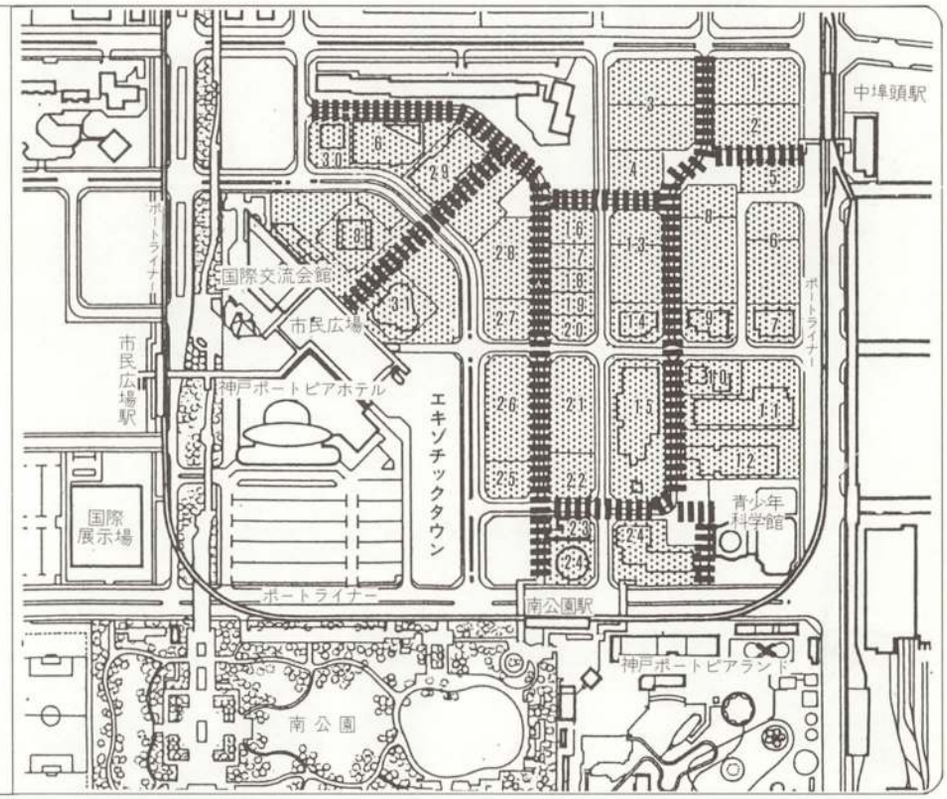
(1) 私空間（３ｍの壁面後退部分）との一体的街路空間を構成
(2) 街路導入部のサイン、植栽等による演出
(3) 交差点部の景観上の節としての舗装、植栽等による演出
(4) 変化と奥行きをもたせるため、ポケットパーク、小広場、公園



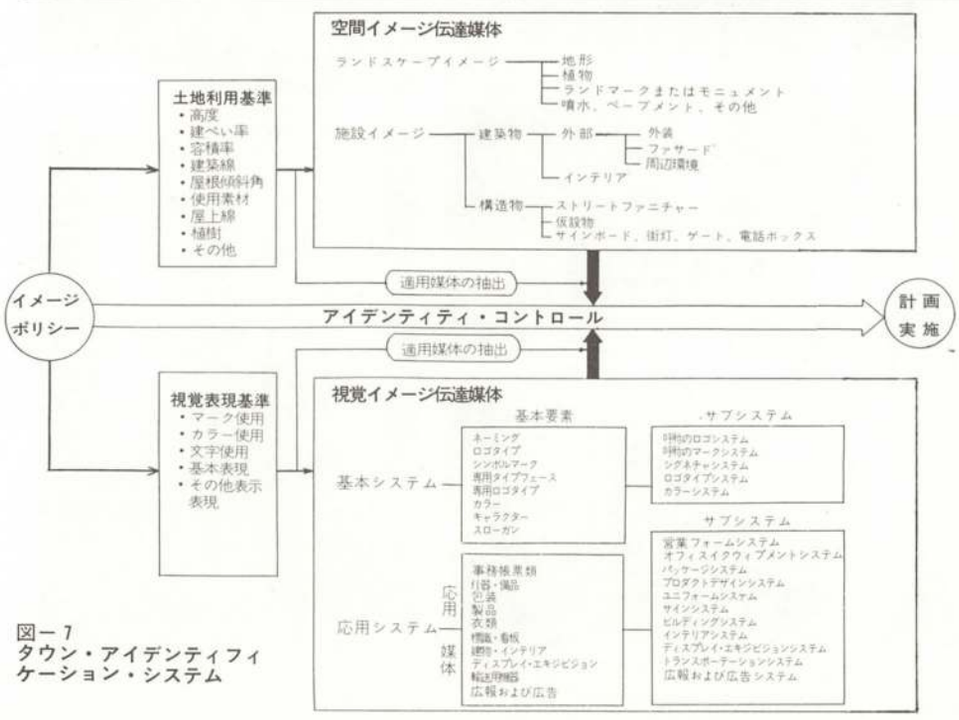
ファッションタウン完成予想図

A	かたつむりの広場	15	ジュン
B	せせらぎの路	16	リオ横山
C	星の広場	17	パール
1	東亜特殊電機	18	メイワ
2	神戸風月堂	19	ヤナイ
3	アシックス	20	マドンナ
4	キャン	21	オールスタイル
5	カワノ	22	キャラバン
6	田崎真珠	23	モロゾフ
7	コナミ工業	24	上島珈琲
8	ワールド	25	モードオリオン
9	レモンリッチガール	26	大月真珠
10	シャルレ	27	ジェルベ
11	コスモポリタン製菓	28	アバン
12	ユーハイム	29	キムラタン
13	比良琥	30	ニッポンインテリアチェーン
14	カイタック	31	ジャヴァ

▒▒ はファッションアベニューを示す。



図－６　ファッションタウン



図－７
タウン・アイデンティフィケーション・システム

表－１　ファッションタウン界隈の演出装置

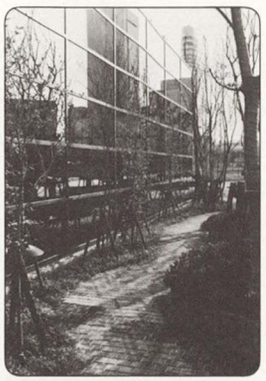
○まちゆくひとたちとのスペクティターシップ（見たり見られたりの関係）
○みちからのとりつき口としてのカフェテラス
○まち文化のサロンとしてのカフェや喫茶店
○まちの一部としてのレストラン、スナック
○ファッションの舞台としての階段
○待ち合わせの空間
○ファッション行動の小さなリーダシップたるブティック
○人をひきよせ、その下を歩きたくなる街灯
○メッセージボードになるウィンドウ
○日除けテント
○よりどころ感とシンボル性を与える彫刻
○やすらぎといこいの水
○やすらぎといこいのグリーン
○すわりたくなるベンチ
○ゴミをそこへ捨てたくなるゴミ箱
○タウンスケープを美しくする電話ボックス
○まちをインボルブする巨大なポスター
○まちを美しく彩るカンパニー・カー
○五感全体の快さをかもしだしてくれるペーブメント
○多様な出会いのドラマが生まれる公園



ファッションタウン風景―左手よりポートピアホテル、ワールド、ジャヴァ



〝せせらぎの路(みち)〟―正面がせせらぎの森、右中央の建物がキムラタン

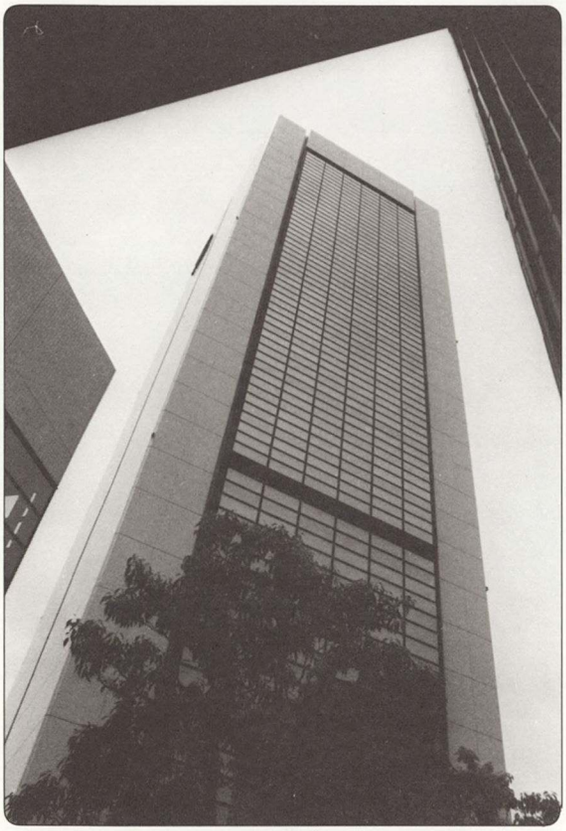


半公共空間のデザイン例―シャルレ北側セットバック部分

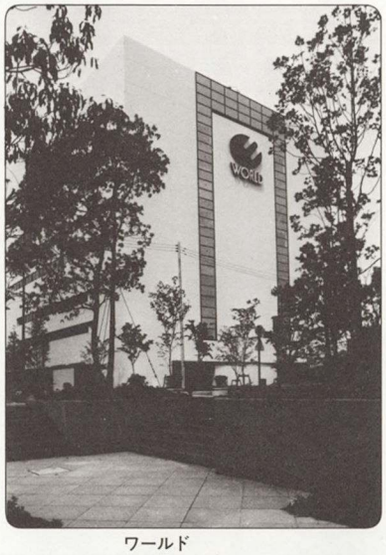


〝光の路(みち)〟に面するレストラン

神戸ファッションタウンの風景スケッチ



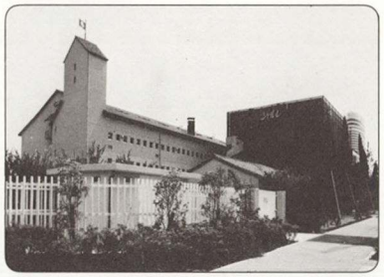
ワールド



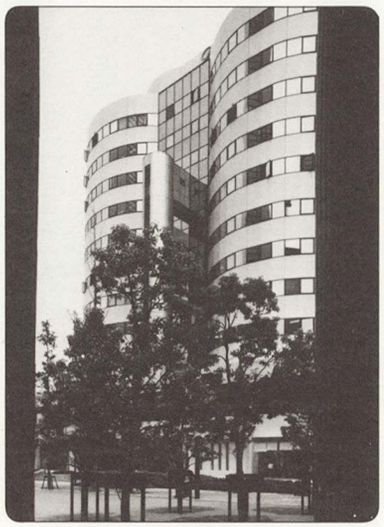
ワールド



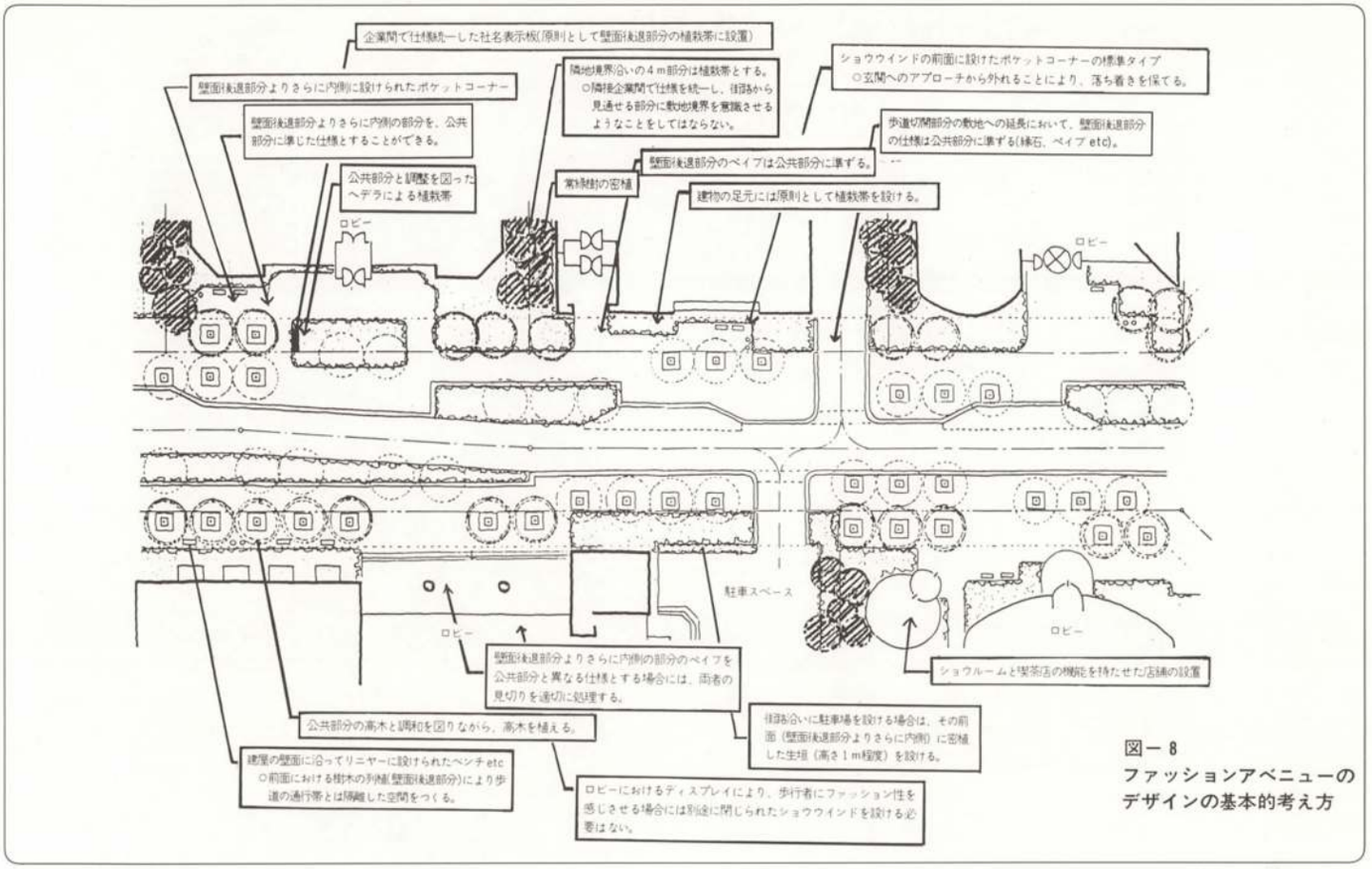
田崎真珠



コスモポリタンとシャルレ



ジャヴァ



図－8
ファッションアベニューのデザインの基本的考え方

等と一体的空間を構成

(5) 私空間（3mの壁面後退部分）に、各企業の計画と調整し、一般市民開放のポケットコーナーを設置

(6) 車道の蛇行による視覚的変化、リズムの演出と人間優先の街路空間を確保

等々である。**(図－8)**

しかし、道路などのハード面のみの整備によって、人が自然に生き生きと集うと考えるのは、あまりにも楽観的であろう。ものとものとの体温を感じさせるような〝かかわり〟が必要となる。〝かかわり〟方のありようによって、見ばえのよいハードを存分に生かすことが可能となる。〝かかわり〟を考え、創り、守り、育てるのは「公共」ではなく、そこで働き、憩う人間の作業となる。

このような考えのもとで、道路などのハード面の整備が完了した今年度からは、本来のまちづくりの主役である「企業」にバトンを手渡しつつある。すでに、昨年春には、ファッションタウン進出企業および隣接する街区に進出しているホテル等を構成員とする神戸ファッションタウン協議会（略称K.F.T）が設立され、いわゆる神戸方式とも言われる公共主導型都市づくりに、これらのファッション系企業が感性豊かな魂を入れつつある。とくに、まちの活性化に向けての方策は、すぐれた時代感覚にもとづくものであり、ファッションという時代の産物を生み出している企業の創意工夫に期待するところが大きい。

今後の課題

幸いにして、進出企業の積極的な姿勢に裏打ちされて、順調にファッションタウン計画は推移しつつあるが、新しい試みゆえに、今後超えなければならないハードルもいくつか残されている。残されたハードルを、いつ、どのように超えるかによって、ファッションタウンのみならずポートアイランドという大きな実験都市の最終評価がなされると思われる。

まず第一に、時間とかかわりなく存在する問題としての、〝神戸らしさの再確認〟という作業がある。ファッションタウンは単純に第二の原宿、六本木をめざすだけでなく、〝神戸らしさ〟を再確認、昇華したものである必要がある。換言すれば、ファッションタウンは、原宿、六本木を超えた街とする必要がある。かつ、ファッションタウンが表現する神戸らしさは、母都市としての既成市街地にまでインパクトを与えるものであることが要求される。

第二に、ファッションタウンという街の中心は、住民たるファッション系企業であり、その経済的活動に街の活力を見出さざるをえないという点である。かつて、「古代都市の中心は神殿であり、中世都市の中心は教会であり、近代都市の中心は工場である」と批判された。現代は、その転換期にあるとされている。ファッションタウンは、ファッションという生活文化産業を担う神戸のリーディング企業群が主役の街である。つまり、まちの活性化と企業の活性化が密接にかかわらざるをえない面があることから、企業ないしファッション産業の活性化策を講じていく必要がある。そのためには、小さくても時代感覚を先取りしていく中小零細企業群をファッションタウンの中に導入することが可能となるような手だてを検討していく必要がある。

第三には、すでに進出を決定している企業は、積極的にホール、ショールーム、喫茶、レストラン、文化教室などの付加的機能を、従来考えられなかったレベルにまで取り込んでいることから、既成市街地と一体となった有機的な文化ネットワーク、観光ネットワークのポイントとなりうる可能性をもっている。今後、徐々にこれらのネットワークづくりに着手することによって、神戸らしい、トータルファッションの創造拠点となりうるのではないかと思われる。

（たなか なおと　神戸市開発局計画課
うがい せいいち　財団法人ユニバーシアード組織委員会事務局総務部）

巷探訪記—新世界と新開地—

赤い灯、青い灯
いつの日にも人々の心の中に残るまちの顔
時が過ぎ、いつしか人も変わろうと……
私たちの父母も、そしてその父母も、その中で
動めく、きらめく、あこがれの街かどだったのか……
今や、都市（まち）の新しいベクトルから
置いてきぼりを食ったように、ポツンと残る
なつかしくも、哀しく、その中で青春の灯をともし、
哀楽の旋律の中で、想いをはせる人は今はどこに……。
この街はよみがえるのか？
建築と社会…僕たちはその街かどに出かけた。
どこからやってきたのか、けったいなグループは、
夜の巷をくねくね、うろうろ……
果たして、何に出会いめぐりあったのか……
足で感じ、舌で感じ、体で感じた24時間ルポであった。

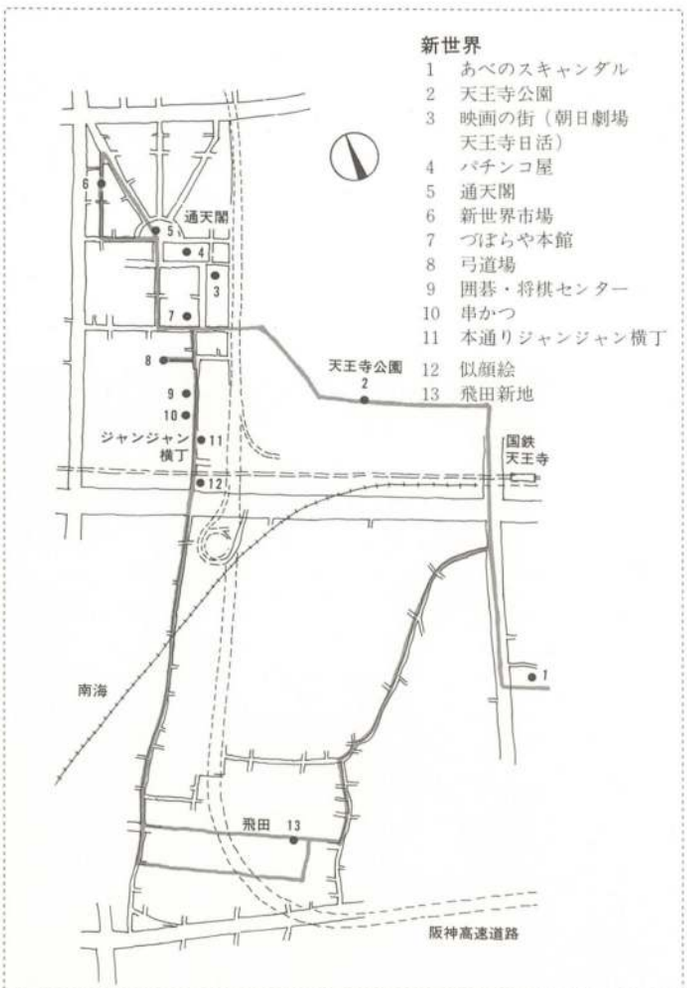


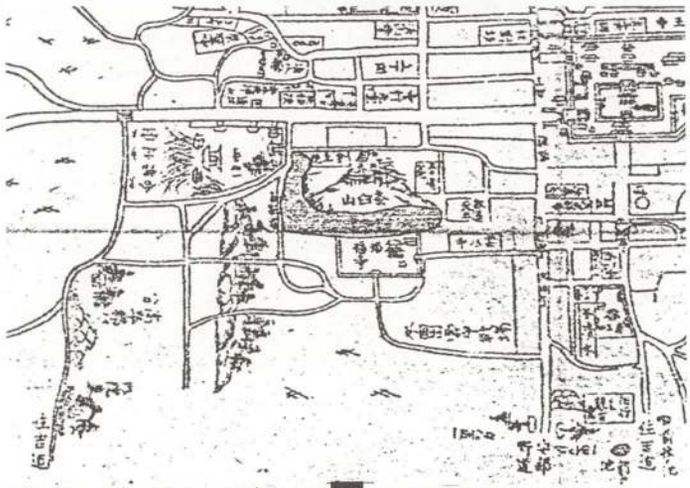
大正13年のルナパーク
「大阪市パノラマ地図」
（ワラヂヤ発行）

新世界 明治36年３月１日から７月31日の５ヵ月間で530万人の入場者を数え、戦前では日本最大のイベントといわれた第５回内国勧業博覧会が、当時、狐もいたという茶臼山から恵美須町にかけて10万４千坪の主会場で開催され、その後の大阪の文化発展に大きく影響した。その跡地利用により二つの計画的都市空間が生まれた。

明治42年に東半分（49,500坪）が天王寺公園として整備された。そこには博覧会施設も引きつがれていた。その後大正４年には公園の西側に動物園が開園される。

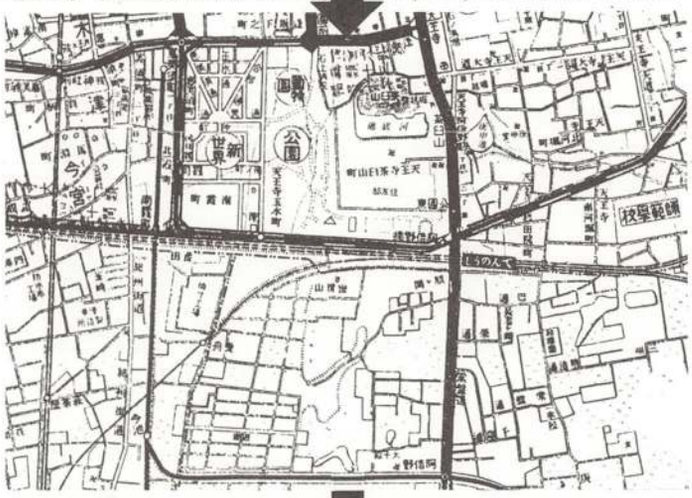
また、西半分（25,000坪）が大阪土地建物会社に払い下げられ、明治45年７月に、アメリカのコニーアイランドを模したといわれる大娯楽園「新世界ルナパーク」が開園される。その中心に、パリのエッフェル塔をモデルにした高さ64ｍの鉄骨の塔「通天閣」がシンボルとなった。そして、世界館（花月亭）、浪花倶楽部など映画・演芸場が巷を埋め、新世界は興行の街として形成されていった。通天閣はその後、昭和18年に下部が焼け、鉄資源供出で解体され、今日見られるのは、二代目で昭和31年に再建されたものである（高さ103ｍ）。今も映画館・劇場や、呑み屋などの飲食店の多い歓楽街ではあるが、昭和40年頃から「あかんようになった」ということである。





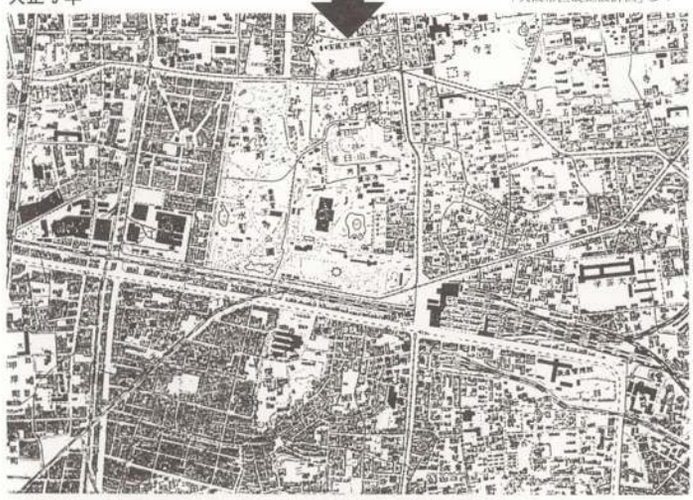
明治５年　田畑の続くのどかなところ

「大阪建設史夜話・大阪古地図集成」玉置豊次郎著



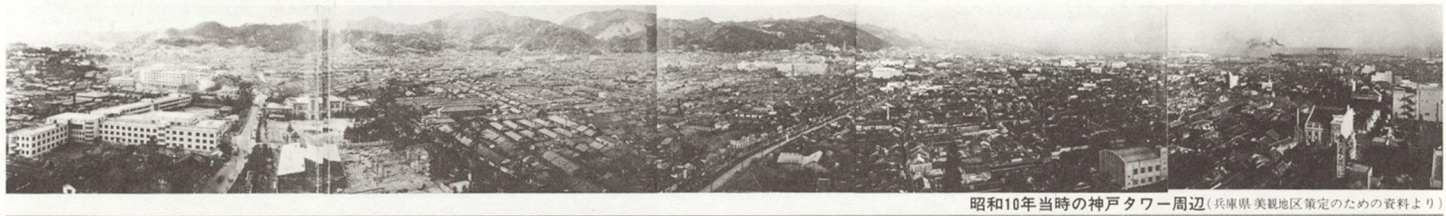
大正９年

「大阪市区改正設計図」より



昭和31年　飛田を二分割する暴力的な高速道路はまだ開通していない

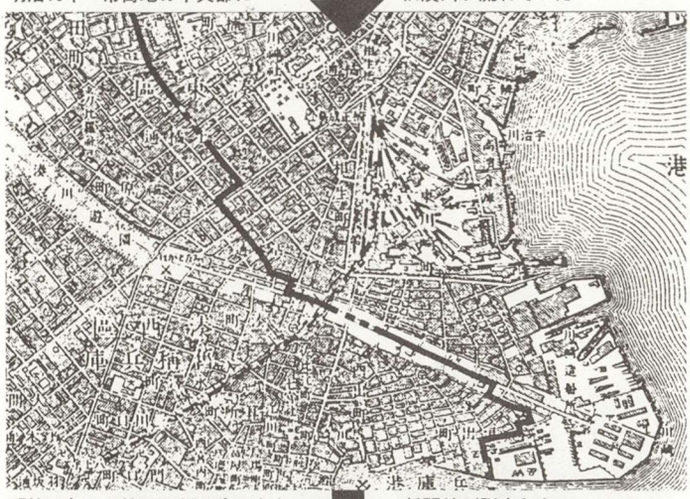
新世界



昭和10年当時の神戸タワー周辺（兵庫県 美観地区策定のための資料より）



明治18年　市街地の中央部に　旧湊川が流れていた



明治43年　旧湊川は埋め立てられ　新開地が誕生した



昭和10年　新開地

新開地

新開地 旧湊川の川筋を、当時まだ市街地のはずれであった２kmほど西の西尻池村の方へ付け替える工事が完成したのが、明治34年11月。明治38年には旧湊川の堤防埋め立てが完成し、その細長い埋立地が新開地となり、相生町にあった芝居小屋の相生座が立ち(明39.12)、明治42、３年には活動写真の電気館、日本館が、やがて敷島館、朝日館、菊水館、松本座、錦座、湊座などが相次いで誕生。明治の終わりには歓楽の町の顔がすでにできあがっていた。大正２年９月には東京の帝国劇場を手本にした聚楽館が華やかにお目見えし、新開地は、戦前までは神戸第一の娯楽の殿堂として栄えた。

大正10年以前、湊川トンネルやタワーが出来るまでの湊川公園は、湊川遊園地と呼ばれ、新開地に人があふれると、ここで、博覧会や展覧会などの種々の催しものが行われた。大正10年以降、公園の形態も整い、名物のタワーとともに話題は絶えなかった。

大阪の新世界は、当時日本一のイベントである第５回内国勧業博の跡地利用として公園を生み出すことも含めて、一括払い下げられ、〈通天閣ルナパーク〉として開業したが、まちづくりとしては、オスマンのパリの街路網を模したようなタワーの下から放射状の街路と区画をもっていた。新開地の方は、旧河川の埋め立てで、市街地の周辺部にあたり、神戸駅から近いこともあり、それこそ新開地として急速に発展した。それはまた、明治28年の日清、明治38年の日露戦争のあとの都市化、都市の膨張拡大の時期でもあったわけである。

それにしても、新世界と新開地は類似点の多い街である。街が出来た時期も明治30年代末から大正にかけてであり、遊園地に公園があり、遊廓が隣接し、映画館や劇場を主体とした歓楽街であった。

そして、現在はともに街がさびれてきているという共通点にさらされているということ……。



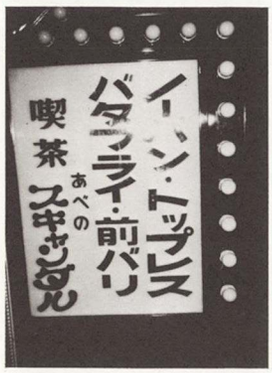
新開地
1　びっくりうどん
2　三角公園
3　本通り
4　簡易宿泊所
5　劇場（ストリップ）
6　マンション
7　キリスト教会
8　パチンコ屋
9　八栄亭
10　福原
11　湊川公園
12　湊川中央市場
13　湊川温泉跡

1

〈あべのスキャンダル〉

●SEXをメディアにして、ゲームやショーのようなものがあり、ネアカの笑いの場——大阪のMANZAIにつながる——をつくっている。店の中は笑いと熱気が感じられ、ここだけは一つの活性化を感じさせる。

街の活性化や、商業の活性化は、消費者のニーズや時代の気分を反映しなければ、ただ、〝物〟をじかに出しても、受けないことは、自明であるが、ここをみていると、時代の気分とともに個店の努力や工夫があり、〝飛田〟なんかをみると、昔の時代だけがあるように思われた。



●ノーパン、コーヒー一杯7980円、虚構に虚構を重ねた世界。都会の摂理か不治の病理か。

でも文学が虚構の真実ならば、これはひょっとしたら文学か？

2

〈天王寺公園〉

●新世界に隣接する天王寺公園の歴史は、明治42年に、第5回勧業博のあとに、北の中之島公園に対して、南に公園がいるということで出来たらしい(？) 公園の東側（天王寺駅からの入口側)は、西欧の宮廷公園風の、様式公園である。そこでは、人それぞれの休息や、おみくじの屋台、宗教の布教、浮浪者のたたずみ、がある。——それは、時間の休止であり、一種の音のない世界としてある。

反対側（西側の新世界方面の入口）には動物園があり、入口の前には屋台や香具師が店を出して昔なつかしい世界を展開している。

●オーソドックスな美術館。注意深く計画された庭園。ゴミの山。野宿。アベック。音楽。説教。

沈黙のうちに、すべてが塗り込められていく不思議な都会の一画。

3

〈映画の街〉

●明治45年に初めて新世界に映画館が出来て以来、洋画の封切り館中心の神戸新開地に対して、二番館の多い庶民的な映画街としてにぎわった。昭和51年には16館の映画館劇場があったが、現在は、次々と閉館され、12館となり、〝映画の街〟がパチンコ屋に変わっているようである。昨年5月には老舗映画館〝公楽座〟（昭和5年建設)も取りこわされ、秋には小劇場とパチンコ屋に生まれ変わった。昨年2月に、そのこわす前の公楽座を中心に、若者達が〝大阪映画まつり〟を開き、1週間に5000人を集め、根強い人気があることを証明した。

今、〝下町の玉三郎〟とか〝ナニワの杉良〟と、大衆演劇のスター達は、ここ新世界や今里といったダウンタウンから、全国に昇って行く！

新世界では〈浪花クラブ〉と〈朝日劇場〉が次のスターをと競っている。(年中無休)



●足をひきずりながら、隣のポルノ映画館とまちがえて入って来た老人は、ひと晩うまく過ごせたろうか。

あの人は、きっとおおいなる詩人。

4

〈パチンコ屋〉



●昔から映画の街として有名であったが、昨年から今年にかけて、パチンコ店の開店があいついでいる。昭和50年から9店であったものが、現在15店が軒を並べ(6店増加)、映画館12館を押しのけて主役の座を占めている。それも映画館や大食堂が用途転換している。このことは、まちづくりの方向としてどう位置づけられるのだろうか？

●街の一画が明るいと、そこはいつもパチンコ屋。

ブロイラーは、むりやり光をあてられて、むりやり餌を食わされるらしい。ちくしょう。また毛をむしられた。

5

〈通天閣〉

●黒い鉄骨の肌と、大きなネオン。あまりにもさびしくて、あまりにもかわいた風景だからこそ、忘れることの出来ない心のふるさと。

●新世界の真ん中にある。パリのエッフェル塔を真似てつくったといわれ、現在の通天閣は、二代目であるそうな(昭和31年再建)。高さ地上103mの鉄骨造で、90数mのところに展望台がある。ボクも修学旅行で昇った気憶がある。再建当時は100万/年の入場者があったが、現在は、1/10に落ちているとか…（当時の入場料50円、今、500円)。現在、タワーはランドマークとしては機能しているようだが、それにしても超高層の時代に500円を出して上にあがろうという人がどれだけいるというのだろうか？ 建て替えるとするとどんなアイデアがあるだろうか？





初代通天閣
明治45年
建造

6

〈新世界市場〉

●どこにでもある品物と、どこにでもある活気。新世界はどことなくふうがわりだから、市場もふうがわりだと思うのはおお間違い。だってそんなふうに生きているんだから。

●現在の新世界地区の北側は、近隣の住民のサービス機能をもつ。（南側は、市民の歓楽地である）新世界本通りが表の顔とすると、それから少し横道に入ったところに、新世界市場がある。店舗は45店くらいで、うち食料品関係が半分強で、近隣の生活と胃ぶくろをまかなっている。——たしかに安いことは安いと思った。

新世界

新開地

1 〈びっくりうどん〉



●今でこそ、うどんやは至る所にあり、チェーン店化したものも珍しくないが、この店は正真正銘の老舗であろう。かつての三角公園に面するこの店頭には今もユニークな看板が頑張っている。どんぶり鉢からはみだしそうにまで、盛りあがったうどんをみて、幼き頃の私には、自分の頭以上のかたまりを感じ、驚いた。量だけではなく、何かほのぼのとした味わいも忘れられない。かつて〝エートコエートコ聚楽館〟でならした聚楽館も近くになく、この店の当時の雰囲気を想像するしかない。

●昭和10年頃、「びっくりぜんざい」の店が新開地の名物になっていたという。劇場・映画館という非日常性を重んじる施設に附帯する店として、食いものまでもびっくりして食う必要があったらしい!?



昭和10年4月撮影　神戸新聞社「むかしの神戸」より

2 〈三角公園〉

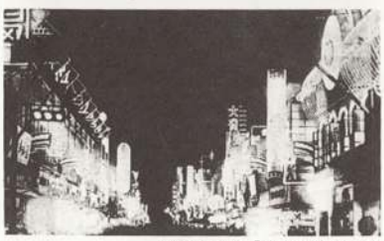
●市電の走っていた頃は市電の停留所に待合所。戦後はバスのターミナル。「よくあそこで待ち合わせしたものよ！」と八栄亭のママさん。今は地下鉄の開通で人も活性化もみんな地下へ。



昭和7年ごろ撮影　「むかしの神戸」より

3 〈本通り〉





昭和9年撮影　「むかしの神戸」より

●明治38年に旧湊川の埋め立てが完成し、この細長い埋立地が神戸ハイカラの新しい舞台となった。劇場文化の過ぎ去った今、この街は何を活性化の主役に、生まれかわるのか？

4 〈簡易宿泊所〉



●新開地本通りを浮かれ気分で漫歩き。突然、簡易宿泊所の看板。活性化に穴があいたようで、「あれ!?　場違いだな」と思うけど、映画館・劇場群の跡を埋めれる大型施設といったら……？

5 〈映画館〉

●かつての新開地大通りに面して数多くの映画館があった。神戸はわが国最初の映画上映があったところである。



●あの隆盛を極めた劇場・映画館の群れ、聚楽館・相生座・栄館・キネマ倶楽部・二葉館……。今、神戸文化の残滓というには余りにも無残なありきたりの歓楽施設。



聚楽館　大正時代撮影　「むかしの神戸」より

6 〈マンション〉

●新開地本通りに面して、高い仮囲いのある所が少なくない。その壁面には、堂々分譲予定の広告が掲げられている。新開地本通りの顔は、将来、このようなマンションの1、2階を占める店舗によって形成されるのであろうか。マンションには、一体どのような人が住むのであろうか。駐車場や空地として残されている所には、一体何が建つのであろうか。新開地にかつてのにぎわいを取り戻そうという地元の願いと、神戸西部市街地の再開発を担う行政等のプランナーサイドの方向付けとは、どう競合していくのであろうか。その行方が注目される。

●本通りに面して「マンション分譲中！」の大看板。多少異和感はあるがジェーン・ジェコブス女史流にいけば、衆人看視の眼があって、街は活性化した良い街になるのかな。



7 〈隣の教会〉



●街のバランスとしては歓楽街にも教会は必要なのでしょうが、よりによってパチンコ屋の隣とは!?　活性化の白地図のその部分を黒で塗りつぶしたようで、幻滅です。

7・10
〈串かつ〉〈てっちりのづぼらや〉



●ジャンジャン横丁には食べもの屋が多いが、なかでも串かつ屋が何軒も並んでいる。〝串かつ〟は一本50円で安くてうまい。牛のもも肉を串に刺しコロモをつけて油で揚げたやつを、甘口のソースにどっぷりとつけて食べる。〝どて焼〟とともに有名である。また、TVのCMで知られる〝ふぐちょうちん〟のカンバンをさげている〝づぼらや本店〟が、新世界の真ん中にある。ふぐ料理を大阪一安く、年中食べさすことで有名である。——こういった味の店、安く食べさす店、大衆食堂などがまだ多く残っていることが新世界の特色でもあり、庶民の街というイメージを形づくることになっていると思われる。それが、この街にとってよいことかどうか？

●ころもが大きくてボリュームのある串かつ。名物のどて焼きはほとんど油のかたまり。でも味はなかなかのもの。金持ちでも、貧しくても、味はいっしょ。

●でっけえ看板つけやがって！　こんどきたら入ってみよ！

8



〈弓道場〉

●けったいなところに、けったいなものが！
そういえば昔からあるけども、いちどやってみようかな！

9
〈囲碁・将棋センター〉

●「へふーけーば、飛ぶような将棋の駒に……」の歌などで有名な、「坂田三吉」ゆかりの地であるからか、将棋クラブが多く、どこも賑わっている。夕方から夜にかけては、店の外にまで見物客などで人がたかり、あふれている。

●7六歩、8四歩、7五歩、3二金。「おっさん、ここで3二金は悪手やで！」「えーねん。わいの考えや。」人の勝負に口は出すまい。みんなだまって、会話をかわす。



11
〈本通りジャンジャン横丁〉



●なんとなくみんながそこに集まるから、みんななんとなく集まっている。みんな顔を知らなくて、みんな話をしないから、みんななんとなく集まってくる。

●新世界の南玄関にあたる。地下鉄御堂筋線の動物園駅を上にあがり、大きなパチンコ屋の横を北へ。国鉄のションベンくさいガードをくぐると、3mくらいの幅の商店街に出る。そこが、今、庶民の街の代表のようにいわれる〝ジャンジャン横丁〟である。一歩足を踏み入れると大阪のニオイに取りかこまれる。〈串かつ〉〈どて焼〉〈囲碁・将棋〉〈ブーマージャン〉〈トン汁めし〉〈びっくりぜんざい〉〈はかり売りジュース〉〈古着屋〉〈立ち呑み屋〉、真ん中に〈温泉劇場〉。その中にあった〝新世界花月〟は、大阪の芸人のデビューの場、修業の場であったが、先年幕を降ろしていた。それが、角座の代わりに、また寄席が復活するとか？

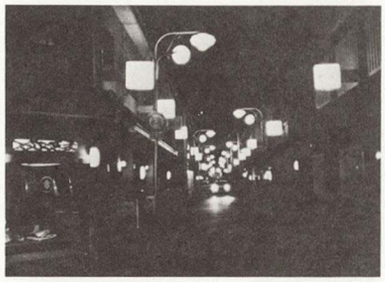
12
〈似顔絵〉



●なんでガード下でやってるんだろう。わかった。暗いからだ。

13
〈飛田新地〉

●明治45年、大阪「南の大火」で、難波新地乙部遊廓が焼けた。このため大阪府は、天王寺付近飛田に2万坪の敷地を求め、「遊廓地設定」を決めた。この指定に対して婦人解放運動の団体などから反対の声があがったが、大正7年に飛田遊廓は発足する。昭和33年売春防止法の施行で遊廓は廃止されたが、現在、街のたたずまいは、昔の姿をのこしている。特に中心にある〝百番〟は当時の様式をそのまま残しているが、街の活気という点では、人通りもまばらで、灯が消えたようになっている。



●どことなく密(ひそ)やかに、どことなくはなやかに、話し声も足音も、笑い声も、顔つきも、みんなおさえて歩きましょう。

新世界

8 〈パチンコ屋〉



●かつてここには、松竹座という寄席の劇場があった。かしまし娘やダイマル・ラケットなど、なつかしい顔が、通りに向かって、大きな看板から笑いかけていた。隣にある教会とは何とも奇妙な取り合わせであるが、今はきらびやかなパチンコセンターとなっている。パチンコは庶民のゲームの中軸として今や不動のものともいえようが、何か新しくて、広い店構えに比して人の入りが少なく、チンジャラの音にも何か淋しさが感じられた。

9 〈八栄亭〉



●〝よう焼いて〟がなまってこの店名になったとか、また先代の女主人が八重さんであったとか、とにかくにぎやかな焼き鳥屋さんであった。下の店（下の道路に面した下層階の店）は何か昔からのけむりとにおいがしみついたようなたたずまいが感じられる。〝このあたりは何があった、誰がどうして、ああして〟と話好きの女将の話し声には、先代から受け継いだ店の気風をそのまま残しているようであった。近くで、目立った広告は〝ビオフェルミン〟と〝グリコ〟ということであった。

●松竹座から福原へ抜ける横丁のつき当たり。三代にわたる焼き鳥の老舗。「１円あったら活動写真見て、福原で遊ぶ」時代から、要の位置で食の活性化に貢献しています。

10 〈福原〉



福原中之町　明治10年撮影「むかしの神戸」より

●神戸の色街〝福原〟は赤線の灯が消えた今も、〝ニュートルコ〟として多くの店々がネオンきらびやかに夜を彩る。年増のおばさんの〝お兄ちゃん、エー子おるで〟〝チョットどない、寄っていって〟の声も、通りすがりの軒々に順々に波うつようにひびきわたる。

街角に止めたタクシーの運ちゃんの〝この頃はここも不景気であかんわ〟というボヤキを聞くうちに、横をしょぼくれた中年グループが通りすぎていった。どこで飲んでいたのだろうか、一人だけ〝行こうや、行こうや〟と強がっていた。おっさんが行く店には、厚化粧をしたおばはんがいらっしゃいませを言ってくれるのだろうか。昔ながらのくるわの情緒の中に、雄琴式が入りこんで、今やそれも斜陽ということだった。ホテトル、デートギャルの大阪方面とはちょっと違う街のたたずまいといえるかも。



●明治４年に東川崎町から移転。昭和元年には娼妓の数1283人に達し、きわめて夜の活性化に貢献した福原。今は、やりてばあさんが遠慮がちに声をかける衰退の街。

11 〈湊川公園〉



神戸タワー
昭和４年ごろ撮影「むかしの神戸」より

●かつて湊川という天井川が、現在の新開地本通りを通り抜けていた。その手前に広がっていたのが湊川公園である。楠公さんの銅像が、群れ集うハトとともに名物であった。ここには、今はもうないが〝ビオフェルミン〟の広告でよく知られた神戸タワーがあった。現在この公園は、神戸まつりの兵庫区民の集いの場として使用されているようであるが、普段の日には何か心さびしい雰囲気が漂っているのも、時代の流れだろうか。

●大正13年開業の「神戸タワー」が、この湊川公園にあった。活性化のシンボルとして新開地の街を睥睨していたという。

12 〈湊川中央市場〉

●神戸市内でも有数の庶民の台所。後背地としてある兵庫区をはじめ、中央区、北区、長田区とその対象エリアは大きい。パークタウンに連なる幾筋もの市場の通路を行き交う人々にクロスして、威勢のよい売り声、掛け声が飛び交う。さりげなくあちこちに残された地蔵尊やお宮に、商売人の頼りとする心のスペースを見る想いがする。高層住宅の低層部にもにじみ出したような市場の活気に、神戸っ子のエネルギーを感じる。

13 〈湊川温泉跡〉

●新開地にも温泉はあった。少し古い表現を使うならば、〝ヘルスセンター〟とも言えようか。映画全盛時の映画のもつ集客力にプラスして、さらに、家族がゆっくりくつろげる大浴場やマッサージ、食事といわばレジャー施設としてのスーパーコンプレックスの形態であったといえる。今は取り壊されて、ポッカリ空いた敷地の、脇に取り残されたストリップ小屋から、兄ちゃんの誘い声が路地にひびいていた。

●新世界・新開地、いずれの街も同じような生い立ちをしているね。勧業博覧会の跡地と湊川埋立地、劇場・映画館といった当時の最も進んだ文化施設を主軸とする一大歓楽街を忽然として出現させた。それに飛田・福原の大遊廓がドッキング。これ以上の街の活性化はありえないといったくらい人が満ちあふれたらしいけれど、戦災の次に、33年の売春防止法による遊廓の禁止、劇場・映画館の構造不況と続き、砂上の楼閣が足元からすくわれたといった形になったようだね。街が活性化を保つには、その時代その時代の最も進んだ文化施設を組み込んだ形でどんどん生まれかわっていくか、歴史的特性や地場産業といったその街のアイデンティティーを全面的にうちだしていくかの、いずれかしかないのかね。

●劇場都市とか、都市は劇場である！とか、劇場は都市の比喩として使われるが、今、劇場のおもかげはうすれている。これが本当の劇場の姿であるなら、都市も早晩みる影もなくなるということであろうか？　都市にドラマを！

●「今後街がどうなるのかな!?」　街は、ちぐはぐなところがおもしろい。街には矛盾が満ちているからおもしろい。街にはみんな知ってるうそがあるからすくわれる。みんなで街を良くしよう。

ぐるーぷ・ちまた（岡田信幸／柏木浩一／田中直人／本多友常）

新開地

ザ・エルシィ

所 在 地：神奈川県川崎市中原区小杉町1－403
竣工年度：昭和56年 9 月
規　　模：B1、8F、延面積10,386㎡、別館延面積4,000㎡
施　　設：客室80室、レストラン11店、バー・ラウンジ 2 店、式場施設 6 、洋室宴会場大小12室、日本間10室
計画主体：事業主／小杉会館
設計／RIA建築綜合研究所
施工／大林組

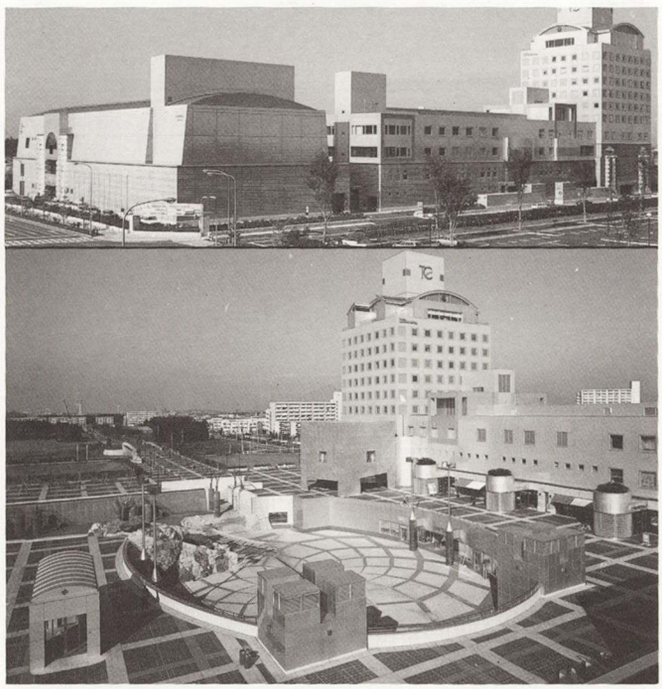
「結婚式場小杉会館」として昭和39年発足以来、結婚式場運営を主体に、和洋中レストラン・各種宴会を手がけてきた当社が、3倍の面積になんなんとする新館建設に当たって目途したものは、当時駅をはさんで100 mくらいの位置に同時併行的に計画されていた、20,000㎡に及ぶイトーヨーカ堂の新設、「東急ストア」のリニューアル等、大型物販商業施設との競合を避け、飲食集積に徹することであり、まちの活性化、ライフ・サイクルの変化に対応できるコミュニティーセンターとしての役割を十分に果たし得る施設創造へのチャレンジであった。
それゆえに20年近く地元に親しまれてきた「小杉会館」の店名を、旧いフィーリングと結婚式のイメージが強すぎるということから、「ザ・エルシィ」と改名した。これは私どもの施設が「エレガント、ライフ、シティ」、優雅な生活の街でありたいという願いと決意の表現でもあった。
新館と、そしてリニューアルのなった別館とで、相乗的、総合的飲食施設を目指している。（大串泰治／株式会社小杉会館専務取締役）



つくばセンタービル

所 在 地：茨城県新治郡桜村大字花室字千上前1364
竣工年度：昭和55年 4 月～昭和58年 6 月
規　　模：SRC造、RC造、S造、B2、12F、P2、敷地面積10,642㎡、建築面積8,379㎡
施　　設：ノバ・ホール、つくばインフォメーション・センター、吾妻公民館、筑波第一ホテル、店舗、銀行、地下駐車場、中央広場
計画主体：事業主／住宅・都市整備公団、研究・学園都市開発局
設計／磯崎新アトリエ
施工／戸田・飛島・大木・株木建設共同企業体

筑波研究学園都市は、現在、生活のための基盤施設の整備をほぼ完了し、約50の国等の研究教育機関が活動を開始している。今後の課題は、中心市街地の整備と周辺地区の開発を促進することにより、都市の熟成と自立を図ることである。
そのための強力な起爆剤として、都心部の核となるべき「つくばセンタービル」を整備し、今後の都心の環境水準を良好に導くということが、開発者側の意図にあった。この意図に基づいて「つくばセンタービル」は、都市に必要なサービス施設のうちホールなどの公共的に整備すべき施設の一部と、ホテルなどの民間にとっては危険負担が過大となる恐れの強い一部施設とを複合し、最小限のサービス施設として、公共主導により整備されたものである。
設計にあたっては、近代都市計画の典型としてできあがりつつある筑波研究学園都市の中心部に、迷路性・劇場性・複合性・両義性・象徴性などを実現することによって、都市の魅力を醸成しようとしての可能な限りの創意工夫が磯崎新氏によってなされている。
多数の関係者の協力のもと、昭和58年 6 月にオープンした「つくばセンタービル」は、現段階においては、いまだ初期の意図が必ずしも完全に実現しているとは言い難いが、相応の効用は発揮されており、地域住民に好評を博している。今後、それぞれの施設が有効かつ有機的に利用されることにより、開発者の意図が実現され、表情豊かな風格のある都市へと発展してゆくことが期待されている。（野沢孝男／筑波新都市開発株式会社）

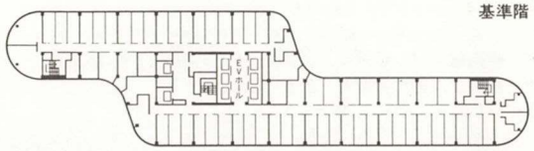


事例紹介
スーパーコンプレックス
超複合施設

都市のサロンとしてのホテルやコミュニティセンターとしてのショッピングセンターなど――とくに超複合化した商業施設――は、まちの活性化にとって見逃せないような強い因果関係にあります。そこで、本特集の一環として、スーパーコンプレックス（さまざまな用途が複合し、商業施設そのものがまちであるような形態。超複合型商業施設ともいう）に照準をしぼり、都市にあってこの超複合型商業施設がまちの活性化にどういった役割を果たしているのか、にぎわいのある商業施設として何か新しい可能性はあるのか、また複合型にするねらいは何かなど企画者側の意図するところが浮き彫りにできればと思い、以下に 9 事例を紹介します。

新宿ワシントンホテル

所 在 地：東京都新宿区西新宿3丁目
竣工年度：昭和56年 5 月～昭和58年10月
規　　模：敷地面積6,559㎡、建築面積3,383㎡、延面積60,262㎡
　　S造、一部SRC造、RC造、B4 、25F
施　　設：ホテル客室1301室(4F～24F)、飲食店舗、物販店舗、エアロビクス、
　　サウナ、結婚式場、宴会場等
計画主体：発注者／野村商事株式会社　タウン開発株式会社
　　設計／坂倉建築研究所　施工／熊谷組
　　ホテル運営／新宿ワシントンホテル株式会社





建設ポリシィ

新宿ワシントンホテル計画当初よりの大テーマとして、

(1)　21世紀を目指すホテルとして、全く新しいホテルの建設を目指す。

(2)　経済効率を重視した収益性の高いホテル建設を目指す。

(3)　豊かさを求める大衆に支持されつづけることを目的として、“Low Cost, High Quarity”のホテル建設に全力を注ぎ、“Low Price, High Value”の楽しいホテルとして、地域社会に密接したコミュニティ・プラザを提供する。

という基本理念に沿って新ホテル建設に着手。

「イベント*なき第三次ホテルラッシュ」と言われている昨今、社会環境、市場性、そしてホテル業界自身の成長などの複合要因に支えられてこのブームは成り立っている。その中でもとくに市場性としてホテルの使われ方の多様化――ライフスタイルの変化とそれに伴うホテル市場の拡大――が主要因として挙げられると思われる。＊この場合のイベントとは、オリンピック(1960年)、万博(1970年)の国家的レベルのイベントのこと。

ハイテック感あふれるニューホテルライフ

新都心という立地にあって、他ビル街のもつ面とちがった楽しい雰囲気を全面に打ち出し、西口に群れる若者たちへのヤングストリートを創り出すべく、外部空間よりの導入をはかった。

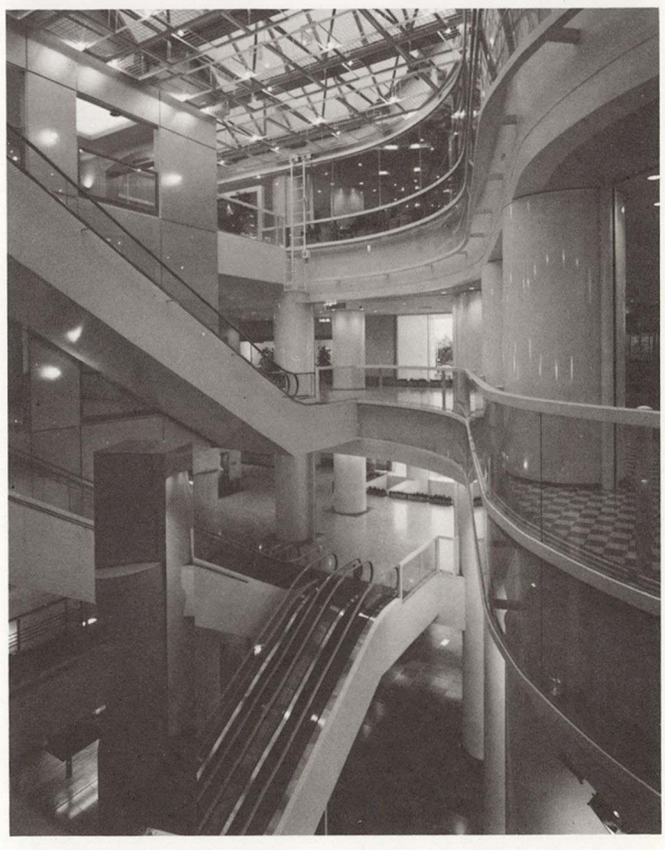
中央に外部的内部としてのトップライトのある吹抜けのプラザをつくり、その周りに店舗を配し、回遊性の楽しさまた商業施設としての「街」・コミュニティーゾーンを目指した。

また、あらゆる層のニーズにあった空間創りをし、現在のユーザーが欲しているライフスタイルに合ったニューホテルライフを課題とした。

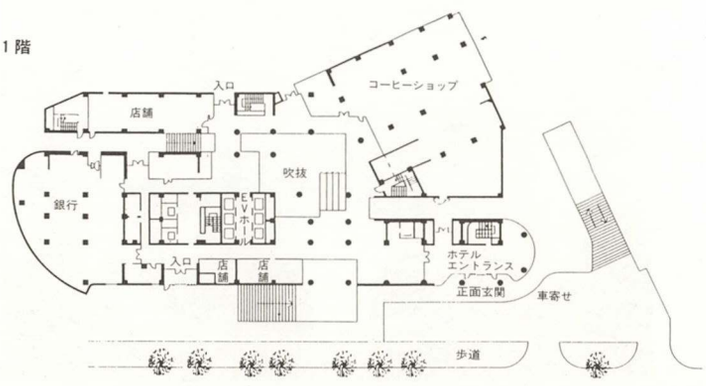
24時間フルに大きな呼吸をし、活動をする「まちづくり」には、ホテルは最も適した業種・業態である。この「まち」の中に、「飲食店街」「物販店街」「スポーツ施設街」をファッショナブルにドッキングすることは、一つの「まち」をさらに大きな「まち」とし、より強いコミュニティーゾーンとして成り立つであろう。

すべてにおいて、合理的なシステム（コンピューター・自動フロント機・省エネシステム等々）を導入し、経済性と安全性、さらにスピーディーさとスマートさが加えられたホテル――それが新宿ワシントンホテルである。

（田口泰一／藤田観光株式会社経営企画室副参事）



1階



有楽町T.A.Sビル（第Ⅰ期）

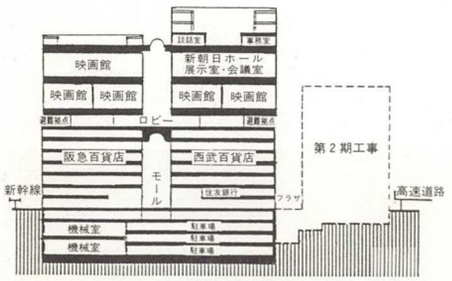
所 在 地：東京都千代田区有楽町2－1～3
竣工年度：昭和59年９月（第１期予定）
規　　模：S造、SRC造、RC造、B4、14F、P2（計20層）、延面積78,631㎡
施　　設：映画館５館、ホール、百貨店（阪急、西武）、駐車場264台
計画主体：事業主／朝日新聞社・東宝・松竹
　　設計施工／竹中工務店

昭和の初期より約半世紀にわたり、日本の情報と文化の中心地として栄えてきた街、有楽町も、外濠を埋め、高速道路が建設され、新幹線が軒をかすめて走るようになると、だんだん街の様子がかわりはじめてきた。この地の中心的存在であった朝日新聞や日劇なども周辺の交通事情や建物の老朽化等いろいろな問題が生じ、改築を迫られるようになった。これを契機に東京都が中心になって、以前からあった〝有楽町駅前の整備計画〟の再検討を行い、昭和55年９月の東京都都市計画審議会で三地区をまとめて整備する方針が決定された。その結果、朝日新聞社、東宝株式会社、松竹株式会社の三社が共同で「都心部の強化」や「健全なる街区形成」等の基本方針に沿って、商業施設を中心に組み合わせるとともに省エネルギーなども考慮して、それらを一体の施設として利用できるように計画した。

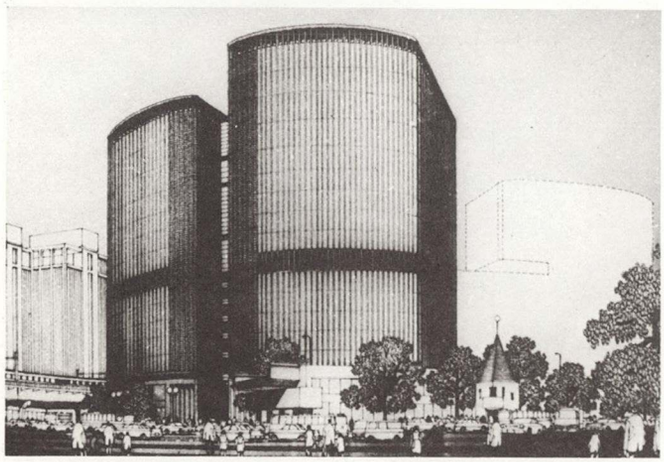
そして地下鉄との接続や、建物中心部に歩行者通路を設けること（工事中も仮設通路設置）、あるいは駐車場の出入口位置など、数々の点で周辺都市機能との整合を計り、新しい街の核あるいは都心の核として再生できるよう目指している。

建物構成は下図の通りであるが、不特定多数を対象とする施設内容から、とくに防災には力点をおき、信頼性の高い防災システム（建設大臣認定を受ける）を配慮した。また、外装はアルミマリオンとハーフミラーガラスの組み合わせで、明るく品格のあるものを、そして内装はそれぞれこの地にふさわしい見ごたえのあるものを予定している。

（長崎駿二郎／株式会社竹中工務店設計部設計課長）



断面図と完成予想図



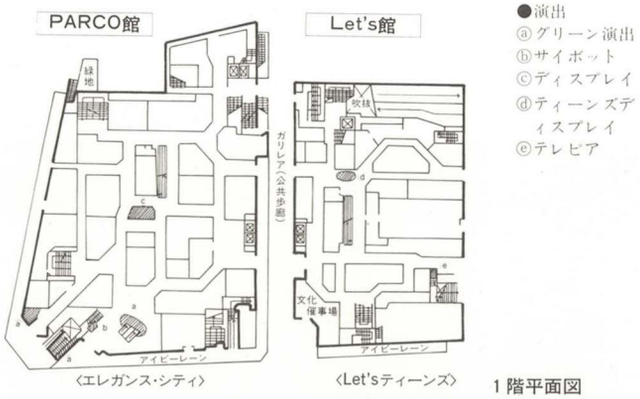
新所沢PARCO＋Let's

所 在 地：埼玉県所沢市緑町1－2
竣工年度：昭和56年５月～昭和58年６月
規　　模：PARCO館　RC造　B2～6F　6,763坪
　　Let's館　RC造　B2～5F　4,287坪
施　　設：店舗 166店・映画館・ガレリア・駐車場・駐輪場
計画主体：企画設計／パルコ
　　設計施工／清水建設

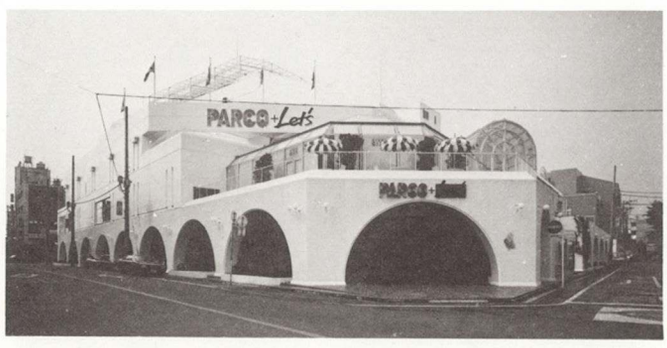
新所沢パルコ＋レッツは、首都圏30km線上に位置し、周辺は首都圏でトップレベルの人口急増地帯である。初の郊外型パルコとして、建物はガレリアを挟み、２館から構成され、新しい商業空間を提案したものである。

●本格的郊外生活の提案
・サバーバンの文化、情報、社会、公共機能の拠点
●エキサイティングな空間演出
・変化に富んだファサード＝ビル周囲をめぐる回廊、各階テラス
・建物を回遊するブリッジと空間を演出する巨大なガレリア
・エントランスホールの大吹抜
●ビルイメージ
・都市の魅力と郊外のゆとりの融合
・緑と光と影のハーモニー、やすらぎと落ち着きの演出
●商業空間の機能と合理性
・メカニカル＆シック＝シースルーＥＶを代表とするハイテックなデザイン
・エスカレータ、ＥＶ、階段の多用によるダイナミックな店内回遊性
・顧客の利便性＝大型駐車場、駐輪場の設置
●WHITE ＆ YELLOW
・PARCO館は純白、Let's館は強いイエローの外装によりアイデンティティを押し出し、県道側の車に対するランドマーク性を強調

（株式会社パルコスペースプロダクト局）



〈エレガンス・シティ〉　〈Let'sティーンズ〉　1階平面図



WAVE

所 在 地：東京都港区六本木6－2－27
竣工年度：昭和57年１月～昭和58年11月
規　　模：SRC造、B2、７F　建築面積740㎡、延面積6,256㎡
施　　設：ディスクポート（１F～４F）、コンピューターグラフィック製作スタジオ（5F）、オーディオスタジオ(6～7F)、映画館(B1)、タワーパーキング(21台)
計画主体：事業主／西武都市開発株式会社
設計／西武都市開発株式会社　施工／鹿島建設

かつて小売業は、さまざまな情報を生活者に紹介してきたが、情報の双方向性に気付かなかったことで、供給過剰となり、生活者は消化不良をおこしてしまった。しかし、小売業は、昭和60年代に向かって、文化あるいは人間性と、情報とのかかわりあいから生まれてくる小さなチャンスを、ニューメディアという道具で、有機的に機能させようとしている。

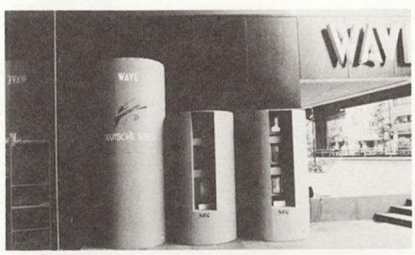
西武流通グループでは、４年前に、若い社員のサークル活動から、〝音・映像および先端技術〟と題した、研究・提案がなされた。これが、音・映像および先端技術事業部構想で、３年後に、提案者自らの手により、〝ウェイブ〟として、具現化された。

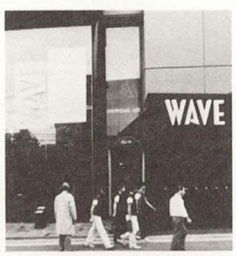
ウェイブでは、マーケットあるいはニーズといった経営概念はなく、風俗や文化をクリエイトしてゆく予兆感覚が息づいている。この予兆を摺り合わせる場や、創造および発信の場は、①音・映像のスタジオゾーン、②サウンド・ライフ・デザイニングのための商品やシステム、さらに環境提案をするディスクポート、③映像文化紹介のパーフォーマンス・ゾーンの、三つの部分から構成されている。

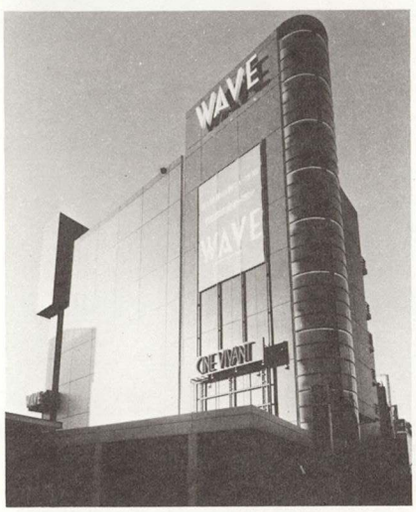
かくして、音と映像をニューメディアを使い、視聴覚で情報を空気の流れのように体感する新しい実験が、ここ六本木のウェイブではじまった。

ウェイブとは、傾向、潮流を表現することばであり、同時に音・映像を伝達する音波・電波・光波をも暗示する。

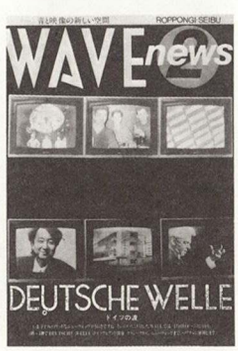
（出浦陽一郎／WAVE広報担当）







左　：ウェイブ館外観
上左：ホログラフィー地蔵（正面入口に設置）
上右：背面入口
下　：ウェイブニュース



江坂東急ビル

所 在 地：大阪府吹田市豊津町９番40号
竣工年度：昭和58年10月開業（56年12月着工）
規　　模：B2、14F、P2　延面積43,464㎡
RC造(地下)、SRC造(1～7F)、S造(8～14F、P2)
施　　設：東急イン(361室)、東急ハンズ(物販店9、飲食店10、美容室１)、駐車場350台
計画主体：事業主／東急不動産株式会社
設計／東急設計コンサルタント　施工／東急建設

江坂という街は、昭和45年の万博を契機として、忽然と現出した街である。しかし街としての格別の魅力があったわけではない。近年、マンション建設に伴って人口が増加し、最寄り品を中心とした物販が若干見られたが、明確な街の性格を持つには至っていなかった。

そうした状況下で、延床面積約１万４千坪のボリュームをこなすどんな用途が成立するかが、このプロジェクトの命題であった。しかも、このビルが江坂の街の発展の起爆剤になるものでなければならない。なぜなら、街の発展がないかぎり、このビルの発展も望めないからである。したがって、商業施設を前提としたとき、量販店系の最寄り品を中心としたＳＣでは、すぐ頭打ちになり、買い回り品中心では、梅田と千里に大規模集積があり、競争するには基盤が脆弱すぎた。梅田、千里に対向するには、ほかにない、新しい業態の店舗以外になく、それが東急ハンズであった。

一方、街が未成熟であるため、物販での建物高度利用を不可能と判断し、上部空間の利用を他に求めた。それが東急インである。この二つを核とし、駅前立地ではあるが、駐車スペースを広くとることにした。

物販とホテルと駐車場の複合で、設計にあたり注文をつけたことは、建物として完結したものを創らないで欲しい、建物に人間が溢れたとき、生き生きする建物であって欲しい、ということであった。それが江坂東急ビルである。

（迎田允武／東急不動産株式会社ビル本部ビルアパート営業部参事）





阿倍野地区第2種市街地再開発事業

所 在 地：大阪市阿倍野区阿倍野1～3丁目、旭町1丁目の各一部、旭町2～3丁目
竣工年度：昭和44年度～昭和65年度
規　　模：計画対象区域約28ha（都心機能の整備と市街地住宅の整備）
施　　設：店舗22万㎡、事務所2万㎡、ホテル600室、立体駐車場2,200台、住宅2,800戸、多目的ホール、病院、体育館、等
計画主体：事業主／大阪市

計画対象区域約28haの西半分は市街地住宅整備地区に、東半分を都心機能整備地区におのおの基本的な役割分担をし、従来の〝アベノ〟の良さを残し、しかも、〝キタ〟や〝ミナミ〟に対して、バランスのとれたエキサイティングな副都心として活性化するため、以下の計画内容としている。

1）商店街、市場、バザール、専門店、大型専門店、大型百貨店等の多様な商業機能施設と、関西新空港受け入れのための都市ホテル、事務所、文化施設、情報サービス施設、娯楽施設等の多様な生活機能施設の複合的導入。

2）既存の旭町本通商店街の街路パターンにほぼ合わせて、ミラノのガレリア、トロントのイートンセンターに匹敵する迫力を持つ商業の軸としてのセミインクローズドモールの導入とその延長。

3）単に商業施設だけでなく、実際に生活する者がいて（約10,000人）、豊かな生活を実現するまちづくり。

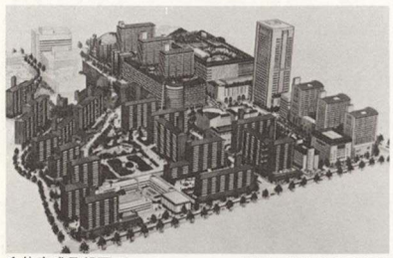
4）従前の権利者の利益を最優先し、しかも将来一層繁栄できるような各用途に応じた権利床配置と工程計画。

5）モータリゼーションの進むなか、商業の活性化に不可欠の駐車場として、約2200台分の立体駐車場を地区の中央部に設置。

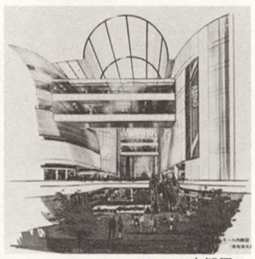
6）ランドスケープとしては、全体的にウォームなものとし、権利者主体の際立ったドーム状のファッションレジャービルや、空の見える多目的イベント空間としてのバレルヴォールトのモール、分節化した壁面を持つ大型百貨店、そして、超高層ホテルの導入による、変化とメリハリのある施設計画。

上記の計画を、豊かなオープンスペースとともに計画することにより、市街地にありながら、田園的な雰囲気を住民と来街者に味わってもらえるよう計画している。

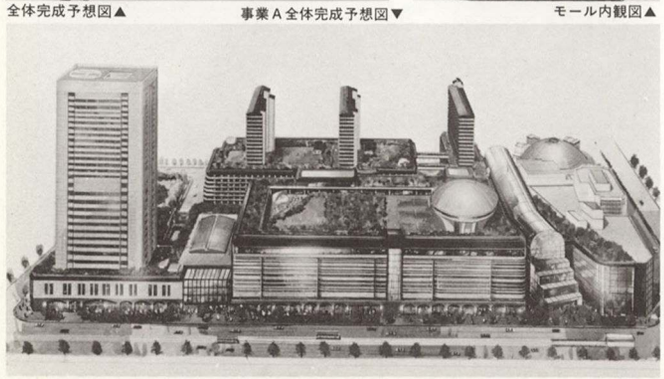
（石浦英郎／大阪市都市整備局阿倍野再開発事務所所長）



全体完成予想図▲



モール内観図▲



事業A全体完成予想図▼

吉本ビルディング

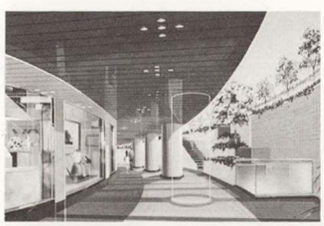
所 在 地：大阪市北区梅田1丁目3番
竣工年度：昭和61年9月末日（工事中）
規　　模：SRC造、B4、34F、P2　建築面積 5,379㎡、延面積87,006㎡
施　　設：ホテル（客室 512）、店舗、駐車場
計画主体：事業主／吉本ビルディング株式会社
　　ホテル部分テナント／大阪ヒルトン株式会社
　　設計施工／竹中工務店

計画地は、国鉄大阪駅前ダイヤモンド地区西梅田の中心に位置する。この建物は、大阪を代表する都市施設となるように計画されている。ハートオブザオーサカをメインテーマに掲げ、新しい街の景観の形成に資する、都市生活者にとって親しみのある施設となるように設計している。

施設内容としては、ガラス屋根で覆った公開空地としての広場、アトリウムを設け、建物の中央に配置し、ビル全体の公共的性格付けを行い、北側を大きく街区に向け、全体として都市のパブリックスペースとしての実質的利用を提示している。

つぎに、都市生活のロイヤリティー、付加価値施設として、一流ホテル施設を設定。国際都市大阪の将来像にふさわしいイメージとインパクトを考慮し、ヒルトンインターナショナルを誘致している。店舗部分は約100店の専門店の集合体をベースに、物品販売や飲食の提供にとどまらず、エステティックサロン、画廊、催し物場をミックスし、街に集う人々の多様な、また個性的な要求に対応させ、センシティブな利用形態をつくりあげている。地下部分には、サンクンガーデンとした公共歩路を設け、既存地下街施設の環境改善計画に対応するとともに、建物への歩行者用のメインアプローチを確保している。

（小川清一／株式会社竹中工務店設計部設計課長）







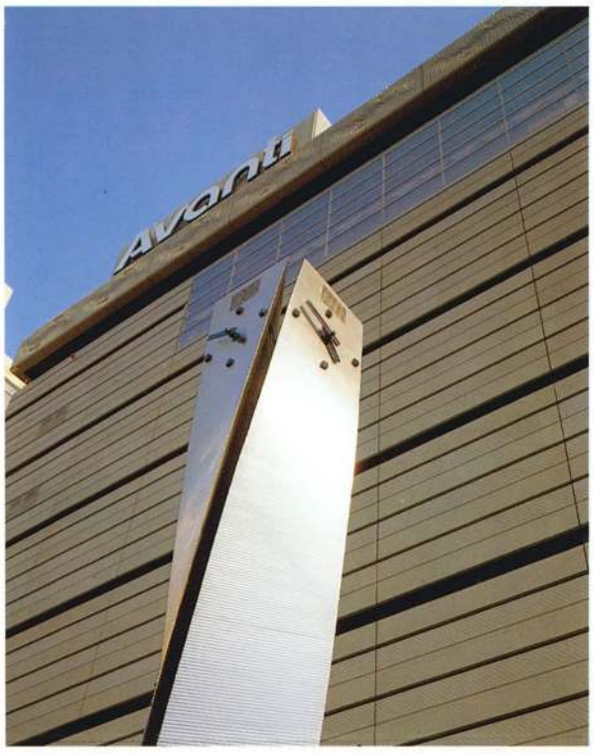
特集
京都駅南口再開発ビル〔アバンティ〕



●グラビア　京都駅南口再開発ビル〔アバンティ〕
●本文　Ⓐ再開発事業の流れ
Ⓑ京都駅南口再開発ビル
建築計画
外装計画
設備計画
施工計画

京都駅南口再開発ビル
〔アバンティ〕

建 築 主　京都市
基本計画　京都市計画局市街地再開発課
　　東畑建築事務所
　　地域計画・建築研究所
設計監理　京都市計画局市街地再開発課
　　東畑建築事務所
施　　工　戸田建設 東急建設 藤井組共同企業体



時計塔



撮影　島　修一
撮影　ＳＳ大阪



北面よりみる



東山よりみる（手前は三十三間堂）

千有余年の歴史を持つ王城の地であり、日本人の心のふるさととして、古来の伝統を受け継ぎ、文化の香りを色濃く残してきたまち、一方、音楽や文化の流行のさきがけを生みだすエネルギーを内在したまち、古いものと新しいものとが調和共存し、一流の文化を生みだしてきたまち、そんな二面性をもったまち〝京都〟の玄関に、市街地再開発ビル〔アバンティ〕が、オープンした。

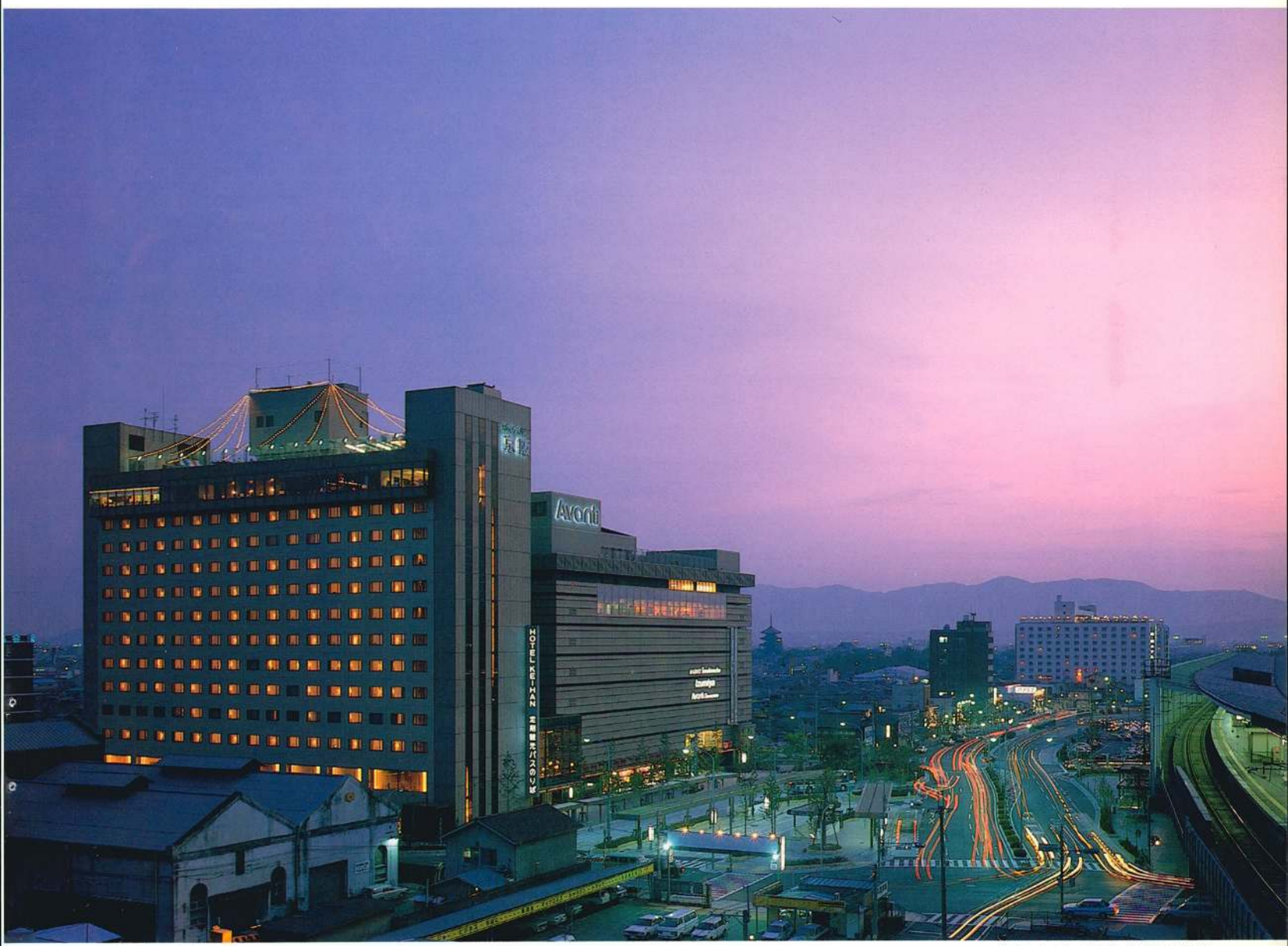
〔アバンティ〕はイタリア語で「前進」「進歩」を意味するがその名のとおり、国鉄京都駅を境に、北部の発展に比べ、駅前機能や商業、業務などの機能で、遅れをとってきた南部地域への前進、新しい街づくりの拠点としての役割をもつものである。文化、商業、観光、交通などの豊かな機能を、そなえたものであり、うるおいと緑あふれる街路や、交通広場の整備とともに、快適な都市空間を、創り出している。



外装の、西陣織の帯をイメージした、水平線を強調したデザインのアルキャスト版は、古都にふさわしい落着きと、品格をそなえ、かつ新しいまちづくりの拠点にふさわしい、近代的感覚をそなえたものとしてデザインした。

そのアルキャスト版の伝統的な表面模様と、メタリックな輝きが、四季折々、時々刻々と変化し、朝日に輝き夕日に染まる光景が、街を行きかう人々と、新幹線で入洛する人々に、新しい面と古い面をもつ京都の二面性を、この建物から感じとってもらえれば、幸いである。

（東畑建築事務所）



北東よりみる（右下に新幹線京都駅）



北側通路吹抜部をみる



ホテル東面の夜景

サンクンガーデンからみた北面外観▶


Avanti
MARIAGE Tamahimeden
Izumiya
Avanti Senmonten
HOTEL KEIHAN

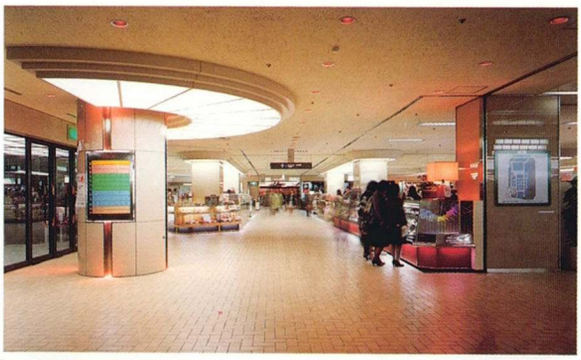


セントラルコート吹抜け見上げ

所 在 地　京都市南区東九条西山王町31番地
敷地面積　7,190.00㎡
建築面積　5,023.56㎡
延床面積　58,089.09㎡
構造・規模　SRC(一部S)、B3～10F(商業棟)、B3～13F(ホテル棟)
外部仕上　アルキャストパネル(商業棟およびホテル棟の一部)
　　タイル打込PC版(ホテル棟)
用　　途　ホテル、物販、その他
工　　期　昭和56年5月～昭和59年3月

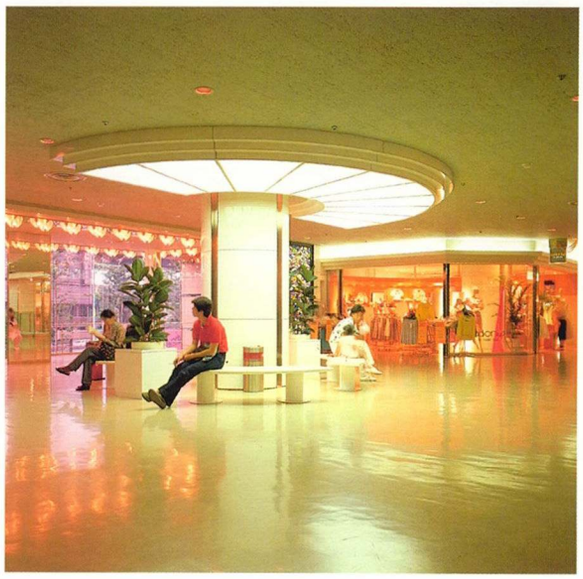
電　　気　近畿電気工事　八千代電設工業　原田電業社共同企業体
空　　調　朝日工業社　日本管工業　マツダ工業共同企業体
衛　　生　東洋熱工業　扶桑管工業 共同企業体
昇 降 機　三菱電機　松下電器産業

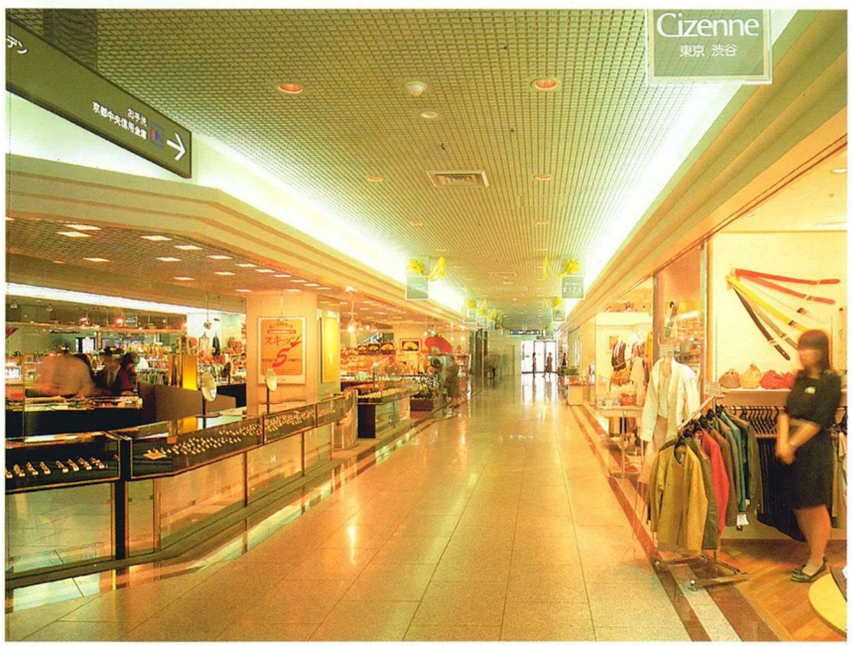












1	4
	5
2	6
3	

1．地下１階レストラン街
2．地下１階レストラン街
3．１階専門店街
4．地下１階フードプラザ
5．１階専門店街
6．２階休憩コーナーをみる







イズミヤ

1

2 3

1．5階売場サテライトスタジオ
2．3階よりセントラルコート吹抜部をみる
3．6階イズミヤブックセンター











1	3
	4
	5
2	

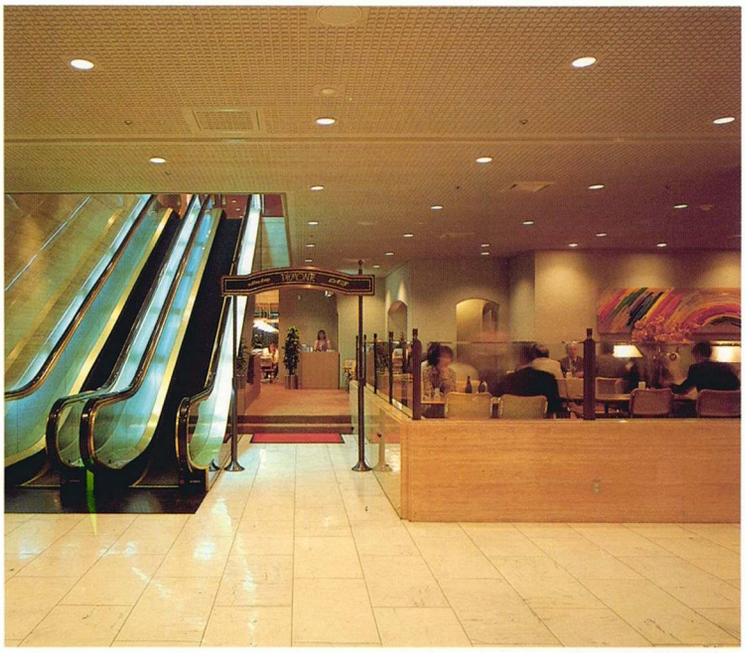
1．吹抜階段をみる
2．1階エントランスホール
3．8階ロビー　　ロビー
4．7階ホール（左はミキサールーム）
5．8階大宴会場「高雄」

マリアージュ玉姫殿

内装設計　創美建築設計事務所

ホテル京阪京都

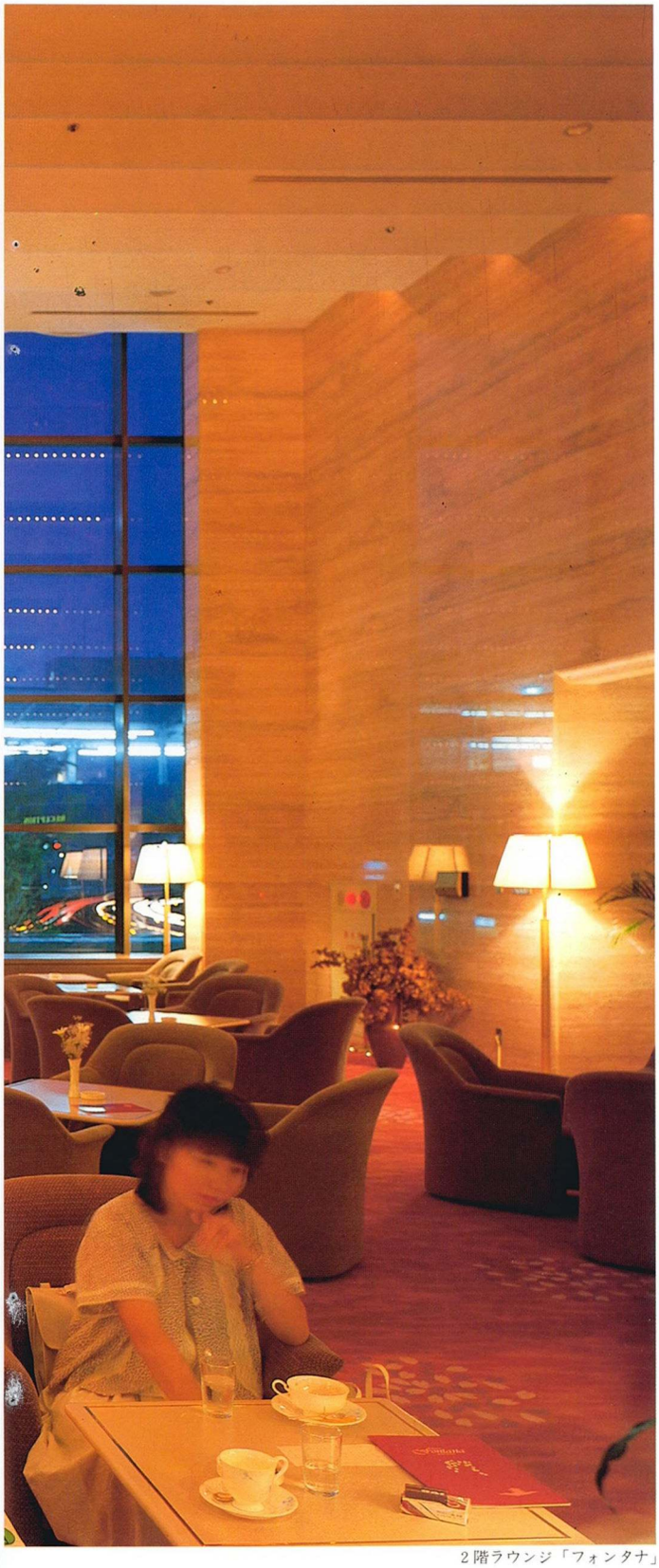




1階エントランスホールよりコーヒーショップ「ピエモンテ」をみる



2階ロビー



2階ラウンジ「フォンタナ」



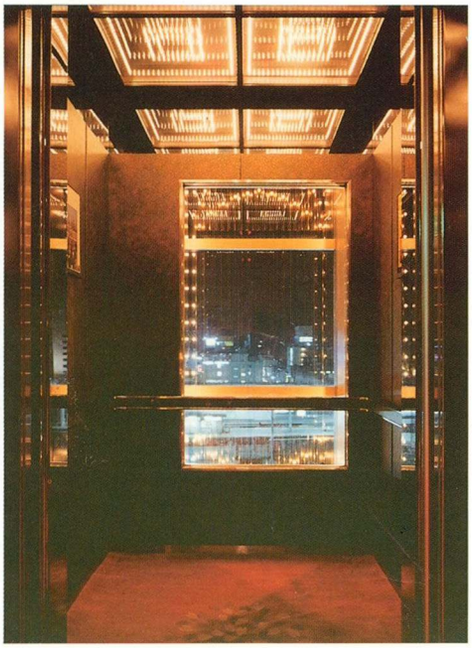
客室（ツインルーム）





1
2 3

1．ホテル13階中華レストラン「東天紅」
2．ホテル13階西洋レストラン「オーク」
3．シースルーエレベータ内部をみる

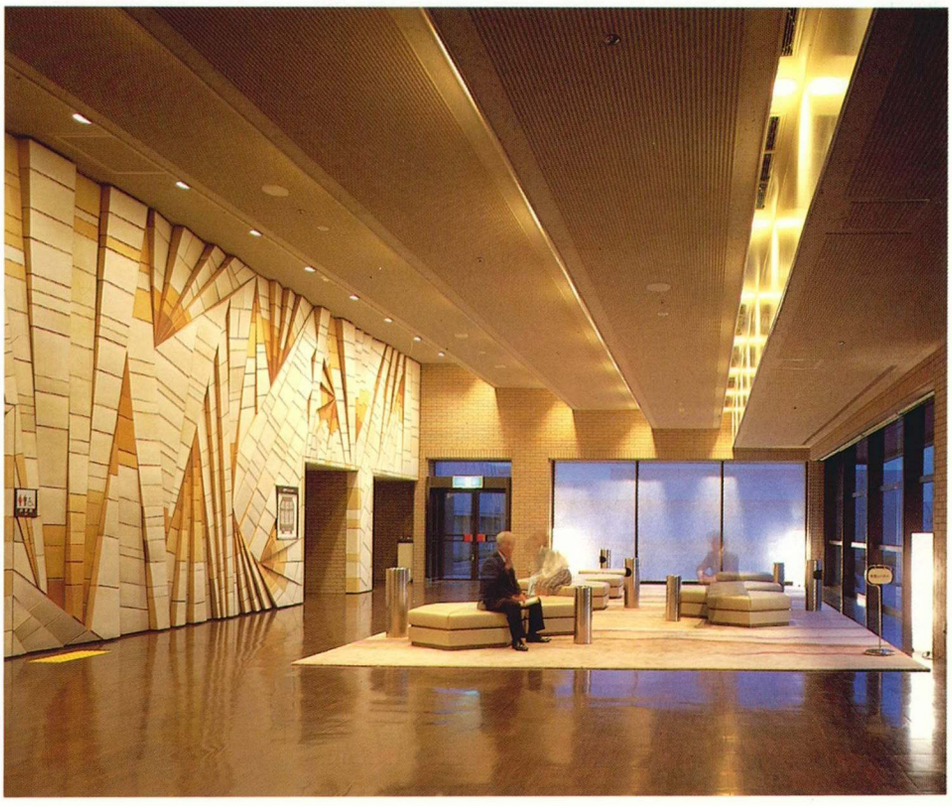




アバンティホール

1
2 3

1．9階ホール映写室よりみる
2．ホール壁面ディテール
3．ホールロビー







航空写真　遠景に東山、鴨川を望む

京都駅南口再開発ビル〔アバンティ〕

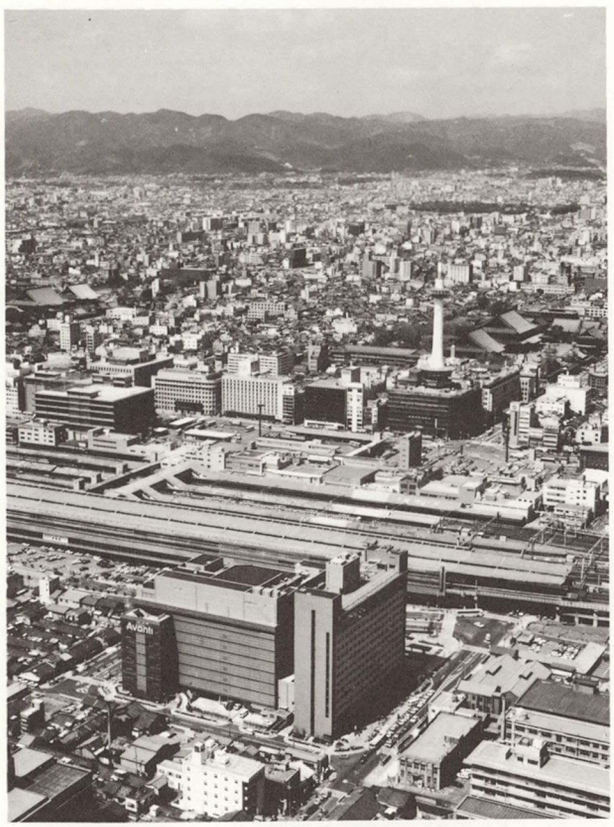
〈主な協力業者・順不同　PR〉

土	朝日組　京都市東山区今熊野町南日吉町21　TEL075-541-6155	生コン	京都福田　京都市南区東九条東山王町30　TEL075-661-6111
弋・土	尾張鉄　京都市中京区壬生東渕田町3　TEL075-811-5191	石	矢橋大理石商店大阪支店　大阪市東区高麗橋2-56　TEL06-202-4905
山留め	成幸工業　大阪市西区西本町1-7-20　TEL06-531-8801	ネオパリエ	日本電気硝子　東大阪市近江堂3-14-15　TEL06-723-5061
アースアンカー	新技術開発大阪支店　大阪市西区京町堀1-8-31　TEL06-445-1065	鉄骨	新日本製鐵大阪営業所　大阪市北区中之島3-2-4　TEL06-202-2201
型枠	清水工務店　守口市寺内町2-7　TEL06-991-0523	鉄骨	片山鉄工所　大阪市大正区南恩加島6-2-21　TEL06-552-1231
左官	浪花組　大阪市南区玉屋町12　TEL06-211-1501	シャッター	日本シャッター製作所　大阪市淀川区田川北3-2-4　TEL06-300-1141
左官砂	中西組　京都市右京区山之内西裏町10　TEL075-311-0937	ファンコイルカバー	イトーキ　大阪市東区淡路町2-50　TEL06-231-2440
吹付	竹林塗装工業　大阪市淀川区新北野1-12-2　TEL06-301-9281	ハンガーパイプクロセット	ユニオン　大阪市西区南堀江2-13-22　TEL06-532-3731
タイル	井上窯業　大阪市天王寺区生玉町11－28　TEL06-771-2825	ロックウール貼	ニチアス大阪支社　大阪市南区南船場4-11-10　TEL06-245-3391
塗装	竹延塗装店　大阪市都島区都島北通1-3-10　TEL06-921-2692	ボード貼他	富士建装　大阪市西淀川区野里2-23-18　TEL06-473-9666
樋	大杉板金工業所　京都市右京区梅津南広町79　TEL075-871-0478	ALC版	鳳産業　大阪市西区西本町1-2-19　TEL06-532-2816
木	高島屋京都店装飾部　京都市下京区四条通河原町西入真町52　TEL075-221-8811	ユニットバス	松下電工大阪電設営業所　大阪市東区城見2-1-3　TEL06-946-1151
アルミ製建具	神鋼ノース大阪支店　大阪市北区西天満5-1-9　TEL06-364-9371	ドアーエンジン	ナブコドアーエンジン京都営業所　京都市下京区寺町通五条上ル西橋詰町762　TEL075-343-3161
ブロンズ建具	田島順三製作所大阪本店　大阪市東区平野町2-10　TEL06-203-4151	生コンポンプ車	林ポンプクリート　京都市伏見区桃山町根来2-11　TEL075-601-5116
アルキャスト	久保田鉄工　大阪市浪速区敷津東1-2-47　TEL06-648-2259	鍛冶	櫻之宮鉄工所　大東市新田旭町3-6　TEL0720-74-2031
鋼製建具	日本スピンドル製造建材事業部　茨木市東太田2-2-51　TEL0726-26-5761	サイン	乃村工藝社　大阪市浪速区元町1-2-6　TEL06-633-3331
硝子	三好ガラス建材　大阪市浪速区元町2-3-19　TEL06-632-0025	安全ネット養生シート	大嘉産業　大阪市西区西本町3-1-31　TEL06-531-3236
生コン・セメ・鉄筋	京阪産業　大阪市東区北浜3-6　TEL06-201-0512		

京都駅南口再開発ビル

Avanti

設計監理・施工
京都市計画局市街地再開発課
東畑建築事務所
戸田建設・東急建設・藤井組共同企業体



京都駅南口再開発ビル

再開発事業の流れ

國廣　勲

■1．はじめに

京都市が、昭和47年以来12年の歳月をかけてすすめてきた京都駅南口地区第一種市街地再開発事業が竣工し、昭和59年３月１日に再開発ビル「アバンティ」（Avanti　＝「前進」「進歩」を意味するイタリア語）がオープンした。

京都駅南口地区は、国際文化観光都市〝京都〟の表玄関である国鉄京都駅の新幹線口に位置しながら、都市機能やターミナル機能の面で、駅北口と比べその整備が遅れていた。とくに、昭和39年10月の東海道新幹線の開業によって、京都の新しい玄関となった後もターミナルに必要な都市機能の整備が進まず、再開発事業の完成が待たれていた。

京都駅南口地区の再開発事業は、ターミナル機能を中心とした公共施設整備と総合機能を有する再開発ビルの建設によって賑わいのある〝街〟を創り出し、今後開発のポテンシャルの高い市南部地域の拠点としての役割りを果たさせようとするもので、その中心をなす再開発ビル「アバンティ」は、商業、文化、観光、宿泊、業務、駐車施設という多用途の機能をもつ総合ビルで、その規模も京都市では最大級のものである。

再開発ビルと周辺の公共施設が一体となって織りなす都市空間は、京都の新しい顔にふさわしい活力と魅力あふれる〝街〟として、市民はもちろん広く京都を訪れる内外の人びとに愛され発展することを期待している。

■2．施行地区の概要と事業の目的

京都駅南口地区は、平安京の造営（西暦794年）によって左京九条三坊として整備されたものの、うち続く戦乱と地理的条件から都市として発展せず、近郊農村的色彩が強く明治時代までいわゆる〝洛外〟としての地位に甘んじていたところである。

明治10年になって東海道線京都駅の開設、路面電車の開通によって、住宅地、工業地帯として開発が進んだものの、最近まで駅裏的なイメージのままであった。

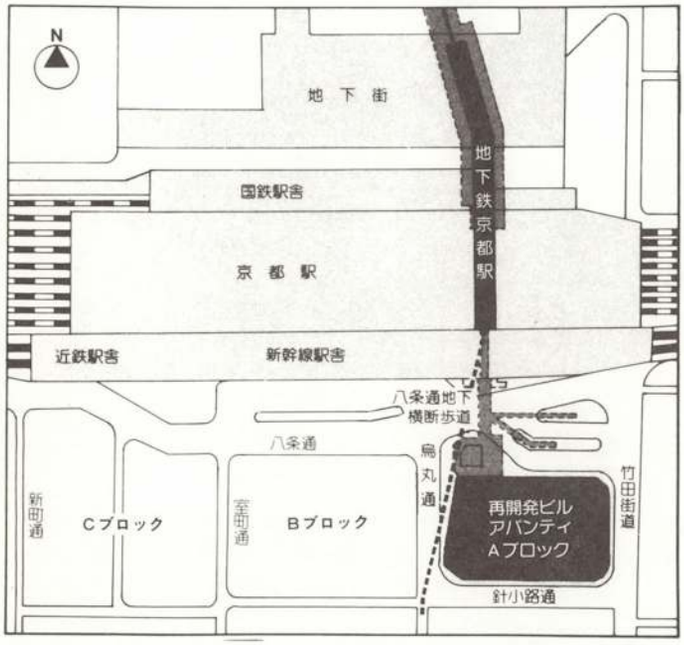
東海道新幹線の開通によって、ようやくターミナルとして脚光をあびるようになったが、いまだ南北が駅によって遮断されたままの状態が続いていた。昭和46年５月の高速鉄道の開通に合せて、京都駅北側の地下街ポルタおよび烏丸通り下地下通路と駅南にある新幹線の玄関口とが地下通路によって一体化され、自由な通行ができるようになり人の流れが変ってきた。

当該事業の施行区域面積は約2.2haであるが、従前の土地利用状況は、宅地約1400㎡の63％を京都市交通局の車庫用地が占め、他に、町工場、住宅、店舗併用住宅などが混在し、総権利者数が26名と施行

表1　事業着手前の状況

土地利用状況		
公共用地	道路	8,051(㎡)
	交通広場	8
宅地	建築敷地	13,963
	私道	105
計		22,127

建物用途別状況		
	戸数	延床面積(㎡)
併用住宅施設	7	728
住宅施設	9	871
工業施設	2	2,723
その他	1	2,349
計	19	6,671



図－1　施行区域付近図

面積に比して少なかった。(表1参照)

施行区域は、昭和45年度に実施した「京都駅南口地区市街地再開発等調査」の結果、A、B、C3ブロック(図1参照)約6.1haの区域を市街地再開発事業によって整備すべき地区と定め、地元住民、関係機関と協議をすすめてきたが、権利者数が多かったB、Cブロックについては住民の合意が得られず、Aブロック(約2.2ha)の区域を先行して事業化することにして、昭和51年8月に都市計画決定したものである。当該地区の市街地開発の目的は、つぎのとおり。

(1)　南部市街地の拠点づくり
(2)　京都駅南北の一体化
(3)　ターミナル機能の充実
(4)　観光系統機能の充実
(5)　生活環境の整備
(6)　豊かな都市空間の確保

■3．公共施設整備の概要

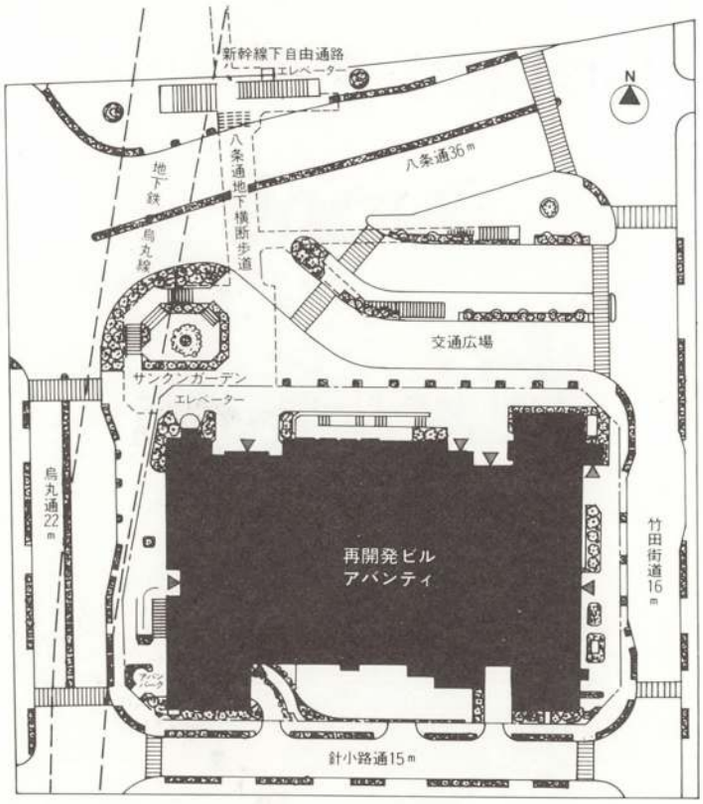
本事業では、施工区域の⅔を公共施設として整備し、うるおいと緑豊かな都市空間づくりとターミナル機能の充実を計った。(図－2参照)

(1)　街路と交通広場の整備

京都駅南口に集まる歩行者の安全とバス、タクシーその他の自動車交通に十分対応できるよう、再開発ビルを取り囲む八条通り、竹田街道、針小路通、烏丸通の都市計画道路4路線を拡幅整備するとともに、八条通りに面して交通広場を設け、定期観光バス、市バスのターミナルとした。また、各街路には、幅広い歩道に黄竜山石積の植樹桝を設け、街路樹とともに樹種豊かな植栽を行った。

(2)　八条地下横断歩道とサンクンガーデン

交通量のもっとも多い八条通りには、幅員6mの地下横断歩道を設け、歩行者の安全を計るとともに、駅と再開発ビル、交通広場へ



図－2　公共施設整備図

の通行の円滑化を計った。この地下横断歩道は、関連事業として建設した国鉄京都駅新幹線下自由通路を経て、地下鉄京都駅、国鉄京都駅、北口地下街(ポルタ)、烏丸通り公共地下道と接続し、京都駅の南北を地下で結び駅南北の一体化が実現した。また、八条通り地下横断歩道の再開発ビル側の出入口には防災上の配慮と緑と憩いの空間を演出するサンクンガーデンを設けた。

交通弱者対策として、地下横断歩道の階段部分にはスロープを併設し、八条通りの南北両側には、地上と地下道を結ぶエレベーターを設け、老人、妊産婦、身体障害者など交通弱者の利用が容易なものとした。

(3)　架空線の撤去と無電柱化

関係機関、企業者の協力により、当事業区域内の再開発ビル側部分を、無電柱化区域とし、架空線、電柱を撤去して地下埋設することにより、京都の玄関にふさわしい都市空間を創り出した。

■4．権利変換と保留床処分

権利変換は、都市再開発法第111条による地上権非設定型によった。従前、従後の権利者はつぎのとおりである。

表－2　権利状況

事業着手前		事業着手後	
		権利変換	地区外転出
土地建物所有者	19	4	15
土地のみ所有者	5	2	3
借家人	2	0	2
合計	26	6	20

再開発ビルの専有部分面積は延べ面積約58,000㎡の約71%で、うち権利床は専有面積の約3.5%で残りを保留床として処分した。保留床処分は、すべて特定分譲方式をとり実施設計段階で処分先をすべて内定し保留床取得者の希望を可能な限り設計に反映させること

表－3　事業計画の概要（昭和58年10月6日事業計画変更による）

名称		京都都市計画（京都国際文化観光都市建設計画）都市計画事業京都駅南口地区第一種市街地再開発事業				
施行区域面積		約2.2ha				
公共施設の配置及び規格	道路	種別	名称	幅員 m	延長 m	備考
		幹線街路	Ⅰ・Ⅰ・1（八条通）	36.00	150.30	事業着手前幅員36.00m 交通広場3,816㎡ 八条通地下横断歩道設置
		幹線街路	Ⅰ・Ⅲ・21（烏丸通）	22.00	85.70	事業着手前幅員 5.60m
		幹線街路	Ⅱ・Ⅱ・30（竹田街道）	16.00	129.00	〃 14.50m
		区画街路	Ⅱ・Ⅱ・31（針小路通）	15.00	105.90	〃 6.00m
	下水道	区域内は下水道整備地区（合流式）であり、これに接続する				
建築物の整備	街区番号	建築物		敷地面積に対する		備考
		建築面積	延面積	建築面積の割合	建築物の延面積の割合	
	A	5,023㎡	58,089㎡	70%	699%	内駐車場面積7,851㎡
建築敷地の整備	街区番号	建築敷地面積		整備計画		
	A	7,190㎡		2,167㎡の空地を設け良好な環境整備を行なう		

ができた。

■5．商業調整の概要

当該地区の市街地再開発事業の目的を達成するため、都市計画で再開発ビルの主要用途を商業施設と宿泊施設とすることと定めた。商業施設の業種配置、規模などの具体的な計画については、京都商工会議所を窓口として、協議をすすめてきた。商工会議所では、昭和52年4月に「京都駅南口再開発小委員会」を設置し、商業施設のあり方などについて検討に着手した。その後、若干の曲折があったが、つぎの基本方針とすることで合意を得た。

(1) 商業施設は、商業棟の地下1階から6階までの7フロアーとする。

(2) 商業施設は、地元小売業を中心とする専門店街と量販店とし、フロアー構成は横割りとする。

(3) 専門店街は、地下1階から2階までとし、3階以上を量販店とする。

(4) 生鮮3品は取扱わない。

(5) 量販店は、京都の玄関にふさわしい店舗展開とする。

地元商業団体との話し合いは、京都市内の大型店規制を要求する小売商業者の団体である京都大型店舗対策協議会を窓口として、昭和54年12月から協議を重ねた結果、専門店のテナント募集は地元最優先で臨むことなどの条件はついたが、〝京都南部開発のひとつである京都駅南口再開発ビルについては、大きく京都発展のために賛同する〟旨の確認を得た。

大規模小売店舗における小売業の事業活動の調整に関する法律第3条による届出を、昭和56年3月に行い6回にわたる事前商業活動調整協議会が開催され、量販店の店舗面積を5パーセントカットすることで結審をみた。その後、具体的な店舗構成をまとめ、昭和57年9月に大店法第5条の届出をし、同12月に結審を得た。

■6．おわりに

150万京都市民の熱い期待の中で3月1日にオープンした再開発ビル「アバンティ」は、連日予想を上廻る盛況を呈している。

今日の姿をみることができたのは、建設省をはじめ、京都府、関係機関、権利者、地元周辺住民、工事関係者など幅広い方々の力強い御支援の賜ものと感謝している。また、商業施設の配置計画や商業調整について御協力いただいた京都商工会議所、種々の問題を抱えながら、〝広く京都の発展のため賛同する〟との結論を出された地元商店街、商業団体の皆様にも改めて御礼申し上げたい。

高度利用地区	容積率	最高70/10　最低30/10
	建ぺい率	7/10
	壁面の位置の制限	1m～3m
高度地区	第6種高度地区（建物の高さの限度45m）	
防火地域	防火地域	
用途地域	商業地域	

京都駅南口地区の再開発事業は、今回竣工したAブロックをもって完了したわけではなく、今後引続き隣接する各部分についても、早期に事業化を計って行かなければならない。「アバンティ」がその名のとおり、市南部発展への起爆剤となり、21世紀の京都のまちづくりに寄与することを念願している。

■事業経過

昭和45年度　京都駅前地区市街地再開発等調査実施（建設省の委託、2.2ha）
昭和47年度　国の事業採択（A、Bブロック約4.1ha）
昭和47年11月　地元説明会開始
昭和51年8月　都市計画決定（Aブロック2.2ha）
昭和53年4月　京都商工会議所に「京都駅南口再開発小委員会」発足
昭和53年9月　再開発ビル構想案指名競技（設計コンペ）実施
昭和54年3月　再開発ビルの基本設計完了
昭和55年2月　都市計画変更
昭和55年5月　事業計画決定
昭和55年5月　評価基準日（31日）
昭和55年12月　八条通地下横断歩道新設工事着手（59年2月竣工）
昭和55年12月　「京都駅南口再開発株式会社」設立
昭和55年12月　権利変換計画決定
昭和56年1月　権利変換期日（29日）
昭和56年2月　再開発ビルの実施設計完了
昭和56年3月　大店法第3条届出（56年5月事前商調協審議開始、56年12月結審）
昭和56年5月　再開発ビル新築工事着手
昭和57年6月　再開発ビル専門店街出店資金特別融資制度創設
昭和57年8月　京都駅南口再開発株式会社専門店街の出店者募集開始
昭和57年11月　道路4路線の改良舗装緑化工事着手（竣工59年2月）
昭和57年12月　テレビ電波障害防除対策工事着手（59年2月竣工）
昭和57年12月　区分所有予定者協議会発足（ビルの管理運営問題を協議）
昭和58年9月　大店法第5条届出（同11月商調協審議開始、12月結審）
昭和58年10月　事業計画変更
昭和58年11月　保留床売買契約締結
昭和58年11月　権利変換計画変更
昭和58年11月　再開発ビル工事完了公告（30日）
昭和58年12月　再開発ビルの引渡し（1日）
昭和58年12月　アバンティ管理規約制定（1日）
昭和59年3月　公共施設供用開始、アバンティオープン（1日）
昭和59年3月　事業完了公告（31日）

（くにひろ　いさお　京都市計画局市街地再開発課主幹）

京都駅南口再開発ビル

建築計画

谷田庄司／塘　伸夫

■配置計画

当再開発ビルは、京都駅南口広場東寄に位置し、将来B、Cブロックへの事業の具現化の第1歩として、京都市初の再開発事業である。用途は、ホテルと商業施設を中心に市民ホール、結婚式場などを含む複合建物である。

敷地は、八条通り、竹田街道に面し、51年8月に計画決定された。2.2haの再開発事業のうち、約32.7%が建築敷地面積に当てられている。再開発ビルの性格上、敷地の最大利用が当初からの計画にあり、また将来のB、Cブロックを含む南口駅前全体の空間構成に一体感を与え、条施設の個性ある表情をあらわすべく、敷地西側の拡幅された烏丸通りに面し、商業棟を配し、Bブロックへのにぎわいをつなぎ、1フロアーの面積が、まとまったスペースとして確保できるようにした。また、空間単位が小さく、高層化される宿泊施設を東側の竹田街道沿いに配置し、東山一帯の眺望が確保されるという構成とした。

■規模および階構成

再開発ビルにおいて、とくに当ビルのように、異種用途の複合ビルの場合、区別所有上の問題を、はじめとして時間帯、営業体制などの問題を、明快にする必要がある。当ビルでは、大きく商業棟とホテル棟とに、棟を分けて、たて割りの明快なブロック構成としている。商業棟は、地下2、3階が、機械室及び駐車場となり、地下1階から6階までが専門店および大型店の物販店、7、8階が、結婚式場、9階が市民文化ホールとなっている。これら諸施設の営業時間、休日などの違いは、昇降設備の分離および、停止階の切りはなし装置により、解決している。ホテル棟とは、1、2階部分で出入口を設け、相乗効果をねらっている。ホテル棟3階以上は、客室階および、レストラン街となっており、商業棟とは、完全に分離したかたちとなっている。

建物の高さは、都市計画決定により、第6種高度地区の指定を受け、限高45mまで可能とされ、これは京都市では、数少ない高層建物となっている。階高は、商業棟基準階において、天井高2.9～3.0mを確保するため、階高4.2～4.3mとし、ホテル棟客室階は、3.065～3.115mとなっている。

■全体平面計画

平面計画上における柱グリッドとしては、南北軸は、ホテル棟客室グリッド（6.6mスパン）を、そのまま商業棟へも適用し、東西軸としては、地下の駐車場スペースを優先する形で検討し、8.2m（車3台）10.1m（車4台）を基準とした。

当ビルへの客の動線は、国鉄、近鉄、地下鉄の利用客は、もちろんのこと、そのほとんどが、八通通り地下横断歩道からのB1階へのアプローチとなる。地下歩道と建物の接点部分に、サンクンガーデンを設けている。この広場は、防災避難上有効であるとともに、気候のよい時期は、緑に囲まれた青空の見える広場として、市民に親しまれるものと期待している。ホテルの客、定期観光バスの乗降客については、商業施設の時間帯、休日などを考慮し地下道より、直接1階へ導入できる階段が設けられている。また、ホテルのタクシー利用客は、竹田街道側にホテル専用玄関を設けている。

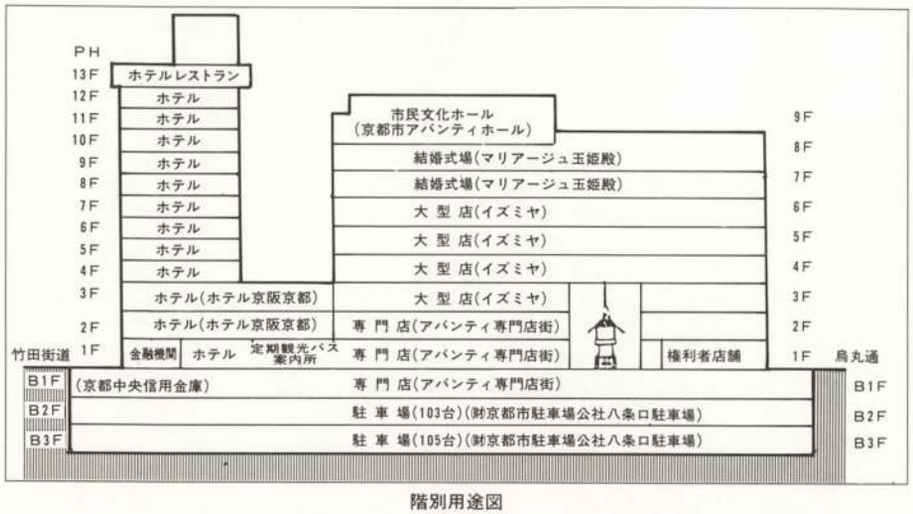
結婚式場への客も、礼装の人々と買物客とが一緒になるのを避け、1階西側にタクシーベイとともに独立した玄関を設け、専用エレベーターで直接7階へ誘導される。その他、大型店、専門店街への客動線、近隣の普段着の買物客、文化ホールへの来館者、また、それぞれ車でくる人や、徒歩、自転車での客など、多種多様な来館者に対しての動線処理は、各テナントの営業時間帯のズレの問題とともに、設計上、非常に苦心した点であった。ビルのメイン機械室は、地下3階に位置するが、空調機械室は、その用途に応じ、各階分散型とし、用途の異るゾーンに、きめ細い空調が可能なように配慮されている。

■商業棟計画

地下2、3階の駐車場は、自走式とし、IN OUTそれぞれ独自のランプウェイを設け、内部動線も一方通行となっている208台の収容であるが、入口の無人化、自動料金システム、在庫検知システム等最新の管制設備となっている。

地下1階は、2本のメイン通路を軸とした碁盤の目に区切られた食品店街と伝統の京料理からファッションフーズまでがそろった14店舗からなる飲食店街からなり、観光は、もちろん、通勤客、サンデーショッピング族まで、あらゆる層に対応できる味の散歩道としてターミナル都市のニーズが反映されている。

1階については、再開発ビルには数少ない3層吹抜けをもつセントラルコートを設け、商業施設の顔であるばかりでなく、専門店街から3階の量販店への重要な縦動線とし、スムーズな誘導を考慮した。現在このセントラルコートには、シンボルとして祇園祭の山鉾（長刀鉾のレプリカ）が展示され、京都を訪れる観光客を迎えている。1階の専門店街は、伝統的な工芸品やアクセサリーショップなどが、2階は、レディース中心のファッションフロアーとなっている。専門店部分は、各テナントの個性あるインテリアによる店造りがなされるため、通路などの共用部分は、比較的おさ



階別用途図

えたデザイン展開とし、壁面や天井ボーダーは、白色系で統一している。

となっており、中でも6階の書籍売場は、京都で、最大規模を誇り、学生たちに喜ばれるものと期待している。

7、8階の結婚式場は、7階に受付、式場関係が、8階に200人あまり収容の大宴会場と4室の中宴会場を設け、最新の音響、映像装置を駆使した格調高い演出ができるように計画されている。さらに9階には、362席と小規模ながら、市民が気軽るに利用でき、市南部の文化創造活動の場となる多目的ホールが設けられている、ホールの内装は、300口の炻器質陶板を壁に張り、同材に凹凸をつけたものと、スリット状の開口をとった吸音陶板とを用い、音響的に有効に使い分けている。この陶板色と、イス張地の紫色とのコントラストは、京都らしい格調高い雰囲気をねらったものである。ロビーは収容人員の割には広くとり、京都の街を一望できる眺めと、屋上庭園の緑によって演劇や音楽を鑑賞した人々に、その余韻を楽しむスペースとして計画した。

■ホテル棟計画

ホテル京阪京都は、京都の玄関口というターミナル性をいかし、観光客、ビジネス客を顧客対象として計画された、京都周辺は、近年、ホテルラッシュが続き、大きなホテルだけでも、8ホテル、約2700室の陣容となっている。京都の場合、観光客が主体となるため、各ホテルともツインルームが主体の客室構成となっている。観光シーズンは、いまでも客室不足といわれるほどであるが、問題は、シーズンオフである、当ホテルでは、シーズンオフに備え、客室構成をシングル118室、ツイン・ダブル196室とシングル比率を一般より高め、駅前の立地特性をいかし、観光客、ビジネス客の両方を狙っている。

フロント・ロビー

最近の、とくに若い世代では、ホテルを非日常性を売りものにした時代から、むしろ、ホテル機能を生活の中にうまく取り入れ、日常を楽しむという傾向にある。そこでは、別世界のような華かさよりも、本来の機能である快適さと安らぎを提供する場であることが、必要とされてくる。ここでは、清楚でシンプルな空間づくりをめざした。1階エントランスホールからエスカレーターによって、2階のロビー階へと客を導く。そこには、京都府の花〝しだれ桜〟をモチーフにあしらったカーペットを敷きつめ、ホテル全体として過度な装飾を避け、シンプルなデザイン展開をねらった。照明も華かなシャンデリアを避け、スタンド等の柔かい光をリズミカルに配置することにより、落着きのある雰囲気としている。また、2階には、150㎡程度のホールを設け、宴会、講演、会議、展示会など、多目的利用を考えている。

客室

ホテル棟高層部の客室階は、東山を一望できる東側にツインルームを、西側にシングルルームを配置した中廊下タイプとなっている。北側にエレベーターホールを設け、廊下中央辺りに非常用エレベーター兼用の人荷用エレベーターおよびリネン室を設け、サービスコアとしている。各室ともセミダブルベッドを使用し、全室、冷蔵庫およびＣＡＴＶ付となっている。客室階でも、廊下のカーペットのボーダー柄や、カーテン、ベッドスプレッド、壁クロスなどに、デザインモチーフの桜をアレンジし、観光客ビジネス客に、くつろぎを与える柔らか味のある雰囲気としている。3階には、一部コネクティングルームを設け、家族客や団体客にも対応できる。

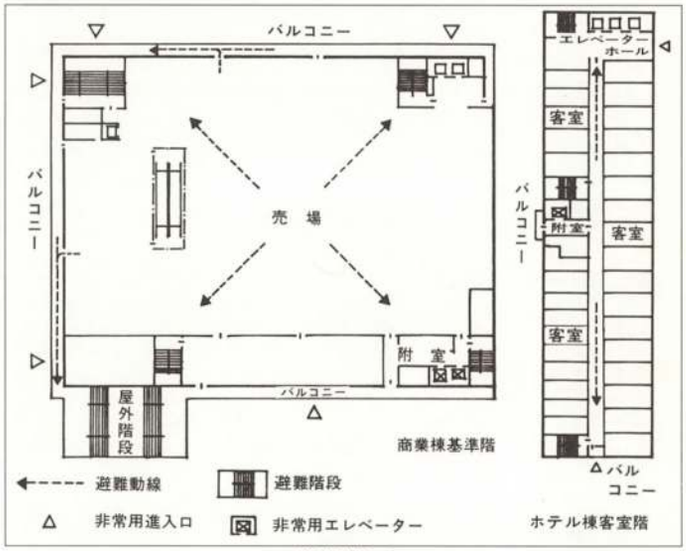
客室概要

客室タイプ	客室数	収容人員	面積
ツイン	157	314	21.8~26㎡
ダブル	27	54	19
シングル	118	118	13.5~14.5
コネクティング	4	8	43.6
スイート	2	4	43.6
合計	308	498	

レストランフロアー

京都で最高高さ（45m）を誇るホテルだけに、その最上階の13階に展望レストランフロアーを設けている。ビル内のＢ1階の飲食店街との競合を避けるためにも、3店に絞り、和食、洋食、中華のそれぞれ個性ある店づくりがなされている。レストランフロアーへは、京都の街並みを一望できる、ホテル北面に設けられた、3基のシースルーエレベーターによって導かれ、ゆったりとした広さのエレベータホールは、東山を一望できる展望ロビーとなっている。とくにシースルーエレベーターの夜間照明は入洛客の目をひくように、ミニ球のイルミネーションが施され、明るく輝く3基のエレベーターが上下する光景は、新幹線駅前のシンボルとなると期待している。

■防災計画



避難動線図

複合ビルでは、人や物の動線を考えると、平面的、断面的に複雑になりがちである。当ビルでは単純明快な防災対策を基本に考えた。

商業棟は、多人数が同時に集まる市民ホール、アルコール類のはいった客を収容する宴会場、不特定多数の人々が集まる物販店など、特殊建築物の集合体となっている。安全優先の考え方から、四隅に避難階段を設け、4方向避難を可能としている。また、建物周囲にめぐらされた、避難バルコニーは、屋外階段に通ずる安全区画となっており、バルコニー要所には、非常用進入口（**外装計画の写真参照**）を設け、消防活動上にも有効なように工夫されている。

一方、ホテル棟は、建物に不案内であるゆえに、外国人や老人、子供も珍しくないことから、きわめて明快な避難経路が要求される。廊下の両端および中央に避難階段を設け（法規上は、2ヶ所で十分であるが、安全性を高める上で、3ヶ所設置）、廊下中央部に非常用エレベーターを設け、消防活動の拠点としている。維持管理に関しては、大規模建築であることや、用途が異ることを考え、防災管理の一元化という意味で、B1階に防災センターを設け、非常時に誤りのない確実な作動、誘導等が行えるようにコンピューターを導入し、全館の防災設備の集中管理を24時間体制で行っている。

（たにだ　しょうじ　東畑建築事務所設計部設計課長
つつみ　のぶお　同　上　主任技師）

京都駅南口再開発ビル

外装計画

塘　伸夫

この再開発ビルは、京都市南部地域の開発拠点となり地域全体の発展につながるものであると同時に、京都駅前に位置するため、古都の玄関にふさわしい格調ある建物であることが要求された。

商業棟の外装は、バルコニー外周を、アルキャストパネルという近代的な素材と技術を駆使し、横長のパネルを目透しに張り、京都古来の文化と伝統を、西陣織のイメージと水平線を強調したデザインにて表現した。アルキャストパネルの表面模様の決定は、当ビルのイメージづくりに重要な点であった。アルキャストパネルの特色はその表面模様のメタリックな輝きが、刻々の光の変化を微妙に受けとめ、味わいのある表情を、かもし出すところにある。その特色をよりいっそう生かすため、方向性のことなる斜め模様を、上下交互に配置し、横スリットとともに、水平線をより強調した、深みのある重厚なデザインを意図した。

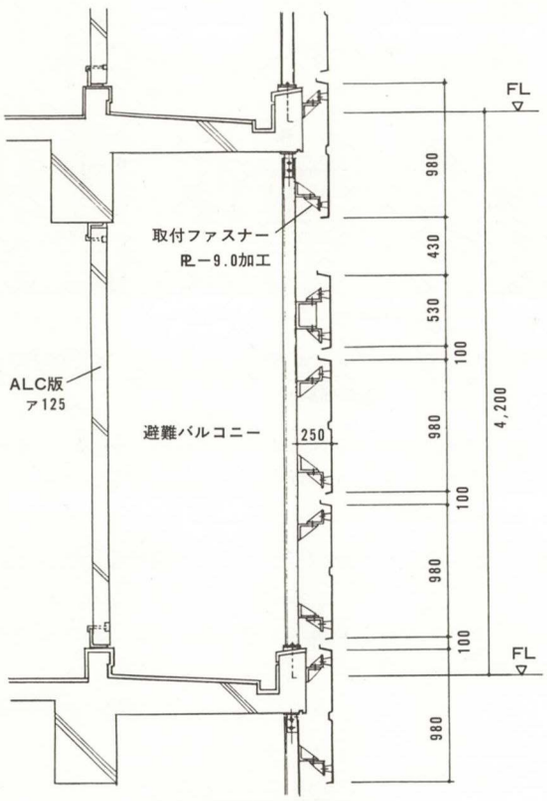
ホテル棟は、自然なテクスチャーの打込タイルＰＣ版とし南北両コアにアルキャストパネルを張り、商業棟とのデザインの連続性を、はかりつつ、京都最高高さ（45m）を強調し、３本のシースルーエレベーターとともに、新幹線で入洛する人々にホテルらしさを表現している。

１階廻りの外壁は、スウェーデン産の赤系花崗石を用い、床仕上は白系花崗石を敷き、アプローチ部分として重厚な雰囲気を盛り上げている。

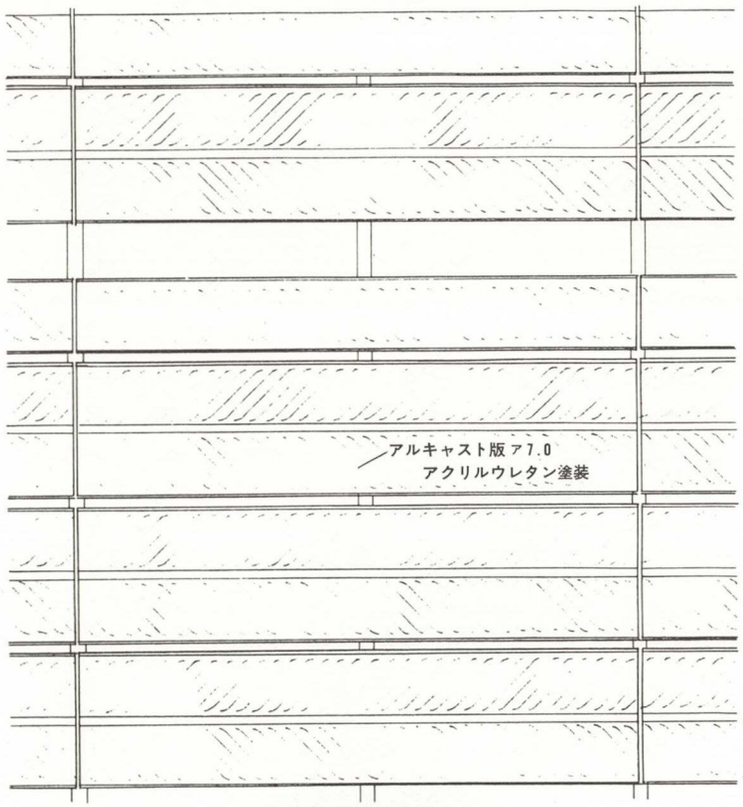
建物全体として、千有余年の歴史をもつ古都の玄関にふさわしい、個性ある、風格のあるものとし、あきのこない長もちのするデザインとした。

■アルキャスト概要

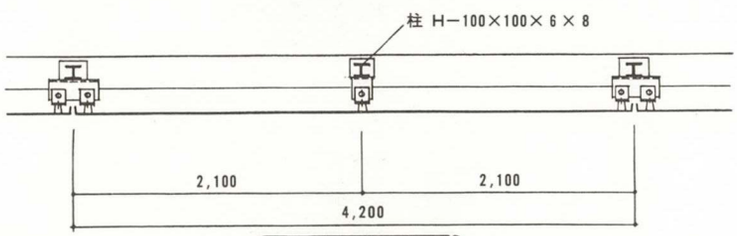
商業棟のアルキャストパネルは、建物外周三方にめぐらされた避難用バルコニーの前面に横張りされている。この張り方は、水平強調のデザイン上のもののみならず、避難バルコニーの安全を確保するうえで重要な役割を果している。万一、バルコニーが煙で汚染されても、上部のスリットから自然排煙され、また、自然採光が可能



アルキャスト版断面図



アルキャスト版立面図



アルキャスト版平面図

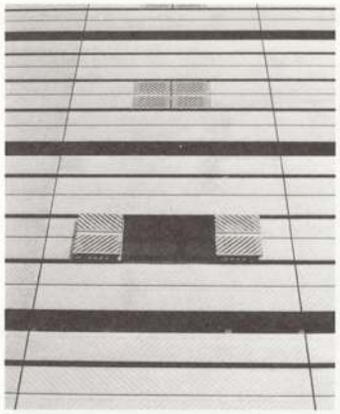
なため安全性の高いゾーンとなっている。１枚のアルキャストパネルは、標準の大きさが、4,200W×980Hで、2,100間隔の間柱H-100×100×6×8に上下6個のファスナーで取付けられ、荷重は上部3個のファスナーで受け、熱によるパネルの膨張収縮を下部のルーズファスナーで吸収している。

ホテル棟のアルキャストパネルは、等圧設計による雨仕舞とし、１次シールにシリコンシーラント、２次シールに合成ゴムシールを使っている。パネル内部に岩綿厚30を吹付け、外壁耐火構造としている。

■ホテル棟ＰＣ版概要

宿泊施設としての柔らかな表情をつくるため、小口磁器質ヨウ変タイルを打込んだＰＣ版を採用した。ＰＣ版の標準サイズは 3,300㎜×3,115㎜である。パネルジョイントは、外部を、ポリサルファイド系シールとし、減圧空間を設け、二重シール材として、中空成型ゴム環状ガスケットを使用している。ＰＣ版ファスナーは、長期荷重を下部ファスナーで支持し、面内方向の層間変位は、上部ファスナーで、面外方向の層間変位は、上下ファスナーの面外変形で吸収し、面内、面外とも、層間変位 1/100 h に追従できる設計となっている。客室部は、省エネルギーとして、内部側に発泡ポリステレン裏打ちの石膏ボード複合板をＧＬ工法で断熱している。

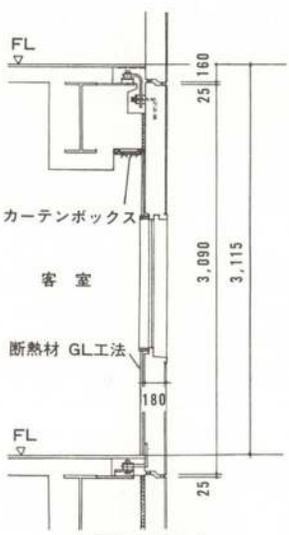
（つつみ　のぶお　東畑建築事務所設計部主任技師）



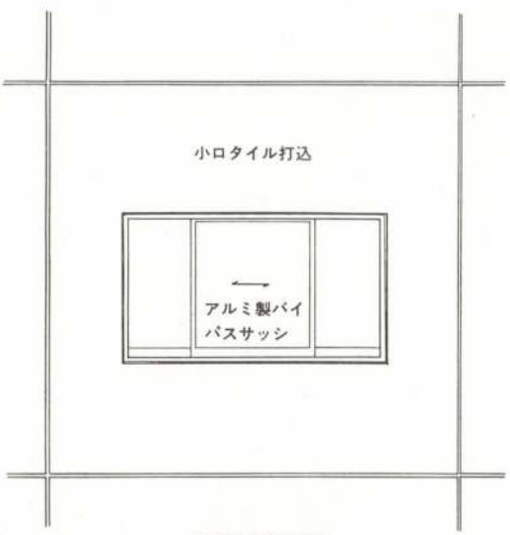


非常用進入口、建物周囲にめぐらされた避難バルコニーの要所に設けられている。

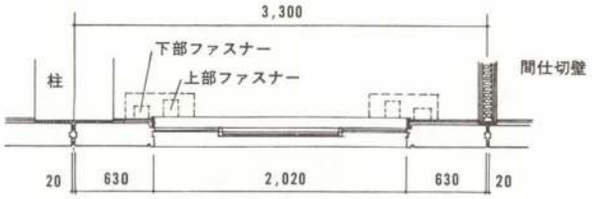




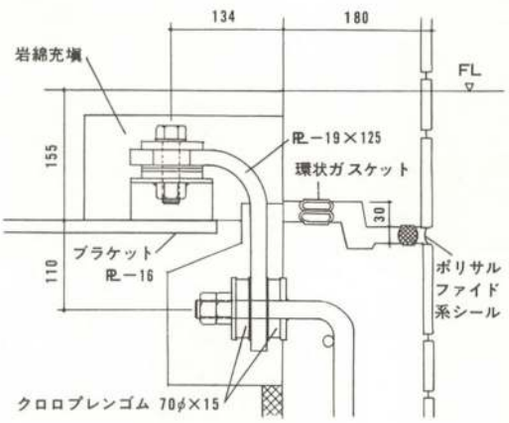
ＰＣ版断面図



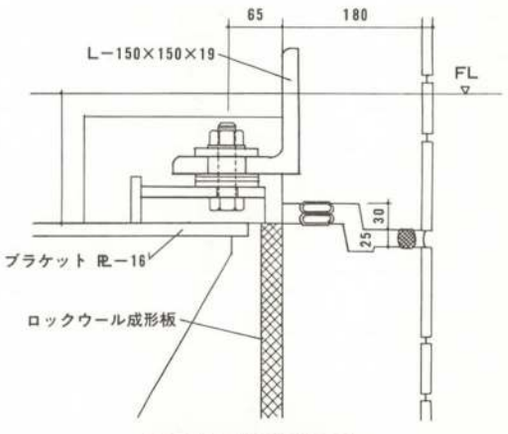
ＰＣ版立面図



ＰＣ版平面図

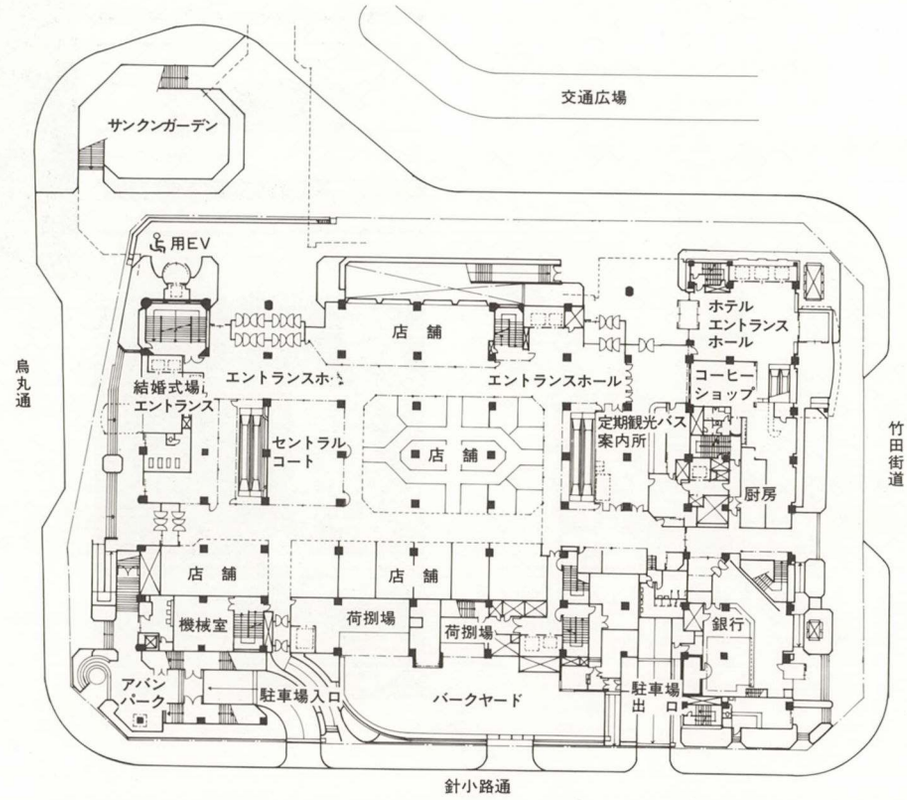


ＰＣ版上部取付詳細図

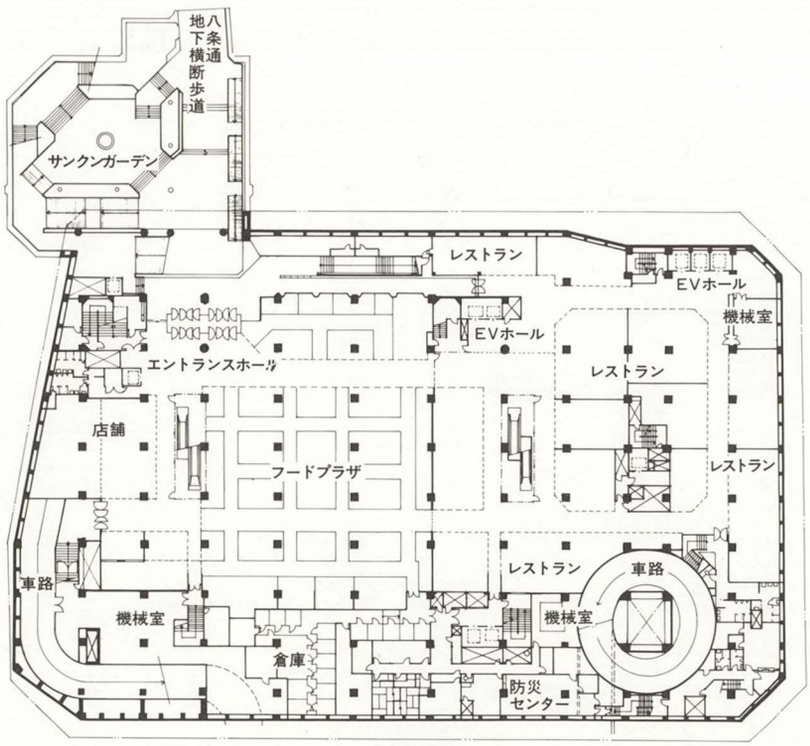


ＰＣ版下部取付詳細図

京都駅南口再開発ビル〔アバンティ〕平面図 1:1000

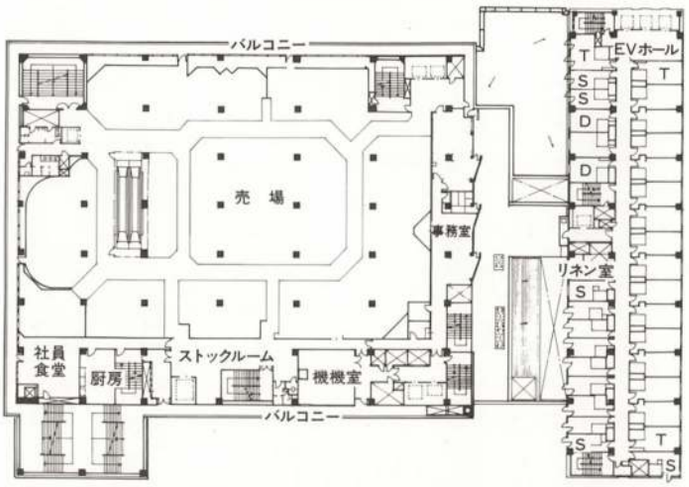


1階

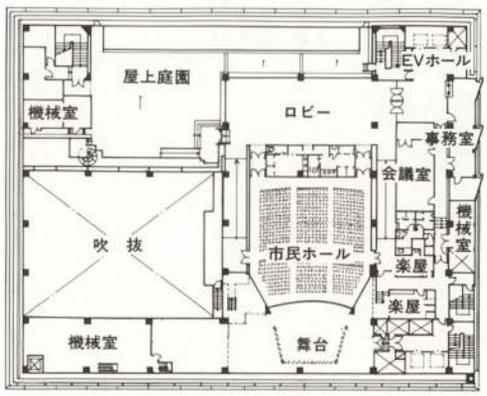


地下1階

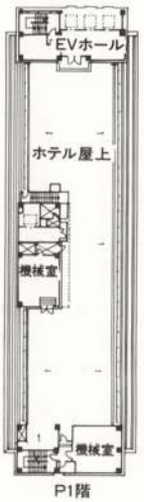
京都駅南口再開発ビル〔アバンティ〕平面図 1:1000



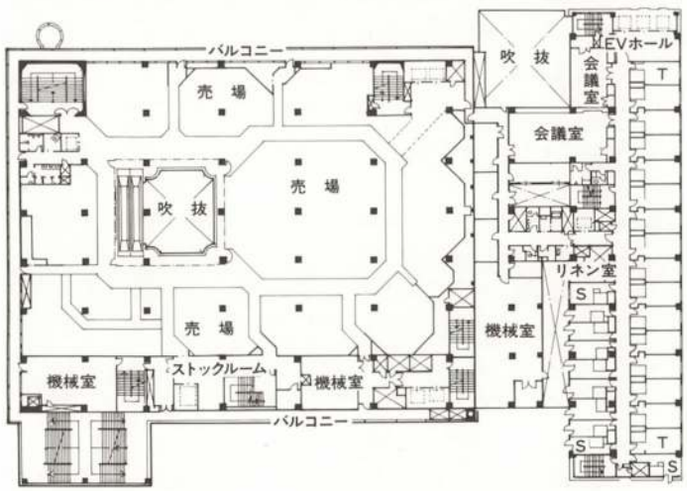
4階



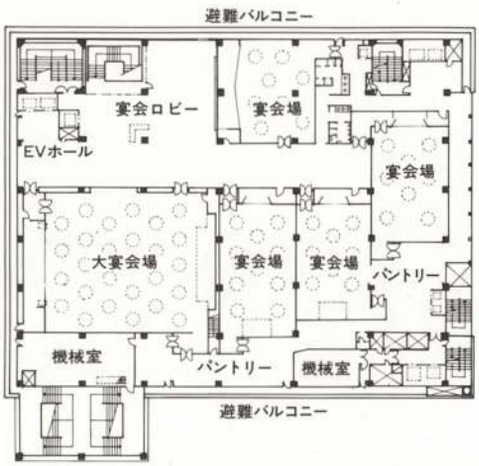
9階



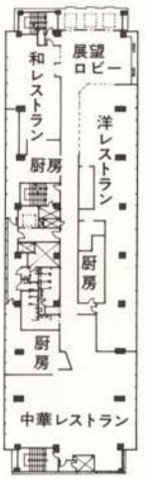
P1階

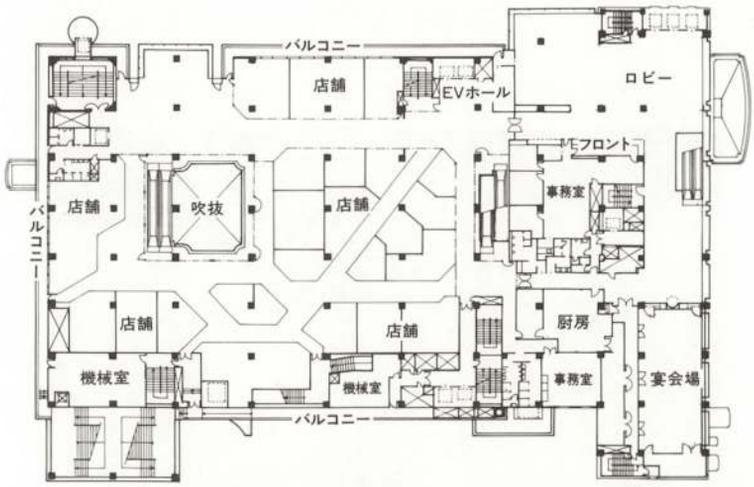


3階

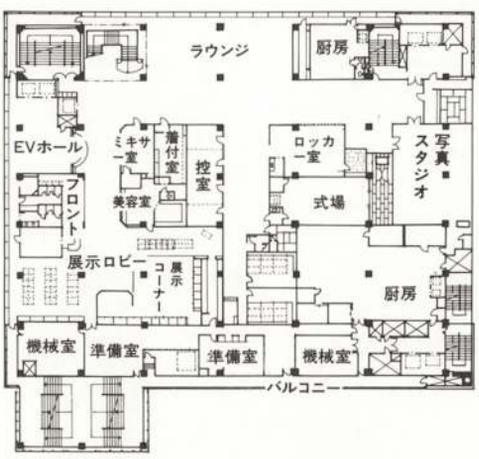


8階

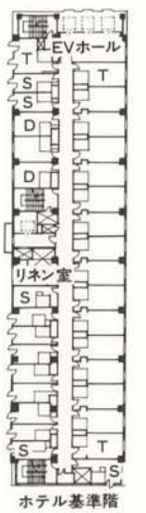




2階



7階



ホテル基準階

京都駅南口再開発ビル

設備計画

岡　次郎／城下善雄

●設備機器リスト

●電気設備

受変電	受電	22kV　2回線（常用・予備）
	特高変圧器	22kV/6.6kV　モールド型2500kVA×2
	フィーダー盤	一般6回線、自家発3回線
	コンデンサー盤	200KVA－8バンク
発電機	ディーゼル機関	6.6KV　1000KVA
蓄電池	用途／遮断器操作・表示用、非常照明用全密閉型鉛蓄電池	600Ah×1台
中央監視	受変電・熱源系統、エレベーター・エスカレーター運転監視防災動力・防災機器（グラフィック表示）	
	受変電、熱源系統、空調系統、防災・防犯関係、一般照明点灯表示（CRT表示）	
	防災機器直起動操作、誘導灯消灯制御エレベーター各種管制操作	
その他	弱電設備（テレビ共聴、放送、駐車場管制、非常電話、保安用インターホン）、非常コンセント、避雷針	

●昇降機設備

乗用エレベーター	9基
非常用エレベーター	3基
人荷用エレベーター	1基
エスカレーター	18基

●空調設備

熱源	ガス直焚吸収式冷温水機	400USRT×2台
	同上	320USRT×2台
	電動ターボ冷凍機（ダブルコンデンサー）	200USRT×1台
	ガス焚貫流蒸気ボイラー	1,000kg/H×1台
空調方式	ホテル系統　外気処理 AHU+FCU 方式	
	ブライダル系統　VAV方式	
	店舗系統　AHUによるダクト方式	
空気源装置	防災・自動制御　2系統	

●給排水衛生設備

給水	上水受水槽	260m³
	井水受水槽	140m³
	雑用水受水槽	244m³（地下ピット）
	上水高置水槽	95m³
	井水高置水槽	64m³
	雑用水高置水槽	30.1m³
	上水揚水ポンプ	高層用×4台、低層用×4台
	井水揚水ポンプ	高層用×2台、低層用×2台
	雑用水揚水ポンプ	高層用×2台、低層用×2台
	井水自動濾過装置	40m³/H×2基
	深井戸ポンプ	2台
	濾過ポンプ	2台
	逆洗ポンプ	2台
給湯	真空式温水機	1,600,000Kcal/H×1缶
	同上	1,000,000Kcal/H×1缶
	貯湯槽（SUS316製）	12,000ℓ×1缶
	同上	10,000ℓ×1缶
	同上	7,000ℓ×2缶
	同上	4,500ℓ×2缶
消火設備	屋内消火栓、スプリンクラー、連結送水管、ハロゲン化物消火、泡消火、厨房内ダクト消火消防用水、採水ポンプ1台	
ガス設備	大阪ガス13A　中圧管150A、低圧管200A	
塵芥処理設備	ダストスクリュー型　22m³/33m³　圧縮率1/1.5	

この建物は、各用途ごとによる区分所有者ビルからなる複合建物であり、設備計画上においても、機械室の配置、防災計画、エネルギー搬送計画、エネルギー計量計画、省エネルギー計画など、より有効な計画を行った。機械室の配置については、延面積に対する分譲面積率の向上を図っている。

防災計画については、法定上の設備の完備はもちろんのこと、ボイラーには感震装置を取り付け、地上階のガス使用場所にもすべてガス漏れ感知器を自主設置している。

エネルギー計量計画は、各区分所有者に対し、運営形態に応じた省エネルギー運転を指導し、エネルギーコストが経営メリットとしてでてくるよう各エネルギーの計量を行い、料金徴収できる設備とした。

中央監視は、防災センター内に設け、コンピューター利用による中央監視方式とし、ビルメンテナンス保守要員の削減を図った。

以下**表－1**に設備機器リストを示す。

■電気設備

(1)　受変電設備

特高22KV常用・予備の2回線で受電し、特高高圧盤共鋼板製自立閉鎖型配電盤を採用した。高圧電気室は共用、ホテル、商業棟、ブライダル・市民ホールの4系統に分かれ、各区分所有者の供給範囲の明確さと、計量の容易さを図った。

(2)　中央監視設備

本システムは受変電、自家発設備および冷熱源・空調・衛生・防災並びにテナント別集中検針の監視制御を防災センター（B1F）において一括して行うためのもので、電力・空調日報の作成CRTを用いた監視制御、並びに動力機器・共用部照明設備のスケジュール運転制御などを行っている。

システム構成はシステムコントローラ（SC：ミニコンおよび入出力装置）を中核とし、CRT、電力・空調・防災・グラフィックなどの監視卓・各種プリンターおよび防災センターへ必要な情報を収集するための伝送（ループ配線）制御装置（RC：リモートコントローラ）が全館11ヵ所で構成されている（総出入力約7,000 点）。**（図－1参照）**

ソフトウェアーとしては、

電力関係	故障・操作記録、定時日報、デマンド・力率監視発電機負荷制御
空調・衛生関係	スケジュール監視制御（ATS）、アナログ上下限監視、故障、定時・任意日報記録、室内温度設定制御、外気冷房制御、冷温水2次ポンプ台数制御、冷凍機ガイダンス表示、プリメ

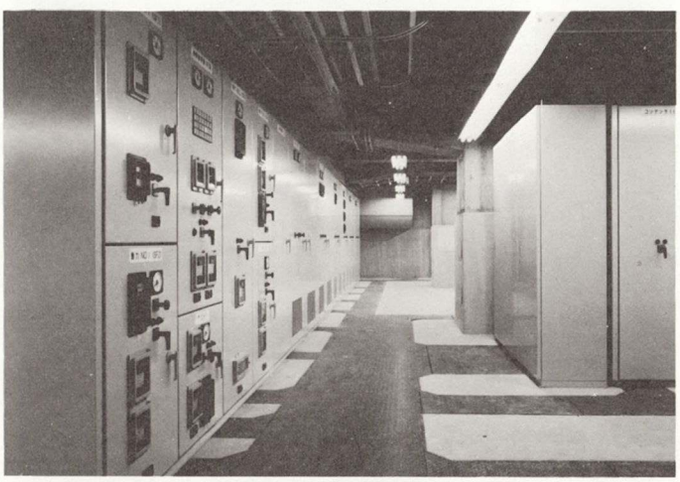
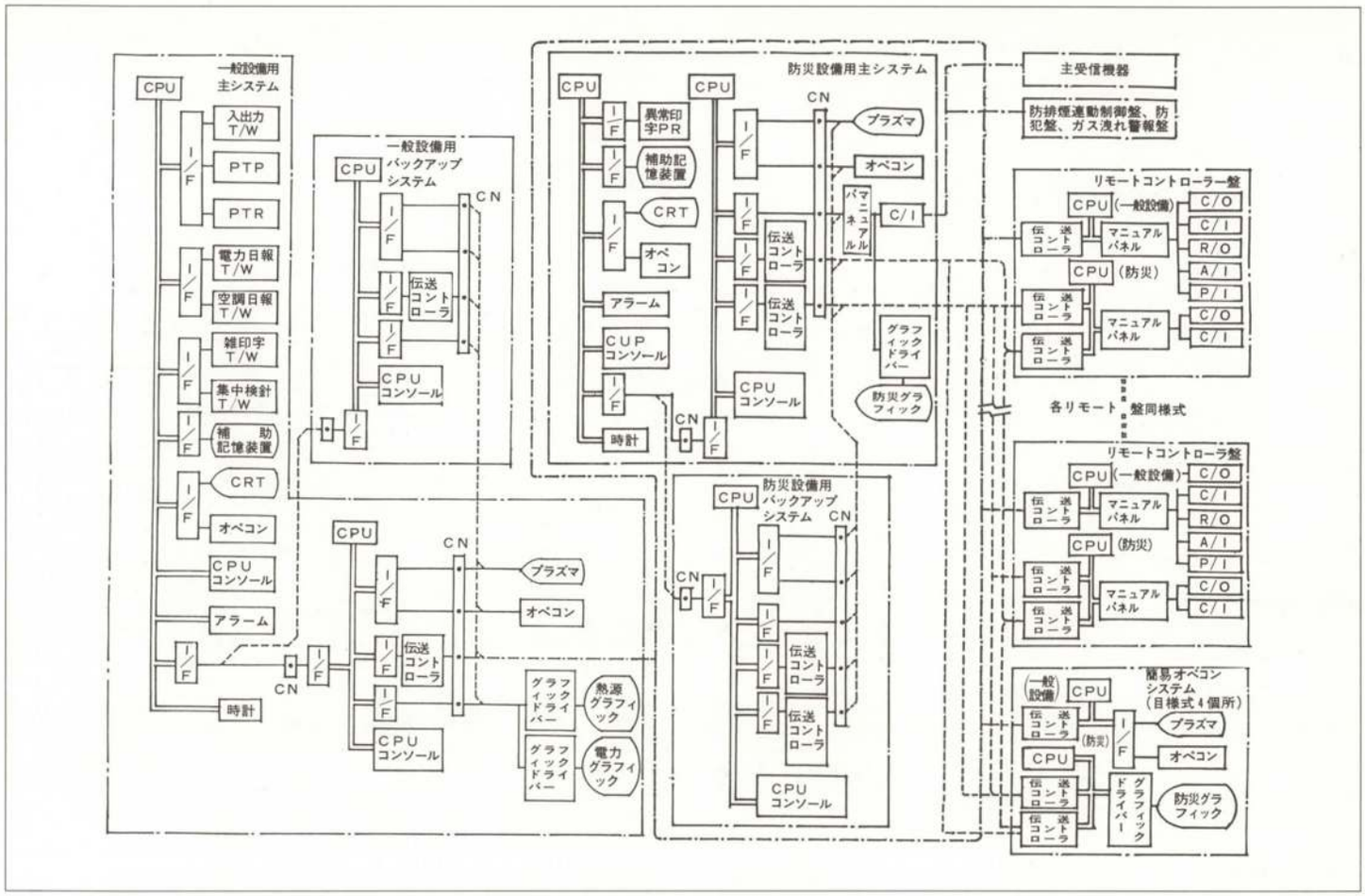


写真1　特高受変電室



図－1　中央監視システムブロック図

ンテナンスメッセージ（動力稼動時間記録）

防　災　関　係　　自火報・排煙12・ＳＦＤ・ハロン連動操作、防災動作記録

集中自動検針関係　　電力・井水・上水・ガス・蒸気・給湯・カロリーの区分所有者別自動検針、料金計算請求書発行

の内容を行っている。またシステムの無停電補償としてＣＶＣＦ(15KV30分間）を設置している。

(3)　照明設備

商業棟関係

共用通路部はテナントのサインおよび店舗への影響をおさえる。ダウンライト・間接照明などで照度をおさえ、ポイント的（ホール、ロビーにクリンクルグラスを採用した大型器具で、雰囲気づくりを行っている。また、同通路部は３段階に防災センターによる省エネ・電源供給確保のため、スケジュール監視制御（ＡＴＳ）を行い、営業時間差に対処している。

量販店内部はグレアレス器具を採用したシステム天井を設置し、リモコンによる４段階の点灯方式を基本に随所にスポットおよびネオン管照明で雰囲気づくりと演出効果をあげている。

ホテル関係

全体的にダウンライトを基調として、やわらかく落ち着いた雰囲気づくりを行い、フロアースタンドなどで演出効果をあげている。客室廊下・客室内（出入口のみ）は一般と非常照明（ＤＣ別置）を交・直両用の兼用型とし、球切れなどの確認の容易さを計っている。

■給排水衛生設備

この建物の給水は、良質の地下水が得られるため、市水と井水の２系統からなり、商業棟・ホテル棟それぞれに高層系統・低層系統



写真２　防災センター中央監視卓

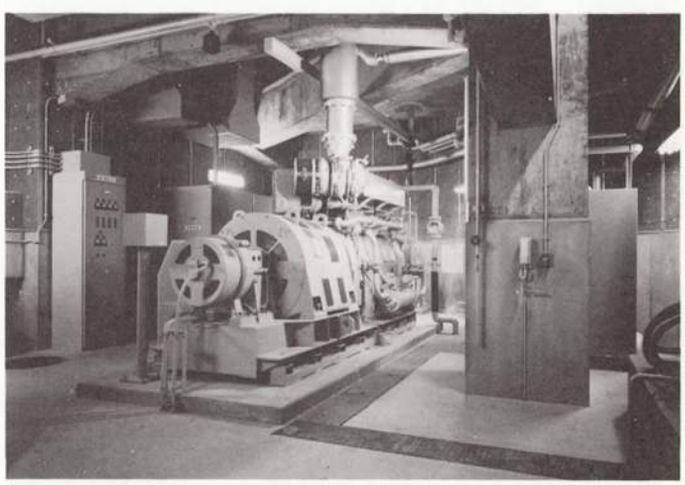


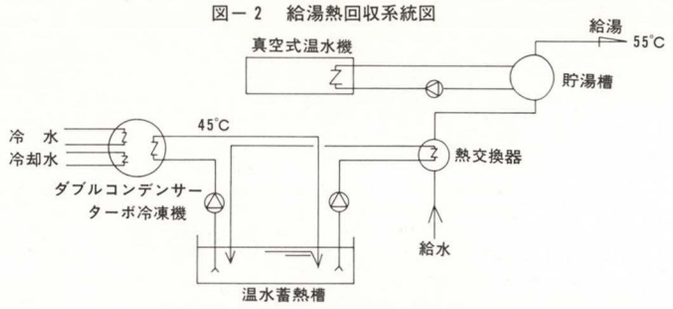
写真３　発電機室

に区分し、高置水槽を経た重力給水方式としている。また、節水対策として便所衛生器具は節水型を採用している。

給湯は、ホテル棟ユニットバス・洗面所・厨房へ供給し、給湯加熱の補助熱源として、ターボ冷凍機冷却水排熱回収を行い省エネ化を図った。

図－2に熱回収系統図を示す。

図－2　給湯熱回収系統図



■ガス設備

ガス設備に対する保安監視体制としては、ガスメーター室・機械室・厨房などガス使用場所には、ガス漏れ感知器を設置し、万一ガス漏れが発生した場合に防災センターのガス集中警報盤に警報がだされ、手動にてガス緊急しゃ断弁を閉じるシステムとなっている。また、各供給場所ごとに監視コック・安全確認弁を取りつけ、二重の安全対策を行った。

■空調設備

(1)．熱源計画

冷暖房熱源は、商業ビル特有の冷房負荷の多い建物であり、ランニングコスト比較の上主に都市ガスとした。また、熱の有効利用を図るため、ヒートポンプ式ターボ冷凍機を1台設置し、冷房負荷を熱回収している。

熱源機器の区分は、量販店・第3セクターの店舗部分を低層系統とし、冷房は蓄熱槽をもつシステムでピーク時の対応を図った。ホテル客室が24時間運転の特質により、低層系統以外の部分を高層系統とした。

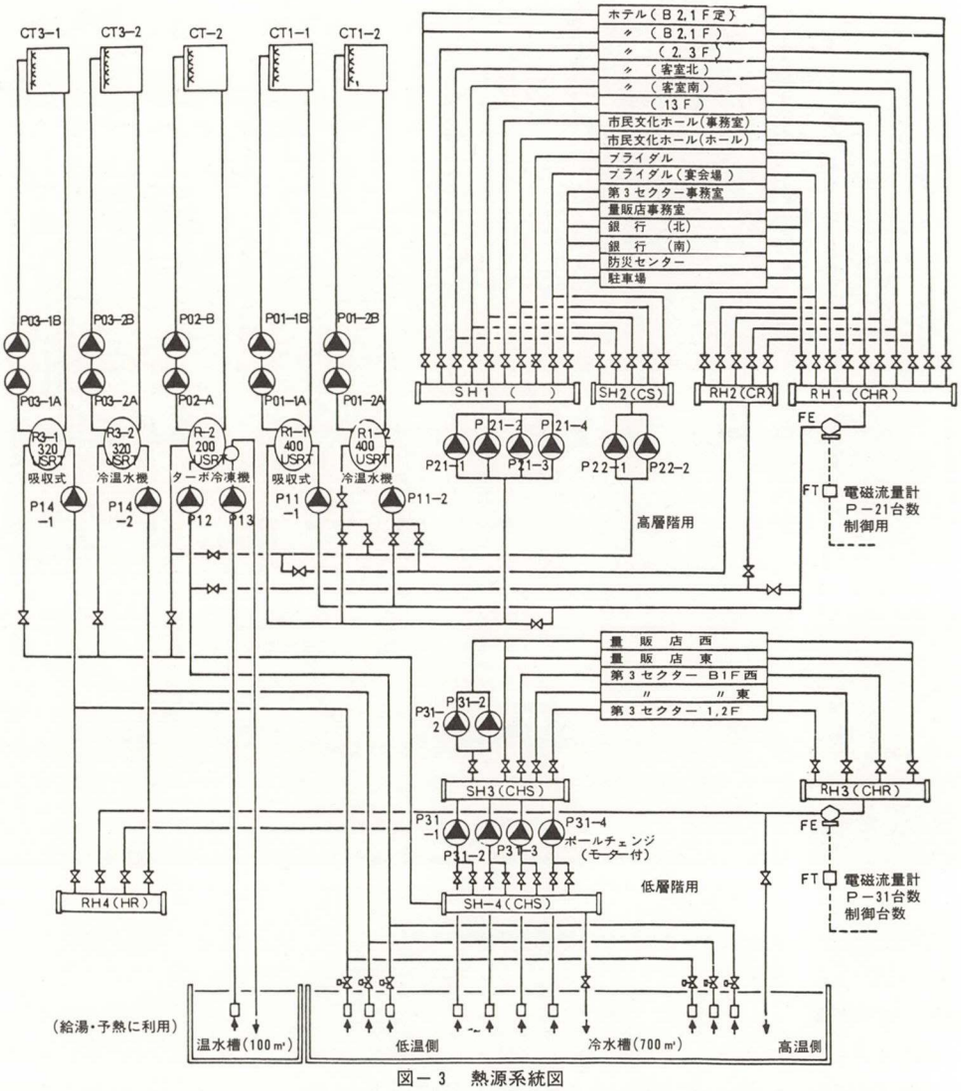
図－3に熱源系統図を示す。

(2)　空調計画

空調機は、フロアごと・各用途ごとのユニット方式とし、各個室はファンコイルユニット、またはＶＡＶ装置併用により温度調節を行えるようにしている。

外気取入は、店舗など入場者数の変動がある用途については、CO_2制御を行い、入場者数が一定している用途については、全熱交換器を設けている。

中間期は、空調機送風量100％の給排気を行い、外気冷房の有効利用をし省エネ化を図っている。



図－3　熱源系統図

（おか　じろう　　東畑建築事務所設備部主任技師
じょうした　よしお　　同　上　　技師）

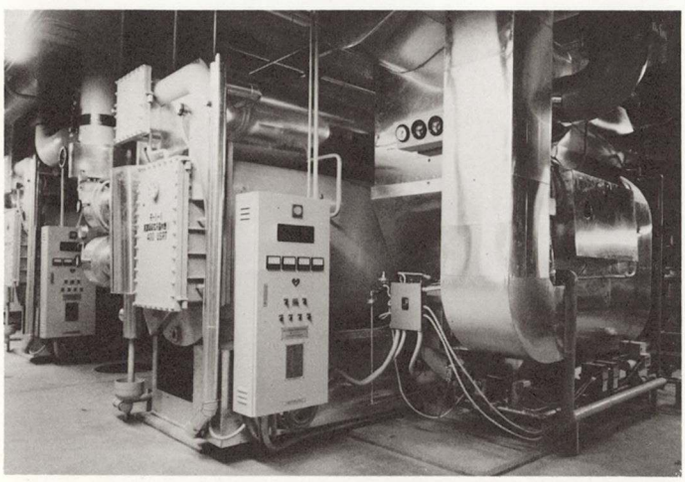


写真4　ガス直焚吸収冷温水機

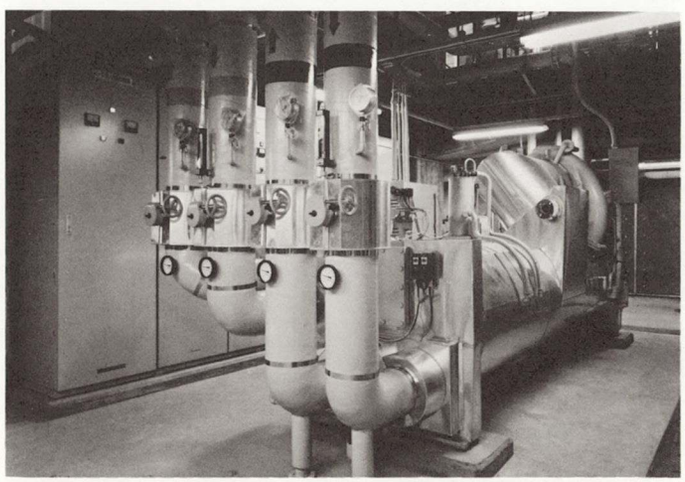
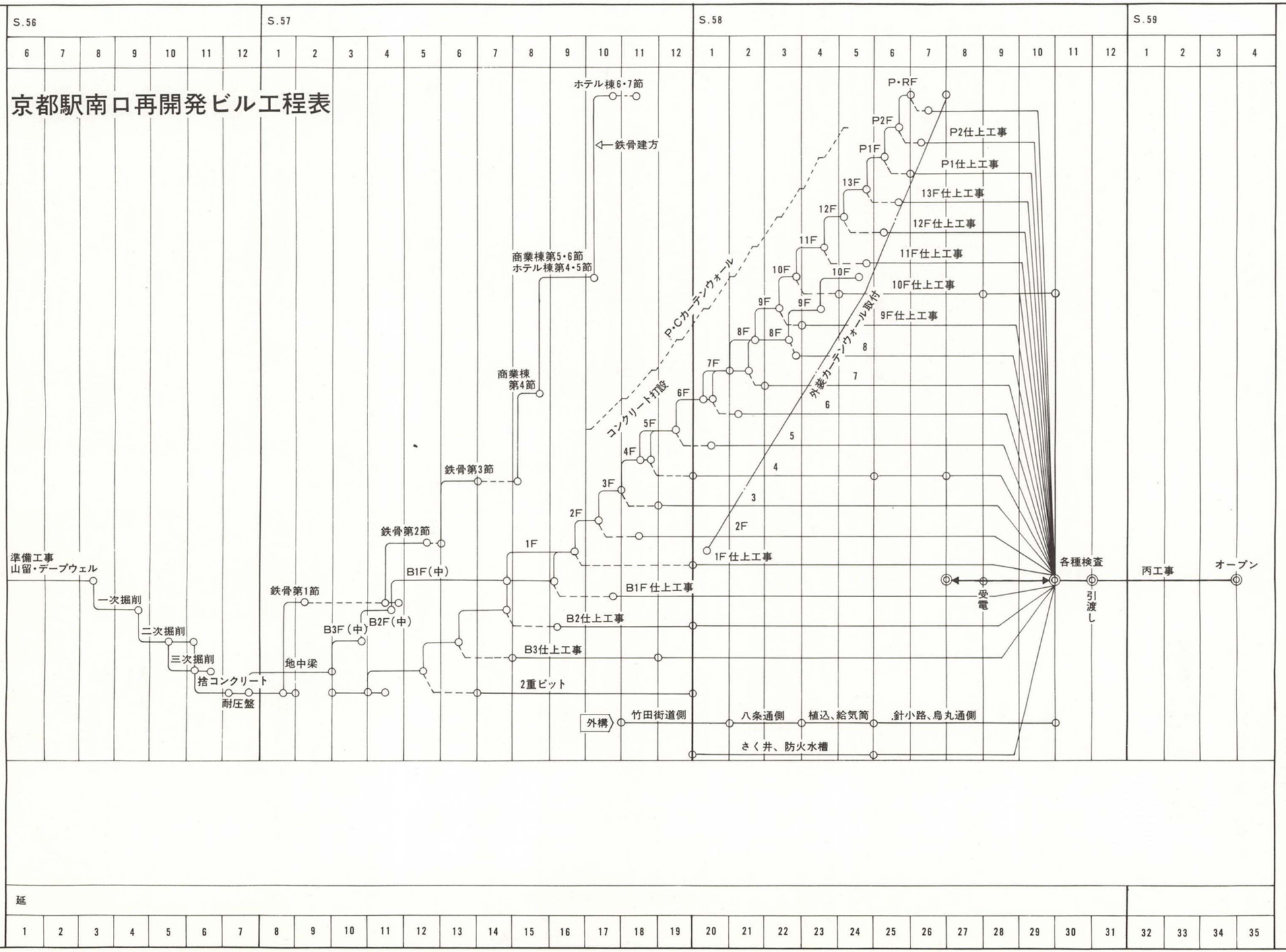


写真5　ヒートポンプ式ターボ冷凍機

京都駅南口再開発ビル工程表



京都駅南口地区再開発ビル

施工計画

安井健次

総合仮設計画を図－1、土工事計画を図－2に示す。

■土工事

建物の西側に接して南進する地下鉄の一部を包含し、関西でも有数な地下水の豊富な場所で、掘削面積7,285m²、深さ15.45m、土量116,100m³ におよぶ土工事をいかに能率良く安全に施工するかが工事計画上の最大のポイントであった。

(1) 揚水試験

ボーリング図によると、GL－19m～23m付近に不連続であるが雲状に粘土層が存在する場所と、まったくの砂礫層ばかりの場所があり、この不透水層の存在が掘削中の地下湧水に大きな影響があることが考えられた。この湧水の量と処理が土工事における最大の問題であった。

そこで本工事の湧水処理用のディープウェルを1本先行施工して揚水試験を行った。得られた透水係数は平均6.0×10^{-2}cm/secであった。

(2) 土留め壁と排水計画

土留め壁はSMWによる連続柱列工法（φ500）で周長延353mに対し応力材としてH－400×200×8/13が90cmピッチで計画された。根入れ長さを不透水層があるやもしれぬGL－21mで止めるか、それが無いものと考え土留め壁足下からの地下水のまわりこみを減らす意味で施工限界長さであるGL－30mまで施工するかが論議の的となったが、30mとなると先端部分の精度が悪くなる懸念もあり、－21mで決定した。

56年7月初旬から3基の3連式オーガー掘削機により連続柱列壁の施工に入り、その全数がGL－19m付近から先端ビットに粘土がからんでいることを確認してから、排水井戸の配置、本数の計画に入った。土留め壁先端を回りこむ水量と土留め壁自体の透水量を推定し、最終掘削時基本排水量を2.2m³/minと算定した。ほかに降雨時の排水又は突発的な湧水対策を考慮し、揚水試験用に使用した井戸も含め600φ、長さ19mのディープウェルを5本使用することに決定した。

(3) 山止め計画

当初は3段アースアンカー（除去式）で計画されていた。しかし地下水位がGL－6m前後で、1、2段目はとにかく3段目は完全に水中であり、除去式アンカーではせっかくの止水土留め壁に漏水の原因をつくる恐れがあった。また全周全段がアースアンカーの場合、異状時の対応が不可能であることから1、2段をアースアンカー3段目は外周に地山を残し、中央部を先行して耐圧盤、鉄道建方、地中梁二重スラブ（B3F床）まで施工してアイランドをつくり、B3F床梁上に設けた基礎から切梁で突いた後、周辺地山を掘削する工法を採用した。そして外周躯体はB1階でアイランド躯体に追いつくことになる。なお土留め壁の安全確認のため自動計測が採用された。**表1、2**に計測項目と管理基準を示す。**（図－2、3参照）**

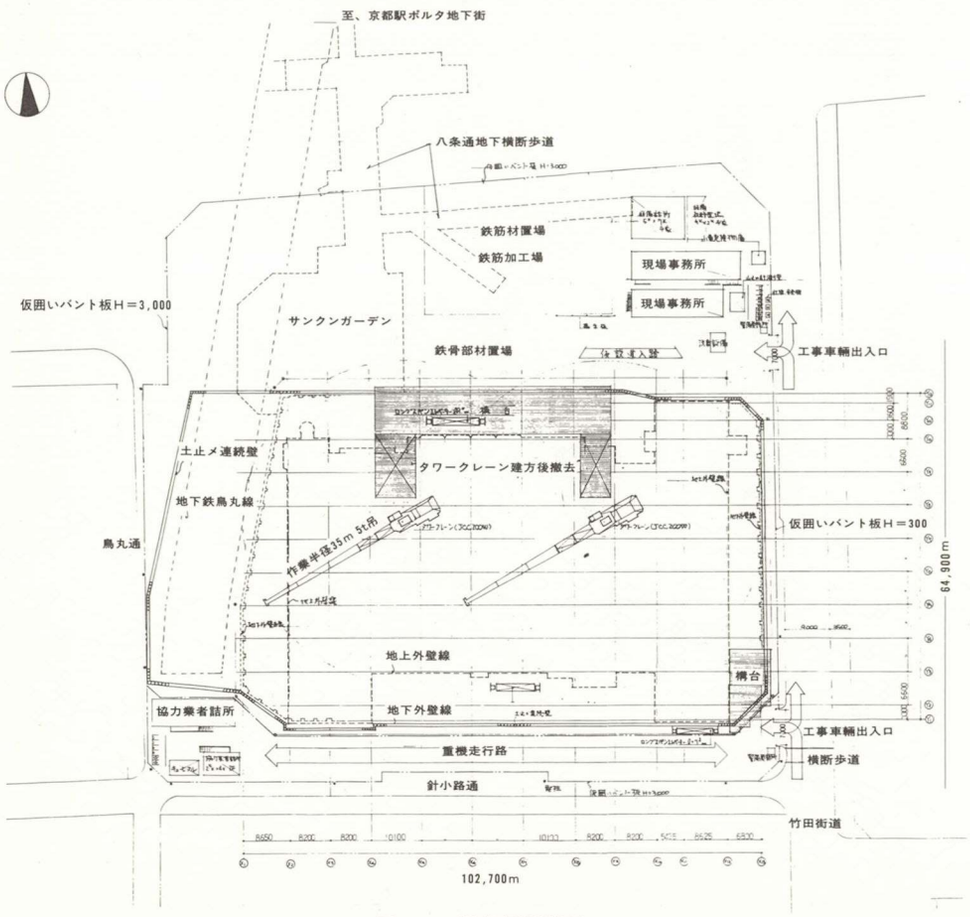
(4) 掘削

地盤は表土を除きN値50以上の砂礫である。従ってトラック構台は最少面積にとどめ、スロープにて直接ダンプが根切底まで降り大型ユンボから、じか取りを行った。一部地中障害（旧変電所の練瓦造の機械基礎）があったが、中央部の平均掘削土量は敷付けまで含めて1,200m³/日であった。（最高掘削土量1,980m³/日）

心配された湧水の影響もたいしたことはなく、地下鉄側に2ヶ所の釜場を追加しただけでドライワークで敷付けができたことは幸いであった。

外周に残した地山は11,000m³あり、アイランドからの切梁をぬってブルドーザーで突き崩し、クラムシエルで揚げる作業能率も懸念されたが、500m³/日の掘削ができ、延22日間で敷付けが終ったことも後の工程を有利にした。

こうして56年7月初旬より連続柱列壁からはじまり、途中アイランド先行のため中断があったが、57年3月末日に外周部の掘削、捨コン打設が完了した。なお掘削の延日数は113日で1日平均の搬出土量は1027m³であった。



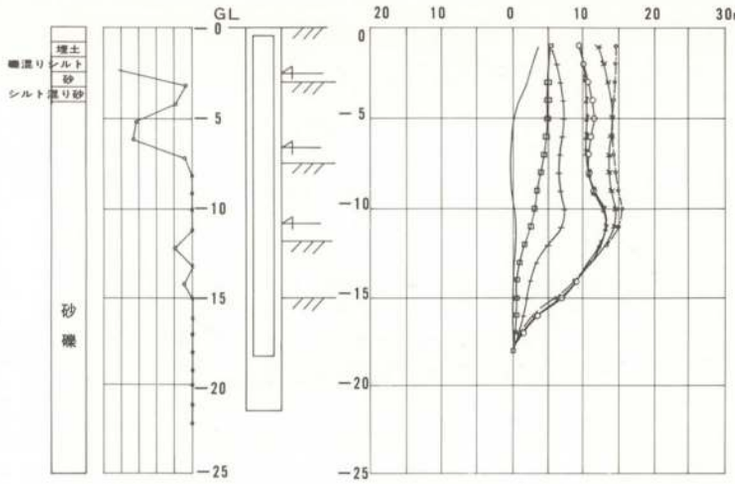
図－1　総合仮設計画

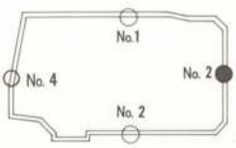
測定対象	測定項目	測定要素	測定方法	測定点
土留め壁	土留め壁の内部応力	各掘削次毎の土留め壁の応力の変化、曲げモーメント許容応力度との比較	歪計	8測点×4ヶ所
	土留め壁の変形	掘削の進行に伴う土留め壁の変形。モーメントの関連に留意する。	多段式傾斜計	8測点×4ヶ所
			挿入式傾斜計	17m×5ヶ所
切梁	アースアンカー荷重	プレロード導入時のアンカー荷重、掘削の進行に伴う荷重の変化。	センターホール荷重計	6ヶ所×2段
	切換軸力ひずみ	掘削の進行に伴う斜め切梁の軸力	歪計	3ヶ所
外周	周辺地下水位	土留め壁外周の地下水位の変動	水圧計	3測点

表－1　計測項目

項目		条件	一次管理値	二次管理値	設計値
土留め壁	変形 mm	1次堀削	8.9	8.9	8.9
		2次	9.5	9.5	9.5
		3次	20.4	20.4	20.4
		4次	26.2	26.2	26.2
	モーメント t・m	1次堀削	2.44	3.05	3.05
		2次	7.76	9.70	9.70
		3次	19.60	24.50	24.50
		4次	18.50	23.40	23.10
	応力度 kg/cm²	1次堀削	1600	2000	2000
		2次	1600	2000	2000
		3次	1600	2000	2000
		4次	1600	2000	2000
アースアンカー荷重 ton		1段	56	70	70
		2段	64	80	80
斜め切ばり ton			155	194	194

表－2　計測管理基準値



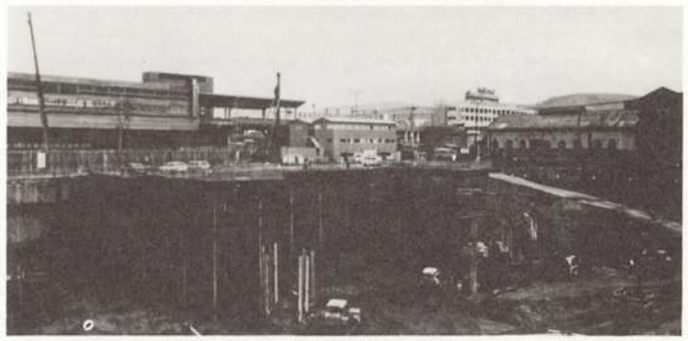


INTI. DATE 81.8.28

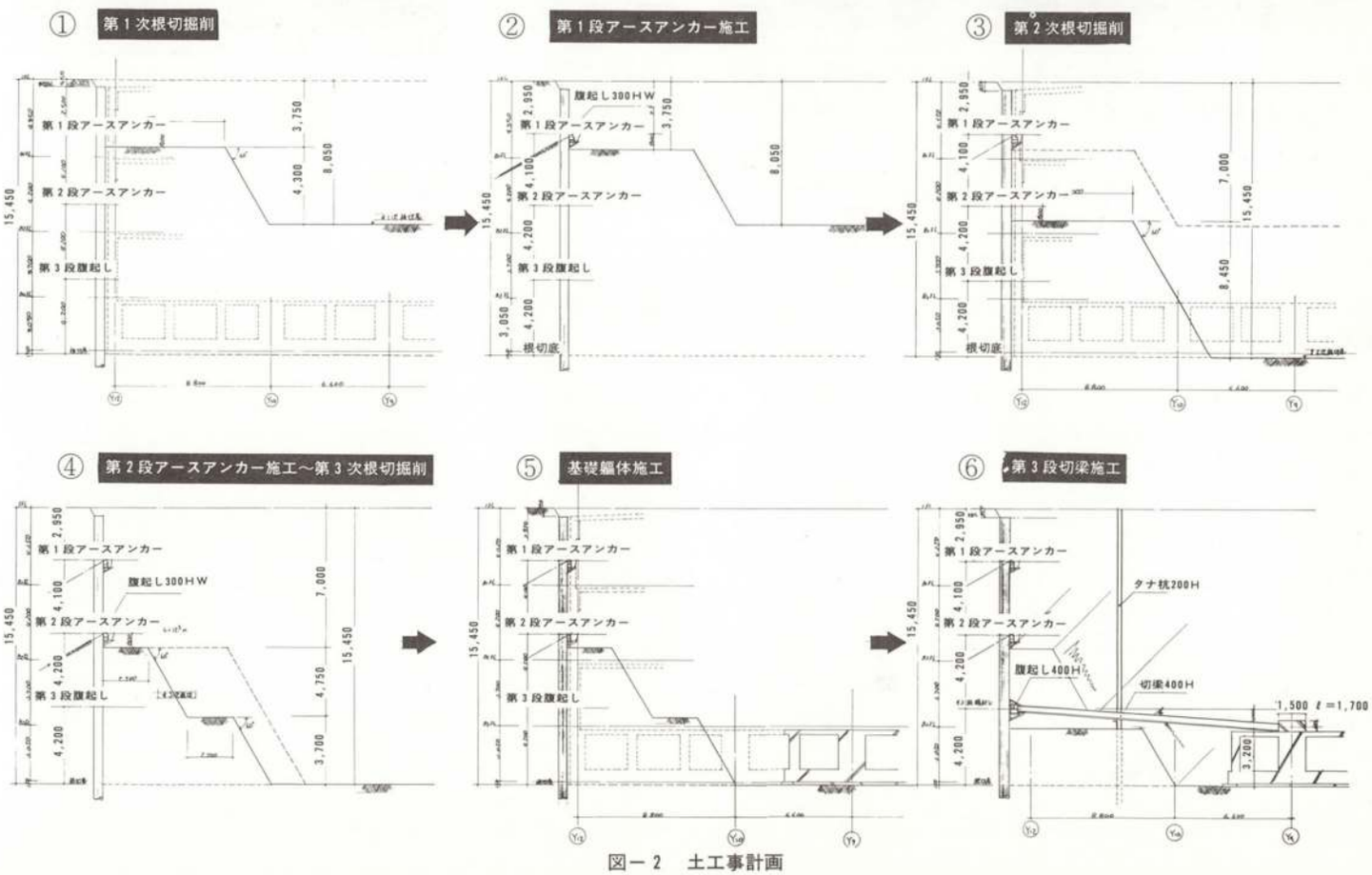
1次掘削	2次掘削	3次掘削	4次掘削
81.09.06	81.10.16	82.02.11	82.03.26

3段解体	2段解体	1段解体
82.05.26	82.06.26	82.07.31

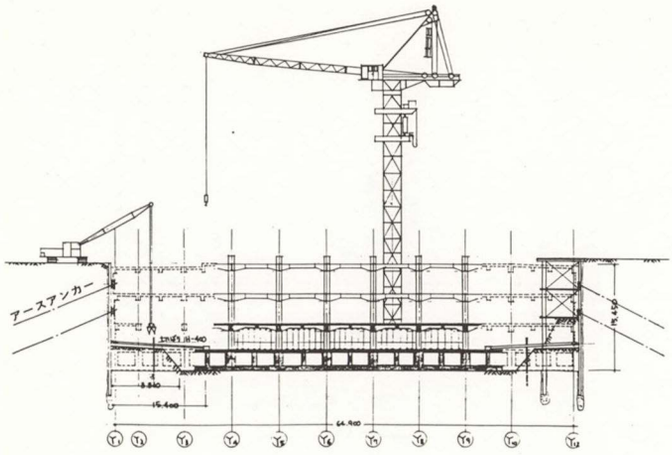
表－3　壁体変位測点No. 2 山留計測結果

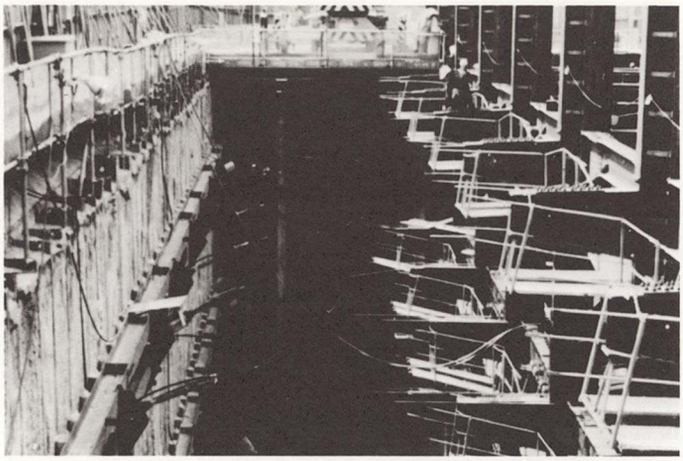


写真－1　二次堀削（スロープによる）

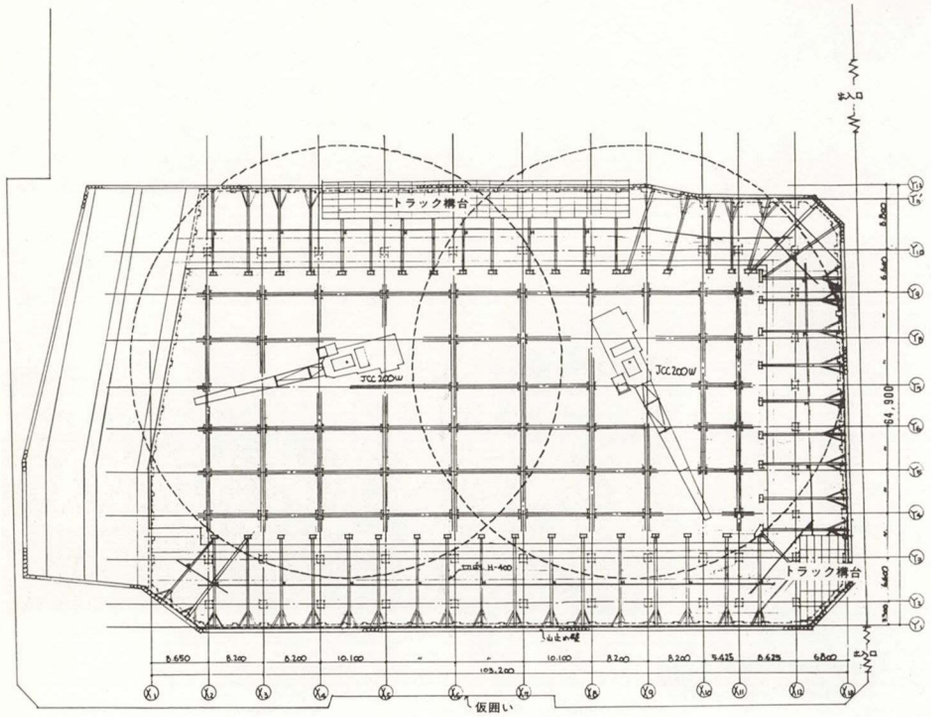


図－2　土工事計画

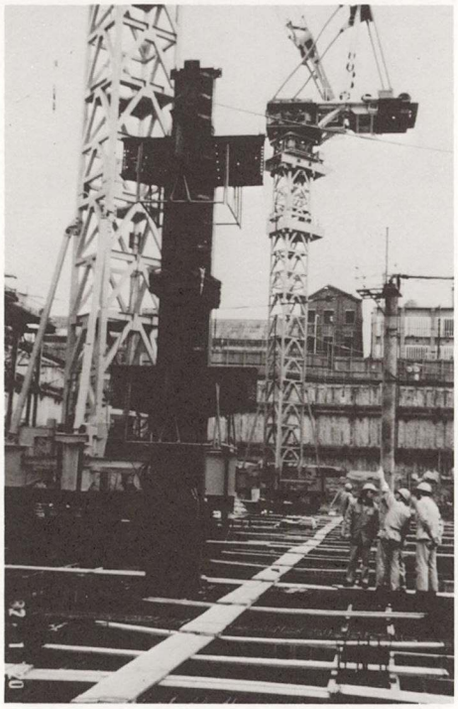




写真－２切梁（３段）解体中



図－３　アイランド鉄骨建方、切梁、４次堀削



写真－３　アイランド部鉄骨第一柱建方

(5)　土留め壁自動計測結果

自動計測の結果切梁にかかる応力は計算値のおおよそ60～75%であったが、温度応力による上下は１日で20～30ｔあった。**表－３**に土留め壁の中でもっとも交通量の多い道路に接していた東側測点の各工事ごとの変位を示す。

■鉄骨工事

(1)建方

鉄骨工事の概要はつぎの通りである。

重量　4,588トン（主構造のみ）

ピース数（小部材除く）2,962ピース

最大重量8.5トン／ピース

現場溶接長（６㎜換算）13,400ｍ（柱ジョイントのみ）

当初の設計では第一節の柱が１階床上までであったがＪＣＣ－200の能力では吊れない部分があったのでＢ１階床上までを第一節とすることで変更許可を得た。建方はＪＣＣ－200２基と隅部の届かないところはKH-180を使用した。57年１月からアイランド部分の建方から始まり、外周部の耐圧盤のコンクリート打設が完了後、外周第１節の建方を行い、第２節からは内外周同時建方となった。柱の溶接は下階からのコンクリート工事のからみで、建方は何回かに分けたが、建方のみの所要日数は69日間で１日平均43ピースであった。

(2)現場溶接

各節柱の接合部が現場溶接で、その全数に超音波探傷試験が行われた。検査個所数1,667個所で不合格数11個所、合格率99.3%であった。

■コンクリート工事

コンクリート工事の特色はＢ３階以上に全面的に流動化剤が使用されたことである。Ｂ３～Ｂ１階は普通コンクリート＋流動化剤でスランプは12→21である。地上階は全部軽量コンクリートで商業棟が１階～６階（ＧＬ＋21.7ｍ）でスランプは15→21、６階以上（最高43.9ｍ）は18→21、ホテル棟は１階から７階（ＧＬ＋21.5ｍ）が15→21、８階以上（最高55.85ｍ…水平換算長さ395ｍ）が18→21で軽量コンクリートの総数量は19,000㎥である。なお原設計では地上２階（ＧＬ＋8.9ｍ）まで12→21であったが軽量コンクリートでは無理との判断から、現場圧送試験を行ったうえで15→21に変更された。

この高さでこれだけの量の流動化剤入り軽量コンクリートを打設することは、われわれにとって初体験であった。このコンクリートの打上り品質の確保を、当作業所の重点品質管理項目の一つとして実施展開したが、ベースコンクリートのスランプ管理、あるいはコ

ールドジョイントの防止策、そしてリブ付打放面での骨材の分離対策など階を追うごとに打上りのでき映えは良くなったが、普通コンクリートにくらべかなり厳しい管理が必要であった。現在壁のひび割れの追跡調査を打放壁面（機械室関係）で行っているが、巾0.2㎜以上のひび割れの発生は、いまのところ見られない。

■ＰＣカーテンウォール工事

ホテル棟の客室外壁に小口タイル打込みのＰＣカーテンウォールが使用されている。（306枚、１枚3.6ｍ×3.0ｍ－3.5トン）それに伴う軀体がＳＲＣ造で、原設計では軀体を先行してから、後付けの仕様になっていた。これだと軀体工事中に外部足場が必要で、最上階まで軀体が上がらないと足場が解体できず、それからＰＣ版を取付けていたのでは、内部の仕上が大巾に遅れることから先付けすることに踏切った。

これにはＰＣパネルの自重や風圧力を鉄骨が負担するようになること、またＰＣパネルが外型枠兼用となるためコンクリートの側圧を受けることになるので、それらの補強などの検討を慎重に行った。ＰＣ版の取付許容誤差は学会指針の数値を管理点とし、コンクリート打設中はダイヤルゲージで測定したが最大変位は2.0㎜以内で納った。

■外壁アルキャスト版

商業棟外壁３面とホテル棟の２面にアルキャスト版（アクリルウレタレ系塗装－２回塗50μ以上）が使用されており、役物を含む総面積が7,600㎡で重量は約200トンである。一般のパネルはチェーンブロックで取付けたが、商業棟の最上階のパネルはH-2.2ｍ、W-4.3ｍという大型で、これはタワークレーンと、レッカーにて取付けた。

消防用非常進入口が内側へスライドする仕様になっており、珍しい納りといえよう。

■おわりに

京都市初の駅前再開発工事を終えるにあたり施工者としての感想を述べる。

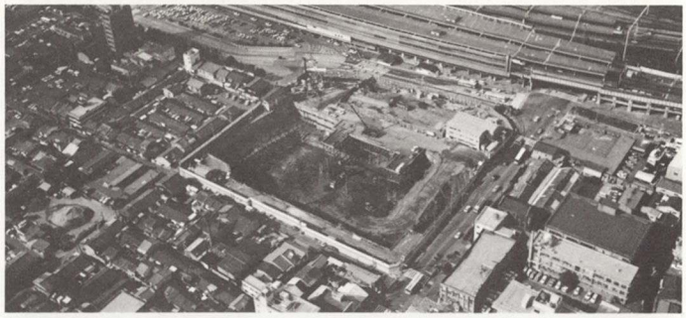
１）市関係者および設計事務所の長期にわたる近隣折衝により、施工者が決定したときは工事の大筋についても同意が得られており、われわれは１回の工事説明会をすることなく、工事にかかわる協定書を近隣と交しただけで着工することができた。このことは今日の世情の趨勢から考えると極めて異例であろう。

もちろん工事中の近隣に対しての気遣いはたいへんなものであった。騒音計の設置、日祝日の全休、8:30～17:00の作業時間の厳守、月１回の近隣代表との懇談会などが行われたが、さしたるトラブルなしに終ったことは幸いであった。これは近隣の方々の深い理解の賜ものと感謝したい。

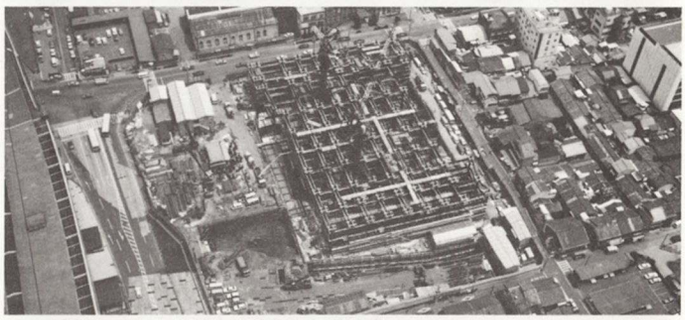
２）われわれの受注した甲乙工事の契約工期は30ヶ月（実質29ヶ月）あり、さきに述べた近隣との協定で突貫体制がまったくとれない条件の中で、この工期は施工者にとってまさに適正工期であった。

３）地階の外周部に駐車場へのスロープや、吹抜けや間仕切の多い機械室が集中しており、アイランド工法を採用すると、外周部分の軀体工事がかなり忙しい工程になることが計画時点から問題であった。それでも山止めの安全性を第一に考え、アースアンカー併用のアイランド工法に踏切ったのも、それが可能な工期があったからである。

４）昭和56年９月～58年３月まで、建物の西側の地下鉄工事と八条道地下横断歩道工事が発注され、同じ仮囲いの中が三施工業者による出合丁場となった。



写真－４　３次掘削中



写真－５　３節鉄骨建方完了地下鉄およびサンクンガーデン掘削中



写真－６　ホテル棟11階ＰＣ版取付

これには三工事の打合せ母体である「連絡協議会」に加え、市と労基署の指導で、お互いが安全について切磋琢磨するねらいで月一回、三現場の相互安全パトロールおよび労基署の担当官の講話を中心とした「南口再開発安全衛生委員会」を業者の自主組織として運営した。これにより安全面はもちろん、三現場のコミュニケーションがよくなり工事の進捗が円滑に行われた大きな原因となった。

５）58年３月から他業者によるビル周辺道路工事が始まり、資材の搬入路、ストックヤードの狭隘化など仕上工事のピークを迎えて問題が続出したが、担当現場員レベルでの話合いで解決していけたことは、いままでの現場の「流れ」が前述のようにスムーズな雰囲気で進んでいたことも一因といえよう。

６）こうして58年の10月末日には外構を除き設計事務所の本検査をうけ、以後１ヶ月弱の間に施主、諸官庁の竣工検査をすべて終え、余裕をもって11月30日に引渡しを終えた。

この間、幾多の困難にぶつかりながらも、現場が安全施工サイクルの中で、別途の設備業者も含めて最後まで「和」をもって、まっとうできたことはいつに施主、設計事務所の御指導の賜ものと改めて感謝したい。

７）区分所有者による内装工事（丙工事）は引渡し翌日の58年12月１日から正式に着工された。普通はこのようにはっきり分けず、工期の終りが同一日で即オープンというのが通常のケースであろうが当工事のように工期を分け、別途の内装業者と責任分界をはっきりしておくことは、とくにこのような大型工事の場合、大事なことであろう。

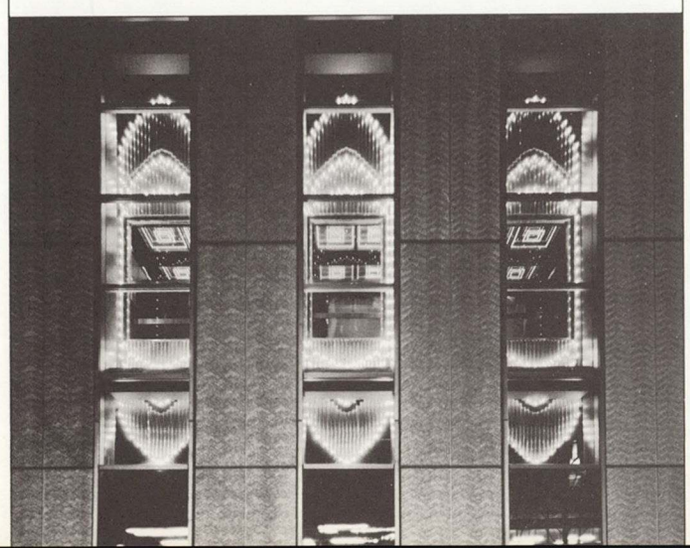
（やすい　けんじ　京都駅南口再開発ビル共同企業体工事事務所所長・戸田建設）

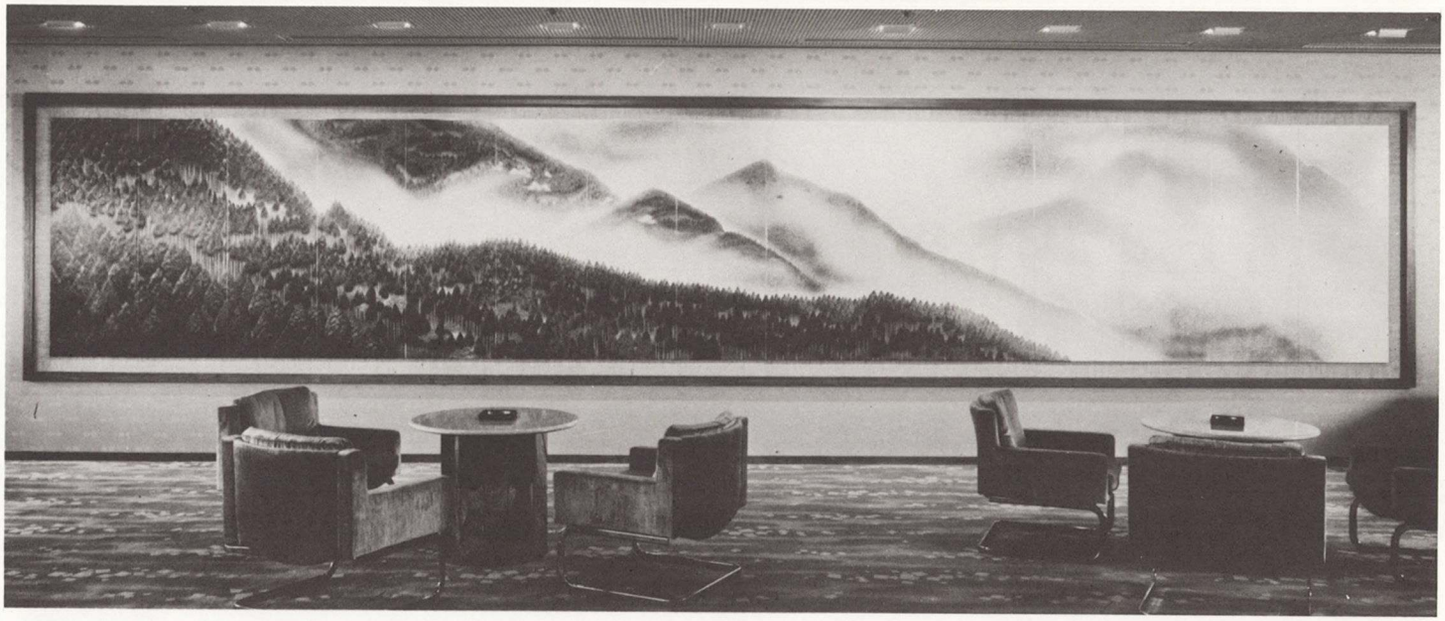


京都駅南口再開発ビル〈アバンティ〉特集

関連広告目次

成幸工業…… 表3
大塚オーミ陶業……97
奥村重兵衛……97
川島織物……98
関西ペイント……98
近畿電気工事……99
昭和プレハブ……99
神鋼ノース…… 100
東芝電興…… 100
ナカ工業…… 101
日新工業…… 101
日新電機…… 102
日鐵建材工業…… 102
日本シャッター製作所…… 103
日本電気硝子…… 103
日本フレクト…… 104
能美防災工業…… 104
博電舎…… 105
ポゾリス物産…… 105
松下電器産業／日本オーチス・エレベータ…… 106
丸茂電機…… 106
三好ガラス建材…… 107
三成鉄工…… 107
三菱電機…… 108
森井電業…… 108
ユニオン…… 110





マリアージュ玉姫殿（８Ｆ宴会ロビー）
●場　所　京都駅南口再開発ビル
●サイズ　1600㎜(H)×9000㎜(W)15枚１組

●600㎜×3,000㎜×20㎜の大型陶板を組合せ、スペースにあわせた大きさで表現できます。
●1,300℃の特殊高温焼成により、色彩豊かに再現。耐久性、耐摩耗性にも優れています。
●施工方法は乾式工法でユニット方式ですから、一片ずつ簡単に取り付けることができます。
●オリジナル作品をご希望の場合は、アーチストの創作依頼交渉も代行いたしております。

（営業品目）　芸術陶板、デザイン陶板、名画陶板、肖像陶板、建築陶板。

お問合せ・資料のご請求は下記へどうぞ
東京／〒101・東京都千代田区神田司町２丁目９番地☎03(292)0021
工場／〒529－18・滋賀県甲賀郡信楽町大字杵原字寺谷926番地☎07488(2)3001

創作・セラミックアート

CERAMIC PLATES FOR FINE ARTS

芸術陶板

大塚グループ　**大塚オーミ陶業株式会社**

未来に向けて 建築空間との対話を 考える

空間を追究する技術
Okuju®

奥村重兵衛株式会社

本社　〒530 大阪市北区西天満5丁目3番7号 ☎(06)312-4131㈹
東京(03)437-3361 名古屋(052)522-5436 福岡(092)291-0459
仙台(0222)65-6568　沖縄(0988)53-6850



京都駅南口〝アバンティ〟身障者用トイレ／ステンレス手摺、吊りパイプ

本格的なインテリア時代のために
カワシマオリモノ
インテリアファブリックス
INTERIOR FABRICS
カーテン●カーペット●壁　装●椅子張
'84-'86新製品発表!!

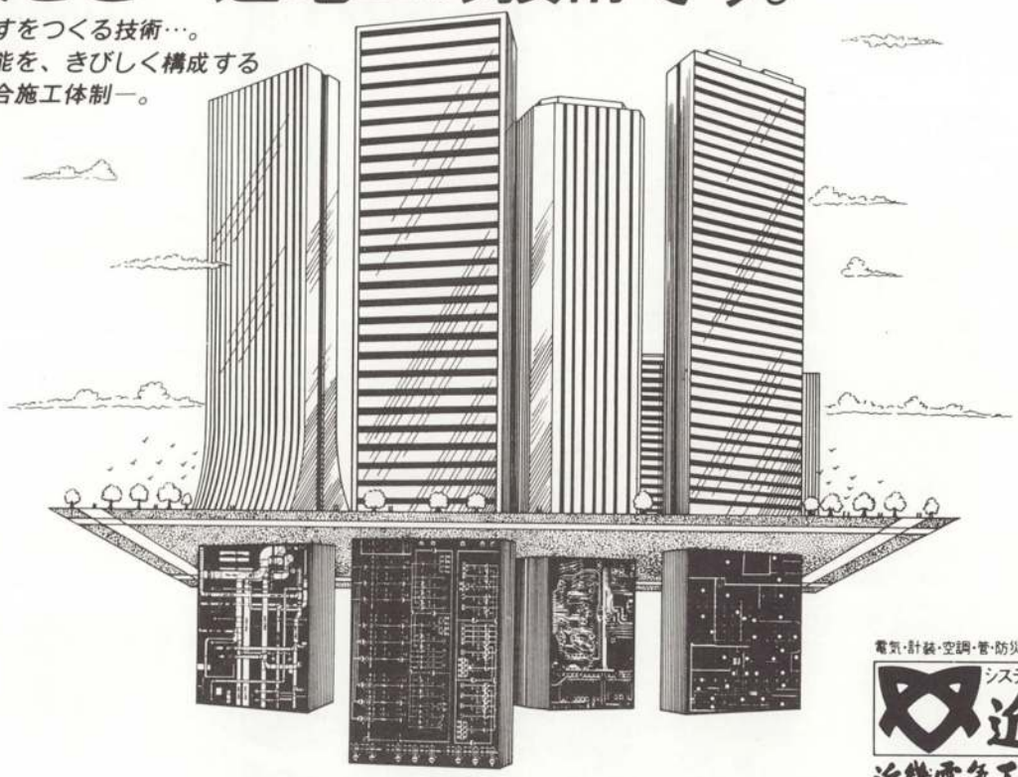
ktm 川島織物

東京営業本部
東京都千代田区永田町2丁目　山王グランドビル5階　Tel (03) 580-4511(代)
大阪営業本部
大阪市北区堂島1丁目1番5号　梅田新道ビル6階　Tel (06) 347-0451(代)



信頼の大きさ…近電工の技術です。

あすをめざす都市、あすをつくる技術…。
活動し、制御する全機能を、きびしく構成する
近電工の総合技術と総合施工体制―。



電気・計装・空調・管・防災・土木

システムの信頼を高める

近電工

近畿電氣工事株式會社

大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　〒531　☎06(375)6000

“品質の安定が
個性的な美しさの追求を
可能にしました。„

●プレキャストコンクリート
●カーテンウォール
総合メーカー



昭和　昭和プレハブ株式会社

代表取締役　村瀬　恒治

◦本　　社　岐阜県岐阜市明徳町10　TEL 0582－65－5151㈹
◦工　　場　岐阜市関市千疋字向野945　TEL 05752－8－2026
◦大阪連絡所　大阪市西中島3-19-13（第2ユヤマビル）　TEL 06－301－3557
（昭和コンクリート工業株式会社大阪支店内）

技術で明日にいどむ、アルミ建材・加工品の総合メーカー

「アバンティ」にも神鋼ウォール#2000が使われています。

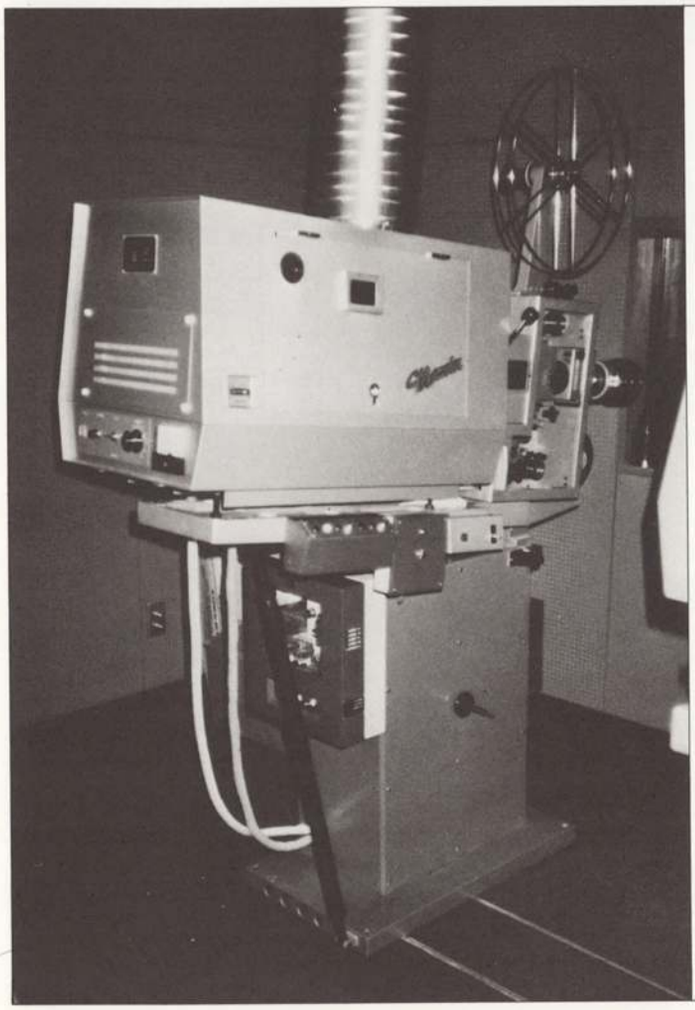


神鋼ウォール#2000

細い見付とフラットな面で、歪みの少い美しい像を映します。

神鋼ノース株式会社

本　　社：東京都中央区京橋2－1－2
TEL（03）278－4100
大阪支店：大阪市北区西天満5－1－9
TEL（06）364－9371

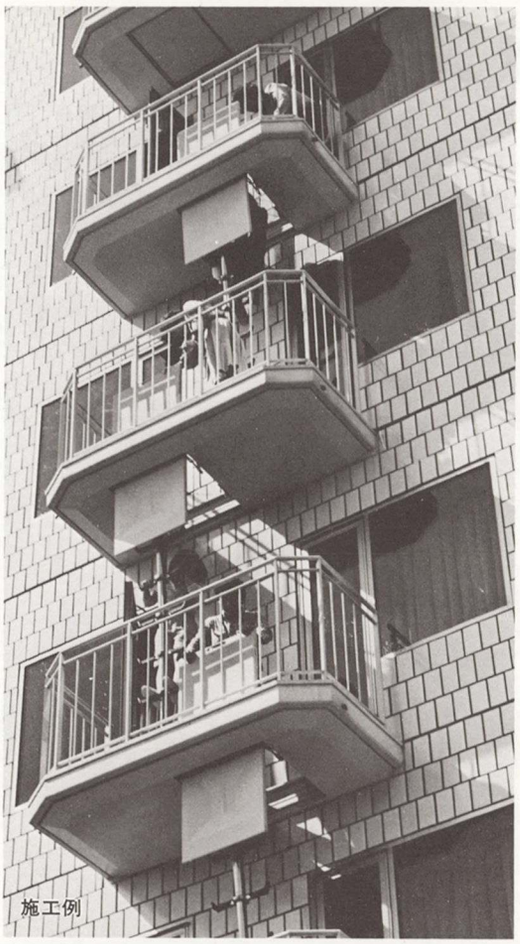


ビデオシアターの事業は「激減した映画館」という現実の流れを変えようとする「野心的な企画」です。
そして、その流れを変える大きなエネルギーを生み出すために、映画産業はじめ、流通産業、ディベロッパー企業などあらゆる企業の力を結集して、いま、明るく確かな展望をもって、発進しようとしております。

映写設備	16／35mm 兼用映写装置
	35mm 映写装置
	70／35mm 兼用映写装置
	16mm 映写装置
	舞台幕、スクリーン装置
	連結椅子
舞台照明設備	東芝電材㈱代理店
	サイリスタ調光装置
電気音響設備	ホール音響装置
	一般放送装置

東芝電興株式会社

本社	〒104 東京都中央区銀座8丁目3番7号 伊勢半ビル	（03）571－6111㈹
ホトホーン営業部	〒104 東京都中央区銀座西8丁目10番地1 東京高速道路ビル	（03）571－5996㈹
特機営業部	〒104 東京都中央区銀座西8丁目10番地1 東京高速道路ビル	（03）571－5999㈹
大阪営業所	〒530 大阪市北区堂島1丁目1番25号 新山本ビル	（06）344－2971㈹
名古屋営業所	〒450 名古屋市中村区名駅4丁目4番12号 中経ビル	（052）581－6561㈹
福岡営業所	〒810 福岡市博多区中洲5丁目1番12号	（092）291－5361㈹
札幌営業所	〒060 札幌市中央区北四条西5丁目1番地 北門ビル	（011）281－2811㈹


施工例

●火の手を見たら避難が第一！

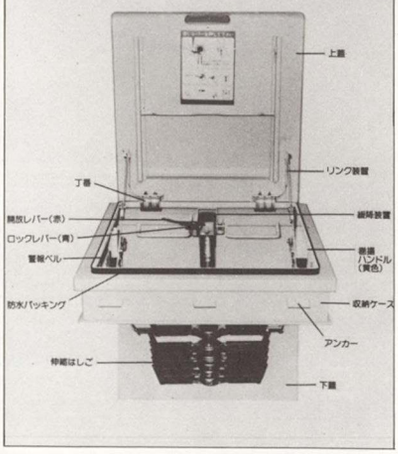
いざという時あなたの命を守る!!



床埋設式避難器具

タスカール®

各部の名称



世界が認めた安全性

UL検査合格品　自治大臣承認

8,000万円の
生産物賠責任
保険に加入しています。

住まいの安全を考える

ナカ工業

本　社：100 東京都千代田区内幸町1－1－1
インペリアルタワー10F　☎03(501)8211
大阪支店：〒532 大阪市淀川区田川3－10－2
☎06(308)5541
名古屋　☎052(471)3191　広島　☎082(246)9200
福岡　☎092(451)1577



防水の黄金率。

67:33

絶縁率　密着率

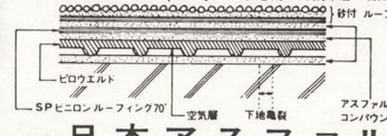
日新工業が永年の研究によって、その結晶をみた特許ストライプ工法。

ピロウエルドは絶縁率67%・密着率33%という微妙なバランスで、理想の防水効果を発揮しています。アスファルト防水の伝統である密着工法を生かした絶縁工法・ストライプ工法は、ストライプのもつ空気層が、下地の動きから防水層をガッチリと守りフクレ圧力を分散させました。しかも、7t/㎡という接着力が風圧にビクともしない防水層を保守しています。

防水の難問を解決した特許ストライプ工法

ピロウエルド

特許ストライプ工法(ピロウエルドを用いた防水層の断面)



日本アスファルト防水工業協同組合

マルエス S 日新

日新工業株式会社

本社営業所●東京都足立区千住東2-23-4/☎03(882)2424(代)
大阪支店●大阪市西区新町1-12-22☎06(533)3191(代)
出張所●名古屋(741)4257-8●広島(2)1010・1061●福岡(74)3461-3●札幌(51)5659・6885●山形(23)0437-6

快適なビジネス環境を支える
的確なシステムコントロール



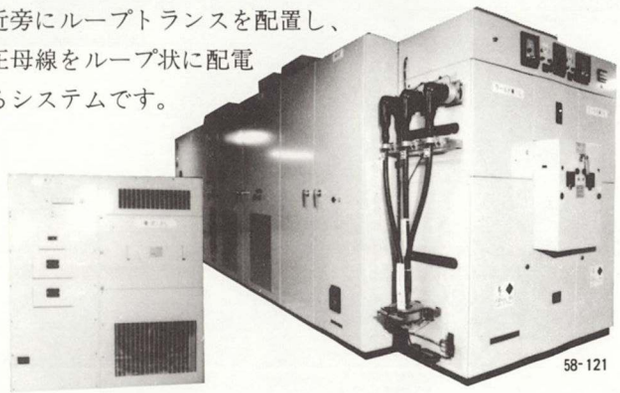
57-179

〈ビルメイト〉は、複雑多様なビル設備の監視制御・管理を経済的に実現するコンピュータコントロールシステムです。

日新/ビル管理システム
BUILMATE

日新/ループ式受配電システム
BUSLOOP

〈バスループ〉は、ビル内に分散する諸設備の近旁にループトランスを配置し、高圧母線をループ状に配電するシステムです。



58-121

重電からエレクトロニクスまで
日新電機

本社・工場　〒615 京都市右京区梅津高畝町47番地
☎(075)861-3151(大代表)
営業本部　☎(03)503-3251～6(代表)
中部支社　☎(052)561-5511(代表)
西部営業本部　☎(06)344-7321～6(代表)

地震の国だから。

S・Gリング45
有孔梁せん断補強
●特許製品



はり貫通孔補強にS・Gリング工法

RC造、SRC造の場合、はり部分を貫通して配置するダクト。この貫通部分の補強方法として日鐵建材工業が開発したS・Gリング工法が、さらにその強度をアップさせ、新耐震工法に最もすぐれた補強方法として十分ご信頼にお応えします。

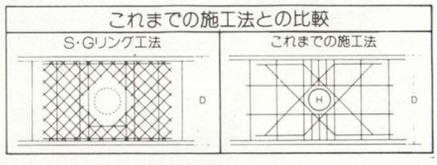
強度をアップさせコストをダウンさせた

高い溶接接点強度をもった精度の高いワイヤメッシュ構造のS・Gリング。日鐵建材工業は、それをさらに斜めワイヤメッシュ構造にすることで強度を一段とアップさせ、しかも工場での量産体制により、在来工法にくらべコストダウンも実現しました。

作業を簡略化し工期を短縮した

現場での複雑な配筋作業を必要とした在来工法のデメリットを解消し、確実な配筋ができ、しかも取付けるだけで施工完了です。現場施工の手間が省け、工期の短縮ができるだけでなく、補強筋検査の手間も省けますから、設計・施工管理も容易です。

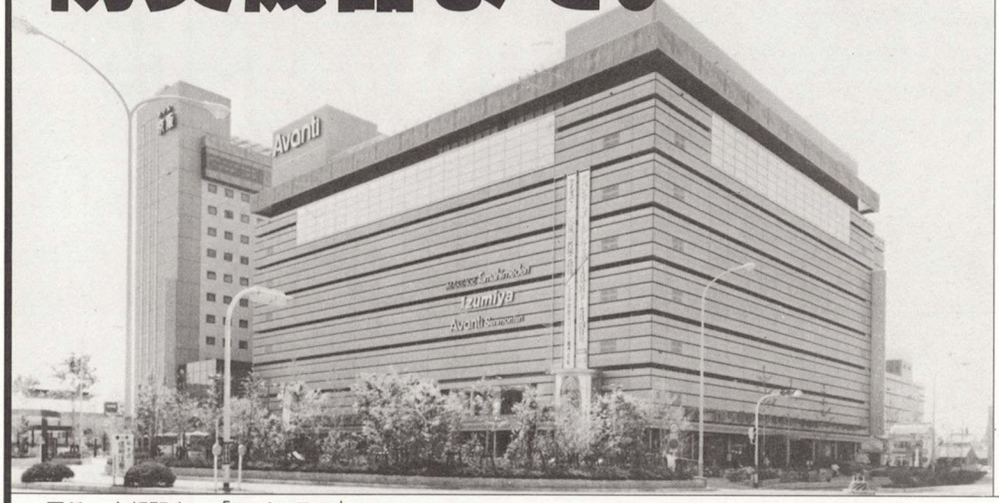
これまでの施工法との比較



豊かな明日をめざす新日鐵グループ
日鐵建材工業株式會社

本　　社：東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル 〒104 ☎03(542)8111
大阪営業所：大阪市北区中之島2-2-8 テイサン中之島ビル 〒530 ☎06(222)5382
営業所　札幌☎011(281)2551・東北☎0222(21)4571・新潟☎0252(47)1321・静岡☎0542(55)0441・名古屋☎052(261)8721・富山☎0764(32)6306・姫路☎0792(37)1450・四国☎0878(61)7654・広島0822(21)4007・岡山☎0862(31)2719・山陰☎0852(27)5323・福岡☎092(471)2121
青森・秋田・盛岡・郡山・長野・高崎・千葉・北九州・大分・鹿児島・沖縄

一般シャッターから防災機器まで。



国鉄・京都駅南口「アバンティ」

●シャッター、防災機器などに日本シャッターの製品が使用されています。

〈営業品目〉

■一般シャッター・ドア
- L型電動式シャッター
- 軽量電動式シャッター
- 高速シャッター〈トップ8〉
- 横引シャッター
- パイプシャッター
- バランスシャッター
- オーバードア
- ガレージドア〈アームアップドア〉
- 採光シャッター〈あかり〉

■住宅用シャッター・雨戸
- 窓シャッター〈ハイマドンナ〉
- 横引雨戸〈ハイシャッター〉
- 断熱雨戸〈ハイアップ〉

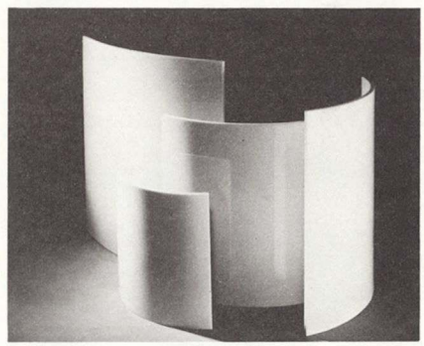
■防災設備
- 非常用シャッター開放装置〈パニックオープナー〉
- 防煙シャッター
- 防煙壁

株式会社日本シャッター製作所

大阪本社／大阪府大阪市淀川区田川北3丁目2番4号　〒532 電話㈹06（300）1141
大阪工場／大阪府枚方市招提田近1丁目7番地　〒573 電話㈹0720(57)4535
東京工場／神奈川県川崎市中原区新丸子東3丁目1159番地　〒211 電話㈹044(411)6325
高崎工場　群馬県高崎市中大類町628－1　〒370 電話㈹0273(52)8674~6
九州事業部・工場　福岡県粕屋郡粕屋町仲原字明神984－4　〒811 電話㈹092(938)4661
鹿児島工場　鹿児島県姶良郡蒲生町大字北陣平2177　〒899-53 電話㈹09955(2)1125



「アバンティ」エントランスホール



結晶化ガラス

ネオパリエ®

日本電気硝子株式会社

東京営業部＝〒108 東京都港区三田1－4－28 ☎03(456)3511　大阪営業部＝〒530 大阪市北区角田町1-1 ☎06(312)2971　出張所＝仙台☎0222(63)6717・東京☎03(631)1462 名古屋☎052(937)5113・大阪☎06(723)5061・福岡☎092(531)5075

北海道地区のお問合わせは㈱建材社☎011(736)1131

広島地区のお問合わせはエヌイージー建材㈱☎082(284)4591

大空間用空調システム

ディリベント　システム

ディリベントシステムは、ノズルから吹出す高速ジェット気流のエネルギーを利用して、外気ファン又は吹出口からの新鮮外気を誘引搬送し、ダクトレスで地下駐車場の換気を行う画期的システムです。

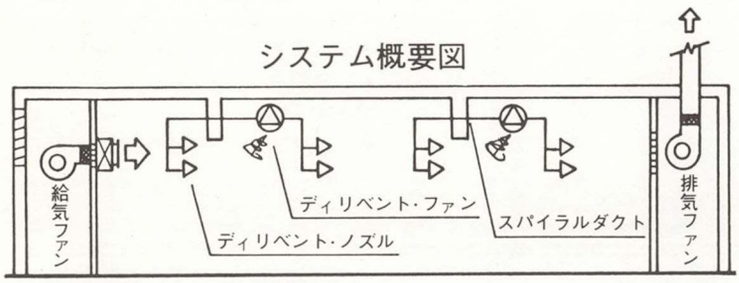
〔特　　長〕

1.ダクトレスで換気できます。
2.施工が容易で設備費も低減できます。
3.環境が良くなります。
4.給・排気ファンのランニングコストが下ります。
5.階高が低くて済み建設費が削減できます。

〔その他の用途〕

■工場・倉庫
■体育館・展示場
■文化ホール
■室内温水プール
■図書館・書倉
■空調機械室

システム概要図



地下駐車場から
ダクトがなくなります

Fläkt
日本フレクト株式会社

本　　社　〒101 東京都千代田区神田駿河台4-2 お茶の水ビル
☎03(255)0095(代) テレックス222-6715FLAKTT J
大阪支店　〒530 大阪市北区芝田1-4-8 北阪急ビル ☎06 (374)1355(代)
名古屋支店　〒460 名古屋市中区錦2-2-13 センタービル ☎052(211)6230

NOHMI

快・適・な・く・ら・しの安全対策

アバンティ施工設備
自動火災報知設備
防火・防排煙設備
ガスもれ火災警報集中管理システム

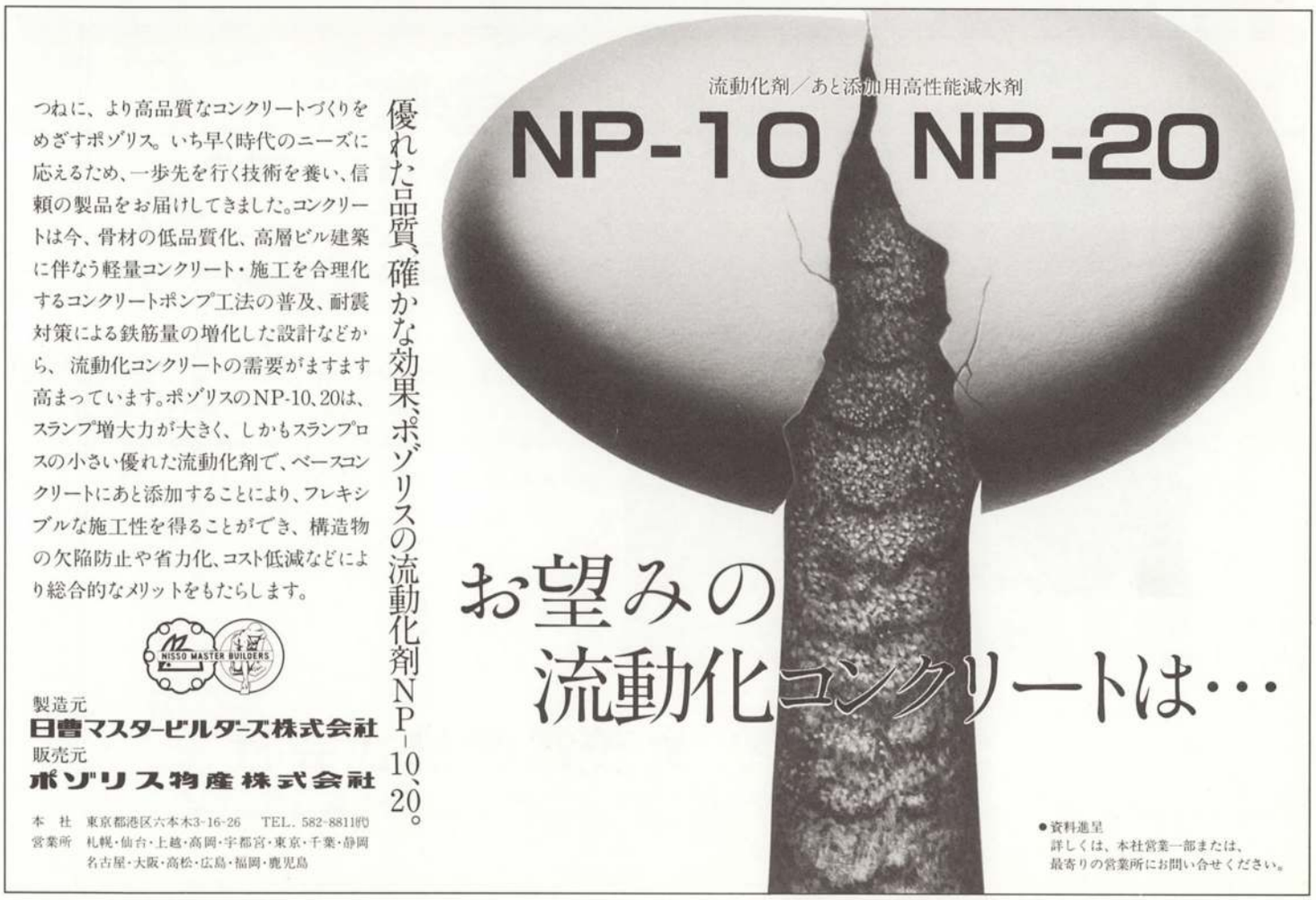
火災に対しては万全な対策が要求されます。価値あるものを守るため、
総合防災のノーミは、永年の経験と高度な技術力でニーズに応えます。
信頼あるノーミの防災設備はハイ・クォーリティ、万一の火災に備え待機中。
快適なくらしを守るため、今後もノーミは防災分野の守備範囲をどんどん広げ、社会に貢献していきます。

【営業品目】●ビル防災設備●プラント防災設備●道路トンネル防災設備●船舶防災設備
●総合ビル管理●その他防災関連設備の設計・施工・保守

能美防災工業株式会社

大阪支社　大阪府吹田市広芝町7-13　〒564 ☎06(330)8661(代　表)
本　　社　東京都千代田区九段南4-7-3　〒102 ☎03(265)0221(大代表)





優れた品質、確かな効果、ポゾリスの流動化剤NP-10、20。

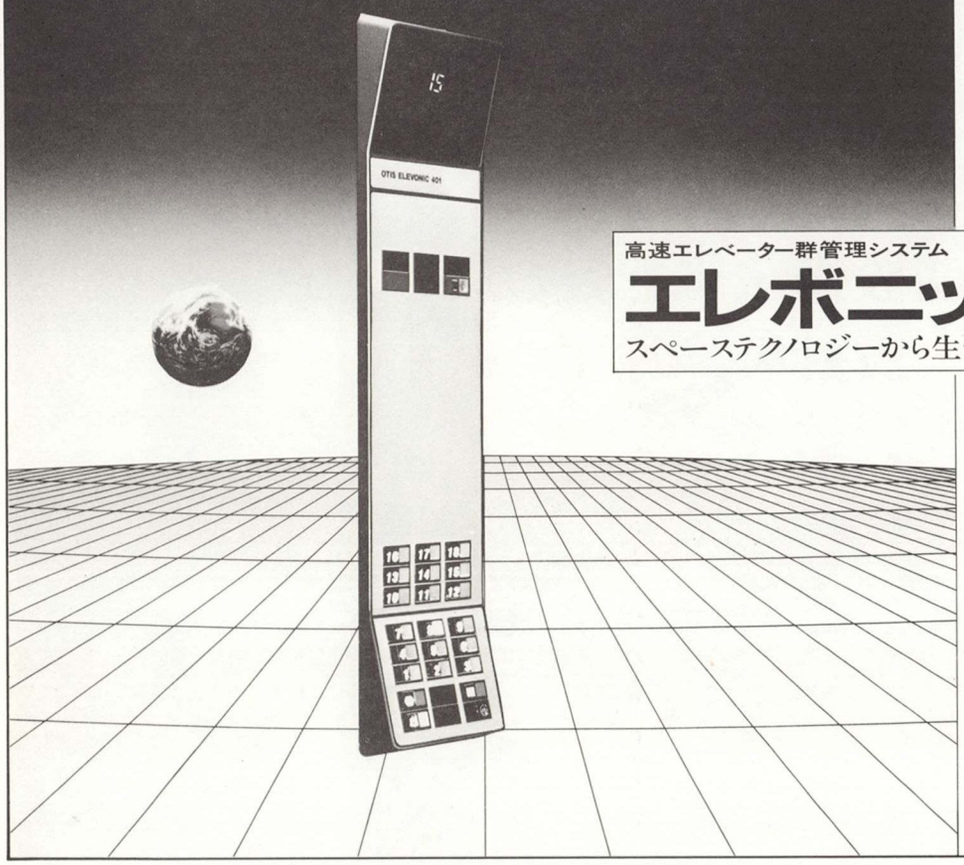
つねに、より高品質なコンクリートづくりをめざすポゾリス。いち早く時代のニーズに応えるため、一歩先を行く技術を養い、信頼の製品をお届けしてきました。コンクリートは今、骨材の低品質化、高層ビル建築に伴なう軽量コンクリート・施工を合理化するコンクリートポンプ工法の普及、耐震対策による鉄筋量の増化した設計などから、流動化コンクリートの需要がますます高まっています。ポゾリスのNP-10、20は、スランプ増大力が大きく、しかもスランプロスの小さい優れた流動化剤で、ベースコンクリートにあと添加することにより、フレキシブルな施工性を得ることができ、構造物の欠陥防止や省力化、コスト低減などにより総合的なメリットをもたらします。

製造元
日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元
ポゾリス物産株式会社

本　社　東京都港区六本木3-16-26　TEL. 582-8811㈹
営業所　札幌・仙台・上越・高岡・宇都宮・東京・千葉・静岡
名古屋・大阪・高松・広島・福岡・鹿児島

●資料進呈
詳しくは、本社営業一部または、
最寄りの営業所にお問い合せください。

National　OTIS



月を知り、火星・金星に触れ、土星を見たNASAの宇宙技術。エレボニック401は、このNASAの制御部門を受持ったハミルトンスタンダード社とグラウンド・サポート・システム部門を担当したオーチスが、同じユナイテッド・テクノロジーズ社グループとして共同開発した最先端の「トータル・コンピュータライズド・システム」です。

高速エレベーター群管理システム

エレボニック401誕生

スペーステクノロジーから生まれた——エレベーターシステム

●刻々変化するビル内交通需要に即したフレキシブルなエレベーター群管理を実現●操作パネル部にもコンピュータを内蔵し、人間工学に基づいた未来感覚のデザインと操作性を発揮●DCダイレクト・ドライブを採用し、40%(当社比)の省エネルギーを実現●新開発のかご情報検出装置で正確な位置を検出。グンと着床精度をアップさせます。

販売
National
松下電器産業株式会社 設備機器営業本部
〒571 大阪府門真市大字門真1006　TEL.(06)908－1121

販売・製造・据付・保守
OTIS
日本オーチス・エレベータ株式会社
〒160 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル
TEL.(03)349－1361

ふるさとに光る——MARUMOの舞台照明設備



アバンティホール

全国津々浦々——市民センター文化会館、ホール、劇場でMARUMOの舞台照明設備が活躍しています。とりわけ“コンピュータの時代”といわれる今、舞台調光システムの分野でも、自動化、記憶化の技術は一日ごとに新しくなっています。MARUMOでは、この分野でもすでに豊富な蓄積をつんだUNI-FILEシステム（記憶付調光システム）をはじめとして、小さなスポットライトから超大型のコンピュータ制御の調光機器にいたるまで、舞台照明のすべてにわたって、全国各地の創造の現場に、今日も光を添えています。

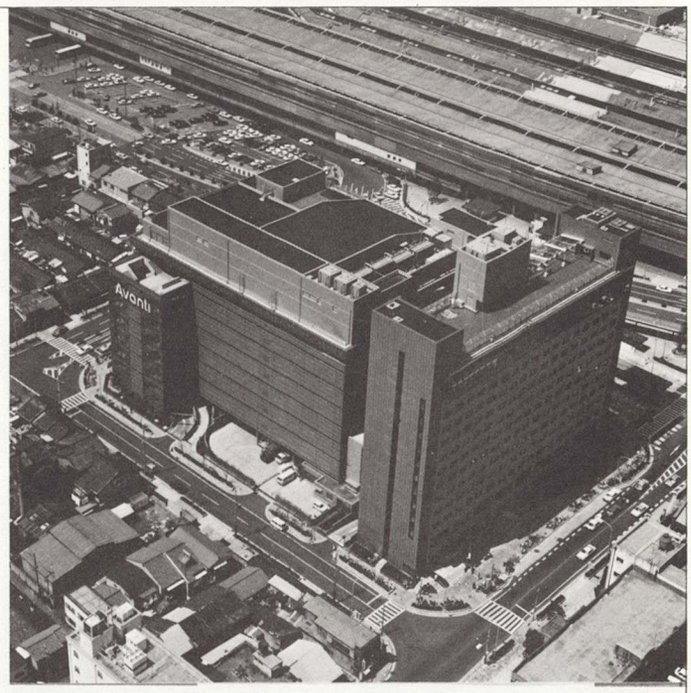
丸茂電機株式会社

本社・営業部〒101　東京都千代田区神田須田町1-24ＴＥＬ(03)252-0321
大阪出張所〒530　大阪市北区野崎町9-6東梅田ビルＴＥＬ(06)312-1913・1922
名古屋出張所〒460　名古屋市中区栄4-2-1(中日ビル)ＴＥＬ(052)263-7425

建築用板硝子販売施工

M式防煙垂壁「ツリコ」販売施工

恐ろしい煙をシャットアウト！
実用新案



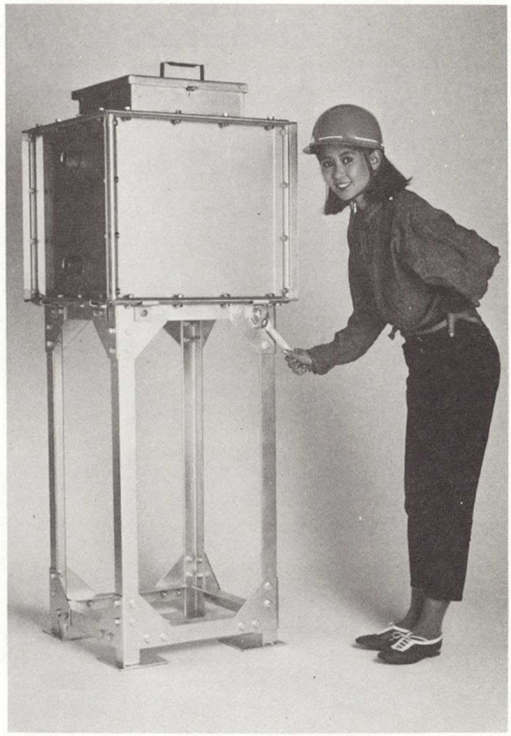
三好ガラス建材株式会社

大阪市浪速区元町２丁目３番19号
TEL　（06）632－0025（代表）

ステンレス**タンクを**てがけて（完全防食）

真実一路27年

- 小形水槽…水平思考から隆起．ボルト組立のキットタンク
- 大形水槽…水位で気相部を極僅少にした満水方式
- 貯 湯 槽…局部電池を活用したステンレスアノード設置



ミナリ．キットタンク組立

労働省第一種圧力容器製造許可工場

三成鉄工株式会社

本　　社　大阪市平野区加美北１丁目22-23
☎(06)758-1911(代表)　　ＦＡＸ(06)758-5666
工　　場　大阪市平野区加美北１丁目22-27
東京本社　東京都中央区八丁堀４丁目2-2 共同ビル(新京橋)26号
☎(03)553-2027　　ＦＡＸ(03)553-2129

設備機器からセキュリティまで、ビル管理は一括おまかせください。



24時間オンラインで ビルの安全を見守ります。

エレベーターをはじめとする設備機器の異常故障は菱電サービスが、防犯・防災の監視については綜合警備保障が対応。ビル管理のバックアップを行います。

設備メンテナンスも お引受けします。

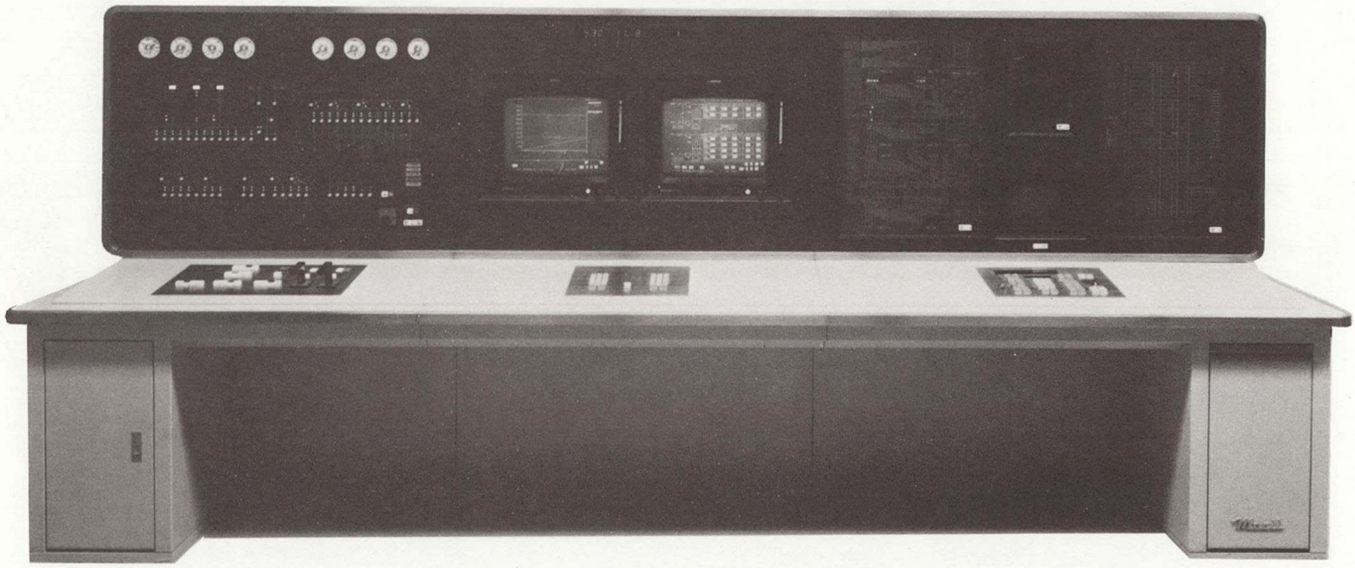
エレベーター・空調・給排水設備などのメンテナンスに業界随一の実績をもつ菱電サービスが監視サービス契約に加え、設備メンテナンス契約とのワンパックでビル管理業務の一本化とビル設備の管理・安全確保を実現します。

三菱ビル遠隔監視システム〈メルセントリー〉

未来を開発する 三菱電機

お問い合わせ先は　札幌(011)212-3237／仙台(0222)64-5633／新潟(0252)41-7221／富山(0764)42-2324／東京(03)218-2722
名古屋(052)565-3160／大阪(06)347-2288／広島(082)248-5278／高松(0878)51-0001／福岡(092)721-2163
菱電サービス▶北海道(011)231-8055／東北(0222)21-5661／北陸(0764)32-0002／東京東(03)433-4155／東京西(03)344-2901
横浜(045)311-6433／中部(052)261-1111／大阪(06)344-1196／中国(082)248-1451／四国(0878)22-6060／九州(092)711-9520

モリイの電算機応用システムは設備の運営管理に精通した知能を集積、機能化して、その思想を忠実に実行します



森井電業株式会社

本　　社　東京都港区三田２－19－12 〒108 TEL (03)474－3221(代)
大阪支店　大阪市北区中之島4-3-28 三井ビル別館 〒530 TEL(06)443-8381(代)
支　　店　東京．大阪．九州．名古屋
営 業 所　水戸．神奈川．中国．大分．野州．天理．北九州
工　　場　東京．大阪

構造の頁

118

壁式構造の設計規準

松村　晃

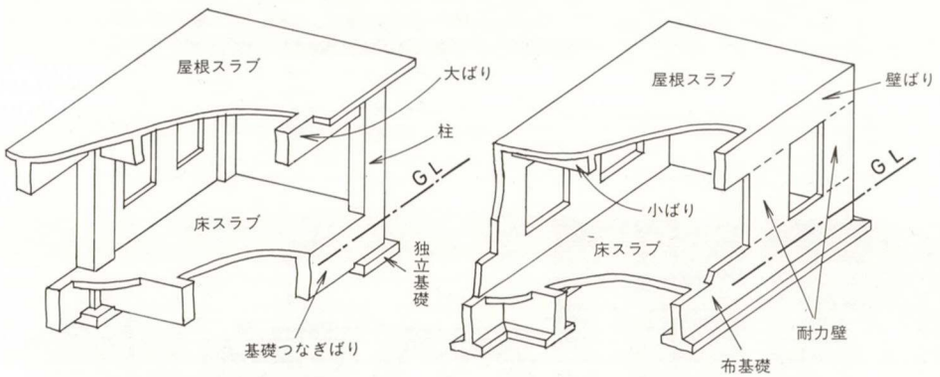
壁式構造とは

木造の在来工法住宅や鉄骨造・鉄筋コンクリート造のラーメンなどのように、柱とはりで主要骨組をつくるものを軸組構造または架構構造などというが、一方、柱はりを省略して壁板と床板のみで構造主体をつくるものを、広い意味で壁式構造という。その場合の壁板は、鉛直荷重と水平荷重（地震力または風圧力）に兼ね耐えなければならないので、耐力壁と呼ばれる。したがって壁式構造は各材種構造ごとにあり得るわけで、たとえば木造では最近のツーバイフォー工法（正式には枠組壁工法）なども、それである。しかし以前から用いられ、また構造計算を必要とするものは、つぎに述べるコンクリート系壁式構造が主であろう。

以下、本文ではコンクリート系壁式構造につき述べることにする。また、壁式構造の用途は、壁を多く配置できる住宅建築が主対象である。

コンクリート系壁式構造

世間でイメージされており、また最もよく目にする壁式構造は、鉄筋コンクリート（以下、ＲＣと略す）造によるものであろう。それは壁式ＲＣ造と呼ばれる。壁板や床板が現場打ちでなくプレハブ方式で造られる場合には壁式プレキャストＲＣ造と呼ばれる。これらは通常５階建以下で、住宅・都市整備公団や地方公共団体が建設する「鉄筋アパート」のほとんどが、それである（**写真**参照）。また、鉄筋で補強したコンクリートブロックやれんがの組積造壁を用いる建物も同様に壁式構造であって、前二者とあわせてコンクリート系壁式構造として（れんが造も便宜上含める）、類似な設計手法でまとめて取り扱う。

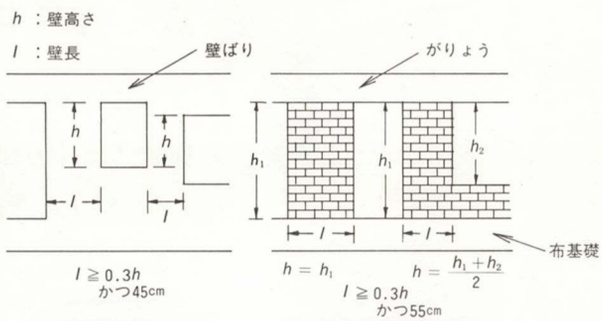


（ａ）RCラーメン造　　（ｂ）壁式RC造

図１　鉄筋コンクリートのラーメン造と壁式構造の対比



秋田県にある壁式鉄筋コンクリート造公営アパート　――日本海中部地震（昭和58年）にも被害は生じなかった――



（ａ）壁式RC造の場合　　（ｂ）補強組積造の場合

図２　耐力壁の形状規定

設計規準

よく知られているのは、昭和27年に日本建築学会が制定した「特殊コンクリート構造関係設計規準」（最新版昭和58年）であり、これはコンクリート系壁式構造とその他の特殊な構造に関する設計規準集である。なかには「壁式鉄筋コンクリート造設計規準」、「補強コンクリートブロック造設計規準」、「型枠コンクリートブロック造設計規準」、「組積造設計規準」などが収められている。別に同学会から「壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造設計規準」（昭和40年制定、最新版昭和57年）が出されている。

設計法の概要

設計は地震力に対する計算が主体となる。図１（ｂ）に示すように、耐力壁と壁ばりが規則的に配置されている場合には、ラーメンに準じた応力算定が可能であるが、一般に住宅の壁配置は不規則であるので、正確な応力解析は難しい。それで、それに代わり、耐震強度を確保する方法として各規準が採用しているのは、後述の「壁量」規定と呼ばれるものである。これは一定の構造要件（壁厚、壁高と壁長比、配筋量など）を備えた壁を耐力壁と認定し、構造の種類・規模に応じて一定量以上の耐力壁量を確保させて耐震性を保証しようとするものである。

その他、構造種別ごとに階数制限・階高制限などがあり、壁式ＲＣ造・壁式プレキャストＲＣ造では５階建以下、組積造関係は３階建以下とされている。耐力壁の配筋は規準中に配筋表や鉄筋比が示されてあり、特に計算せずとも配筋が決められるが、壁ばり（組積造ではがりょう）やスラブなどはＲＣ造の計算法に準じた計算を行う。

壁量規定

一般に壁が多いほど耐震性があると考えられる。しかし同じ壁の量でも、建物が大きければ耐震性は同じとは考えられないので、「単位床面積当たりの耐力壁の長さ」を「壁量」と定義する。また壁量は、階ごとに、建物のはり間方向・けた行方向ごとに勘定する。すなわち、ある階で、ある方向を向いた耐力壁の長さの合計（cm）を、その階の床面積（㎡）で割った数値を、壁量（cm／㎡）と定めるのである。主な壁式構造につき設計規準で定める壁量下限値を**表１**に示す。

今後の課題

壁式構造の設計規準は、実用的な応力解析手法がないこと、耐力壁の耐震強度がなお研究途上にあることからやや保守的な規定となっているが、今後研究が進めば、より明快なものに改訂し得ると思われる。

（まつむら　あきら
神奈川大学助教授・日本建築学会構造委員会特殊構造分科会幹事）

表１　各種壁式構造の壁量下限値

（単位：cm/m²）

構造の種類		壁式ＲＣ造					壁式プレキャストＲＣ造					補強コンクリートブロック造			型枠コンクリートブロック造			補強れんが（セラミックブロック）造		
階数		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	1	2	3	1	2	3
階	5階					12					15									
	4階				12	12				15	15									
	3階			12	12	12			12	15	15			15			15			15
	2階		12	12	12	15		12	12	15	15		15	18		15	15		15	15 (18)**
位	1階	12	12	12	15	15	12	12	12	15	15	15	21	21 (27)*	15	15	18	15	15 (18)**	24

（注）＊コンクリートブロック強度（全断面）が80kg/㎠未満の場合。　＊＊壁厚が19cmより薄い場合。

〔備考〕　この表は、耐力壁が各構造の設計規準の要件を満たしている場合に適用される。

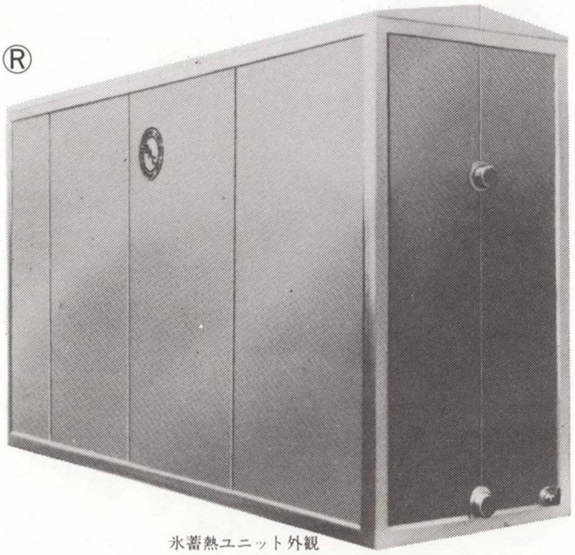
アイスチラー®

22機種　145～1200Rt·h

氷蓄熱ユニット

- 夜間電力利用による省エネルギに!!
- 冷水蓄熱に比較し容積が1/4～1/6に!!

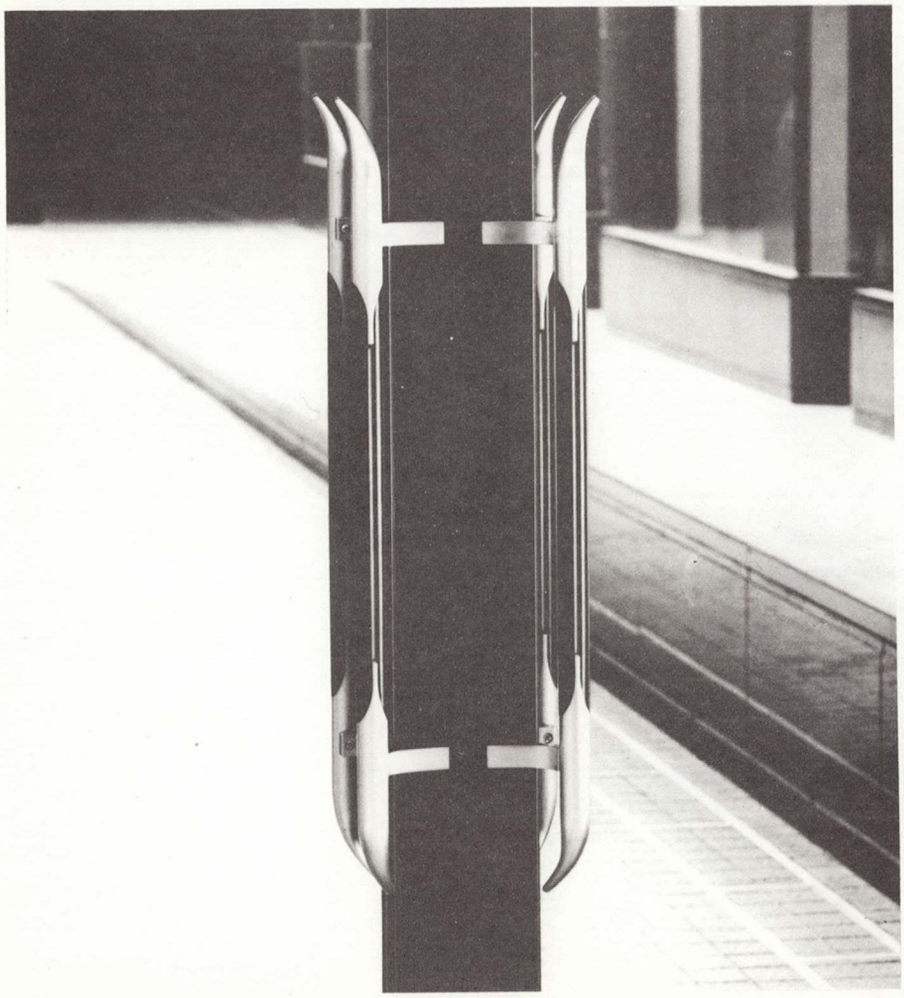
機　種	氷重量 kg	運転重量 kg	本体幅 mm	本体長 mm	本体高 mm
TSU-145	5440	12720	1600	3505	2362
TSU-205	7750	17720	1600	4877	2362
TSU-240	9070	20390	2261	3962	2362
TSU-360	13610	29840	2261	5791	2362
TSU-540	20410	45480	2261	8661	2362
TSU-575	21740	48330	3023	6833	2362
TSU-1200	45360	89020	3023	12624	2362



氷蓄熱ユニット外観

日本BAC株式会社

本社・工場　神奈川県秦野市菩提34-6　〒259-13
電話(0463)75-2323　ファックス(0463)75-2800
東京営業所　東京都渋谷区代々木2-11-2 由井ビル　〒151
電話(03)375-2501　ファックス(03)375-2503
大阪営業所　大阪市東区大川町1 日土地淀屋橋ビル　〒541
電話(06)227-5715　ファックス(06)227-5713



円熟美

ユニオンドアハンドルオーダーメイド。高い品性を携えていま、円熟美。最上級の建築の歴史のために珠玉の逸品を、送りつづけております。

ユニオンドアハンドル
オーダーメイド

UNION　建築用ドアハンドル専門メーカー
株式会社ユニオン

本社 —— 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550 ☎06(532)3731㈹
東京営業所 —— 東京都墨田区石原4-3-1 〒130 ☎03(625)8131㈹
名古屋営業所 – 名古屋市東区筒井町1-14-9 〒461 ☎052(935)6021㈹
虎ノ門ショールーム-東京都港区虎ノ門1-26-5 〒105 ☎03(508)2558㈹

設備の頁

117

夜間電力利用による氷蓄熱システム

西村　辰朗

蓄熱システムとは

比較的短時間内に発生する冷却あるいは加熱負荷に対し、そのまま対応できる大容量の熱源はイニシャルコストが高くかつ部分負荷のときの効率が低いため、あるいは電力の基本料金が高くなるなどでランニングコストも高くつくことから、冷熱あるいは温熱の形で熱量を貯蔵する設備を設け、熱源機器容量を小さくするシステムが、蓄熱システムであり、生産プロセス用や一般空調用に30年以上も前から実用化されている。

氷蓄熱の優位性

何といっても、潜熱を利用する氷蓄熱の場合、1㎥あたりの理論的蓄熱量が、水の場合の10,000 Kcalℓ(温度差10℃として)に対し、約8倍の79,600 Kcalℓであり、現実の槽容積の比較では、冷水蓄熱の⅙から⅛ですむことがもっとも有利な点である。

つぎに大きな利点は、混合損失がなく、しかも在来のチラーで作られる冷水より3～6℃も低温の冷水が得られることである。この低温水を利用して冷水配管を小さくし、ポンプ動力の節減をはかったり、空調器で給気温度を下げることにより、ダクトと空調器を小さくし、ファン動力を大幅に節減することも可能となる。

このほか、ヒートポンプ運転によって照明・人体の発熱や電算機の発熱を回収して暖房や給湯に利用したり、昼間の暖房時に不足する熱量分はヒートポンプ運転で氷の形で蓄熱し、安い深夜電力を利用してこれを融解して翌日に備える運転なども可能である。

実際の氷蓄熱システム

製品化された氷蓄熱ユニットとしては、1ユニットあたり433,000 Kcalℓ～3,611,000 Kcalℓの容量が用意されており、このほかエバポレータコイルをコンクリート製水槽に設置する現場組み立てタイプもある。

システムとしては**図1**に示すように、氷蓄熱ユニットとコンプレッサ、エバコン(蒸発式凝縮器)および冷水ポンプなどから構成されている。

なお、氷蓄熱ユニットには氷の生成と融解が均一に行われるよう、アジテータが設けられている。氷の生成量はエバポレータコイルに取り付けたセンサーによって自動的に制御される。

氷蓄熱システムでは氷生成のため、一般の冷水を作るチラーと比べると蒸発温度が低く、どうしてもCOP（成績係数）が小さくなってしまう。これを防ぐため、コンデンサはエバコン（蒸発式凝縮器）を用い、凝縮温度を水冷コンデンサの場合に比較して8～10℃下げる。これによって冷凍システムのCOPは一般のチラーとほとんど同程度の高い値が得られる。

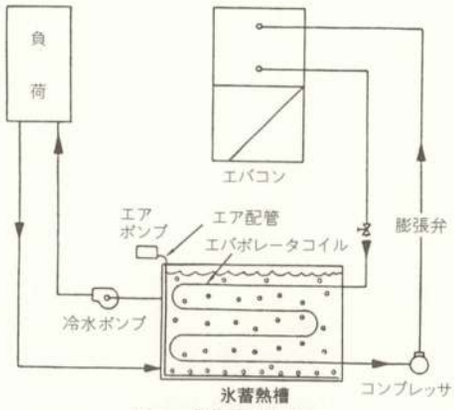


図1　氷蓄熱システム

氷蓄熱方式の種類

氷蓄熱方式には大きく分けて、全負荷容量蓄熱方式と部分負荷容量蓄熱方式がある。

全負荷容量蓄熱方式というのは昼間に必要とする全冷却熱量を深夜の電気料金の安い時間帯に氷の形で蓄熱する方式で、昼間には冷凍システムは運転しない。この方式は、氷蓄熱方式の中ではコンプレッサ、氷蓄熱ユニットともっとも大きくなり、イニシャルコストが高くなるが、ランニングコストはもっとも安い。

部分負荷容量蓄熱方式とは、昼間にもコンプレッサを運転することによって熱源容量を小さくしようとするもので、さらに直膨コイル組み合わせ式、冷水クーラ併用式およびコンプレッサ併用式の三つに分けられる。直膨コイル組み合わせ式は、**図2**に示すように直膨コイルと氷生成コイルが並列に配置されており、夜間は氷蓄熱槽へ冷媒が送られて氷を作り、昼間はこの氷を融解して得られる冷水を供給する一方で、直膨コイルにも冷媒を送って高温側の冷却を負担させる。この方式では、昼間の蒸発温度は一般のチラーの場合より高く設定して、COPを上げることができる。

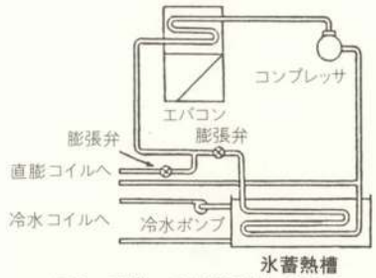


図2　直膨コイル組み合わせ式

冷水クーラ併用式は、**図3**のように冷水クーラ(エバポレータ)と氷生成コイルを並列においたもので、夜間は氷蓄熱槽へ冷媒が送られて氷を作り、昼間はこの氷の融解熱を利用するとともに冷媒を冷水クーラへ送って冷水を作り、これを用いる。この方式も冷水クーラの蒸発温度は氷生成の場合より高くなる。

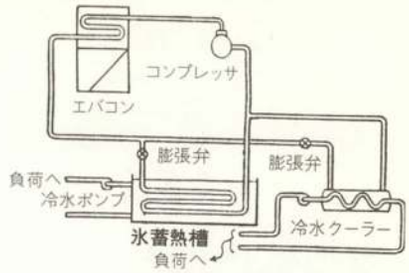


図3　冷水クーラ併用式

コンプレッサ併用式は昼夜とも氷生成コイルへ冷媒を送るもので、夜間は氷生成専用、昼間は氷の融解速度を遅らせることで蓄熱容量の少ない分を補う方式である。この方式はランニングコストではもっとも高くなるが、イニシャルコストはもっとも安くなり、償却年限ももっとも短期となるため、一番採用されやすいシステムとなっている。

氷蓄熱の経済評価

200US Rtの冷房負荷をもつ事務所ビルを想定し、これにターボ冷凍機を用いた従来の非蓄熱式空調設備と冷水蓄熱式空調設備を用けた場合、さらに氷蓄熱を採用した場合の比較を**表1**に示す。

表2は氷蓄熱の特性である低温冷水を生かし、空調器からの送風温度を下げ、風量を削減した場合のランニングコストの検討である。

表1　各種方式の比較

	従来方式(非蓄熱式)	冷水蓄熱方式	氷蓄熱方式	
			全負荷容量	コンプレッサ併用
冷凍能力 (Rt)	200	80	180	75
運転時間 (h)	10	24	10	24
設備動力 (Kw)	280	170	300	180
設備費(百万円)	55.8	81.9	92.9	66.8
年間電力コスト(百万円)	13.8	10.8	7.6	10.4
年間コスト削減(百万円)	——	3.0	6.2	3.4
イニシャルコスト増(百万円)	——	26.1	37.1	11.0
償却年限 (年)	——	8.7	6.0	3.2

表2　氷蓄熱方式と低温送風式空調器の組み合わせ

	従来方式(非蓄熱式)	全負荷容量蓄熱式	コンプレッサ併用式
冷凍能力 (Rt)	200	180	75
運転時間 (h)	10	10	24
設備動力 (Kw)	280	280	160
設備費(百万円)	55.8	92.7	66.6
年間電力コスト(百万円)	13.8	6.6	9.4
年間コスト削減(百万円)	——	7.2	4.4
イニシャルコスト増(百万円)	——	36.9	10.8
償却年限 (年)	——	5.1	2.5

おわりに

氷蓄熱システムでは、レシプロコンプレッサあるいはスクリューコンプレッサを用いるため、高圧ガス規制による取扱資格者の問題があるが、これは300US Rtクラスの建物でもコンプレッサ併用式では4系統に分割することによって法定冷凍トン以下におさえることも可能であり、とくに大きな問題ではないと考えられる。

それよりも電力需要の昼夜間格差を少なくすることによるメリットは電力会社とユーザーの双方にとってきわめて大きいため、今後、日本でも大いに普及が進むことと確信している。

（にしむら　たつろう　日本BAC株式会社取締役技術部長）

施工材料の頁

116

油面処理材とその工法（油面接着施工）

清水　茂夫

年間の気温が0℃に近く、霧や風雨と非常に高い湿度など、補修不可能に近い気候条件下で行われた潜水艦のトップサイドの塗装に、ウレタンエポキシ共重合体が使用された実例を、米国海軍研究所レポートの中で見ることができる。この記事は一般性はないが、表面に油膜の存在する条件で満足な結果が得られたことを認識することにより、われわれはこの材料の特性を利用した種々の用途に気づくであろう。

なぜなら、このような条件では、エポキシもポリアミドもシリコンアクリルも、ほとんどの既存の樹脂が不合格であったからである。

ウレタンエポキシ共重合体の土木・建築への応用

酪農室、食肉加工工場、印刷工場、機械工場、自動車工場など、油と低温と水分という悪条件を克服しなければならないコンクリートの表面補修や打ち継ぎ、または鋼材との接合など、あるいはトンネル、地下道、地下室の内壁、穀物油の付着したサイロ内壁など悪条件での補修工事に、ウレタンエポキシ共重合体は適応できる。硬化はエポキシ樹脂の水酸基とウレタンプレポリマーの末端イソシアネートグループとの反応によって行われる。

土木、建築用接着剤として利用例の多いエポキシ樹脂との相違は、粘度が低く、混合が容易で、低温時－4℃ぐらいまで施工できること、および硬化時間の短いことである。（**表1**参照）

表1　硬化特性

温　度(℃)	120	80	50	35	25	10
可使時間(分)	—	—	—	30	50	180
硬化時間(分)	10	20	180	300	600	2日

ウレタンエポキシ共重合体は、主剤と硬化剤とからなり、その使用割合は100：20～100：30で、硬化剤には一般のエポキシ用硬化剤が用いられる。

接着応用例として、汎用エポキシ樹脂と混用して可撓性を付けたときの油面接着強度を示すと、**表2**のとおりである。このときの油面用オイルはダフニーオイルスーパーハイドロリックフイルド52（出光石油化学製）を使用し、養生は180℃で、10分間加熱した。

表2　接着力テスト結果

配合比	エポキシ樹脂(エピクロン850)		67		30
	ウレタンエポキシ共重合体(エピタン195)		33		70
	硬化剤ラッカマイド WH-614		22		13
被接着体鋼板		油面	脱脂面	油面	脱脂面
接着強度	引張剪断 (kg/cm²)	158	275	58	101
	剝離 (kg/25mm)	0.9	3.4	2.8	18.1

ボンド4の物性と使用法

最も一般的なウレタンエポキシ共重合体として、ボンド4を例としてあげて、その物性について述べる。

この樹脂は粘度が低く、透明で、硬化剤と混合して接着剤として用い、また珪砂を混入してレジンモルタルとして用いることもできる。また、湿潤面コンクリートへのプライマーとして用いることもできる。

ボンド4とラッカマイドWH—614を4：1で使用したときの常温硬化物の物性は**表3**に示す。

表3　ボンド4硬化物の一般物性

	3日後	7日後	3週間後	30週間後
硬　度(ショアーD)	76	77	79	81
抗張力(kg/cm²)	240	269	313	335
10%モジュラス	215	234	274	286
伸　度(%)	56	50	30	19

標準的仕方配合はつぎのとおりである。

●接着剤として使用するとき（配合1）

ボンド4	48wt%
ラッカマイドWH-614	12wt%
炭酸カルシウム	40wt%

接着剤に耐酸性を必要とするときは、炭酸カルシウムの代わりに硫酸バリウムを用いる。

●レジンモルタルで使用するとき（配合2）

珪砂5号	33wt%
珪砂6号	40wt%
珪砂7号	7 wt%
炭酸カルシウム	6 wt%
ボンド4	11wt%
ラッカマイドWH-614	3 wt%

工場床などの舗装にレジンモルタルとして用いるときは、**図1**のようにする。この場合、既設コンクリート面は温湯洗滌して脱脂するのがよい。

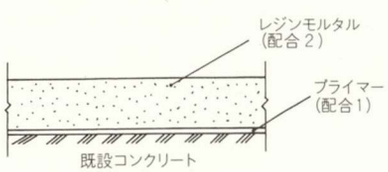


図1

この材料の適した用途は、少量の油の付着した鉄・コンクリートの接着と被覆、低温下における各種材料の接着、さらに、振動する構造物の舗装と目地接着、弾性を有するレジンモルタル床、鋼材被覆防錆、海洋構造物表面処理などである。

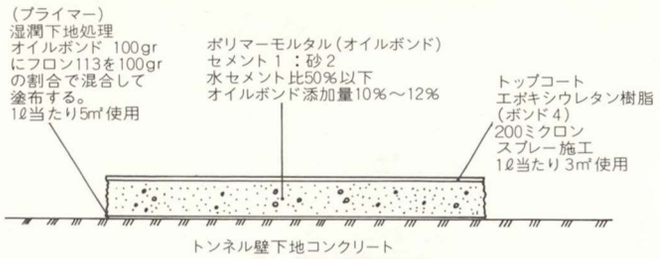


図2　施工法断面（試案）

ウレタン樹脂は各種の油類を包含することができるが、とくに水酸基を有するヒマシ油などとは化学的に重合反応する。この性質を利用して、油の滲み込んだ工場床や穀物油の滲み込んだサイロ壁面の補修ができる。

特殊な用法として、油を含んだコンクリートや鋼材の表面を油で清掃し、水酸基を含んだヒマシ油などと置換し、その上からウレタン樹脂レジンモルタルで舗装すると、表面材はコンクリートや鋼材へ滲み込んだ油分と反応硬化して強固な硬化物となり、被覆や打ち継ぎなどができる。トンネル内などの湿潤下地を有するコンクリート面の処理例は、**図2**のとおりである。

イソシアネートの利用による油面処理

密閉されて作業環境の悪いサイロ内やトンネル内壁などの補修や表面仕上げに、樹脂コーテングやレジンモルタルが用いられるが、既設コンクリート面に油が付着していたり、湿潤状態であるときは、一般の樹脂系材料では問題を解決することができない。

密閉された作業条件において、人体に有害で燃焼性の高い溶剤の代わりに、油を樹脂の希釈剤として用いると、人体に無害となり、燃焼の危険性もきわめて低くなる。このような考えに基づく使用例は、製油用穀物サイロの壁面補修や食肉工場、新聞社印刷工場床の舗装などで数例が見られる。

既設コンクリート面に機械油の存在する条件下でのポリマーモルタルによるコンクリートの接着では、2週間折り曲げ接着強度で25～34kg／cm²の強度が得られた。このときのポリマーモルタルの配合はつぎのとおりであった。

珪砂（または標準砂）	200gr
セメント	100gr
水	60gr
オイルボンド	72gr

油の付着したコンクリート面へのコンクリート打ち継ぎや、油の付いた鋼材の接着や防錆は、ほとんど不可能であったが、親油性を有するイソシアネート（ウレタン）を利用することにより、多くの問題を解決することができる。品種にもよるが、イソシアネートは自重の15%程度の油を硬化物の中へ取り入れることができるから、油を含んだスラッジなどの固形化も簡単に実現する。砂とセメントと水と油とイソシアネートの混合したポリマーコンクリート（モルタル）は油面処理材として有効に利用できる。

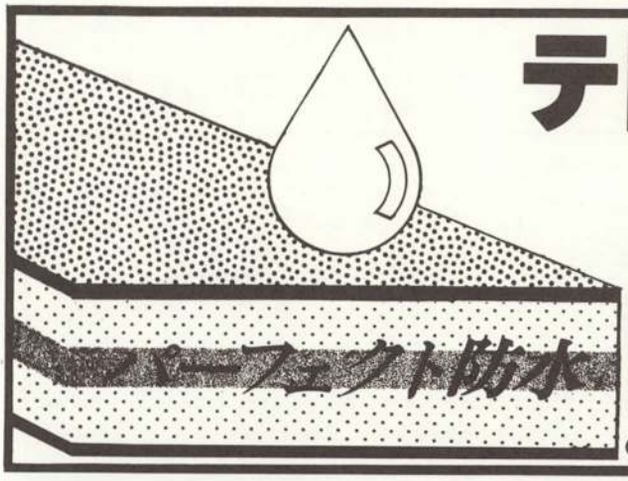
（しみず　しげお　株式会社清水研究所代表取締役）

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区北長狭通4丁目2番4号(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目(電話811-3610)



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は(一層防水)施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03 (571) 2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06 (391)1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462 (21) 1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052 (811) 3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952 (47) 2945

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社
本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎ (943) 6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市

防火 構造認定(防火第404号)

モルタルクラックが大幅に減少
工期の短縮が図れる左官用高級スタッコ

シンコー白モルタル

地震に強い家をつくるモルタル下地合板

ラスカット

左官作業の近代化
一発で特殊「白モルタル」スタッコ仕上

スーパーローラー

(株)新興建材工業所
〒550　大阪市西区南堀江4丁目32—11　☎(06)538—2951(代)
営業所　明石・中国・四国・高槻・東京・新潟・仙台

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話 (434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 (302)2271(代)
支　　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営 業 所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

取締役社長　齋藤　博

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222—61—3002
　　名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
　　広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話0822—47—4535
　　福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
出 張 所　青森・秋田・宇都宮・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・沖縄

空調・衛生
防災・汚水処理　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号　電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話 京都561局4944(代)
神戸市中央区下山手通6-2-8　電話 神戸341局5892

---

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ!

創業1901
須賀工業株式会社

大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06-441-5171(大代表) 〒550

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本　　店　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話(06)441-8231(大代)
本　　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話(03)535-5251(代表)
支　　社　大阪・東京・名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・金沢・天理・岡山・広島・高松
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・千葉・横浜・静岡・豊田津・富山・長野・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州熊本・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・徳島・長崎
海外支店　シンガポール・ホンコン

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル2階)
　　郵便番号542　電話 大阪(06) 768—5031代表
メンテナンス部　大阪市大淀区豊崎4丁目5番21号
　　郵便番号531　電話 大阪(06) 374—0571代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル2～4階)
　　郵便番号102　電話 東京(03) 262—3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
　　電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　　店　札幌・岡山
営 業 所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出 張 所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　建築設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—344—1851(大代)　大阪支店☎06—ホ—5851(代)
名古屋支店☎052—211—1535(代)　九州支店☎092—431—2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

空気調和設備　環境衛生施設
給排水・衛生水道　荷役運搬機械
電気設備　化学鉱山機械
厨房

三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
取締役支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202) 代表3071
本　　店　東京・日比谷・三信ビル
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営 業 所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
　　電話 06—364—6661(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
　　電話 03—211—8511(代表)

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話 (352) 1131 (代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話 (667) 3431 (大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06—313—1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9—3　電0720—49—2128

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工
東洋熱工業株式会社大阪支店
大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443) 8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支店　名古屋・福岡

空調・衛生・防災設備　設計並施工
日本管工業株式会社
本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352—3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26—3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53—7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22—9738㈹

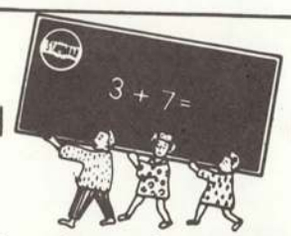
給・排水・衛生・消火・暖冷房設備
株式会社 西原衛生工業所大阪店
大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3531番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工
高砂熱学
大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511(代表)
本社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

営業種目
空気調和・衛生設備工事・設計・施工
平山工業株式会社
大阪市西区江戸堀1丁目22番7号
☎06—441—1994・443—0331

"屋根改修工事には府板ルーフ66を"
通産大臣認可　全日本板金工業組合連合会　大阪支部
建設大臣認可　社団法人日本建築板金協会　大阪支部
知事認可　大阪府板金工業組合
理事長　福本大元
〒530 大阪市北区西天満4丁目2番4号　電話 06—364—3774㈹

Standard Board&Slate


フタバ黒板
〒547　大阪市平野区加美北3－4－5　TEL 大阪06(792)5858㈹

白あり
木材保存のトップメーカー
サンヨー
住まいのガン細胞、しろあり公害を未然に防ぎましょう。
⊙シロアリ予防・駆除・施工(10ヶ年保証付)
⊙製造販売　サンプレザー(予防剤認定)
サンソイル(土壌処理剤)
PGスケヤー(加圧注入防腐木材・土台・大曳用)
山陽木材防腐株式会社
大阪営業所　〒541 大阪市東区北浜3丁目7信愛ビル　☎06-231-6406
化成品部　〒101 東京都千代田区神田須田町1-26 芝信神田ビル　☎03-254-0831

活字のない印刷
日本写植印刷株式会社
代表取締役　神田都義
本社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606) 1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682 (4) 1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城 沖縄印刷団地　☎0988 (55) 6100





電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙 台・丸 ノ 内・名 古 屋・福 岡
営業所・出張所 全国主要都市2ヶ所

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06－364－3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

総合設備工事《設計・施工》
建築・電気・アンテナ・送電線・プラント・計装・空調・土木

太陽工藤工事株式会社

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本 社 大阪市福島区福島7－22－8
TEL (06)452－1151(大代)
事業所 東京・名古屋・広島・福岡

内外産建築用大理石 テラゾーブロック
花崗岩・其ノ他石材 テラゾータイル
ネオパリエ 各種カラー平板

株式会社 旭大理石工作所

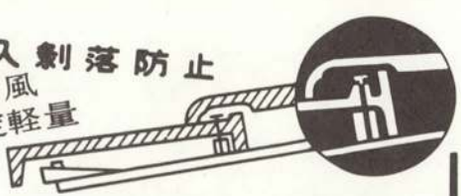
本社工場 〒535 大阪市旭区中宮1丁目10番9号 電話(06)954-6661代表
京都工場 〒610-03 京都府綴喜郡田辺町大住 電話(07746) 2-0374
岡山工場 〒709-04 岡山県和気郡和気町大字原 電話(08699) 3-1365

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本 社 大阪市西区西本町1－13－33(靱本町バス停前)
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天理市丹波市町新町50

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市鶴見区元町一丁目七四二番地41五〇六五

飛 鳥 野 瓦(意匠登録549771号)
渡辺式緩勾配安定瓦(実用新案登録出願中 110750 110751) } 製造販売
各和洋瓦全般・カラーベスト・モニエル瓦・セキスイカワラU

創業67年 綜 合 施 工 卸
久保田鉄工・松下電工㈱・日本モニエル㈱・積水化学工業㈱・富士スレート㈱・特約代理店

瓦寅工業株式会社

本 社 大阪市生野区林寺1丁目5番14号 〒544
電話 06(715) 0 2 0 1代表～5番
営業所 大阪市平野区 工場 兵庫県三原郡(淡路島)

文化庁・宮内庁・各府県庁
国宝 重要文化財 社寺・天理教教会本部 御 用 達

株式会社 瓦宇工業所

代表取締役 小 林 麻 造

〒630 奈良市西新在家町17番地
電話 奈良(0742)26－2901番(代表)

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

岡田ペーパー株式会社
O.P.Co
大阪市西区北堀江２丁目５番20号
ＴＥＬ 06－531－4601(代)
06－541－2305(代)
フロアーサンディングシステム関連商品
研磨材料 & 研磨機器
布紙ペーパー & ジスクペーパー

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建　設　業　許　可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201Ｓ
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
NISSO MASTER BUILDERS
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社／東京都港区六本木3－16－26　☎ 03-582-8811
大阪営業所／大阪市東区北浜３－７　☎ 06-202-3294

デンカCSA　デンカセメント
セキサンバイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム.ALC.鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡　浩
本　社　〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
ＴＥＬ　(07727)2－２２２０(代)
舞鶴営業所　〒624　舞鶴市福来１６０-1
ＴＥＬ　(0773) 76－0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
（膨張性混和材）
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
（グラウト用無収縮材）
●デンカキューテックス……コンクリート軀体の漏水補修に
（止水・補修用急硬セメント）
●デンカES……地盤補強用薬液注入
（土質安定用急硬材）
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷と
ハイモメント製造用に
（製品用超高度混和材）
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）２７２－８５０１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
株式会社 トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１

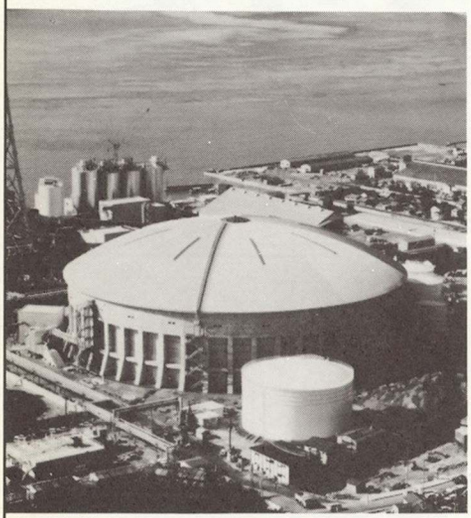
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・其の他

※ カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業部　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

No. 395 7月号

月刊 建築技術

6月17日発売！
予価　1,380円

株式会社 建築技術
〒160 東京都新宿区北新宿
1-8-1 中島ビル
☎東京 (363) 4211(代)

特集
建物の補修・改修〔II〕
外壁 その2

□ 外壁改修の工事上の留意点……戸田 道男

5. 改修塗装
◇ 外壁面防水化粧改修後の現場追跡調査……武田 辰郎
◇ 建築用吹付材および塗材の名称とテクスチャー……松本 能治
・旧＝一般塗装 新＝アクリル系化粧防水材……(ほか 15件)

6. 軀体補修
・反応固定型防錆剤による露出鉄筋の補修……(ほか 8件)

7. 二重壁による改修
・建築後50年を経過した建物の二重壁による改修(ほか 3件)

8. 窓の改修
・カバー工法による窓の改修……(ほか 3件)

9. 外壁の断熱改修
・外断熱工法による集合住宅外壁の断熱改修…(ほか 3件)

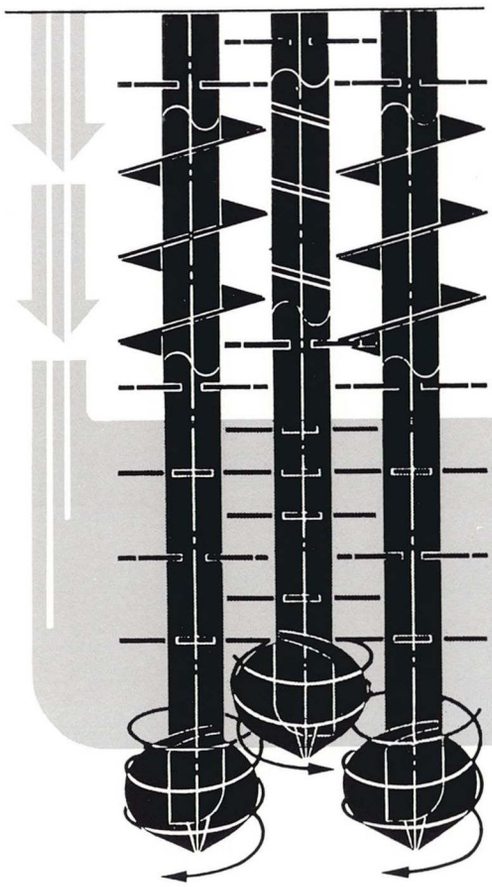
外壁は一番人目につきやすいところだけに、よごれのクリーニングからひび割れ・浮き・はがれの補修、塗替え、改築等々、多種多様の手法が開発実施されています。屋根および床の補修・改修特集にひき続き、多くの事例が紹介されています。

ソイルセメント地中連続壁

S.M.W.工法

すばらしい実績

施工実績		150万山留㎡
最深度実績		GL—43m (50m迄可能)
土質実績	粘性土	35万山留㎡
	砂質土	75万 〃
	砂礫土 (N＞50)	29万 〃
	玉石層 (最大径1000㎜/m)	5万 〃
	特殊土 (軟岩、有機土)	6万 〃



S.M.W.工法とは

セメントミルク、その他の固結剤等、目的に適応したスラリーを、現位置の土砂S.(Soil)に現位置にて、混合M.(Mixing)させて地中造成された壁体W.(Wall)の略称である。

S.M.W.専用に開発された特殊多軸混練オーガー機にて、土中を削孔するに際し、その先端よりセメントミルク、特殊アスファルト乳剤、ベントナイト液等、目的に適応した混合液を吐出させて、堀削土砂と混合させつつ、1エレメントの壁状の削孔混練を行い、現場造成のソイルセメント壁を造成し、各エレメント壁をラップさせることにより一体の壁体を形成する工夫である。

地下工事の綜合計画及施工

土と基礎と構造の専門業者

成幸工業株式会社

本　社　大阪市西区西本町1—7—20　☎ 06—531—8801
東京支店　東京都港区西新橋1—16—3　☎ 03—502—2988
九州支店　福岡市博多区店屋町5番8号　☎092—272—1159

建築と社会　第65輯第6号
昭和59年6月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1の1の3の2100　電話大阪06（348）0635
（表紙デザイン・濱野節朗）
定価九五〇円（送料共）
振替口座大阪一三九九七五番

健康優先

世の中、無公害化へ。　Cタイルを貼った床からは……
公害物質が発生する　おそれは　なくなります。



健康上、有害とされているアスベストを含む床材は好ましくありません。すでに欧米では、アスベストの全面ないし段階的な使用禁止など、厳しい勧告がなされています。そのアスベストをまったく使用していない無公害床材が、新開発のCタイル。床材のノンアスベスト化にGPフロア（クッションフロア）で先行、先進技術をもつタジマの新しい自信作です。手入れが簡単で寿命が永いPタイルの良さを受けつぎ、しかも時代にマッチしたクリーンな環境づくりにお役立ていただけます。Pタイルを超えたCタイル。これからは床材もノンアスベストを前提にご選定ください。

新発売　ノンアスベスト　無公害床材

タジマ プラスタイル クリーン（Cタイル）

■規格
●半硬質ノンアスベストビニル床タイル
●厚さ2.0㎜×304.8㎜×304.8㎜　●色数16色

■特徴（Pタイルと違う点）
●新しいデザイン傾向にそったクリアな色調で、明るい雰囲気をつくります。　●耐光性に優れ、退色しにくい。●アスベストを使用しておらず安全。　●性能はPタイルと同等以上。

■用途（Pタイルと同じ）
学校、事務所、店舗、病院、他

床を創る
TAJIMA
田島応用化工株式会社
田島グループ　田島ルーフィング㈱
東京■〒101東京都千代田区岩本町3-11-13
☎03(866)6101代表
大阪■〒550大阪市西区京町堀1-10-5
☎06(441)5951代表